

第5章 自然科学分析

第1節 放射性炭素年代測定

1. はじめに

香川県東かがわ市の西村遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

試料は、1区①の北壁下層確認第2泥炭層から出土した生の種実（試料No. 年代01: PLD-34662）、2区③のSP625（SH101主柱穴）から出土した生材（試料No. 年代02: PLD-34663）、1区③のSP224柱根から出土した青銅製の巡方に形成された緑青銅（試料No. 年代03: PLD-34664）の3点である。試料No. 年代02の生材は最終形成年輪が残っていた。発掘調査所見では、試料No. 年代01、02は弥生時代前期頃、試料No. 年代03は平安時代後期頃と考えられている。緑青銅については、巡方の背面から採取したもの115mgを試料とした。

生材および生の種実については、超音波洗浄と酸・アルカリ・酸洗浄を行った後、燃焼によりCO₂ガス化した。緑青については、実体顕微鏡下で礫や砂や繊維を除いた後、電気炉で300°C、2時間加熱しCO₂ガス化した。緑青のCO₂ガス化については小田（2015ab）を参照した。精製ラインによるCO₂ガス精製後、水素還元によるグラファイト化を行った。測定試料の情報、調製データは第1表のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS:NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、曆年代を算出した。

第1表 測定試料および処理表

測定番号	道路データ	試料データ	前処理
PLD-34662	試料No. 年代01 遺跡名：西村遺跡 管理番号：NNS2-0233 調査区：1区① 遺構：北壁下層確認第2泥炭層	種類：生の種実 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：12N, 水酸化ナトリウム：10N, 塩酸：12N）
PLD-34663	試料No. 年代02 遺跡名：西村遺跡 管理番号：NNS2-P0892 調査区：2区③ 遺構：SP625（SH101主柱穴）	種類：生材 器種：柱 試料の性状：最終形成年輪 状態：wet	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：12N, 水酸化ナトリウム：10N, 塩酸：12N）
PLD-34664	試料No. 年代03 遺跡名：西村遺跡 管理番号：NNS2-P0094 調査区：1区③ 遺構：SP224柱根 L178	種類：緑青銅 器種：巡方 部位：背面 状態：dry	CO ₂ ガス化：加熱(300°C, 2hours)

3. 結果

第2表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ¹³C）、同位体分別効果の補正を行って曆年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した¹⁴C年代、曆年較正結果を、第127図に曆年較正結果をそれぞれ示す。曆年較正に用いた年代値は下1

桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 \pm 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.3 (較正曲線データ:IntCal13) を使用した。なお、 1σ 暦年範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年範囲であり、同様に 2σ 暦年範囲は 95.4% 信頼限界の暦年範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

第2表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{14}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年範囲	2σ 暦年範囲
PLD-34662 試料 No. 年代 01 西村道路	-28.84 \pm 0.20	2312 \pm 21	2310 \pm 20	401-383 cal BC (68.2%)	406-366 cal BC (95.4%)
PLD-34663 試料 No. 年代 02 西村道路	-29.80 \pm 0.13	2181 \pm 20	2180 \pm 20	352-297 cal BC (51.8%) 228-221 cal BC (4.9%) 211-198 cal BC (11.5%)	358-281 cal BC (60.3%) 258-243 cal BC (3.1%) 236-175 cal BC (32.0%)
PLD-34664 試料 No. 年代 03 西村道路	-22.25 \pm 0.12	610 \pm 18	610 \pm 20	1305-1325 cal AD (28.2%) 1344-1364 cal AD (27.7%) 1384-1394 cal AD (12.3%)	1288-1371 cal AD (75.9%) 1379-1400 cal AD (19.5%)

4. 考察

以下、 2σ 暦年範囲（確率 95.4%）に着目して結果を整理する。なお、土器形式と暦年代の対応関係については、藤尾（2009）、小林（2009）を参照した。

1 区①の北壁下層確認第 2 泥炭層から出土した試料 No. 年代 01 (PLD-34662) は、406-366 cal BC (95.4%) で、紀元前 5 世紀末～前 4 世紀前半の暦年代を示した。これは、弥生時代前期後半に相当する。試料は生の種実であり、測定結果は結実年代を示す。発掘調査所見では弥生時代前期と考えられており、測定結果と整合的である。

2 区③の SP625 (SH101 主柱穴) から出土した試料 No. 年代 02 (PLD-34663) は、358-281 cal BC (60.3%)、258-243 cal BC (3.1%)、236-175 cal BC (32.0%) で、紀元前 4 世紀中頃～前 2 世紀前半の暦年代を示した。これは、弥生時代前期後半～中期後半に相当する。試料は生の木材であり、最終形成年輪が残っていた。そのため、測定結果は枯死もしくは伐採年代を示す。発掘調査所見では弥生時代前期と考えられており、測定結果と整合的である。

1 区③の SP224 柱根から出土した試料 No. 年代 03 (PLD-34664) は、1298-1371 cal AD (75.9%) およ

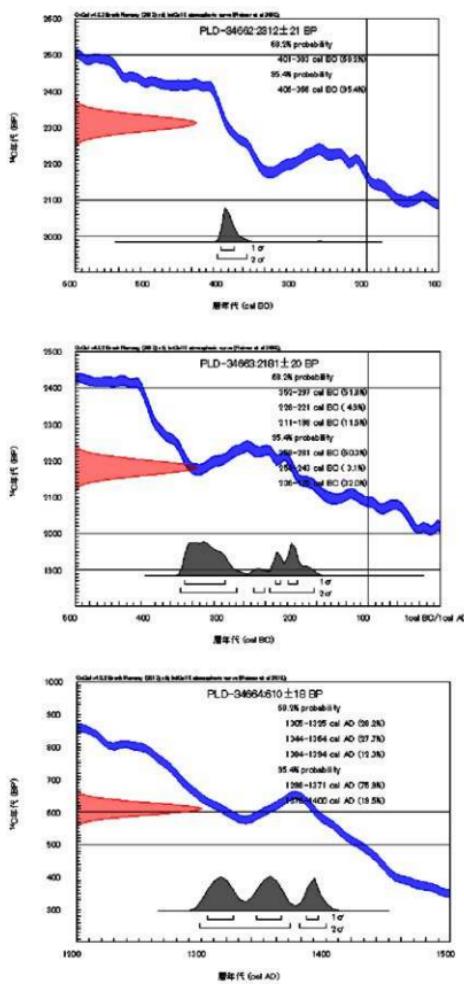
び 1379-1400 cal AD (19.5%) で、13世紀末～14世紀の曆年代範囲を示した。これは、鎌倉時代後期～室町時代前期に相当する。発掘調査所見では平安時代後期と考えられており、測定結果はそれよりも新しい年代を示した。

青銅製品の放射性炭素年代測定においては、綠青（塩基性炭酸銅、 $\text{CuCO}_3 \cdot \text{Cu(OH)}_2$ ）中の炭素が測定対象となり、大気中の二酸化炭素を取り込んで綠青錫が形成された時期が得られると考えられる。小田（2015b）では、製作時期の判明している出雲大社垂木先の金具の綠青錫を測定し、綠青錫が一旦形成されるとそれ以降の新たな綠青錫の形成を阻止することを実証しており、綠青錫の放射性炭素年代測定が有効な手法となりうることを示している。ただ現状では、ピンセットなどで機械的に除去できない土壤有機物などの不純物の、化学的除去方法などの課題も残っている。今回の試料においては試料 No. 年代 03 は、大気中の二酸化炭素を取り込んで生成した綠青錫としては δ ^{13}C の値が低い傾向がみられた。そのため測定結果は、綠青錫が形成された時期を示していない可能性があり、測定した炭素の由来について慎重に検討する必要がある。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
- 藤尾一郎 (2009) 弥生時代の実年代 西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第4巻弥生農耕のはじまりとその年代」: 9-54、雄山閣。
- 小林謙一 (2009) 近畿地方以東の地域への拡散 西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代」: 55-82、雄山閣。
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」: 3-20、日本第四紀学会。
- 小田寛貴・塚本敏夫・山田哲也・加藤丈典 (2015a) 青銅器の ^{14}C 年代測定の可能性と道成寺鐘銅錫への適用。第 17 回 AMS シンポジウム講演要旨集、37、筑波大学研究基盤総合センター応用加速器部門。
- 小田寛貴・塚本敏夫・山田哲也・加藤丈典 (2015b) 青銅器の炭素 14 年代測定の可能性と考古学資料への適用。日本文化財科学会第 32 回大会研究発表要旨集、32-33。
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

分析はパレオ・ラボ AMS 年代測定グループ 伊藤茂氏・佐藤正教氏・廣田正史氏・山形秀樹氏・小林祐一氏・Zaur Lomtatidze 氏・小林克也氏・竹原弘展氏の協力のもとで行った。



第 127 図 历年校正結果

第2節 西村遺跡の花粉分析

1. はじめに

香川県東かがわ市に所在する西村遺跡において、古植生を検討するために花粉分析用の試料が採取された。以下では、採取された試料について行った花粉分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生について検討した。

2. 試料と方法

分析試料は、1区①の調査区北壁から採取された計10点である。試料採取層準を第128図に、分析試料一覧を第3表に示す。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

試料（湿重量約3～4g）を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、統いてアセトトリル処理（無水酢酸9：濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。各プレパラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良好な花粉を選んで単体標本（PLC.2283～2294）を作製し、写真を第130図に載せた。

3. 結果

10試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉37、草本花粉22、形態分類のシダ植物胞子2の、総計61である。これらの花粉・胞子の一覧表を第4表に、花粉分布図を第129図に示した。花粉分布図では、樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を、草本花粉・胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン(-)で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。さらに、クワ科やマメ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に括して入れてある。

検鏡の結果、花粉05(17層)以下の層準と花粉04(7層)以上の層準で花粉組成に大きな相違が見られた。花粉05(17層)以下の層準ではコナラ属・カガシア属・シイノキ属・マテバシイ属などの照葉樹林要素の花粉やクリ属の産出が目立つ。花粉04(7層)以上の層準になると、クリ属は激減し、コナラ属・コナラ亞属・サワグルミ属・クルミ属・クマシデ属・アサダ属などの落葉広葉樹林要素の花粉や、ツガ属・コウヤマキ属・マツ属複雜管束亞属などの針葉樹が増加する。また、花粉04(7層)以上の層準では草

第3表 分析試料一覧

調査区	試料No.	層位	時期
1区① 調査区北壁	花粉01	4・5層 黄色包含層	平安後期以降
	花粉02	5層 灰色包含層	平安後期
	花粉03	6層 SD105	
	花粉04	7層	弥生前期末
	花粉05		
	花粉06	17層	
	花粉07	17・18層	
	花粉08	19層上部	弥生前期前半
	花粉09	19層下部・20層	
	花粉10	21層下部・22層	

本花粉も組成に変化が見られ、イネ科の増加とともに水田雑草を含む分類群であるオモダカ属やキカシグサ属などの産出が見られる。さらに、花粉 03（6 層）以上の層準では栽培植物のベニバナ属も産出している。

4. 考察

花粉 05（17 層）以下の層準ではほぼ同様な花粉組成を示し、コナラ属アカガシ亞属やシイノキ属・マテバシイ属などの照葉樹林要素の花粉の産出が目立つ。また、スギ属やイチイ科・イヌガヤ科・ヒノキ科などの温帶性針葉樹の花粉も連続して産出している。よって、弥生時代前期前半の遺跡周辺にはカシ類やシイ類からなる照葉樹林や、スギやイチイ科・イヌガヤ科・ヒノキ科などからなる温帶性針葉樹林が分布を広げていた可能性がある。また、クリ属花粉の産出も目立つ。クリ花粉については、ほとんどの花粉がクリ林内に落下するという実証的なデータがあり、クリ花粉は広範囲に散布され難い花粉であることが知られている（吉川、2011）。よって、花粉 05（17 層）以下の層準におけるクリ属花粉の比較的高率な産出は、試料採取地点の周辺にクリ林が存在していた状況を示唆していると考えられる。そうしたなか、花粉 08（19 層上部）ではツタ属花粉が突出した産出を示した。花粉 08（19 層上部）の堆積時には、照葉樹林やクリ林の林縁部など、日の当たる場所にツタ属のつる植物が分布を広げていた可能性がある。

草本花粉は産出が少ないが、花粉 09（19 層下部・20 層）と花粉 10（21 層下部・22 層）でイネ科花粉が 9% と 11% の産出率を示した。弥生時代前期前半の 19 層下部～22 層堆積時にはイネ科を主体とした草地が存在していた可能性がある。

花粉 04（7 層）以上の層準では、コナラ属アカガシ亞属やシイノキ属・マテバシイ属などの照葉樹林要素の花粉は引き続き産出が多く、照葉樹林は依然として分布を広げていたと考えられる。一方で、クリ属花粉は激減する。弥生時代前期末にはクリ林を伐採したか、異なる場所に分布を移動した、クリ林の維持管理をやめたなど、何らかの理由により試料採取地点の周辺にはクリ林は存在していないかったと考えられる。また、コナラ属コナラ亞属やサワグルミ属・クルミ属、クマシデ属・アサダ属などの落葉広葉樹花粉やマツ属複雜管束亞属、ツガ属、コウヤマキ属などの針葉樹花粉が増加しており、遺跡周辺の丘陵地などにこれらの分類群からなる落葉広葉樹林や針葉樹林が分布を広げていた可能性がある。

草本花粉ではイネ科の産出率が増加している。イネ科花粉の形態で栽培種を区別するのは難しいが、イネ科花粉にオモダカ属やキカシグサ属といった水田雑草を含む分類群の産出が伴っている点から考えると、弥生時代前中期から遺跡周辺において水田稲作が行われていた可能性がある。こうした水田の周辺など、水分条件の良好な場所にガマ属やヒルムシロ属などの水生植物やハンノキ属などの樹木が生育していたと考えられる。このように、花粉 04（7 層）以上の層準では、稲作などの人間活動が活発化した可能性が窺えるため、先に述べたコナラ属コナラ亞属やマツ属複雜管束亞属の増加は、試料採取地点周辺の開墾による二次林の形成といった可能性も考えられる。さらに、花粉 03（6 層）以上の層準では栽培植物のベニバナ属の産出が見られ、平安時代後期には稲作と共にベニバナ栽培も行われていた可能性が考えられる。

引用文献

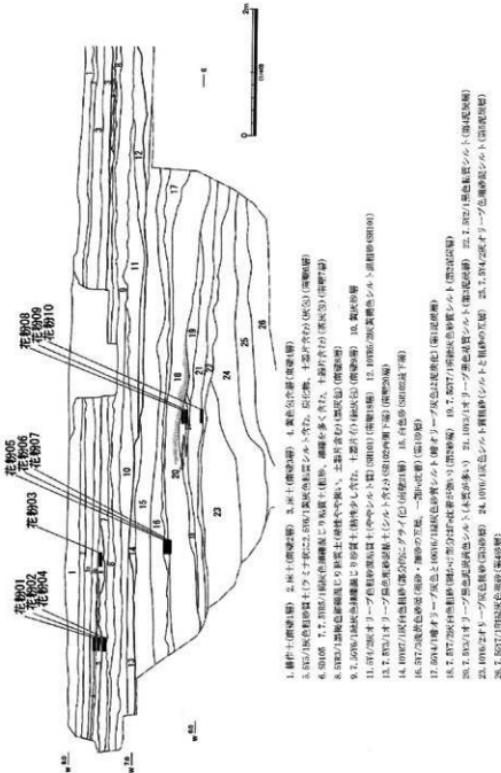
吉川昌伸（2011）クリ花粉の散布と三内丸山遺跡周辺における縄文時代のクリ林の分布状況。植生史研究。18, 65-76.

分析は株式会社パレオ・ラボ 森将志氏の協力のもとで行った。

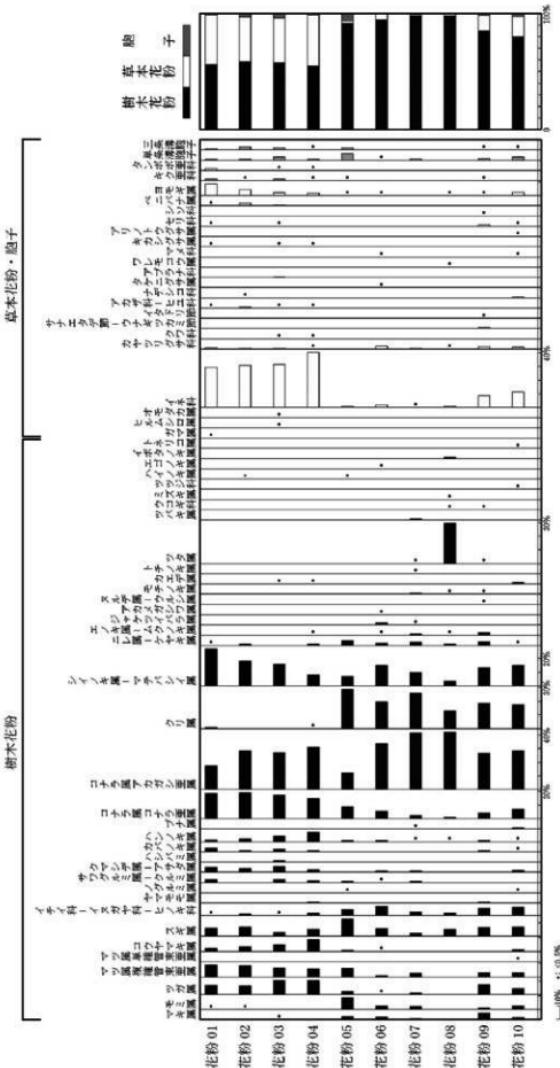
第4表 產出花粉胞子一覧表

学名	和名	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
樹木											
<i>Podocarpus</i>	マツ属	-	-	1	-	5	4	2	-	10	3
<i>Aiba</i>	モチ属	1	1	-	-	18	6	5	-	2	5
<i>Tsuga</i>	ツガ属	14	13	21	23	5	1	3	-	15	9
<i>Pinus sylvestris</i> , <i>Diplacylon</i>	マツ属後継管束型属	18	17	13	13	13	2	6	-	6	6
<i>Pinus salg. Haploylon</i>	マツ属前継管束型属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Schizodipteron</i>	コウヤマキ属	5	7	10	19	2	1	-	-	-	3
<i>Cryptomeria</i>	スギ属	13	14	6	11	27	13	5	11	13	14
Taxaceae – Cephalotaxaceae – Cupressaceae	イネ科 – イヌサギ科 – ヒノキ科	1	2	1	4	9	15	6	4	11	13
<i>Myrus</i>	ヤマモモ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Platycarya</i>	メルクミ属	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
<i>Parurya – Juglans</i>	サワラ属アカガシ属	5	-	5	3	2	1	2	-	-	-
<i>Carpinus – Ostrya</i>	タマシキ属 – アザガ属	8	6	9	4	-	3	3	-	-	3
<i>Corylus</i>	バンクミ属	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
<i>Betula</i>	カバノキ属	6	2	4	2	-	-	-	-	2	1
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	3	4	8	15	2	2	1	1	2	1
<i>Fagus</i>	ブナ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Quercus sylvestris</i> , <i>Lepidobalanus</i>	クヌギ属コナラ属属	39	36	35	33	19	13	6	2	9	15
<i>Quercus sylvestris</i> , <i>Cyclobalanopsis</i>	コラリ属カシガシラ属	36	57	54	69	26	76	99	92	55	60
<i>Castanea</i>	クリ属	2	-	-	1	-	61	44	62	26	38
<i>Ulmus – Zelkova</i>	シロクミ属 – ゼンキ属	57	37	32	18	15	34	24	8	28	32
<i>Celtis – Aphananthe</i>	エキノク属 – ムクニキ属	1	2	-	2	7	4	6	2	4	1
<i>Cornus</i>	シロクミ属	-	-	-	1	-	1	2	1	-	-
<i>Malus</i>	アカモジリ属	-	-	-	-	-	3	1	-	-	-
<i>Rhus – Toxicodendron</i>	ブドウガ科 – ウラジロ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Ilex</i>	モチノキ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Acer</i>	カエデ属	-	-	1	14	-	-	-	-	-	2
<i>Aesculus</i>	トチノキ属	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Panthecocystis</i>	ツタ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Camellia</i>	ツバキ属	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
<i>Araliaceae</i>	ウコギ科	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Cornus</i>	イヌキ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Eriaceous</i>	ツツジ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Symplocos</i>	ハイノキ属	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Styrax</i>	エゴノキ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Ligustrum</i>	イグチノキ属	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
<i>Fraxinus</i>	トネリコ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
草本											
<i>Typha</i>	カヌ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Polygonatum</i>	ヒルムシロ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Sagittaria</i>	オダマキ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gramineae</i>	イネ科	110	105	111	163	2	4	1	2	21	4
<i>Cyperaceae</i>	カヤツリグサ科	4	2	2	2	-	5	2	1	4	4
<i>Moraceae</i>	クワ科	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
<i>Polygonum sect. Persicaria – Echinocaulon</i>	サンナシタケ属 – ワタガモツキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Polygonum sect. Reynoutria</i>	イタドリ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Chenopodiaceae – Amaranthaceae</i>	アカザハゼ – ヒヌリ科	1	2	1	1	-	-	-	-	-	-
<i>Caryophyllaceae</i>	ナデシコ科	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Malope</i>	タケニグサ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Brassicaceae</i>	アブラナ科	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
<i>Songariorrhiza</i>	ワリモクウ属	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-
<i>Leguminosae</i>	マメ科	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
<i>Roula</i>	キシキナガ属	1	-	1	2	-	-	-	-	-	-
<i>Hedysarum</i>	アノソウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Apiastraceae</i>	シリ科	1	-	1	-	-	-	-	-	2	1
<i>Labiatae</i>	シソ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Ceratostachys</i>	ベニバナ属	1	6	2	-	-	-	-	-	-	-
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	31	15	7	7	1	1	-	1	1	6
<i>Thuliflorae</i>	イクモ科	4	1	4	2	1	-	-	-	-	-
<i>Liguliflorae</i>	ランボク科	5	-	1	1	-	-	-	-	-	-
シダ植物											
monolete type spore	單球清孢子	2	2	8	3	11	1	2	-	3	6
trilete type spore	三球清孢子	3	8	6	2	4	-	-	-	1	1
Arboreal pollen											
Nonarboreal pollen	草本花粉	209	201	202	221	213	225	240	218	207	211
Spores	シダ植物孢子	159	132	135	179	4	12	3	5	33	45
Total Pollen & Spores	花粉、孢子总数	373	343	351	405	232	238	245	233	244	263
unknown	不明	1	-	1	-	5	2	-	2	1	2

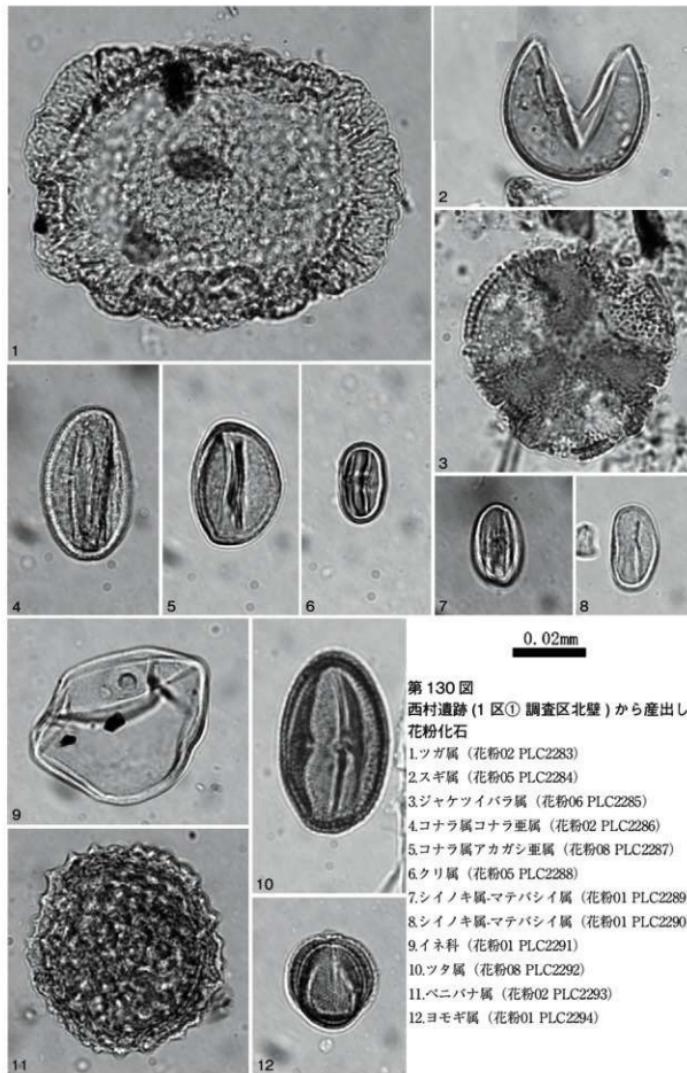
1区① 調査区北壁



第128図 分析試料採取位置



第129図 西村遺跡(1区①調査区北壁)における花粉分布図
樹木花粉は樹木花粉粒数、草本花粉・孢子は産出花粉孢子總数を基準として百分率で算出した。



第130図

西村遺跡(1区① 調査区北壁)から産出した花粉化石

- 1.ツガ属 (花粉02 PLC2283)
- 2.スギ属 (花粉05 PLC2284)
- 3.ジャケツイバラ属 (花粉06 PLC2285)
- 4.コナラ属コナラ亜属 (花粉02 PLC2286)
- 5.コナラ属アカガシ亜属 (花粉08 PLC2287)
- 6.クリ属 (花粉05 PLC2288)
- 7.シイノキ属-マテバシイ属 (花粉01 PLC2289)
- 8.シイノキ属-マテバシイ属 (花粉01 PLC2290)
- 9.イネ科 (花粉01 PLC2291)
- 10.ツツ属 (花粉08 PLC2292)
- 11.ベニバナ属 (花粉02 PLC2293)
- 12.ヨモギ属 (花粉01 PLC2294)

第3節 西村遺跡から出土した大型植物遺体

1. はじめに

香川県東かがわ市西村に所在する西村遺跡は、楠谷川を挟んで東西に広がる、弥生時代から中世までの集落遺跡である。ここでは、古環境復元を目的として採取された弥生時代前期前半の堆積物に含まれていた大型植物遺体の同定結果を報告し、当時の利用植物や植生について検討した。なお、同じ層から採取された堆積物を用いて花粉分析も実施している（花粉分析の項参照）。

2. 試料と方法

試料は、堆積物1試料（種子01）と水洗済みの大型植物遺体1試料（種子02）の、計2試料である。試料は、基本層序の1区①北壁下層確認第2泥炭層から回収された。堆積時期は、いずれも弥生時代前期前半と考えられている。なお、採取された層準は、花粉分析の試料08（19層下部）と09（19層下部・20層）に対応する。

堆積物試料は、300ccを採取し、最小0.5mm目の篩を用いて水洗を行った。水洗済み試料は、香川県埋蔵文化財センターによって水洗された。水洗は、約30ℓの堆積物を最小1.0mm目の篩を用いて行った。

同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損しても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。計数が難しい分類群は、およそその産出数を記号（+）で表記した。試料は、香川県埋蔵文化財センターに保管されている。

3. 結果

同定した結果、木本植物では針葉樹のイヌガヤ葉と、モミ葉、ツガ葉、ヒノキ球果・果実の4分類群、広葉樹のクスノキ種子とアワブキ属核、ツタ種子、ブドウ属種子、サクラ属サクラ節核、キイチゴ属核、ケヤキ果実、エノキ属核、ツブラジイ果実、シノキ属果実・幼果、イチイガシ葉・果実・幼果・殻斗、ツクバネガシ葉、コナラ属アカガシ亜属果実・幼果・殻斗、イヌシデ果実・炭化果実、アカメガシワ種子、イイギリ種子、カラスザンショウ種子、クマノミズキ核、サカキ種子、ヒサカキ属種子、エゴノキ核、ムラサキシキブ属核、モチノキ属核、タラノキ核の24分類群、草本植物ではヒトリシズカ種子とミクリ属核、キケマン属種子、タケニグサ種子、ヤブガラシ属種子、ノブドウ種子、カナムグラ核、ミズ属果実、カラムシ属果実、カタバミ属種子、ヤマアイ種子、スミレ属種子、ミズヒキ果実、ヤナギタデ果実、ボントクタデ果実、ミゾソバ果実、ノミノフスマ種子、ヤマゴボウ属種子、キランソウ属果実、トウバナ属果実、シソ属果実の21分類群の、計49分類群が見いだされた。このほかに、科以下の同定ができなかった芽を一括した。大型植物遺体以外には、炭化した子囊菌（塊を含む）がみられた（第5表）。

以下では、産出した大型植物遺体について試料番号別に記載する（不明芽は除く）。

種子01：モミとツガ、サカキ、タラノキ、カラムシ属、シソ属が少量、イチイガシヒサカキ属、ミゾソバがわずかに得られた。それ以外の分類群の産出数は、5点以下であった。

種子02：クスノキとシノキ属がやや多く、ヒノキとケヤキ、ツブラジイ、イチイガシ、コナラ属アカガシ亜属、イヌシデ、アカメガシワ、サカキ、ヤブガラシ属、カナムグラが少量、カラスザンショ

ウとクマノミズキ、モチノキ属、ヤマアイがわずかに得られた。それ以外の分類群の産出数は、5点以下であった。

以下に、主要な大型植物遺体の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田（2003）に準拠し、APG IIIリストの順とした。

(1) モミ *Abies firma* Siebold et Zucc
葉 マツ科

暗褐色で、針形。背面の中央部には縱方向の溝があり、腹面には幅の広い二列の気孔条がある。先端は二裂して窓む。基部は吸盤状に盛り上がる。長さ10.5mm、幅2.4mm。

(2) ツガ *Tsuga sieboldii* Carrière
葉 マツ科

茶褐色で、針形。背面の中央部には縱方向の溝があり、腹面には幅の広い二列の気孔条がある。先端は二裂して窓む。葉柄は細く、葉身の基部で曲がる。長さ11.1mm、幅1.8mm。

(3) クスノキ *Cinnamomum camphora* (L.) J.Presl 種子 クスノキ科

黒褐色で、上面観は円形、側面観は梢円形。表面は平滑で、一条の稜がある。鈍い光沢があり、壁は薄い。長さ7.1mm、幅7.0mm、厚さ6.6mm。

(4) アワブキ属 *Meliosma* sp. 核
アワブキ科

灰白色で、破片であるが、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形。小さく深い臍孔をもつ。種子を一周する稜線のほか、表面には脈状隆線がある。長さ48mm、幅3.9mm、厚さ3.4mm。

第5表 西村遺跡から出土した大型植物遺体（括弧内は破片数）

分類群	試料番号	種子 01		種子 02	
		採取位置	1区(1)北壁下層確認2泥炭層		2泥炭層
			時期	300cc	
		水洗量		30ℓ	
イヌガヤ		葉	1		
モミ		葉	5 (38)		
フガ		葉	21 (7)		
ヒノキ		球果		(1)	2 (15)
		果実	3	6	
クスノキ		種子	1	14 (38)	
アワブキ属		核		1 (2)	
フタ		種子		1 (3)	
ブドウ属		種子	1	2	
サクランボサクラ属		核		1	
キナノキ属		核		5	
ケヤキ		果実			17
エノキ属		核			(2)
ツブツブジイ		果実		9 (3)	
シイノキ属		果実			(25)
		幼果			29
イチイガシ		葉	69		
		果実		(1)	
		幼果	2	17	
		穀斗		6	
ツクバネガシ		葉		(1)	
コナラ属アカガシア所属		果実		(3)	(5)
		幼果	1	18	
		穀斗		3 (7)	
イヌシデ		葉		(1)	15 (8)
		果実			1
アカメガシワ		種子	1 (2)	10 (2)	
イイダリ		種子	4 (1)		
カラスモミシヨウ		種子	(2)	2 (5)	
クマノミズキ		核		5 (1)	
サカキ		種子	10 (6)	9 (1)	
ヒサカキ属		種子	2 (6)		
エゴノキ		核			(1)
ムラサキシキブ属		核	2		
モチノキ属		核			6 (1)
タラノキ		核	13		
ヒトドリシカズ		種子			1
ミクリ属		核	1	1	
キケンソウ属		種子	1		
タケニグサ		種子		(2)	(1)
ヤブガラシ属		種子		(3)	18 (3)
ノゾドウ		種子			(3)
カナムグラ		核			7 (5)
ミズ属		果実	2		
カラムシ属		果実	20 (2)		
カタバミ属		種子	2		
ヤマアイ		種子		(1)	4 (3)
スミレ属		種子	1		
ミズヒキ		果実	2		
ヤナギダ		果実			1 (2)
ボントクタデ		果実	2		
ミヅソバ		果実	4 (2)		
ノミノスマ		種子	1		
ヤマゴボウ属		種子	3	3	
キランソウ属		果実	1		
トウバナ属		果実	2		
シソ属		果実	10	1	
不明		芽	(++)	(++)	
子囊菌		炭化子囊塊		(1)	
		炭化子囊	(++)	(+)	

+3.9.++10.49.++20.59

(5) ブドウ属 *Vitis* sp. 種子 ブドウ科

明茶色で、上面観は梢円形、側面観は下端がやや尖る倒広卵形。背面の基部寄りに円形の着点があり、腹面には縦方向の2本の深い溝がある。長さ6mmを超える種子はなく、ヤマブドウ以外のブドウ属である。長さ4.0mm、幅3.1mm、厚さ2.0mm。

(6) ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* (Thunb.) Schottky 果実 ブナ科

暗褐色で、卵形。上部で幅が急に狭くなる。花被着点の直下でくびれる。堅果の幅は花被着点直下に向かって徐々に狭くなる。果実の高さは15mm以下。高さ9.0mm、幅7.5mm。状態が悪く、スダジイもしくはツブラジイの形状を呈している一群をシノキ属果実とした。

(7) イチイガシ *Quercus ilicifolia* Blume 果実・幼果・殻斗 ブナ科

果実は暗褐色で、梢円形～長梢円形。突出部(首)は円柱状ないし円錐状で、輪状紋がある。柱頭は短く横を向く。果実の上部とその附近には毛が密生する。鱗は中央部が尖るものが多い。残存高16.5mm、残存幅9.0mm。幼果は深い椀形。鱗片は輪状。太く突出する柱頭を持つ果実が内部にある。高さ7.6mm、幅6.9mm。殻斗は円錐形で、鱗片は合着して輪状に並ぶ。高さ6.0mm、幅14.7mm。

(8) タラノキ *Aralia elata* (Miq.) Seem. 核 ウコギ科

明赤褐色で、上面観は扁平、側面観は半月形。後に沿って網目状の構造がある。長さ2.3mm、幅1.2mm。

(9) ヤブカラシ属 *Cyathea* sp. 種子 ブドウ科

黒褐色で、上面観は梢円形、側面観は先端が尖る卵形。背面の中央もしくは基部寄りに細長いへら状の着点があり、腹面には縦方向に2本の深い溝がある。両面に中心から放射方向に伸びる隆起がある。種皮は薄く硬い。長さ4.2mm、幅3.7mm、厚さ2.7mm。

(10) カラムシ属 *Boehmeria* spp. 果実 イラクサ科

透明感のある黄橙色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は上下が尖ったゆがんだ円形。表面はざらつく。長さ1.3mm、幅0.8mm。

(11) ヤマアイ *Mercurialis leiocarpa* Siebold et Zucc. 種子

黒褐色で、円形。不規則で多角形の細かい隆起が全体にある。長さ2.9mm、幅2.9mm。

(12) シソ属 *Perilla* spp. 果実 シソ科

暗赤褐色で、いびつな球形。端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ1.5mm、幅1.3mm。

4. 考察

弥生時代前期前半の堆積物から出土した大型植物遺体を検討したところ、栽培植物は得られなかった。種子01は種子02と比べて100分の一の水洗量であるが、大型植物遺体の含有量は多かった。

野生種で食用可能な植物としては、イスガヤとブドウ属、サクラ属サクラ節、キイチゴ属、エノキ属、ツブラジイ、シノキ属、イチイガシ、コナラ属アカガシ亜属、シソ属が得られたが、特定の分類群がまとまって産出するような状況は見られなかった。ドングリ類には、打撃による割れと推定される痕跡は見られず、幼果や殻斗など食用にならない部位を伴うため、周辺に生育していたと考えられる。

木本植物では、イチイガシやツバネガシなどのアカガシ亜属や、ツブラジイなどのシノキ属、クスノキ、サカキなど、照葉樹林要素の大型植物遺体が目立ち、花粉分析の結果と整合的であった（花粉分析の項参照）。また、イスガヤやモミ、ツガ、ヒノキといった温帯性針葉樹の大型植物遺体の産出も

花粉化石の傾向と一致しており、周辺に針葉樹も生育していたと推定される。

花粉化石では、クリの花粉が15-20%程度と高率で産出しているためクリ林の存在が示唆されている（花粉分析の項参照）。クリは自然林を作らない樹種で、虫媒のため花粉は広域に散布せず、クリ林内では花粉の出現率30%以上を占めるが、クリ林の縁から約20m離れると5%以下に急減するため（吉川、2011、吉川ほか、2017）、花粉化石からはクリ林が採取地点の周辺に存在している可能性が高いと考えられている。一方、大型植物遺体では種子01で30㎖とかなりの土壌量が水洗されたにも関わらず、クリの果実はしいなや殷斗（イガ）を含め全く得られなかつた。分析地点はクリの花粉が堆積するものの、クリの樹冠内や落した果実が堆積する場所からは離れていた可能性がある。クリ林は自然には成立せず、クリが多く含まれる森林でも花粉は5-10%程度しか検出されないため、規模は不明であるが周辺の台地やその斜面にクリが優勢な森林が形成されていたと推測される。また、クリは陽樹であり、日の当たる場所を好んで生育する。大型植物遺体ではその他にもアカメガシワやカラスザンショウ、タラノキなどの陽樹が産出しており、分析地点周辺は開けた明るい場所であったことを裏付ける。さらに、ツタやブドウ属、ヤブガラシ属、ノブドウ、カナムグラなどのつる植物が、日の当たる場所に絡んでいたと思われる。

草本植物では、カラムシ属やミズ属、ミズヒキ、ヤマゴボウ属など林縁に生育していたと推定される分類群や、ヒトリシズカやヤマアイなど林内に生育していたと推定される分類群が多かつた。これらの草本植物の存在は、試料採取場所のごく周辺に森林が存在した可能性を示唆している。日当たりの良い場所にはタケニグサやキランソウ属、やや湿った場所にはヤナギタデやトウバナ属、滯水した場所にはミクリ属などが生育していたと推定される。

引用文献

- 吉川昌伸（2011）クリ花粉の散布と三内丸山遺跡周辺における縄文時代のクリ林の分布状況。植生史研究18：65-76。
吉川昌伸・吉川純子・能城修一・工藤雄一郎・佐々木由香・鈴木三男・網谷克彦・熊本慎友美（2017）福井県鳥浜貝塚周辺における縄文時代草創期から前期の植生史と植物利用。植生史研究24：69-82。
米倉浩司・梶田 忠（2003）BG Plants 和名-学名インデックス（YList）。<http://ylist.info>

分析は株式会社パレオ・ラボ 佐々木由香氏・バンダリ スダルシャン氏の協力のもとで行った。



スケール 1,2,6,7,9,5mm 3,5,8,10-14:1mm

第131図 西村遺跡から出土した大型植物遺体

1. モミ葉（種子01）、2. ツガ葉（種子01）、3. クスノキ種子（種子02）、4. アワブキ属核（種子02）、5. ブドウ属種子（種子01）、6. ツブライジイ果実（種子02）、7. イナイガシ果実（種子01）、8. イナイガシ幼果（種子02）、9. イナイガシ殻斗（種子02）、10. タラノキ核（種子01）、11. ヤブガラシ属種子（種子02）、12. カラムシ属果実（種子01）、13. ヤマアイ種子（種子02）、14. シソ属果実（種子01）

第4節 西村遺跡出土木製品の樹種同定

1. はじめに

香川県東かがわ市の西村遺跡から出土した木材の樹種同定を行った。

2. 試料と方法

試料は、1区のSP133から2点、SP101、SP102、SP236、SP539から各1点、2区のSP624、SP629、SP625から各1点の、計9点の生材と、3・2区のSH01から採取された2点の炭化材、計11点である。時期については、SP624、SP625、SP629が弥生時代前期後半、SH01が古墳時代前期、それ以外のSPはいずれも平安時代後期と考えられている。

木取りが確認できる試料については、木取りの確認を行った。

木材の樹種同定は、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

炭化材の樹種同定は、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 製 VE-9800）にて検鏡および写真撮影を行なった。

3. 結果

同定の結果、針葉樹であるヒノキとアスナロの2分類群と、広葉樹であるサクラ属とクリ、コナラ属アカガシ属（以下、アカガシ属と呼ぶ）

コナラ属クヌギ節（以下、クヌギ節と呼ぶ）の計6分類群

がみられた。ヒノキが5点で

最も多く、クヌギ節が2点、

アスナロとサクラ属、クリ、

アカガシ属は各1点であった。同定結果を第6表に、一覧を第7表に示す。

次に、同定された材の特徴を記載し、図版に光学顕微鏡写真および走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 第132図 1a-1c(樹種01)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は單列で、高さ1～15列である。分野壁孔はトウヒ～ヒノキ型で、1分野に2個みられる。樹種01、樹種02、樹種05、木01、木02が該当する。

ヒノキは福島県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材はやや軽軟で加工しやすく、強

第6表 西村遺跡出土木製品の樹種同定結果

樹種	時期	弥生時代		古墳時代前期		平安時代後期		合計
		柱材	板目	板材または垂木材	柱材	建築材		
ヒノキ				4	1		5	
アスナロ				1			1	
サクラ属		1					1	
クリ		1					1	
コナラ属アカシ属		1					1	
コナラ属クヌギ節				2			2	
合計		3	2	5	1		11	

度に優れ、耐朽性が高い。

(2) アスナロ *Thujopsis dolabrata* (L.f.) Siebold et Zucc. ヒノキ科 第132図 2a-2c(樹種04)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行はやや急である。放射組織は単列で、高さ2~13列となる。分野壁孔は小型のヒノキ~スギ型で、1分野に2~4個みられる。樹種04が該当する。

アスナロは温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。針葉樹の中では比較的軽軟で、切削等の加工は比較的容易である。また精油分が多く、耐朽性に優れている。

(3) サクラ属(広義) *Prunus* s.l. バラ科 第132図 3a-3c(木03)

小型の道管が単独ないし数個、放射方向または斜め方向に複合してやや密に散在する散孔材である。道管は單穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1列が直立する異性で、1~5列幅となる。木03が該当する。

広義のサクラ属には、モモ属とスモモ属、アンズ属、サクラ属、ウワミズザクラ属、バクチノキ属がある。樹種同定ではモモ属とバクチノキ属以外は他のサクラ属と識別できないため、広義のサクラ属とはモモ属とバクチノキ属を除くサクラ属を指す。

(4) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 第133図 4a-4c(木04)

年輪のはじめに大型の道管が1~3列並び、晩材部では徐々に径を減じる道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状である。道管は單穿孔を有する。放射組織は同性で、単列である。木04が該当する。

クリは、北海道の石狩、日高地方以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で、耐朽性が高い。

(5) コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 第133図 5a-5c(樹種03)

厚壁で丸い大型の道管が、放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は單穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。樹種03が該当する。

コナラ属アカガシ亜属は、材組織の観察では道管の大きなイチイガシ以外は種までの同定ができない。したがって、本試料はイチイガシ以外のアカガシ亜属である。アカガシ亜属にはアカガシやツクバネガシなどがあり、暖帯に分布する常緑高木の広葉樹である。材は重硬かつ強靭で、耐水性があり、切削加工は困難である。

(6) コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 第133図 6a-6c(樹種06)

年輪のはじめに大型の道管が1~3列並び、晩材部では急に径を減じた、厚壁で丸い道管が放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は單穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。樹種06、樹種07が該当する。

コナラ属クヌギ節にはクヌギとアベマキがあり、温帯から暖帯にかけて分布する落葉高木の広葉樹である。材は重硬で、切削などの加工はやや困難である。

第7表 西村遺跡出土木材の樹種同定結果一覧

試料番号	報文番号	管理番号	遺構	器種等	樹種	木取り	種類	時期
樹種.01	NNS2-P0778	1区② SP539 (SB104)	柱材	ヒノキ	不明	生材	平安時代後期	
樹種.02	NNS2-P0748	1区② SP139 (SB104)	柱材	ヒノキ	不明	生材	平安時代後期	
樹種.03	NNS2-P0892	2区③ SP625	柱材	コナラ属アカガシ亜属	不明	生材	弥生前期後半	
樹種.04	NNS2-P0692	1区② SP133 (SB104)	柱材	アスナロ	不明	生材	平安時代後期	
樹種.05	NNS2-P0441	1区③ SP236	柱材	ヒノキ	不明	生材	平安時代後期	
樹種.06	NNS-H0057	3-2 区 SH01 中央土坑上	朽材または垂木材	コナラ属クヌギ節	割れ	炭化材	古墳時代前期	
樹種.07	NNS-H0032	3-2 区 SH01 上層 No.3	朽材または垂木材	コナラ属クヌギ節	割れ	炭化材	古墳時代前期	
木.01	260	NNS2-P0530	1区③ SP101	柱材	ヒノキ	芯去削出	生材	平安時代後期
木.02	261	NNS2-P0772	1区② SP102	建築材	ヒノキ	芯去削出	生材	平安時代後期
木.03	267	NNS2-P0887	2区③ SP624	柱材	サクラ属	芯持丸木	生材	弥生前期後半
木.04	768	NNS2-P0893	2区③ SP629	柱材	クリ	芯持丸木	生材	弥生前期後半

4. 考察

弥生時代前期後半の柱材はサクラ属とクリ、アカガシ亜属であった。アカガシ亜属およびクリ、サクラ属は堅硬な樹種である（伊東ほか、2011）。香川県域で同定されている弥生時代早期・前期頃の建築部材では、サクラ属の利用が確認されるが、クリやアカガシ亜属の利用はみられない（伊東・山田編、2012）。遺跡周辺の植生が異なっていた可能性が考えられる。

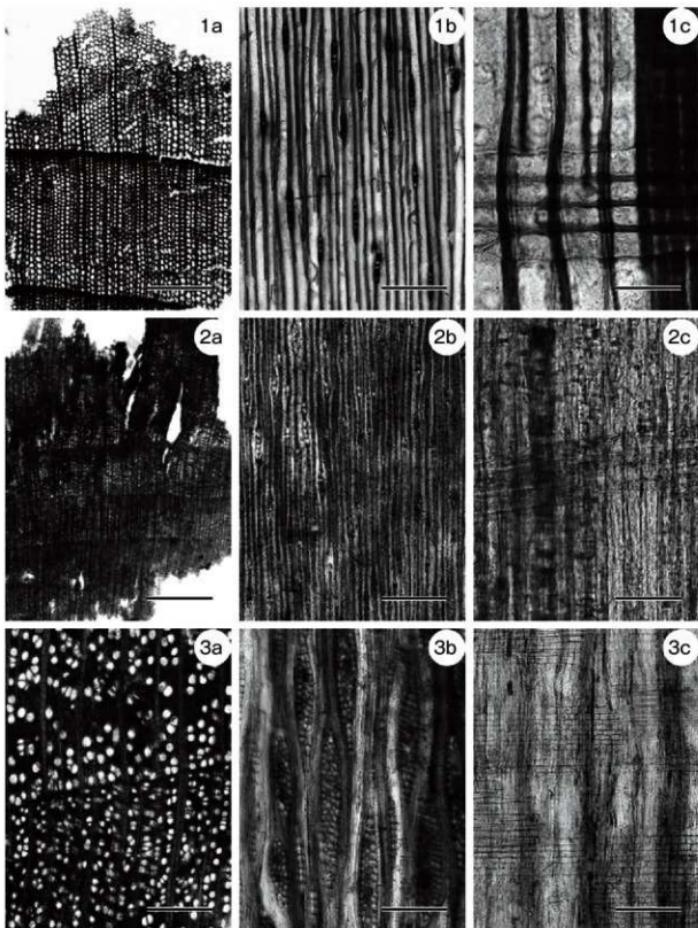
古墳時代前期の朽材または垂木材は、クヌギ節であった。クヌギ節は堅硬な樹種である（伊東ほか、2011）。香川県域で同定されている古墳時代初頭頃の建築材では、多様な広葉樹が利用されているが、東かがわ市の原間遺跡では建築材にクヌギ節も利用されており、傾向は一致する（伊東・山田編、2012）。

平安時代後期の柱材は、ヒノキとアスナロであった。建築材はヒノキであった。ヒノキとアスナロは真っすぐで加工性が良い樹種である（伊東ほか、2011）。香川県域で同定されている平安時代の建築材では、ヒノキとアスナロが確認されており（伊東・山田編、2012）、傾向は一致する。

引用文献

- 伊東謙夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和趣（2011）日本有用樹木誌、238p、海青社。
伊東謙夫・山田昌久編（2012）木の考古学—出土木製品用材データベース、440p、海青社。

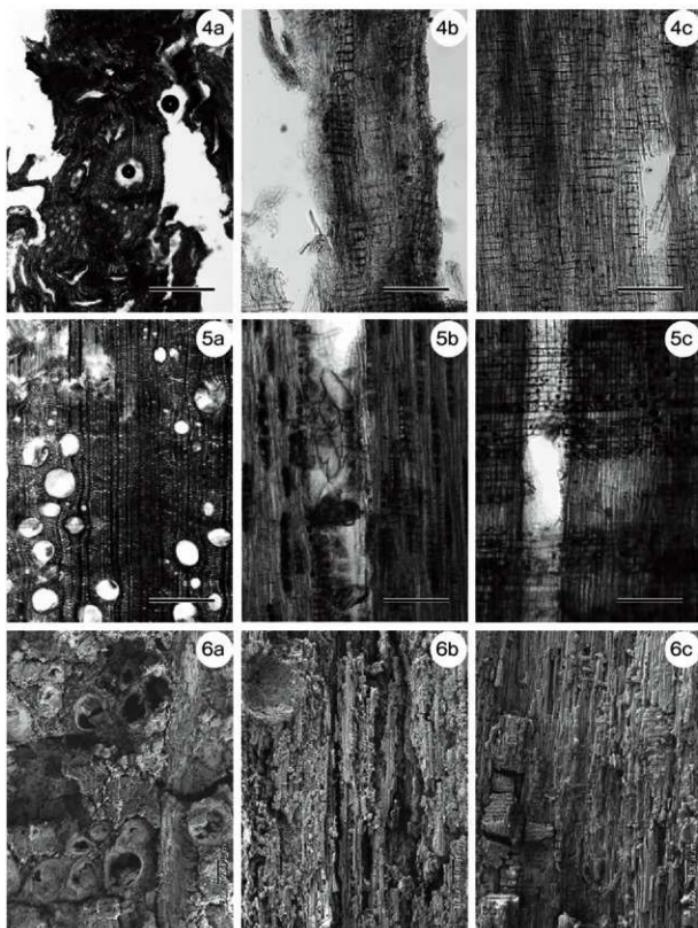
分析は株式会社パレオ・ラボ 小林克也氏の協力で行った。



第132図 西村遺跡出土木材の光学顕微鏡写真

1a-1cヒノキ(樹種01),2a-2cアスナロ(樹種04),3a-3cサクラ属(木03)

a:横断面(スケール=500 μm),b:接線断面(スケール=200 μm),c:放射断面(スケール=1:2.50 μm-3:200 μm)



第133図 西村遺跡出土木材の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真

4a-4c.クリ(木04)、5a-5c.コナラ属アカガシ亜属(樹種03)、6a-6c.コナラ属クヌキ節(樹種06)

a:横断面(スケール=500 μm)、b:接線断面(スケール=200 μm)、c:放射断面(スケール=200 μm)

第5節 西村遺跡の巡方付着有機質の同定

1. はじめに

西村遺跡から出土した巡方に付着していた有機質の同定を行なった。なお、同一試料を用いて蛍光X線分析も行われている（蛍光X線分析の項参照）。

2. 試料と方法

試料は、1区③の柱穴であるSP224から出土した、平安時代後期の銅合金製の巡方（青銅-02、報文番号492）に付着した有機質である。有機質には、皮革状のもの（青銅02-1）と木質状のもの（青銅02-2）がみられ、2試料の観察を行なった（第134図）。

試料はまず、実体顕微鏡にて形状観察および写真撮影を行なった。その後、紐の横断面と側面についてカミソリまたは手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（日本電子（株）製 JSM-5900LV）にて検鏡および写真撮影を行なった。

3. 結果

同定の結果、皮革状の有機質は皮革？、木質状の有機質は広葉樹であった。同定結果を第8表に示す。

第8表 西村遺跡出土巡方付着有機質の同定結果

試料No.	管理番号	報文番号	調査区	遺構	器種	種類	時期
青銅02-1	NNS2-P0094	492	1区③	SP224柱根I-178	巡方付着有機質	皮革？	平安時代後期
青銅02-2					巡方付着有機質	広葉樹	

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版に実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) 広葉樹 Broad - leave wood 第134図 1a-1b(青銅02-2)

小型の道管が確認される広葉樹であるが、試料が微細で年輪界は確認できなかった。放射柔組織は周囲状である。放射組織は同性であるが、試料が微細で接線断面の採取が行えなかった。そのため、試料は広葉樹であると判断した。

(2) 皮革？ Leather ? 第134図 2-5

試料の観察では、膠原纖維束状の組織が確認されたが、試料の劣化が著しく、膠原纖維束であると断定はできなかった。また、獸毛は認められなかった。以上の特徴から、試料は皮革である可能性が考えられるが、断定するまでは至らなかった。

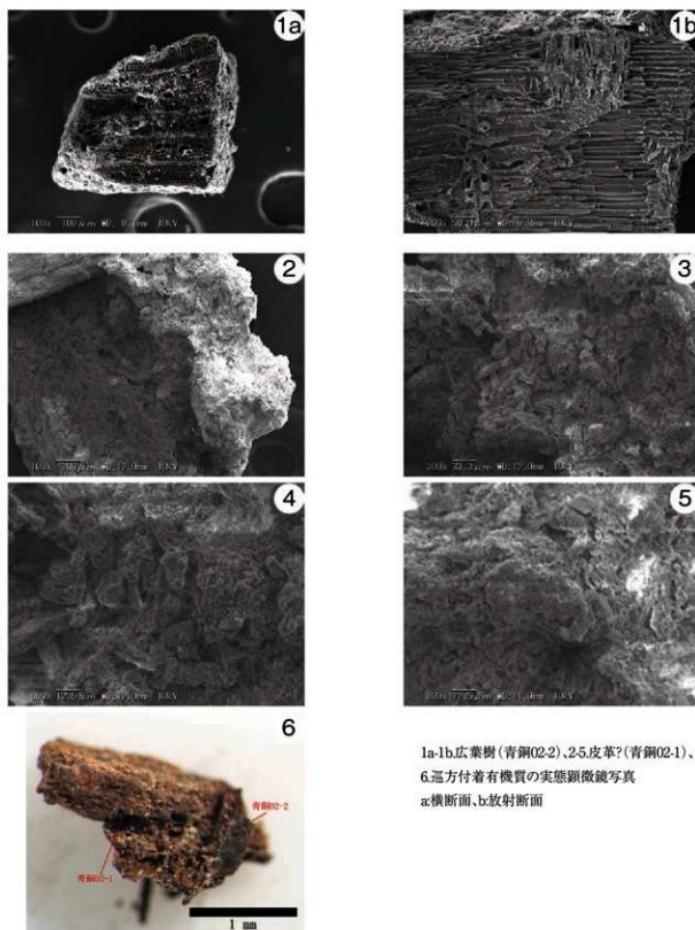
4. 考察

SP224から出土した巡方（青銅-02）に付着していた有機質は、広葉樹と皮革？であった。試料は巡方の裏側から採取されており、巡方の裏側には木材が使用されていたと考えられる。また皮革？は皮革と断定できなかったが、巡方が装着された皮革製のベルトに由来する可能性が考えられる。

参考文献

出口公長（1999）皮革あ・ら・か・る・と。243p. 株式会社解放出版社。
日本皮革技術協会編（1987）革および革製品用語辞典。268p. 株式会社光文舎。

今回の分析は、株式会社パレオ・ラボ 小林克也氏にご協力いただいた。



1a-1b.広葉樹（青銅02-2）、2.5.皮革？（青銅02-1）、
6.巡方付着有機質の実態顕微鏡写真
a横断面、b放射断面

第134図 西村遺跡出土の巡方付着有機質の実態顕微鏡写真および走査型電子顕微鏡写真

第6節 香川県東かがわ市西村遺跡から出土した青銅製品の科学的調査

1. はじめに

東かがわ市の西村遺跡から発掘された青銅製品（青銅製品の利用状況の変遷を検討する参考資料として丸亀市の東坂元秋常遺跡、田村遺跡の中世遺構出土青銅遺物を含む）に関する自然科学的な調査の依頼を受けた。そこで、鉛同位体比法を用いて材料の産地を推定し、資料が持つ歴史的な意義を推定する。

2. 資料

本資料である青銅製品は中世～近世とされる層から発掘された。それら資料の記載を第9表で示し、外観を第135図 写真1～5で示す。

第9表 資料一覧

番号	代号	種文番号	資料名	出土地	遺跡名	推定時期
1	鉛同位体-02	492	青銅製帶金具	香川県東かがわ市	西村遺跡	平安後期
2	鉛同位体-03	705	鉛製水瓶	香川県東かがわ市	西村遺跡	平安後期
3	青銅-06	19	古鏡	香川県東かがわ市	西村遺跡	近世
4	鉛-04	第172回 H142	堆塙（るづな）	香川県丸亀市飯山町	東坂元秋常遺跡	13世紀
5	鉛-05	-	梵鐘铸造時の銅漬	香川県丸亀市田村町	田村遺跡	12世紀

個々の資料の細かい説明は発掘報告書⁽¹⁾の中でされているので、省略する。この遺跡から発掘される資料全体の年代が古代（奈良時代・平安時代）から近世（江戸時代）に及ぶので、これら時代の銅の生産に関して概観しておく⁽²⁾。青銅器は弥生時代から日本で利用されるようになる。弥生時代～古墳時代には朝鮮半島・中国産材料がすべてであり、材料や製品が輸入され、鋳造は行われていたが、日本での銅の生産はなかった。奈良時代（飛鳥時代を含む）以降平安時代前期にかけて日本で銅が生産されるようになり、かなりの量の銅製資料が生産される。大金銅仏や梵鐘、皇朝十二銭などを始めとして、各種資料が生産されるようになる。この間に中国や朝鮮半島で作られた資料（仏像・仏教用具装飾品など、裝身具）は少量ではあるが導入されている。平安時代中期以降になると、日本に於ける銅の生産は銅鉱石（酸化銅鉱）が枯渇したため行き詰まり、国内での必要量を供給できなくなる。そのためそれまでに作られていた資料（皇朝十二銭なども）が再利用されるがそれも足りなくなる。このため、それまでに積みかれた貨幣経済は破綻し、物々交換の時代へと戻る。平安時代後期になると中国の銅銭が銅材料として輸入され、国内銅の不足分を補うために利用されるようになる。この時には中国だけでなく、東南アジア諸国で再鋳造された中国銭も持ち込まれている。鎌倉時代になると、日本産材料はほとんど見えなくなる。しかし室町時代になると新しい銅鉱石（硫化銅鉱）を用いた銅製鍊法が導入され、銅生産が再開される。それ故、中国産材料と日本産材料とが入り交じて利用されるようになる。江戸時代になると、領國政策のため日本産材料が国内に出回ることになる。このように銅生産の材料産地が変化し、生産量が変化するので、本研究資料の鉛同位体比から材料産地を推定し、利用された銅材料の意義に関して考察する。資料写真を次に示す。



写真1 青銅製帶金具 (鉛同位体02)
香川県東かがわ市西村遺跡出土
(平安時代後期)



写真2 鉛製水瓶 (鉛同位体03)
香川県東かがわ市西村遺跡出土
(平安時代後期)



写真3 青銅製古銭 (青銅06) 香川県
東かがわ市西村遺跡出土
(近世)

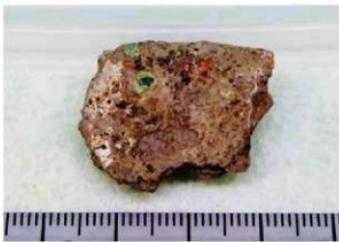


写真4 るっぽ (鉛04)
香川県東坂元秋常東坂元秋常遺跡出土
(13世紀)



写真5 銅滴 (鉛05)
香川県東かがわ市田村遺跡出土
銅滴の破片 (12世紀)

第135図 香川県東かがわ市西村遺跡および丸亀市東坂元秋常遺跡・田村遺跡から出土した青銅製品

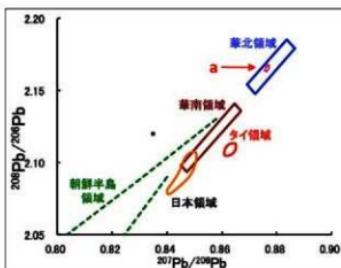
3. 科学的測定

自然科学的な調査方法として材料産地を推定できる鉛同位体比法^(3,4)を用いる。資料の材料産地を推定し、鉛同位体比から得られる資料の歴史的な知見を明らかにすることを目的とする。

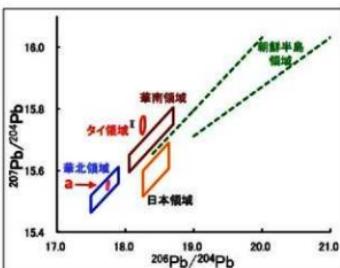
3.1 鉛同位体比法の原理

今までの研究で、普通の鉛には重さが異なる同位体が4種 (^{204}Pb , ^{206}Pb , ^{207}Pb , ^{208}Pb) 混在しているとわかっている⁽⁴⁾。その中で鉛-206(^{206}Pb)はウラン-238(^{238}U)から、鉛-207(^{207}Pb)はウラン-235(^{235}U)から、鉛-208(^{208}Pb)はトリウム-232(^{232}Th)から自然の放射壊変で生成される。岩石などの中にウラン・トリウムとともに鉛が共存すれば上記3種の鉛同位体はウラン・トリウムから自然に生成され、既にあつた鉛に付加される。それ故地球が生まれて以来、岩石の中で鉛がウラン・トリウムと共存していると、これらウラン・トリウムが自然に放射壊変して年々減少し、鉛の ^{206}Pb , ^{207}Pb , ^{208}Pb が増加する。地球の歴史のあるときに、地殻変動などでこれら岩石から鉛が抽出されて鉛鉱物を生成すると、この時から鉛はウラン・トリウムから切り離されるので、鉛同位体の量と比が定まり、変化しなくなる。各地域の鉛同位体比は鉛鉱物を作った岩石中の鉛・ウラン・トリウムの量比が違っていること、および地殻変動の時期が一般的には異なるので、鉛同位体比は各鉛鉱床でそれぞれ異なった値となる。東アジア地方では第136図 ($^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ - $^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$: A式図) と第137図 ($^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ - $^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$: B式図) で示されるような地域毎に鉛同位体比が分布すると判っている。図ではそれぞれの分布域が日本、朝鮮半島、中国華北、華南などとして示されている。ただし、これら分布領域は資料が示す実際の分布から判断されているので、それぞれの領域から外れる資料がある場合もある。未知資料の鉛同位体比を測定し、これら両図にプロットすると、その測定点が両図で設定された同じ領域に含まれれば、資料はその地域で生産された鉛材料を含んでいる可能性が高いと判断される。すなわち、ある資料の鉛同位体比がA式図で華北領域に位置したとする。B式図でも華北領域に位置すれば、その資料は華北産の材料を利用している可能性が高い。もし異なった領域に位置すれば、華北産材料とは言い切れないと判断される。もちろん例外はある。また鉛同位体比の表現方法として各種あるが、第136図 ($^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ - $^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$: A式図) と第137図 ($^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ - $^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$: B式図) の方式で示されることが多いので、本報告でもこの方式で表現する。この原理を用いて鉛の同位体比から鉛の生産地を推定し、資料の材料産地を推定する方法を鉛同位体比法と称している。

銅製品中には鉛が少量残存している場合がある⁽⁵⁾。これは昔の銅精錬法では鉛を除ききれなかったためと考えられる。また、製作によっては銅製品を作る時に金属の性質(鋳造温度や硬さ、輝き)を変えるために、鉛やスズが主成分の一つとして人為的に加えられることがある。鉛は各地域に普遍的に存在しているため、銅鉱床の近くで採掘されることが多く、後から加えられた鉛でもその鉛同位体比は銅鉱床の生産地を示唆すると考えることができる。故に、鉛同位体比法は銅製品の生産地を推定する方法でもある。



第 136 図 鉛同位体比を用いた産地推定の概念図（A式図）



第 137 図 鉛同位体比を用いた産地推定の概念図（B式図）

注) a 領域とは弥生時代後期の銅矛や銅鐸が集中する領域である。

図の縦軸・横軸の目盛りは表現する資料の数値によって任意に変える。例えば A式図の横軸は必要によって 0.7 ~ 1.00 のように変化させることもある。

3.2 鉛同位体比の測定方法

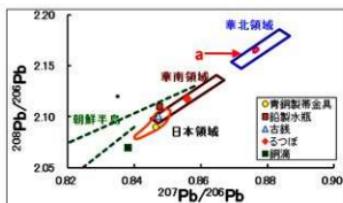
製品の製作に利用された銅材料の産地を推定するために鉛同位体比法を利用する。鉛量が少ないことや銅や鉄などの不純物があると鉛同位体比測定に妨害となるためこれらを除去する必要がある。測定用に採取した微少量 ($\sim 10\text{mg}$) の銅試料に次のような化学操作を行って鉛を分離する。試料を石英製ビーカーに入れ、硝酸で溶解する。この溶液を蒸留水で希釈し、直流電圧 2V で電気分解する。鉛は二酸化鉛として陽極の白金電極上に析出するので、この白金電極を取り出して硝酸と過酸化水素水で鉛を溶解する。溶解した溶液の鉛濃度を ICP 法で測定し、 $0.3\mu\text{g}$ の鉛を分取する。分取した鉛にリン酸とシリカゲルを加えてレニウムフィラメント上に載せ、加熱して固まらせる。以上のように準備したフィラメントを日鉄住金テクノロジー株式会社に設置されている表面電離型質量分析計（Finnigan MAT262）の中にセットし、測定諸条件を整え、 1200°C で鉛同位体比を測定する。測定値は同一条件で測定した標準鉛試料 NBS-SRM-981 で規格化する^{〔6〕}。

4. 鉛同位体比測定の結果

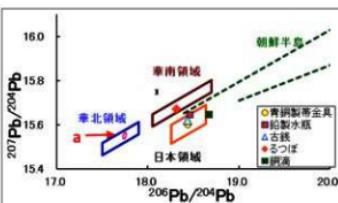
香川県東かがわ市の西村遺跡および丸亀市の東坂元秋常遺跡、丸亀市の田村遺跡などの中世遺構から発掘された青銅製品の鉛同位体比値を測定し、第10表で示し、第138図と第139図で図示する。第138図と第139図では図中の試料位置が判りにくいので、一部を拡大して、第140図と第141図として示す。

第10表 鉛同位体比一覧

番号	資料名	$^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$	$^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{207}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{208}\text{Pb}$
1	青銅製帯金具	18.434	15.602	38.53	0.8464	20902
2	鉛製水瓶	18.459	15.646	38.955	0.8476	21103
3	古鏡	18.439	15.622	38.742	0.8472	21011
4	埴輪(るつば)	18.313	15.671	38.783	0.8558	21178
5	銅鏡	18.67	15.647	38.64	0.8381	20697
誤差範囲(1σ)		± 0.010	± 0.010	± 0.030	± 0.0003	± 0.0006

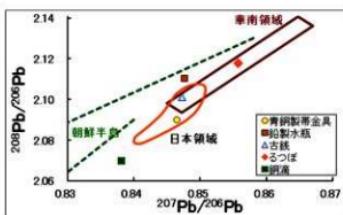


第138図 青銅製品の鉛同位体比分布
(A式図)

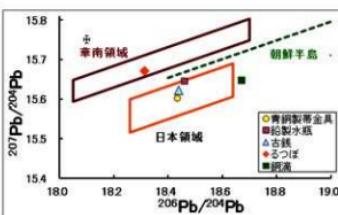


第139図 青銅製品の鉛同位体比分布
(B式図)

注1)
「a」領域は弥生時代後期に広形鏡や突線鏡(第IV形式)銅鏡が集中する領域



第140図 第138図の拡大図



第141図 第139図の拡大図

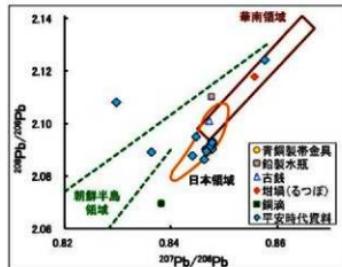
5. 考 察

第10表と第138図と第139図あるいは第140図と第141図で示された分布に関して各資料の特徴を次にまとめる。

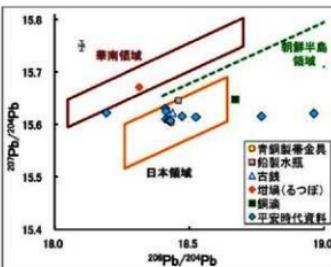
1) 青銅製帶金具

本資料は写真1で示される。緑青色から幾分白味がかった錫が発生していること、資料の形態から材料は青銅とされ、約3cm弱のはば四角い形をした帶金具である。この資料の考古学的年代は発掘状況から平安時代後期と推定されている。鉛同位体比は第140図のA式図、第141図のB式図から、日本産材料と推定される。日本に於ける銅生産の時代の推移から判断すると、平安時代中期には銅がほとんど生産されなくなるが、なお、国内に回っている皇朝十二銭など他の材料を再利用することができ、ほぼ1150年頃までは国内銅を利用している。それ故、本資料がその頃までに生産された製品であれば、年代に矛盾なく説明できる。なお、生産と廃棄とに時間差はそれほど認められないとしても問題はないだろう。

平安時代の資料として今までに測定されている資料を第142図と第143図で示す⁽²⁾。



第142図 平安時代資料の鉛同位体比分布
(A式図)



第143図 平安時代資料の鉛同位体比分布
(B式図)

第142図と第143図で示されるこれら資料は平安時代資料として系統的に集められた資料ではなく、依頼された資料（約20資料）として測定した値ではあるが、大部分の資料は日本産材料領域に含まれ、幾つかの資料が、中国・朝鮮半島あるいは不明材料と示されている。

このことから判断すると、本資料である青銅製帶金具は日本産材料で作られており、平安時代初期～中期に利用された典型的な材料と判断される。

2) 銅製水瓶

本資料は写真2で示される。割合に小さな水瓶で、白い錫が発生していること、密度が高いことなどから銅製と判断される。この水瓶がどのような目的で作られたかはわからないが、鉛同位体比は第140図のA式図では日本産材料領域から少々外れて、朝鮮半島産材料領域に位置するように見える。そうすると日本産材料とは直接的には考えにくい。第141図のB式図では、日本産材料領域の上界境界線近くに位置しているが、朝鮮半島産材料領域の線にも近い。日本産の銅とも考えたいが、A式図で朝鮮

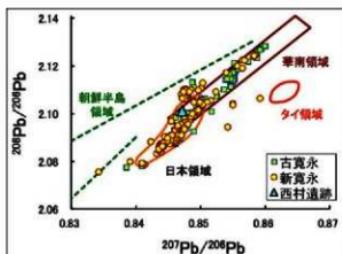
半島産材料領域に位置しており、B式図では朝鮮半島産材料の線に近いことから、朝鮮半島産材料の可能性があるかもしれない。この時代に朝鮮半島産の鉛がどのくらい日本へ輸入されていたかはわからない。しかし、朝鮮半島で作られた資料（例えば仏像の付属物）が日本へ持ち込まれれば、朝鮮半島産鉛があったとしてもありえるだろう。しかし、後の寛永通宝の鉛同位体比分布の例からすると、日本産材料である可能性が残り、本資料の材料は日本産あるいは朝鮮半島産のいずれかで作られている可能性が高く、どちらとも決められない状態である。

3) 古銭

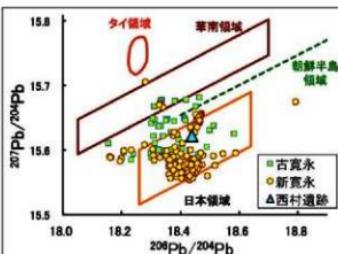
本資料は写真3で示される。緑青色の錆が発生している古銭である。文様がよく判らないので、銭の種別ははっきりしない。しかし年代が近世（→江戸時代）と考えると、寛永通宝以降の日本銭が示唆される。鉛同位体比は第140図（A式図）、第141図（B式図）から、日本産材料と推定される。

古銭は皇朝十二銭（最後は乾元大宝：958年発行）以降、寛永通宝（1627年発行）まで発行されておらず、この間に日本産材料が古銭に利用されることはずないだろう。

鉛同位体比から日本産材料が用いられていると判断され、寛永通宝以降の江戸時代の古銭と推測される。ここで今までに鉛同位体比が測定されている寛永通宝の鉛同位体比分布を第144図・第145図で示す⁽²⁾。これらの分布図には少し補足説明が必要であろう。



第144図 寛永通宝の鉛同位体比分布
(A式図)



第145図 寛永通宝の鉛同位体比分布
(B式図)

注2)

古寛永は時代的に古く、1659年までに鋳造された寛永通宝。
新寛永は時代的に新しく1668年以降に鋳造された寛永通宝。

第144図と第145図から、ほとんどの寛永通宝は日本産材料を利用している。しかし、幾つかの資料は華南材料領域に広がっているように見える。第144図のA式図から、新・古の寛永通宝の鉛同位体比は華南産材料領域に分布しているように見えるが、第145図のB式図ではそれほど多くの資料が華南領域に分布している訳ではない。これはA式図で華南領域の右上方向に日本の神岡鉱山産の鉛が位置しているからである。神岡鉱山の鉛はB式図では日本領域の左、華南産材料領域の下に位置しており、幾つかの新寛永通宝がまとまっている領域である。それ故、A式図で寛永通宝が華南産材料領域に多く分布しているようにみえるが、そのほとんどは神岡鉱山産の鉛であり、少數の古寛永通宝だけが華南産材料を利用していると判断される。古寛永通宝の鋳造は鎮国から日数がたっていないので、それまでに

使われていた中国華南産材料がいくらかは残っていて、再鑄造に用いられたと判断される。それが新寛永通宝になるとほとんどの華南産材料がなくなり、神岡鉱山産の鉛の利用が一段と進んだことを示唆している。第145図のB式図で新寛永通宝の2～3資料が華南領域中央付近に見られる。これはA式図で2～3資料が日本領域からタイ領域方向に偏っていることに対応していると考えられる。タイ産の鉛は江戸時代直前の戦国時代に鉄砲玉として日本でかなりの量が購入され、利用された事実がある。それら鉛は鉄砲玉用として備蓄されていたが、その後必要なくなり、寛永通宝鋳造用に解放されるようになったためと考えられる。

この図の中で西村道跡出土の古銭資料は古寛永通宝とも新寛永通宝とも考えられる位置を示しており、日本産材料で作られている可能性が高い。江戸時代の資料として理解しやすい。

先ほどの2) 鉛製水瓶の件で、第144図の中で水瓶が位置していたあたりに幾つかの資料のまとまりがあり、第145図でも水瓶が位置していた付近に寛永通宝がまとまっていることから、この辺りの鉛同位体比を持つ鉛鉱山が日本か朝鮮半島にありそうである。

4) るつぽ

本資料は写真4で示される。品名が「るつぽ」となっているが、資料は写真からるつぽ本体ではなく、るつぽ内に残った金属の塊（残渣：ざんさ）のように判断される。青銅古銭を溶解して不必要的元素（鉛など）を抽出し、必要部分を使つた後に残った残さとも判断できる。考古学的には13世紀の資料とされている。

鉛同位体比は第140図（A式図）、第141図（B式図）から、中国華南産材料と推定される。本資料の年代が13世紀であれば、中国から大多量の古銭を銅材料として輸入していた時期であり、銅中の鉛などの元素濃度を利用目的の強度に合わせようとして調整したとも考えられる。この時代の他資料の鉛同位体比分布を調べてみると、第146図と第147図で示されるように、そのほとんどが中国華南産材料を利用している。

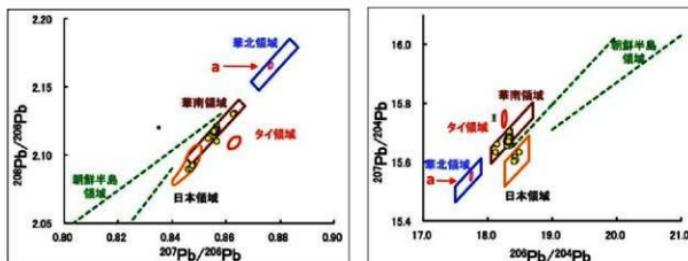
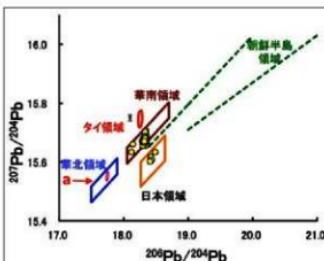
第146図と第147図には鎌倉時代資料として、雲版、架け仏、小金銅仏、和鏡や铸造銅滓など41点の資料が含まれており、当時の材料産地の分布を示している。日本産材料を用いた資料はそのうち4点であり、華南産材料を用いた資料は37点である。日本産材料がない訳ではないが、平安時代からの伝世品、あるいはその時代からの材料を利用している可能性がある。このように考えると、鎌倉時代には中国華南産材料が主体であり、日本産材料はほとんど利用されていないようである。

結果として、このような時代背景を考えると、本るつぽ残渣資料は中国華南産材料と推定され、この時代には一般的であった材料と考えられる。

5) 銅滴

銅滴とは銅の铸造時に金属の一部が流れ出て固まった部分と考えられている。流れ出た銅は球状に固まることが多いが、写真5で示される銅滴資料は、錫びて原型を留めていないほど壊れている。本銅滴は12世紀の資料とされ、日本では銅の供給がなくなっている頃であるため、その铸造材料の産地が気になるところである。

鉛同位体比の図で判断すると、第140図で資料は日本産領域をはっきり左下へずれている。また第141図では日本産材料領域の右へ外れている。このことから、日本産材料の可能性は低い。中国・朝鮮半島産材料であることも可能性が低い。このような値を示す資料は今までにほとんど見当たらなかった。類似した鉛同位体比を示す資料が寛永通宝にある。第144図と第145図を調べてみると、第144図（A

第146図 鎌倉時代資料の鉛同位体比分布
(A式図)第147図 鎌倉時代資料の鉛同位体比分布
(B式図)

式図)で日本領域の左下に3資料(古寛永1個、新寛永2個)が離れている。これは第145図(B式図)で日本領域の右に外れた1個と日本領域の中でも最も右側に位置している2個とに対応している。このことは寛永通宝を铸造する場合、東南アジアから輸入した古銭その他の銅材料と日本産材料とを混合し、铸造していると考えると、銅滴と類似した鉛同位体比値を示す材料を考えることができる。

引用・参考文献

- (1)香川県教育委員会 2004「昭道高松丸亀線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告」ほか
- (2)平尾良光 2014「船玉がたなる日本の戦国時代における東南アジア交易」「大航海時代の日本と金属交易」平尾良光・飯沼賀司・村井草介編、思文閣(京都)p19~71
- (3)平尾良光 1998 鉛同位体比法、「青銅鏡・銅鏡・鉄劍を探る」「文化財を探る科学の眼・3」。
- 平尾良光・山岸真二編、国土社(東京)p13~19
- (4)平尾良光 2000「鉛同位体比法の応用—歴史資料の产地推定ー」『RADIOISOTOPES 57』p709-721
- (5)平尾良光 1999「古代の鏡の科学」「古代東アジア青銅の流通」平尾良光編、鶴山堂(東京)p305~320
- (6)平尾良光・馬渕久夫 1989「表面電離型固体質量分析計 VG-Sector の規格化について」『保存科学 28』17-24

分析は日鉄住金テクノロジー株式会社 渡邊綾子氏・隅英彦氏の協力のもとで行った。また、本文執筆には帝京大学 文化財研究所 平尾良光氏のご協力をいただいた。

第7章 西村遺跡出土鍛冶・鋳銅関連遺物の分析調査

1. はじめに

西村遺跡は東かがわ市に所在する。発掘調査地区内では平安時代後期（11世紀）と推定される鍛冶・鋳銅関連遺物が多数出土した。この遺跡での金属器生産の実態を検討するため、出土遺物の調査を実施した。

2. 調査方法

2-1. 供試材

第11表に示す。出土製鉄～鍛冶関連遺物13点を調査した。

2-2. 調査項目

(1) 肉眼観察

遺物の外観の特徴など、調査前の所見を記載した。

(2) マクロ組織

外観の特徴から断面観察の位置を決めて、試料を切り出し、エメリーワイヤード紙の#150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の3μmと1μmで順を追って研磨し、全体像を撮影した。

(3) 顕微鏡組織

鉄滓の鉱物組成や金属組織の観察を目的とする。

試料観察面を設定・切り出し後、試験片は樹脂に埋込み、エメリーワイヤード紙の#150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の3μmと1μmで鏡面研磨した。金属反射顕微鏡を用い、特徴的・代表的な視野を選択して写真を撮影した。また銅（青銅）の組織観察には酢酸・硝酸・アセトン（3:2:3）混合液を腐食に用いた。

(4) ピッカース断面硬度

ピッカース断面硬度計（Vickers Hardness Tester）を用いて硬度を測定した。試料は顕微鏡用を併用し、荷重は10～200gfで測定した。ピッカース硬さは測定箇所に圧子（136°の頂角をもったダイヤモンド）を押し込んだ時の荷重と、それにより残された溝（圧痕）の対角線長さから求めた表面積から算出される。

(5) EPMA調査

EPMA（日本電子製㈱ JXA-8230）を用いて、鉄滓の鉱物組成を調査した。測定条件は以下の通りである。加速電圧：15kV、照射電流（分析電流）：200E-8A。

(6) 化学組成分析

出土遺物の定量分析を実施した。

① NIS - 1、6～9、11

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第一鉄（FeO）：容量法。

炭素（C）：燃焼容量法、硫黄（S）：燃焼赤外吸収法。

二酸化硅素（SiO₂）、酸化アルミニウム（Al₂O₃）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、

酸化カリウム (K_2O)、酸化ナトリウム (Na_2O)、酸化マンガン (MnO)、二酸化チタン (TiO_2)、酸化クロム (Cr_2O_3)、五酸化磷 (P_2O_5)、バナジウム (V)、銅 (Cu)、二酸化ジルコニウム (ZrO_2) : ICP (Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer) : 誘導結合プラズマ発光分光分析法。

② NIS - 2 ~ 5, 10, 12 ~ 13

酸により供試料を溶解させ、酸溶解分と不溶分を幢別し、それぞれについて、含有される元素の定性分析を行った後、検出された元素の定量分析を ICP 法及び ICP-MS 法により実施した。

3. 調査結果

3-1. 鋳治関連遺物

NIS - 1 : 梶形鍛冶津

(1) 肉眼観察：平面不整円形で薄手の楕形鍛冶津（233.9g）である。津の地の色調は灰褐色で着磁性はごく弱い。鉄滓の表面には木炭痕が薄く点在する。また上面側には部分的に黒色ガラス質漬が付着する。これは羽口先端の粘土溶融物と推定される。一方下面側は鍛冶炉床土が付着する。最大厚さ 25mm 程度、粘土中には真砂（花こう岩の風化砂）が混和されている。

(2) マクロ組織：第 148 図①に示す。写真右上の暗灰色～青灰色部は鈎化鉄粒である。また灰褐色部は鍛冶津で、下面表層の暗灰色部は鍛冶炉床土の粘土である。

(3) 顕微鏡組織：第 148 図②③に示す。②は鈎化鉄部の拡大である。写真左側には針状の初析セメントタイト (Cementite : Fe₃C)、右側には網状の微細な黒鉛 (Graphite) が確認された。この特徴から、本來は過共析組織～ねずみ鉄組織の金属鉄であったと推測される。

③は下面表層の津部の拡大である。津中には微細な白色樹枝状結晶ウスタイト (Wustite : FeO)、淡灰色柱状結晶ファヤライト (Fayalite : 2FeO·SiO₂) が晶出する。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）に由来する鉄チタン酸化物の晶出ではなく、鍛錆鍛冶津の晶癖といえる。また写真右下の暗灰色部は石英 (Quartz : SiO₂) であった。炉材粘土中に混和された砂粒と推定される。

(4) ピッカース断面硬度：第 148 図③の白色樹枝状結晶の硬度値は 466Hv、淡灰色柱状結晶の硬度値は 640Hv であった。前者はウスタイトの文献硬度値約 450 ~ 500Hv、後者はファヤライト文献硬度値約 600 ~ 700Hv の範囲内であり、それぞれウスタイト、ファヤライトと推定される^(注1)。

(5) EPMA 調査：第 148 図④に鈎化鉄部の反射電子像 (COMP) を示す。素地は層状のパーライト (Pearlite) であった。また特性 X 線像をみると、網状の黒色部は炭素 (C) に強い反応がある。黒鉛 (Graphite) と推定される。

もう 1 視野、第 148 図⑤に鍛冶津部分の反射電子像 (COMP) を示す。白色粒状結晶の定量分析値は 93.5%FeO - 1.0%Al₂O₃ (分析点 1) であった。ウスタイト (Wustite : FeO) と推定される。またウスタイト粒内の微細な暗灰色結晶の定量分析値は 72.2%FeO - 23.3%Al₂O₃ (分析点 2) であった。周囲の暗灰色結晶はヘルシナイト (Hercynite : FeO·Al₂O₃)、またはマグネタイト (Magnetite : FeO·Fe₂O₃) とヘルシナイトを主な端成分とする固溶体と推測される。淡灰色柱状結晶の定量分析値は 66.9%FeO - 29.0%SiO₂ (分析点 3) であった。ファヤライト (Fayalite : 2FeO·SiO₂) と推定される。素地部分の定量分析値は 43.3%SiO₂ - 23.5%Al₂O₃ - 5.7%CaO - 10.1%K₂O - 2.6%Na₂O - 14.5%FeO (分析点 4) であった。非晶質硅酸塩である。さらに⑤の左下の暗灰色粒の定量分析値は 96.6%SiO₂ (分析点 5) であった。石英 (Quartz : SiO₂) と推定される。

(6) 化学組成分析: 第 12 表に示す。全鉄分 (Total Fe) 44.61% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) は 0.17%，酸化第 1 鉄 (FeO) が 49.24%，酸化第 2 鉄 (Fe_2O_3) 88.1% の割合であった。造渣成分 ($SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O$) 35.99% で、このうち塩基性成分 (CaO + MgO) の割合は 1.38% と低値であった。砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン (TiO_2) は 0.12%，バナジウム (V) < 0.01% と低値であった。また酸化マンガン (MnO) は 0.13%，銅 (Cu) < 0.01% と低値であった。

当鉄滓は主に鐵酸化物と粘土溶融物 (SiO_2 主成分) からなり、鉄材を熱間で鍛打加工した時の反応副生物（鍛練鍛治滓）と推定される。また楕形鍛治滓の上面には 10mm 大の鉄粒が付着しており、過共析組織―ねずみ鑄鉄組織痕跡が確認された。鍛打のごく初期段階で、まとまらず炉内に取り残されたものと考えられる。

NIS - 2 : 炉壁 (鉄滓付着)

(1) 肉眼観察: ごく小形の炉壁破片 (3.55g) と推測される。熱影響を受けてガラス質化した部分では、細かい気孔が密に点在する。粘土部分の色調は灰褐色で、石英・長石粒を多量に混和している。また部分的に灰褐色の滓が付着する。表面は風化気味である。

(2) マクロ組織: 第 149 図①に示す。素地（黒灰色部）は炉壁粘土で、内部には砂粒が多量に混和されている。写真左側（明灰色部）は、熱影響を受けてガラス質化している。また下面側には微細な木炭破片と鍛治滓が付着している。

(3) 顕微鏡組織: 第 149 図②③に示す。②は木炭破片(木口面)の拡大である。内部には導管が観察されず、針葉樹材と推定される。また③は鍛治滓で、白色樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。楕形鍛治滓 (NIS - 1) と同様、鍛練鍛治滓の晶癖であった。

(4) ピッカース断面硬度: 第 149 図③の白色樹枝状結晶の硬度を測定した。硬度値は 438 Hv であった。ウスタイトの文献硬度値よりもやや軟質であったが、結晶の色調と形態、EPMA による定性・定量分析の結果からウスタイトと推定される。風化の影響で軟質の値となった可能性が考えられる。また淡灰色結晶の硬度値は 602 Hv であった。ファヤライトと推定される。

(5) EPMA 調査: 第 149 図④反射電子像 (COMP) を示す。白色樹枝状結晶の定量分析値は 95.4% FeO (分析点 6) であった。ウスタイト (Wustite: FeO) と推定される。微細な暗灰色結晶の定量分析値は 58.4% FeO - 38.9% Al_2O_3 であった。ヘルシサイト (Hercynite: FeO· Al_2O_3) と推定される。また淡灰色柱状結晶の定量分析値は 66.5% FeO - 29.2% SiO_2 であった。ファヤライト (Fayalite: 2FeO· SiO_2) と推定される。素地部分の定量分析値は 48.4% SiO_2 - 21.1% Al_2O_3 - 6.2% CaO - 9.1% K_2O - 3.1% Na_2O - 12.5% FeO (分析点 9) であった。非晶質硅酸塩である。

(6) 化学組成分析: 酸不溶分の定量分析結果を第 12 表に示した。珪酸 (SiO_2 : 43.14%)、アルミナ (Al_2O_3 : 10.18%) が主成分であった。炉材粘土の溶融物主体の滓といえる。

当遺物は熱影響を受けた炉壁粘土の小破片と推定される。表面に付着した滓は鍛練鍛治滓であり、鉄材を熱間で鍛打加工した時に生じたものと推測される。

NIS - 3 : 鍛治滓

(1) 肉眼観察: ごく小形の鍛治滓破片 (0.63g) である。滓の地の色調は暗灰色で、表面には黄褐色の土砂や茶褐色の鉄鏽が薄く付着する。ただし着磁性は弱く、金属探知器反応もないため、まとまつた鉄

部はないと考えられる。表面はやや風化気味で、微細な気孔が点在する。

- (2) マクロ組織：第150図①に示す。風化が進み、内部が空洞化している（黒色部）。
- (3) 顕微鏡組織：第150図②～⑤に示す。滓中には白色樹枝状結晶ウスタイトが晶出する。鉄材の吹き減り（酸化に伴う損失）による鍛錬鍛冶滓の晶癖である。
- (4) ピッカース断面硬度：第150図⑤の白色樹枝状結晶の硬度を測定した。硬度値は242、274 Hvであった。ウスタイトの文献硬度値より軟質であったが、風化の影響と考えられる。結晶の色調と形態、EPMAによる定性・定量分析の結果からウスタイトと推定される。
- (5) EPMA 調査：第150図⑥に滓部の反射電子像（COMP）を示す。滓中の微細な明白部の定量分析値は96.9%Fe（分析点10）であった。金属鉄（Metallic Fe）である。また白色樹枝状結晶の定量分析値は95.7%FeO（分析点11）であった。ウスタイト（Wustite : FeO）と推定される。
- (6) 化学組成分析：酸化溶分の定量分析結果を第12表に示した。鉄分主体の滓で（Total Fe:62.36%）、砂鉄に含まれるチタニア（ TiO_2 ）の割合は非常に低値であった。

当鉄滓は鉄酸化物の割合の高い滓であった。熱間で鍛打加工した時の吹き減り（酸化に伴う損失）で生じた鍛錬鍛冶滓と推定される。

NIS - 4: 粒状滓

- (1) 肉眼観察：やや大形で歪な球状の粒状滓（0.25g、長径0.60mm）である。滓の地の色調は黒灰色で、表面には部分的に茶褐色の鉄鏽が付着する。また着磁性は強いが金属探知器反応はなく、鉄酸化物主体の粒状滓と推定される。
- (2) マクロ組織：第151図①に示す。地は明灰色の鍛冶滓で、内部の微細な青灰色部は錫化鉄である。
- (3) 顕微鏡組織：第151図②～⑤に示す。白色粒状結晶ウスタイトが凝聚して晶出する。鍛冶滓（NIS - 3）と同様に、鉄材の吹き減り（酸化に伴う損失）による滓といえる。
- (4) ピッカース断面硬度：第151図⑥の白色粒状結晶の硬度を測定した。硬度値は459Hv、461Hvであった。ウスタイトの文献硬度値の範囲内であり、ウスタイトと推定される。
- (5) EPMA 調査：第151図⑥に滓部の反射電子像（COMP）を示す。定量分析値は92.7%FeO - 15% TiO_2 （分析点12）、83.8%FeO - 2.7% TiO_2 - 1.0% Al_2O_3 （分析点13）であった。ウスタイト（Wustite : FeO）。またはウスタイトとマグネタイトの混晶で微量チタニア（ TiO_2 ）、アルミナ（ Al_2O_3 ）を固溶する可能性が高いと考えられる。
- (6) 化学組成分析：酸化溶分の定量分析結果を第12表に示した。鉄分主体の滓であった（Total Fe:69.90%）。またチタニアが高めであった（ TiO_2 : 2.42%）。

当遺物も鉄酸化物主体で、鉄材を熱間で鍛打加工した時の吹き減り（酸化に伴う損失）で生じた微細な粒状の滓と推定される。ただし他の遺物と比較して、チタニア（ TiO_2 ）の割合が高めであった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）の影響の可能性が考えられる。

NIS - 5: 粒状滓

- (1) 肉眼観察：大形で歪な球状の粒状滓（0.27g、長径0.79mm）である。滓の地の色調は暗灰色で、非常に微細な砂粒が点在する。着磁性はほとんどなく、粘土の溶融物主体の粒状滓と推定される。
- (2) マクロ組織：第152図①に示す。粒状滓（NIS - 4）とは異なり、ガラス質滓（粘土溶融物）であった。

(3) 顕微鏡組織：第152図②③に示す。地は暗灰色のガラス質津（非晶質硅酸塩）で、微細な砂粒（石英）が多数点在する。炉材粘土の溶融物と推測される。また津中の微細な明白色粒は金属鉄で、3%ナイタルで腐食したところ白鉄組織が確認された。

(4) ピッカース断面硬度：第152図③の金属鉄粒の硬度を測定した。硬度値は381、520Hvと硬質で、金属組織（白鉄）に見合った値であった。

(5) EPMA 調査：第152図④にガラス質津および微小金属鉄粒の反射電子像（COMP）を示す。右側の明白色粒は第152図③の左側と同じ金属粒である。特性X線像では、鉄（Fe）にのみ強い反応がみられる。また津中の暗灰色粒は珪素（Si）、酸素（O）に強い反応がある。定量分析値は99.3%SiO₂（分析点14）で、石英（Quartz:SiO₂）であった。また素地の定量分析値は60.4%SiO₂ - 17.9%Al₂O₃ - 3.8%CaO - 4.3%K₂O - 2.3%Na₂O - 6.5%FeO（分析点15）であった。非晶質硅酸塩である。

(6) 化学組成分析：酸不溶分の定量分析結果を第12表に示した。珪酸（SiO₂:67.73%）、アルミナ（Al₂O₃:14.73%）が主成分であった。炉材粘土の溶融物主体の津といえる。

当鉄津は内部に砂粒（石英）を多数含むガラス質津であり、微細な粒状の炉材粘土溶融物と推定される。また津中には微細な金属鉄（白鉄）粒が確認された。このことから少なくとも鍛冶原料の一部が鉄であつたと判断される。

NIS - 6: 炉壁（鉄津付着）

(1) 肉眼観察：ごく小形の炉壁片（18.5g）と推測される。熱影響の強い部分はガラス質化が進んでいる。内部には真砂（花こう岩の風化砂）が多数混在する。全体に軽い質感で、着磁性もごく弱く炉材粘土の溶融物主体の津と考えられる。また部分的に灰褐色の津部も付着している。

(2) マクロ組織：第153図①に示す。写真上側の暗灰色は炉壁粘土で、内部には砂粒が多量に混和されている。また下側の灰褐色部は鍛冶津である。

(3) 顕微鏡組織：第153図②③に示す。津中には、灰褐色多角形結晶はマグнетタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。製鐵原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）に由来する鉄チタン酸化物の晶出はなく、鍛錬鍛冶津の晶癖といえる。また③の暗灰色粒は、炉材粘土に混和された砂粒と推定される。

(4) ピッカース断面硬度：第153図②の灰褐色多角形結晶の硬度を測定した。硬度値は579、618Hvであった。後者はマグネットタイトとしては若干硬質であり（文献硬度値：約500～600Hv）、少量アルミナ（Al₂O₃）を固溶する影響と考えられる。また淡灰色結晶の硬度値は584Hvであった。ファヤライトの文献硬度値よりもやや軟質であるが、結晶の色調と形態、EPMAによる定性・定量分析の結果から、ファヤライトと推定される。風化の影響で軟質の値となった可能性が考えられる。

(5) EPMA 調査：第153図④の津部の反射電子像（COMP）を示す。灰褐色多角形結晶の定量分析値は83.2%FeO - 6.2%Al₂O₃（分析点16）であった。マグネットタイト（Magnetite: FeO·Fe₂O₃）で、少量アルミナ（Al₂O₃）を固溶する。淡灰色結晶の定量分析値は65.4%FeO - 1.3%MgO - 29.5%SiO₂であった。ファヤライト（Fayalite: 2FeO·SiO₂）で少量マグネシア（MgO）を固溶する。また素地部分の定量分析値は59.3%SiO₂ - 16.4%Al₂O₃ - 5.3%CaO - 4.6%K₂O - 1.3%Na₂O - 11.9%FeO（分析点18）であった。非晶質硅酸塩である。

(6) 化学組成分析：第12表に示す。強熱減量（Ig loss）は1.59%と低値であった。強い熱影響を受け結晶構造水が飛散した状態であった。軟化性成分の鉄分（Total Fe）の割合は12.82%と高い。また

耐火性に有利なアルミナ (Al_2O_3) は 12.40% と、通常の粘土（約 15 ~ 18%）よりも低値であった。ただしこれは溶部の影響を受けたものと考えられる。

以上の調査結果から、炉壁 (NIS - 2) と同様に、当遺物も鍛冶滓が付着した炉壁粘土の小破片と推定される。

NIS - 7：鍛冶滓

(1) 肉眼観察：小形の鍛冶滓 (12.43g) である。全体に軽い質感で、大部分が着磁性のないガラス質滓（炉材粘土の溶融物）である。ただし下面側には弱い着磁性のある、灰褐色の鍛冶滓部分が確認される。

(2) マクロ組織：第 154 図①に示す。素地部分はガラス質滓（明灰色部）で、内部には微細な石英粒が多数混在する。これは炉材粘土中に混和されたものと推察される。一方、写真左側の黒色～灰色部は鍛冶滓で、かなり風化が進んでいる。

(3) 顕微鏡組織：第 154 図②③に示す。②は滓部の拡大で、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）に由来する鉄チタン酸化物の晶出ではなく、鍛錬鍛冶滓の晶癖といえる。③はガラス質滓部分の拡大である。滓中には微細な石英粒が多数混在する。また中央の微細な明白白色粒は金属鉄である。

(4) ピッカース断面硬度：第 154 図②の淡灰色柱状結晶の硬度を測定した。硬度値は 548, 562 Hv であった。ファヤライトの文献硬度値よりもやや軟質であるが、結晶の色調と形態、EPMA による定性・定量分析の結果から、ファヤライトと推定される。風化の影響で軟質の値となつた可能性が考えられる。

(5) EPMA 調査：第 154 図④に滓部（第 154 図②の拡大）の反射電子像（COMP）を示す。淡灰色柱状結晶の定量分析値は $64.1\%\text{FeO} - 28.6\%\text{SiO}_2$ （分析点 19）であった。ファヤライト（Fayalite : $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ ）と推定される。また素地部分の定量分析値は $52.1\%\text{SiO}_2 - 16.9\%\text{Al}_2\text{O}_3 - 4.1\%\text{CaO} - 4.4\%\text{K}_2\text{O} - 2.5\%\text{Na}_2\text{O} - 16.8\%\text{FeO}$ （分析点 20）であった。非晶質硅酸塩である。

もう 1 視野、ガラス質滓部分（第 154 図③の拡大）の反射電子像（COMP）を第 154 図⑤に示す。微細な暗灰色粒の定量分析値は $93.3\%\text{SiO}_2$ （分析点 21）、 $96.6\%\text{SiO}_2$ （分析点 22）であった。石英（Quartz : SiO_2 ）である。素地部分の定量分析値は $66.4\%\text{SiO}_2 - 17.1\%\text{Al}_2\text{O}_3 - 3.3\%\text{K}_2\text{O} - 5.0\%\text{FeO}$ であった（分析点 23）であった。非晶質硅酸塩である。また微細な明白白色粒の定量分析値は、 $91.1\%\text{Fe} - 2.6\%\text{P}$ （分析点 24）であった。金属鉄（Metallic Fe）である。

(6) 化学組成分析：第 12 表に示す。全鉄分（Total Fe）の割合は 9.45% と低値であった。このうち金屬鉄（Metallic Fe）は 0.06%、酸化第 1 鉄（FeO）が 6.08%、酸化第 2 鉄（ Fe_2O_3 ）6.67% であった。造滓成分 ($\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$) は 81.61% と高値であるが、塩基性成分 ($\text{CaO} + \text{MgO}$) は 1.11% と低値であった。砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン (TiO_2) は 0.36%、パナジウム (V) も < 0.01% と低値であった。また酸化マンガン (MnO) は 0.07%、銅 (Cu) も < 0.01% と低値であった。

以上の調査結果から、当鉄滓は鍛冶炉粘土の溶融物（ガラス質滓）主体の鍛錬鍛冶滓と推定される。

NIS - 8：楕形鍛冶滓

(1) 肉眼観察：やや小形の楕形鍛冶滓の側面 (57.83g) 破片である。滓の色調は黒灰色で着磁性がある。上下面とも滑らかな流動状で、破面の気孔は少なく、緻密で重量感がある。鉄酸化物の割合が高い滓と

考えられる。ただし部分的に小礫や砂粒を少量呑み込んでいる。

(2) マクロ組織：第 155 図①に示す。上側の暗灰色部はガラス質滓である。羽口粘土の溶融物と推定される。一方灰褐色部は鍛冶滓である。

(3) 顕微鏡組織：第 155 図②③に示す。滓中には白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。また微細な灰褐色多角形結晶はマグネタイト、またはマグнетタイトとヘルシナイトを主な端成分とする固溶体と推定される。さらに部分的に淡灰色針状結晶イスコライト (Isocrbite : $5\text{FeO}\cdot\text{Fe}_2\text{O}_3\cdot\text{SiO}_4$) も確認された。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）に由来する鉄チタン酸化物の晶出はなく、鍛錬鍛冶滓の晶癖といえる。

(4) ピッカース断面硬度：第 155 図③の白色粒状結晶の硬度を測定した。硬度値は 470 Hv であった。ウスタイトの文献硬度値の範囲内で、ウスタイトと推定される。また淡灰色柱状結晶の硬度値は 773 Hv であった。ファヤライトの文献硬度値よりも硬質の値となつたが、結晶の色調と形態、EPMA による定性・定量分析の結果からファヤライトと推定される。

(5) EPMA 調査：第 155 図④に滓部の反射電子像 (COMP) を示す。上面のガラス質滓と鍛冶滓の境界部分の拡大である。ガラス質滓中の暗灰色粒の定量分析値は 100.4% SiO_2 (分析点 25) であった。石英 (Quartz: SiO_2) である。微細な灰褐色多角形結晶の定量分析値は 73.4% FeO - 16.5% Al_2O_3 (分析点 26) であった。マグネタイト (Magnetite : $\text{FeO}\cdot\text{Fe}_2\text{O}_3$) とヘルシナイト (Hercynite : $\text{FeO}\cdot\text{Al}_2\text{O}_3$) を主な端成分とする固溶体と推定される。淡灰色柱状結晶の定量分析値は 66.8% FeO - 29.1% SiO_2 (分析点 27) であった。ファヤライト (Fayalite : $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$) と推定される。素地部分の定量分析値は 56.0% SiO_2 - 19.7% Al_2O_3 - 3.5% CaO - 6.2% K_2O - 4.0% Na_2O - 10.3% FeO (分析点 28) であった。非晶質珪酸塩である。

さらにもう 1 視野、鍛冶滓部分の組成を調査した。第 155 図⑤に滓部の反射電子像 (COMP) を示す。微細な灰褐色多角形結晶の定量分析値は 70.4% FeO - 20.1% Al_2O_3 - 1.3% TiO_2 (分析点 29) であった。マグネタイト (Magnetite : $\text{FeO}\cdot\text{Fe}_2\text{O}_3$) とヘルシナイト (Hercynite : $\text{FeO}\cdot\text{Al}_2\text{O}_3$) を主な端成分とする固溶体で、少量チタニア (TiO_2) を固溶する。淡灰色柱状結晶の定量分析値は 66.7% FeO - 28.8% SiO_2 (分析点 30)、67.2% FeO - 29.0% SiO_2 (分析点 32) であった。ファヤライト (Fayalite : $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$) と推定される。淡灰色柱状結晶の定量分析値は 80.2% FeO - 3.9% Al_2O_3 - 8.7% SiO_2 (分析点 31) であった。イスコライト (Isocrbite : $5\text{FeO}\cdot\text{Fe}_2\text{O}_3\cdot\text{SiO}_4$) と推定される。また素地部分の定量分析値は 46.8% SiO_2 - 18.5% Al_2O_3 - 9.9% CaO - 2.2% K_2O - 3.7% Na_2O - 14.9% FeO (分析点 33) であった。非晶質珪酸塩である。

(6) 化学組成分析：第 12 表に示す。全鉄分 (Total Fe) 51.36% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) は 0.68%、酸化第 1 鉄 (FeO) が 57.01%、酸化第 2 鉄 (Fe_2O_3) 9.10% の割合であった。造滓成分 ($\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$) 30.56% で、このうち塩基性成分 ($\text{CaO} + \text{MgO}$) は 0.86% と低値であった。砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン (TiO_2) は 0.10%、バナジウム (V) が < 0.01% と低値であった。また酸化マンガン (MnO) は 0.03%、銅 (Cu) も < 0.01% と低値であった。

当鉄滓は主に鉄酸化物 (FeO) と炉材粘土の溶融物 (SiO_2 主成分) からなり、鉄材を熱間で鍛打加工した時の反応副生物（鍛錬鍛冶滓）と推定される。

3-2. 銅銅関連遺物

NIS-9: 羽口

(1) 肉眼観察: 羽口先端部の小破片 (14.29g) と推定される。熱影響を受けて、外面表層はガラス質化している。破面の胎土は淡褐色～橙色で、砂粒や微細な有機質の混和物が確認される。

(2) マクロ組織: 第156図①に示す。断面全体がガラス質化している。内部には熱影響を受けた石英・長石類が多数混在する。これらは羽口粘土に混和された真砂（花こう岩の風化砂）と推測される。また断面中央には微細な橙色粒が確認された。金属銅 (Cu) と推定される。

(3) 顕微鏡組織: 第156図②③に示す。②は微細な金属銅（橙色部）の拡大である。その周囲には銅酸化物（青灰色部）が確認された。また③もガラス質津中の銅酸化物の拡大である。

(4) ピッカース断面硬度: 第156図②の橙色の金属部の硬度を測定した。硬度値は 55Hv と非常に軟質であった。銅 (Cu) 以外の合金元素の割合はきわめて低いと考えられる。一方、③の銅酸化物の硬度値は 209Hv であった。

(5) EPMA 調査: 第156図④に金属部（橙色部）反射電子像 (COMP) を示す。金属部の定量分析値は 97.8%Cu - 1.1%As (分析点 33) であった。銅 (Cu) 主体で、砒素 (As) を少量固溶する。また金属銅の周囲の青灰色部の定量分析値は 97.8%CuO (分析点 34) であった。金属銅粒の腐食によって生じた酸化物と推測される。

もう 1 視野、滓部の組成を調査した。第156図⑤に反射電子像 (COMP) を示す。層状青灰色部の定量分析値は 98.5%CuO (分析点 35) であった。特性 X 線像をみるとガラス質津中の粒状結晶も層状青灰色部とほぼ同じ組成の可能性が高い。このため第156図④の銅酸化物とは異なり、廃棄後の腐食（銅錆）ではなく、铸込みのために銅を溶解した時の酸化物と考えられる。また素地の暗灰色部の定量分析値は 43.3%SiO₂ - 16.7%Al₂O₃ - 2.1%K₂O - 31.3%CuO - 2.8%FeO (分析点 36) であった。

(6) 化学組成分析: 第12表に示す。強熱減量 (Ig loss) は 2.07% と低値であった。強い熱影響を受けて、かなり結晶水が飛散した状態といえる。軟化性成分の鉄分 (Total Fe) は 3.09% であった。耐火性に有利なアルミナ (Al₂O₃) は 16.51% と、通常の粘土 (約 15 ~ 18%) の範囲内であった。また銅 (Cu) が 6.10%、砒素 (As) が 0.37% と高値傾向が顯著であった。

当羽口の断面には、微細な金属銅と銅酸化物が確認された。銅（または青銅）铸物の铸造のため、銅の溶解に用いたものと推定される。なお銅 (Cu) には微量砒素 (As) が固溶する。

NIS-10: 取鍋（緑青付着）

(1) 肉眼観察: 小形で薄手の土器破片 (4.78g) である。内面表層が強い熱影響を受けてガラス質化しており、5mm 大の緑青が付着する。銅（青銅）製品の铸造に用いられた取鍋破片と推測される。また厚みから専用の取鍋ではなく、土器が転用された可能性が高いと考えられる。

(2) マクロ組織: 第157図①に示す。土器部分は強い熱影響を受けており、広い範囲がガラス質化している（明灰色部）。内部には粘土に混和された真砂（石英・長石類）が多数点在する。一方、中央の不定形淡橙色部は金属銅である。

(3) 顕微鏡組織: 第157図②③に示す。②は取鍋の内面表層寄りのガラス質津である。内部に多数点在する淡橙色粒は金属銅である。酢酸・硝酸・アセトン混合液で腐食したところ、比較的大形の金属粒には結晶粒界の線が確認された。等軸結晶 (Cu a 相) と推定される。また周囲の暗灰色部はガラス質

津であった。津中には錫酸化物 (SnO_2) と銅-鉄系の酸化物 (CuFeO_2) が晶出する。

③は金属銅部分の拡大である。酢酸・硝酸・アセトン混合液で腐食したところ、粗大化した等軸結晶 (Cu a 相) が確認された。なお結晶内の色調差は、内部に固溶した砒素 (As) などの偏析の可能性が考えられる。

(4) ピッカース断面硬度：第 157 図③の金属銅の硬度を測定した。硬度値は 50Hv であった。非常に軟質で、銅 (Cu) 以外の合金元素の割合は低いと考えられる。

(5) EPMA 調査：第 157 図④反射電子像 (COMP) を示す。素地部分は特性 X 線像では鉛 (Pb) に強い反応がある。定量分析値は 37.3%Pb - 5.9%As - 4.1%Cu - 2.2%Fe - 11.5%Si - 3.5%Al - 5.2%CaO - 26.0%O (分析点 37) であった。鉛 (Pb)、砒素 (As) を高い割合で含む非晶質珪酸塩 (ガラス質津) であった。暗灰色針状結晶は特性 X 線像では銅 (Cu)、鉄 (Fe) に強い反応がある。定量分析値は 39.1%CuO - 26.8%FeO - 13.9%SnO₂ - 16.4%SiO₂ - 6.3%Al₂O₃ - 2.6%CaO (分析点 38) であった。結晶は銅-鉄系の酸化物 [デラフォサイト ($\text{Derafosite : CuFeO}_2$)] で、定量値は周囲のガラス質津を反映した値と推測される。また淡灰色四辺形状結晶は特性 X 線像では、錫 (Sn) に強い反応がある。定量分析値は 99.6%SnO₂ (分析点 39) であった。錫酸化物である。また津中の淡橙色部は、特性 X 線像では銅 (Cu) に強い反応がある。定量分析値は 96.1%Cu (分析点 40) であった。金属銅である。

もう 1 視野、金属銅 (Cu) 部の組成を調査した。微細な明白白色部は、特性 X 線像では銀 (Ag) に強い反応があり、定量分析値は 94.0%Ag - 6.1%Cu - 4.4%Bi (分析点 41) であった。銀 (Ag) 主体の相で、少量ビスマス (Bi) も検出された。また明白白色左下の明灰色部の定量分析値は 43.3%Cu - 13.6%Ag - 36.0%Te - 5.4%Se (分析点 42) であった。銅 (Cu) - 銀 (Ag) - テルル (Te) を主成分とする相で、さらにセレン (Se) も少量確認された。また素地 (Cu a) 相部分は、暗褐色部の定量分析値は 89.7%Cu - 2.8%As (分析点 43)、淡橙色部の定量分析値は 95.4%Cu (分析点 45) であった。色調差は砒素 (As) の偏析の可能性が考えられる。また写真青灰色粒の定量分析値は 85.9%Cu - 9.3%O (分析点 44) であった。Cu - Cu₂O 共晶における亜酸化銅 (Cu_2O) と推定される。

(6) 化学組成分析：溶着金属部 (酸化溶分) の分析調査結果を第 12 表に示す。銅 (Cu) の割合は 77.05%、錫 (Sn) は 0.046%、鉛 (Pb) も 1.12% と低値であった。また鉄 (Fe) 0.725%、砒素 (As) が 2.17% 含まれる。さらに銀 (Ag) が 0.259% と高めであった。

当土器片には金属銅 (Cu) が溶着していた。微量元素としては、銀 (Ag)、ビスマス (Bi)、テルル (Te)、セレン (Se) が特徴的であった。また表層のガラス津中には、鉛 (Pb)、砒素 (As) を高い割合で含まれていた。さらに津中には銅-鉄系の酸化物 (CuFeO_2) および錫酸化物 (SnO_2) が確認された。以上の特徴から、鉛青銅製品の鋳造に用いられた取扱片と推定される。

NIS - 11 : 炉壁

(1) 肉眼観察：小形で不定形の炉壁破片 (27.18g) の可能性が考えられる。熱影響は強くないが、1 面が黒灰色に変色している。他の面の色調は淡褐色で、真砂 (花こう岩の風化砂) や短く切ったスサを多量に混和している。

(2) マクロ組織：第 158 図①に示す。全体に熱影響は少なく、ガラス質化した部分がみられない。

(3) 顕微鏡組織：第 158 図②③に示す。素地 (黒灰色部) は粘土鉱物で、内部には (石英・長石類) が多数混和されている。

(4) EPMA 調査：第 158 図④に反射電子像 (COMP) を示す。写真右上の暗灰色部は、特性 X 線像では珪素 (Si)、酸素 (O) に強い反応がある。石英 (Quartz : SiO_2) と推測される。また中央左よりと下側の微細な灰色粒は珪素 (Si)、アルミニウム (Al)、ナトリウム (Na)、カルシウム (Ca)、酸素 (O) に反応がある。定量分析値は $11.8\% \text{Na}_2\text{O} - 2.6\% \text{CaO} - 21.8\% \text{Al}_2\text{O}_3 - 68.0\% \text{SiO}_2$ (分析点 42) であった。灰曹長石 (oligoclase) と推定される。

(5) 化学組成分析：第 12 表に示す。強熱減量 (Ig loss) は 11.13% であった。熱影響が少なく、結晶構造水が保持された状態であった。軟化性成分の鉄分 (Total Fe) は 2.38% であった。また耐火性に有利なアルミナ (Al_2O_3) は 17.02% で、通常の粘土 (約 15 ~ 18%) の範囲内であった。

当遺物は熱影響が弱い部分の炉材粘土の小破片と推測される。鉛錆や溶着金属等の付着はなく、どのような作業に用いられたのかを判断する情報は得られなかった。

NIS - 12 : 青銅粒

(1) 肉眼観察：ごく小形で不定形の銅粒 (7.69g) である。表面には部分的に砂混じりの被熱粘土が付着する。また全体が黒灰色～緑色の錆に覆われる。着磁性はなく、全体に強い金属反応がある。青銅製品を鋳造した際の湯こぼれの可能性が高いと考えられる。

(2) マクロ組織：第 159 図①に示す。写真左上部分は亀裂の周囲から腐食が進んでいるが、金属部の残存状態は良い。また内部に気孔などはなく、緻密である。

(3) 顕微鏡組織：第 159 図②～⑤に示す。酢酸・硝酸・アセトン混合液で腐食した。素地は共晶組織 ($\alpha + \delta$) で、淡黄色針状・粒状 (α) 相が確認された。高錫青銅の鋳造組織の特徴といえる^(II.2)。

(4) ピッカース断面硬度：第 159 図②③の金属部の硬度を測定した。素地の共晶組織 ($\alpha + \delta$) の硬度値は 339、348 Hv、黄褐色針状 (α) 相を含む箇所の硬度値は 264、277、295 Hv であった。銅の割合の高い α 相を含む箇所がより軟質であり、組織に見合った値といえる。

(5) EPMA 調査：第 159 図⑥に反射電子像 (COMP) を示す。暗灰色部が反射顕微鏡下の淡黄色針状 (α) 相にある。特性 X 線像では錫 (Sn) の反応が弱く、周囲よりも錫の割合が低いことが分かる。定量分析値は $81.1\% \text{Cu} - 15.6\% \text{Sn}$ (分析点 48) であった。共析組織 ($\alpha + \delta$) 部分は特性 X 線像では銅 (Cu)、錫 (Sn) とともに強い反応がみられる。定量分析値は $66.3\% \text{Cu} - 32.8\% \text{Sn}$ (分析点 49)、 $71.1\% \text{Cu} - 25.4\% \text{Sn}$ (分析点 50) であった。また微細な淡青灰色部の定量分析値は $71.5\% \text{Cu} - 5.1\% \text{Se} - 5.2\% \text{Te} - 14.5\% \text{S}$ (分析点 51) であった。硫化銅 (Cu_2S) で、テルル (Te)、セレン (Se) を少量固溶する。

(6) 化学組成分析：第 12 表に示す。銅 (Cu) の割合は 75.97% であった。また錫 (Sn) の割合が 22.87% と高く、鉛 (Pb) は 0.015% と低値であった。また取銅 (NIS - 10) の溶着金属とは異なり、鉄 (Fe) は 0.020%、砒素 (As) も 0.136% と低値で、銀 (Ag) も 0.087% と低めであった。

当遺物は高錫青銅 (Sn:22.87%) で、鉛 (Pb) の含有率はごく僅かであった。舶載鏡などの (高錫青銅: 白銅) 製品を、鋳造原料に再利用していたと推測される。

NIS - 13 : 青銅粒

(1) 肉眼観察：ごく小形で細長い形状の銅粒 (2.12g) である。全体が黒灰色～緑色の錆に覆われる。着磁性はなく強い金属反応がある。表面は平滑で、中央付近に錆化に伴う割れが生じている。NIS - 12 と同様、青銅製品鋳造の際の湯こぼれの可能性が高いと考えられる。

(2) マクロ組織：第160図①に示す。表層(特に写真右上)は鋳化しているが、芯に金属部が残存している。また内部に気孔などではなく、緻密である。

(3) 顕微鏡組織：第160図②～⑤に示す。酢酸・硝酸・アセトン混合液で腐食した。素地は共晶組織($\alpha + \delta$)で、淡黄色針状・粒状(α)相が確認された。青銅粒(NIS-12)と同じく、高錫青銅の铸造組織の特徴といえる。

(4) ピッカース断面硬度：第160図④⑤の金属部の硬度を測定した。素地の共晶組織($\alpha + \delta$)の硬度値は274、306、326 Hv、黄褐色粒状(α)相を含む箇所の硬度値は155、192 Hvであった。銅の割合の高い α 相を含む箇所がより軟質であり、組織に見合った値といえる。

(5) EPMA調査：第160図⑥に反射電子像(COMP)を示す。淡黄色針状・粒状(α)相は特性X線像では錫(Sn)の反応が弱く、周囲よりも錫の割合が低いことが分かる。定量分析値は87.0%Cu - 10.4%Sn(分析点52)、80.6%Cu - 15.8%Sn(分析点53)であった。一方共析組織($\alpha + \delta$)部分は、特性X線像では銅(Cu)、錫(Sn)とともに強い反応がみられる。定量分析値は68.9%Cu - 27.1%Sn(分析点54)、67.6%Cu - 29.8%Sn(分析点56)であった。また微細な淡青灰色部の定量分析値は73.6%Cu - 3.1%Se - 2.4%Te - 17.0%S(分析点55)であった。硫化銅(Cu₂S)で、テルル(Te)、セレン(Se)を少量固溶する。

(6) 化学組成分析：第12表に示す。銅(Cu)の割合は73.84%であった。また錫(Sn)の割合が23.35%と高く、鉛(Pb)は0.015%と低値であった。また鉄(Fe)は0.042%、砒素(As)が0.131%と低値であった。銀(Ag)も0.087%と低めで、青銅粒(NIS-12)とよく似た化学組成であった。

当遺物も青銅粒(NIS-12)と非常に近い成分の高錫青銅(Sn:23.35%)であった。舶載鏡などの(高錫青銅：白銅)製品を、铸造原料に再利用していたと推測される。

4.まとめ

西村遺跡出土鍛冶・鍛銅関連遺物を調査した結果、次の点が明らかとなった。

(1) 鍛冶関連遺物

今回調査を実施した鉄滓4点(NIS-1,3,7,8)と、炉壁(NIS-2,6)の付着滓は鍛練鍛冶滓であった。いずれも製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)に由来する鉄チタン酸化物の晶出ではなく、鉄材を熱間で鍛打加工した時の反応副生物と推定される。遺跡内で铸造鉄器の製作が行われたことを示す遺物群といえる。

さらに熱間での鍛打作業に伴う粒状滓も確認された。1点は鉄酸化物(NIS-4)主体であるが、若干チタニアの影響も確認された(TiO₂:240%)。これは製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)の影響の可能性が考えられる。もう1点(NIS-5)はガラス質で、炉材または鍛接剤などに用いられた粘土の溶融物と推定される。

また滓中の微細な金属鉄(または鉄化鉄)の金属組織は、1点が過共析組織～ねずみ鉄(NIS-1)、もう1点は白鉄鉄組織(NIS-5)であった。少なくとも鍛冶原料の一部は鉄鉄(銑または铸造鉄器破片等の古鉄)で、遺跡内で鍛打可能な状態にした後、铸造鉄器を製作していたと推定される。

(2) 鍛銅関連遺物

今回の調査によって、銅(青銅)製品の生産に伴う羽口と、土器片(転用取鍋)が確認された。羽口(NIS

- 9) には、砒素 (As) を少量固溶する金属銅 (Cu) が溶着していた。取銅 (NIS - 10) にも、砒素 (As) が偏析する金属銅 (Cu) が溶着していた。また内面表層のガラス質滓は鉛 (Pb) の割合が高く、さらに銅-鉄系の酸化物 (CuFeO_2) および錫酸化物 (SnO_2) が確認された。鉛青銅製品の鑄造に用いられたと推定される。

古代（主に7～10世紀代）の鑄造関連遺物（銅・青銅塊）や、製品には、しばしば砒素 (As)、鉄 (Fe) が含まれることはよく知られており、古代の銅産地（長門など）の鉱床や製鍊技術の特徴を示すものと推察されている^(注3・4)。西村遺跡と同時期（11世紀代）に、こうした銅素材が新銅として流通していたかは不明であるが、少なくとも製品の再利用（改鑄）でこうした材料が使われていたと考えられる。

一方、微細な青銅粒 2 点 (NIS - 12, 13) は、高錫青銅 (Sn:約 23%) であった。鉛 (Pb)、鉄 (Fe)、砒素 (As) の割合は極めて低く、硫化銅 (Cu_3S) 中に少量テル (Te)、セレン (Se) を固溶することも共通しており、同質の原料を溶解・鑄造した時の湯こぼれと判断される。これらの青銅粒から、船載鏡等の白銅（高錫青銅）製品も、鑄造原料として再利用されていたと推定される。

(注)

(1) 日刊工業新聞社 1968『焼結鉄組織写真および識別法』

ウスタイトは 450～500 Hv、マグネットイトは 500～600 Hv、ファイヤライトは 600～700 Hv の範囲が提示されている。ウルボスピネル (Ulvöspinel : $2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_3$) の硬度値範囲の明記はないが、マグネットイト (Magnetite : $\text{FeO} \cdot \text{Fe}_2\text{O}_4$) と同じスピネル類の化合物で、チタニアを固溶するためマグネットイトよりも硬質である。ウルボスピネル組成であれば通常 600 Hv 以上の値を示す。ヘルシナイト (Hercynite : $\text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_5$) はさらに硬質で 1000 Hv を超える。

(2) 孫淑雲・韓波・李秀輝・編 2011「中国古代金属材料顕微鏡組織図譜 有色金属卷」科学出版社

(3) 内田俊秀 1998「日本における7世紀から10世紀の銅合金の特徴について」『金属博物館紀要』第 21 号

(4) 鈴木瑞穂 2016「古代の鑄造原料(銅素材)の材質と流通に関する研究 - 鑄造遺跡出土銅閥関連遺物の組成調査を中心に-」[FUSUS] 8号 アジア鑄造技術史学会

分析は日鉄住金テクノロジー株式会社尼崎事業所 渡邊義子氏・隅英彦氏、同 八幡事業所 鈴木瑞穂氏の協力のもとで行った。

第11表 供試材の層壓と調査項目

件号	番号	通称名	遺物名	測定年代	大きさ(mm) (11 c)	重量(g)	計測値			調査項目			備考
							金属性組成 反応	マクロ 組織	顯微鏡 組織	ビーカー3 所用程度	EPMA 化学分析		
NTS-1	482	1(K②SF012)複数串	楕円形鉛治溝	平安後期 (11 c)	86.0 × 80.5 × 44.6	233.9	腐化△	○	○	○	○	○	
NTS-2	M0036	1(K②SF014 1-263)	鉛塊(銀青石)		26.1 × 19.2 × 14.5	3.55	なし	○	○	○	○	○	
NTS-3	M0029	1(K②SF015 1-253)	銀青石		12.0 × 8.1 × 6.5	0.63	なし	○	○	○	○	○	
NTS-4	M0022	1(K②SF015 1-248)	鉛块(銀)		長径6.0、幅8.5 長径7.9、幅8.6.7	0.25 0.27	なし	○	○	○	○	○	
NTS-5	M0016	1(K②SF012 1-241)	鉛块(銀) [†] (33.9g)		40.1 × 30.1 × 24.1	18.5	なし	○	○	○	○	○	
NTS-6	M009	1(K②SD101	鉛塊(銀青石)		42.8 × 40.0 × 21.4	12.43	なし	○	○	○	○	○	
NTS-7	396	2(K③SD101 1-380)	銀青石(5.7g) [‡]		59.2 × 31.4 × 17.4	57.83	なし	○	○	○	○	○	
NTS-8	439	1(K③SD107 1-186-26)	楕円形鉛治溝		41.8 × 26.5 × 17.9 (11 c)	14.29	H(C)	○	○	○	○	○	
NTS-9	491	1(K③SF022	羽口		23.6 × 21.9 × 8.3	4.78	H(C)	○	○	○	○	○	
NTS-10	727	1(K③)水色含解	銀塊(銀青石)		48.8 × 36.4 × 23.9	27.18	なし	○	○	-	○	○	* 試料断面に鉛の、溶着金銀など の極微量混入を認め難い。
NTS-11	M0165	1(K③SF250 1-249 3)	鉛塊		21.8 × 13.5 × 13.3	7.69	L●	○	○	○	○	○	
NTS-12	477	1(K②SF010 1-354)	青銅塊		16.1 × 7.2 × 5.7	2.12	L●	○	○	○	○	○	
NTS-13	475	1(K②SF010 1-355)	青銅塊										

* 計30箇所の鉛測定平均

第12表 供試材の化学組成

料号	通称名	測定名	測定期代	半径組成												注		
				Fe	Mn	Cr	Ni	P	S	Al	Si	Ca	Na	K	SiO ₂	Al ₂ O ₃		
NNS1	西村 14K-SF702 純形酸性	半径組成 11世紀	446L	0.17	4924	881	27.20	5.68	1.10	0.28	1.25	0.48	0.13	0.12	0.05	0.014	0.21	0.19 <0.01 <0.01 <0.01
NNS2	14K-SF704 印加(高浓度)	半径組成 11世紀	0.714	-	-	43.14	1081	0.58	0.20	1.7	0.042	0.13	0.16	<0.001	-	0.511	-	56.51(高浓度)
NNS3	14K-SF705 純形	半径組成 11世紀	6236	-	-	3.34	23.4	0.36	0.30	0.1	0.017	0.18	0.08	0.001	-	0.79	-	0.003 0.003 0.00 - 7.36(高浓度)
NNS4	14K-SF705 純形	半径組成 (±少貴)	6590	-	-	1.02	1.21	0.10	0.28	0.02	0.016	0.12	0.42	0.19	-	0.26	-	0.500 0.016 0.007 - 2.63(高浓度)
NNS5	14K-SF702 (±少貴)	半径組成 (±少貴)	1.79	-	-	67.73	1473	281	0.67	3.1	0.13	0.28	0.96	<0.001	-	0.10	-	0.015 0.034 - 89.19(高浓度)
NNS6	14K-SD201 中環	半径組成 (±少貴)	1222	0.25	6.94	1027	38.79	12.40	1.41	0.30	3.27	0.97	0.02	0.19	0.07	0.067	0.14	#1.59 <0.01 0.03 0.02 <0.01 77.23
NNS7	24K-SD201 (±少貴)	半径組成 (±少貴)	9.65	0.06	6.08	6.67	61.06	13.45	0.61	0.50	2.45	1.54	0.07	0.26	0.08	0.005	0.19	0.25 <0.01 <0.01 <0.01 0.02 <0.01 81.61
NNS8	14K-SD207 純形酸性	半径組成 (±少貴)	51.36	0.68	57.01	9.10	23.87	4.43	0.66	0.33	0.88	0.12	0.10	0.03	0.007	0.18	0.13 <0.01 <0.01 <0.01 <0.01 30.56	
NNS9	14K-SF723 純形	半径組成 (±少貴)	30.09	0.14	2.22	1.74	53.45	1651	3.61	0.82	2.57	0.64	0.11	0.22	0.05	0.005	0.66	#2.07 <0.01 6.10 0.01 0.37 77.93
NNS11	14K-SF250 中環	半径組成 (±少貴)	2.38	0.45	1.69	0.88	62.74	17.02	0.32	0.24	2.82	0.69	<0.01	0.19	0.04	0.013	0.37	#11.13 <0.01 <0.01 <0.01 83.62
NNS10	西村 (±少貴)	純形名作 (±少貴)	7716	0.046	1.12	0.75	2.17	0.041	0.075	0.259	-	-	-	-	-	-	-	-
NNS12	14K-SF701 青銅	半径組成 11世紀	2597	22.50	0.025	0.026	0.084	0.018	0.062	0.031	-	-	-	-	-	-	-	-
NNS13	14K-SF70 青銅	半径組成 11世紀	7234	23.35	0.015	0.042	0.131	0.085	0.018	0.067	0.037	-	-	-	-	-	-	-

第13表 出土遺物の調査結果のまとめ

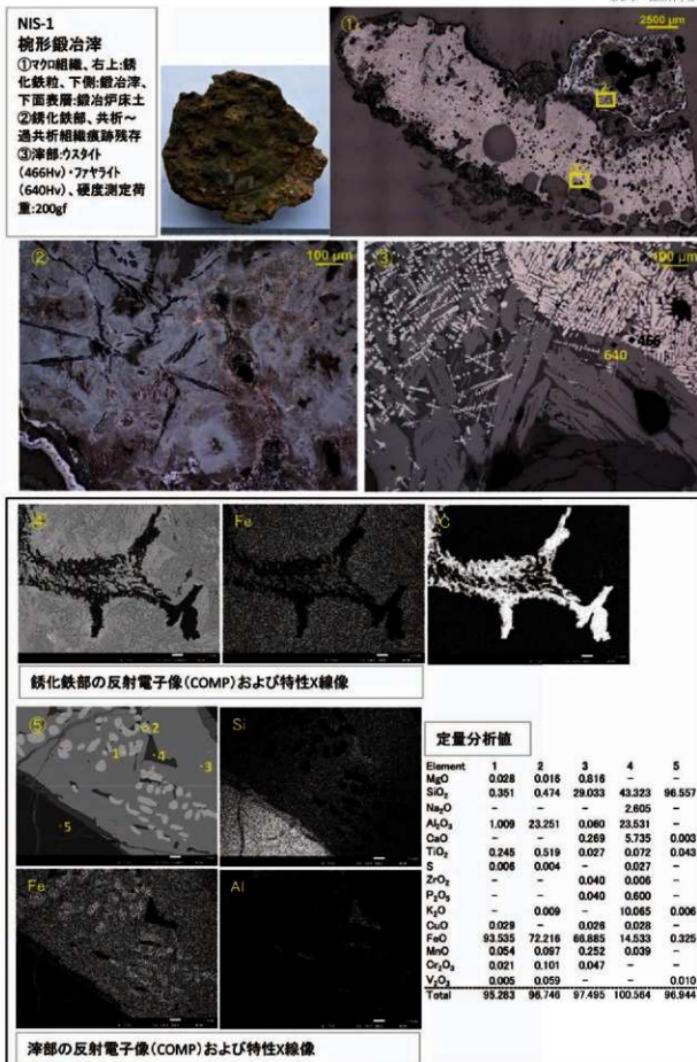
(1) 銅鏡関連遺物

件号	遺物名	遺物名前	発定年代	銅鏡類	化学組成(%)						所見
					Total Fe ₂ O ₃	MnO MnO MnO MnO MnO MnO	V V V V V V	As As As As As As	Cu Cu Cu Cu Cu Cu		
NIS-1	西村 1(区②) SF02	輪形鏡(洋)	平安期 (11世紀)	鏡面・鏡裏・鏡軸・鏡柄・鏡身	44.61	8.81	1.38	0.12 <0.01	0.13	35.99 <0.01	鏡表面凹凸、 鏡裏鏡裏台付、 鏡裏鏡裏底付
NIS-2	1(区③) SF014	半圓形鏡(洋)	平安期 (11世紀)	半圓形鏡(洋)	0.714	-	0.311	0.065	-	0.021	49.15 0.014 無影響
NIS-3	1(区③) SF015	輪形鏡(洋)	輪形鏡(洋)	輪形鏡(洋)	62.36	-	0.15	0.07	0.00	0.18	3.84 0.003 鏡裏鏡裏底付、 鏡裏鏡裏台付、 鏡裏鏡裏底付
NIS-4	1(区③) SF016	輪形鏡(洋)	輪形鏡(洋)	輪形鏡(洋)	69.90	-	0.96	2.40	0.00	0.12	2.63 0.016 無影響
NIS-5	1(区③) SF012	輪形鏡(洋)	輪形鏡(洋)	輪形鏡(洋)	1.79	-	2.52	0.30	-	0.28	32.89 0.014 輪形鏡(洋)の裏面
NIS-6	1(区②) SD101	半圓形鏡(洋)	半圓形鏡(洋)	半圓形鏡(洋)	12.82	10.27	1.80	0.19 <0.01	0.02	77.23	0.03 無影響
NIS-7	2(区③) SD101	輪形鏡(洋)	輪形鏡(洋)	輪形鏡(洋)	9.45	6.67	1.11	0.26 <0.01	0.07	81.61 <0.01	鏡裏鏡裏底付(鏡裏鏡裏台付) 鏡裏鏡裏底付
NIS-8	1(区③) SD107	輪形鏡(洋)	輪形鏡(洋)	輪形鏡(洋)	51.26	9.10	0.86	0.10 <0.01	0.03	30.56 <0.01	鏡裏鏡裏底付

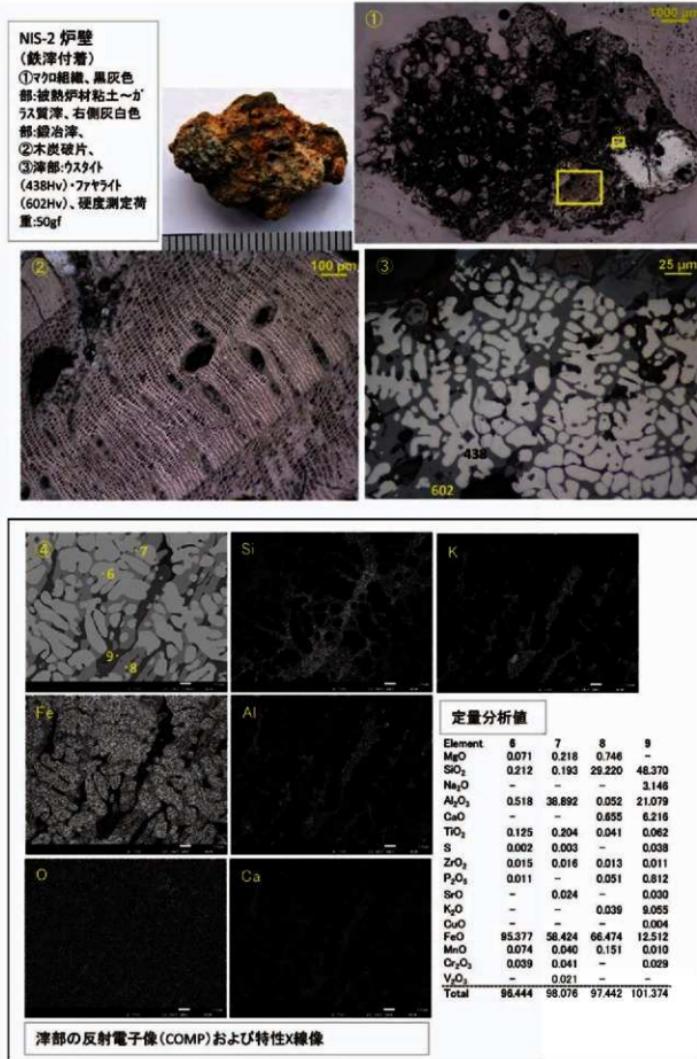
W:Weight (FeO), MM:magnetic FeO+TFe+MnO, F:Faraday (FeO+TFe+MnO), S:SO2

(2) 鎌銅鏡関連遺物

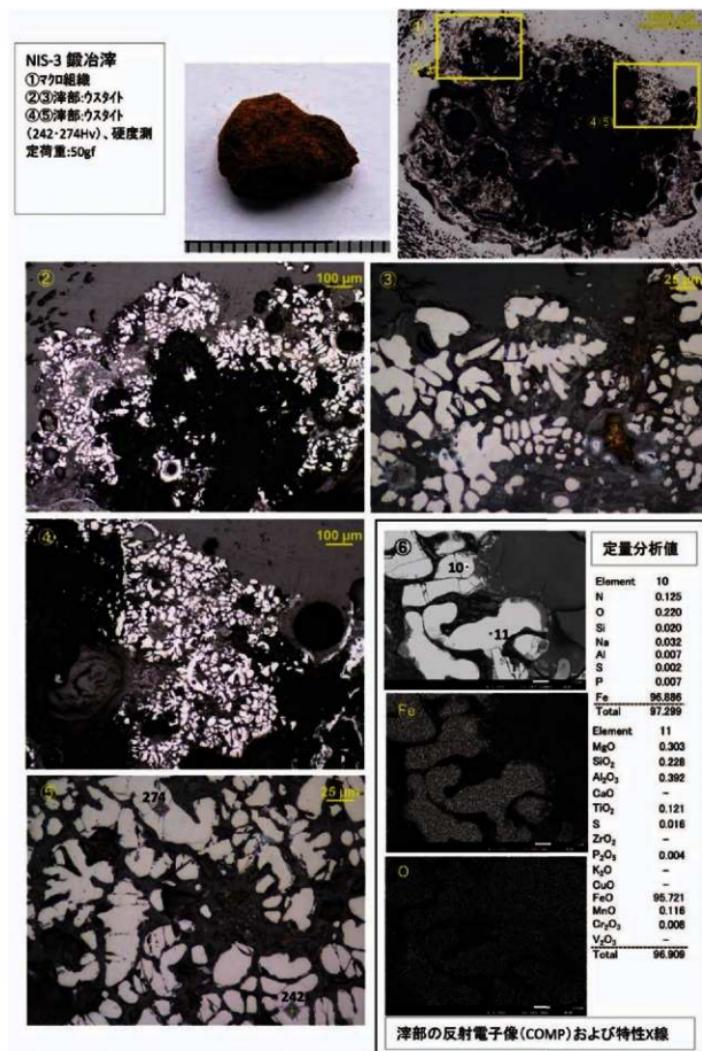
件号	遺物名	遺物名前	発定年代	銅鏡類	化学組成(%)						所見
					Total Fe ₂ O ₃	MnO MnO MnO MnO MnO MnO	V V V V V V	As As As As As As	Cu Cu Cu Cu Cu Cu		
NIS-9	西村 1(区③) SP223	羽目	平安期 (11世紀)	羽目鏡底	12.82	1.80	0.19 <0.01	0.02	77.23	0.03 0.37 無影響	鏡裏鏡裏底付(鏡裏鏡裏台付) 鏡裏鏡裏底付
NIS-11	1(区③) SP250	如意	如意	如意鏡底	9.45	1.11	0.36 <0.01	0.07	83.62 <0.01	<0.01	無影響のほとんどない如意鏡底
件号	遺物名	遺物名前	発定年代	銅鏡類	化学組成(%)						所見
NIS-10	西村 1(区③) SF022	冠飾	平安期 (11世紀)	金冠飾・金冠飾品(Cu ₂ O) _n 型、As(偏重)、As(偏重)、As(偏重)、As(偏重)、As(偏重)	77.05	0.046	1.12	0.25	2.17	0.041	0.29 無影響の場合は(い)から(Ⅳ)、(Ⅴ)は(Ⅵ)、(Ⅶ)は(Ⅷ)、(Ⅸ)は(Ⅹ)可燃性がある
NIS-12	1(区②) SP010	青銅粒	青銅粒	銅・鉛・赤銅・共析鏡底(Cu ₂ O) _n 型、As(偏重)、As(偏重)、As(偏重)、As(偏重)、As(偏重)	75.97	22.87	0.015	0.020	0.26	0.084	0.87 無影響の場合は(Ⅰ)から(Ⅳ)、(Ⅴ)は(Ⅵ)、(Ⅵ)は(Ⅶ)可燃性がある
NIS-13	1(区②) SF101	青銅粒	青銅粒	銅・鉛・赤銅・共析鏡底(Cu ₂ O) _n 型、As(偏重)、As(偏重)、As(偏重)、As(偏重)、As(偏重)	73.84	23.35	0.015	0.022	0.131	0.067	0.037 無影響の場合は(Ⅰ)から(Ⅳ)、(Ⅴ)は(Ⅵ)可燃性がある



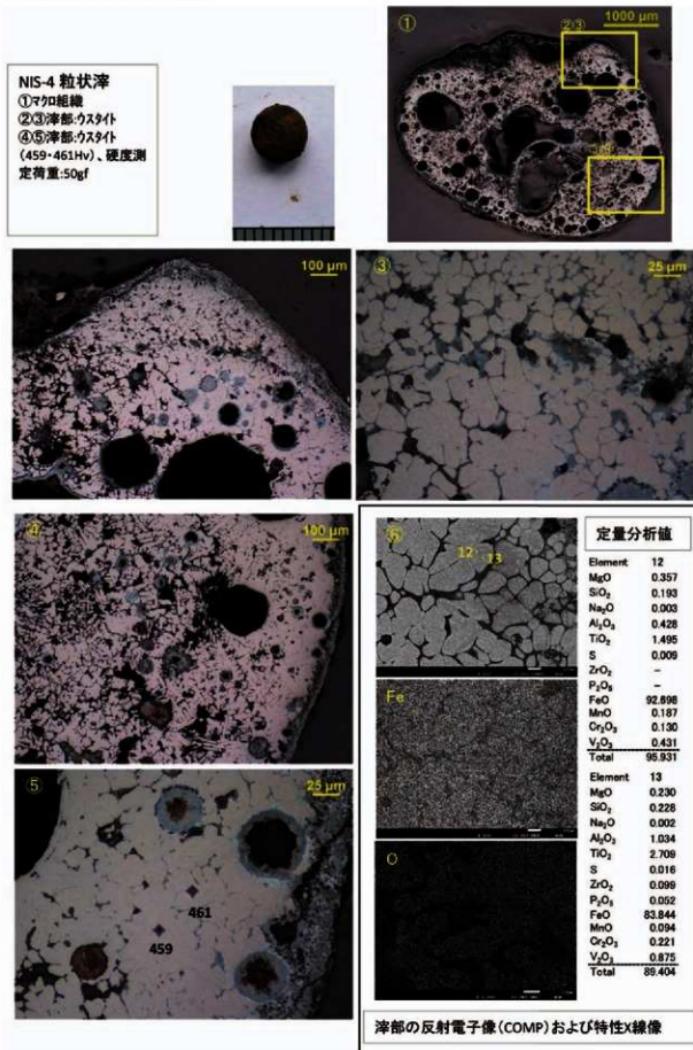
第148図 楔形鋳冶滓の顕微鏡組織・EPMA調査



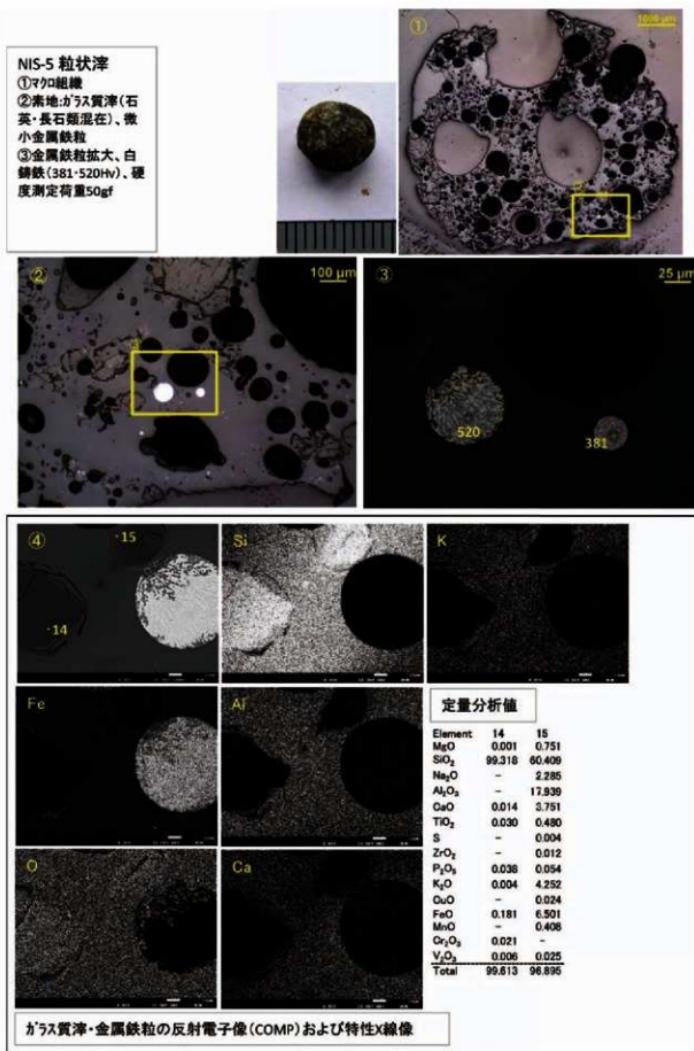
第149図 炉壁(鉄津付着)の顕微鏡組織・EPMA調査



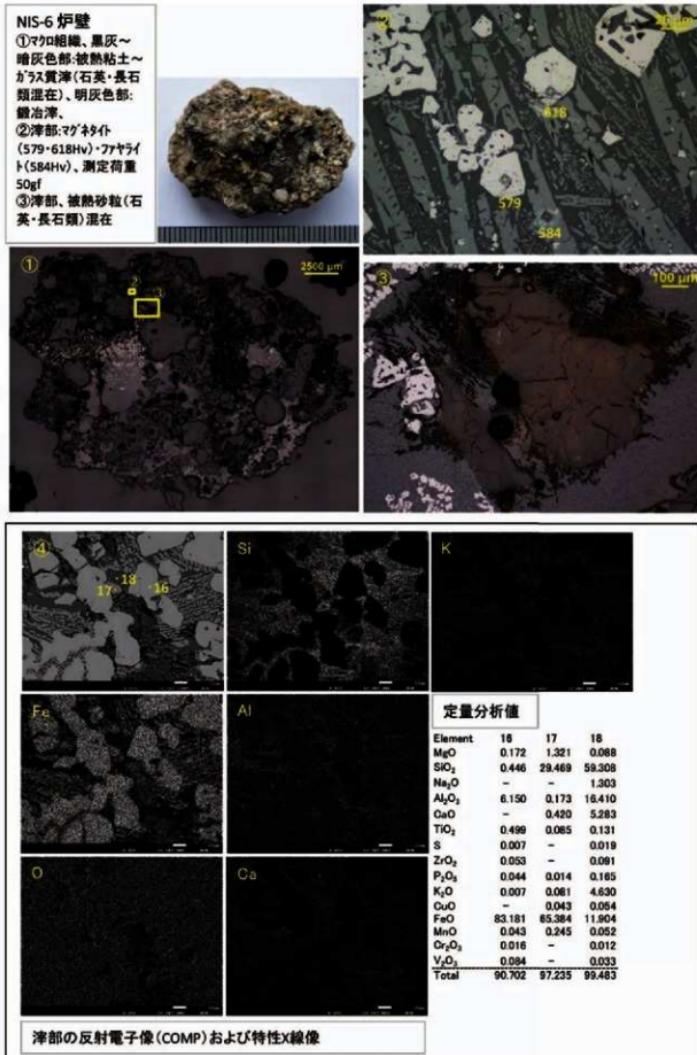
第150図 鋼冶滓の顯微鏡組織・EPMA調査



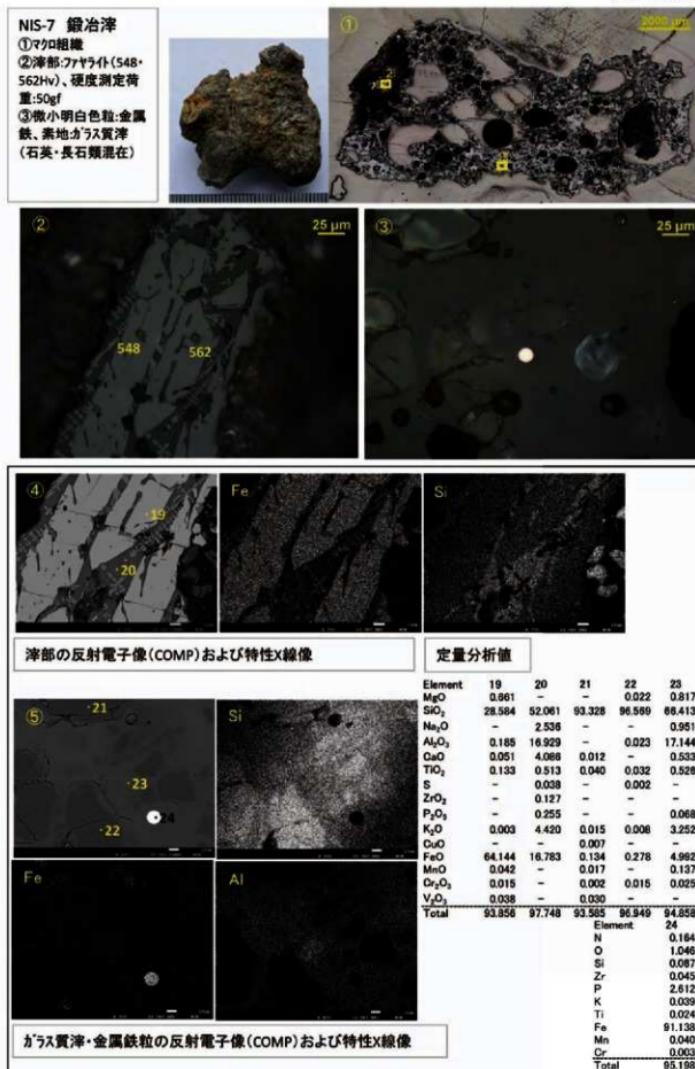
第151図 粒状津の顯微鏡組織・EPMA調査



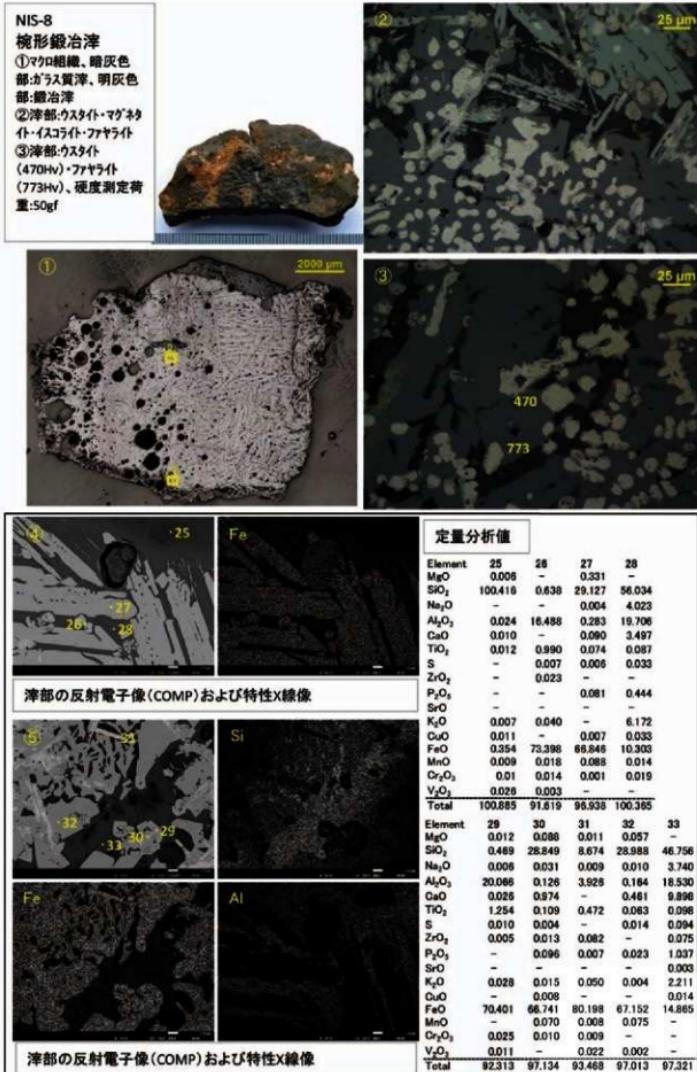
第152図 粒状滓の顕微鏡組織・EPMA調査



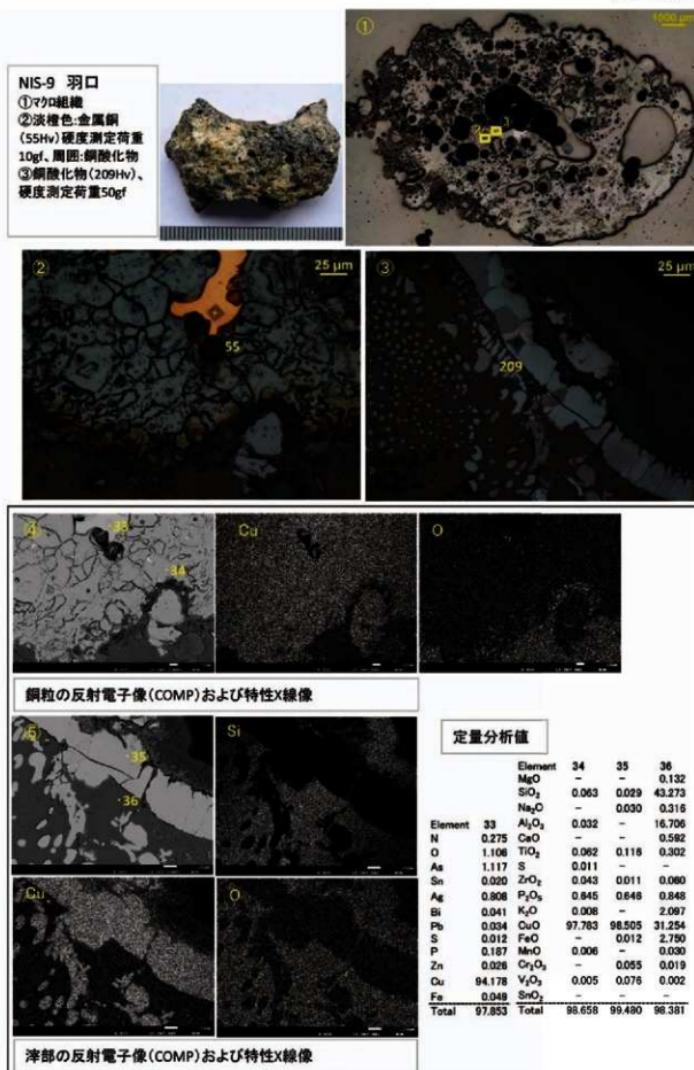
第 153 図 炉壁の顯微鏡組織・EPMA 調査



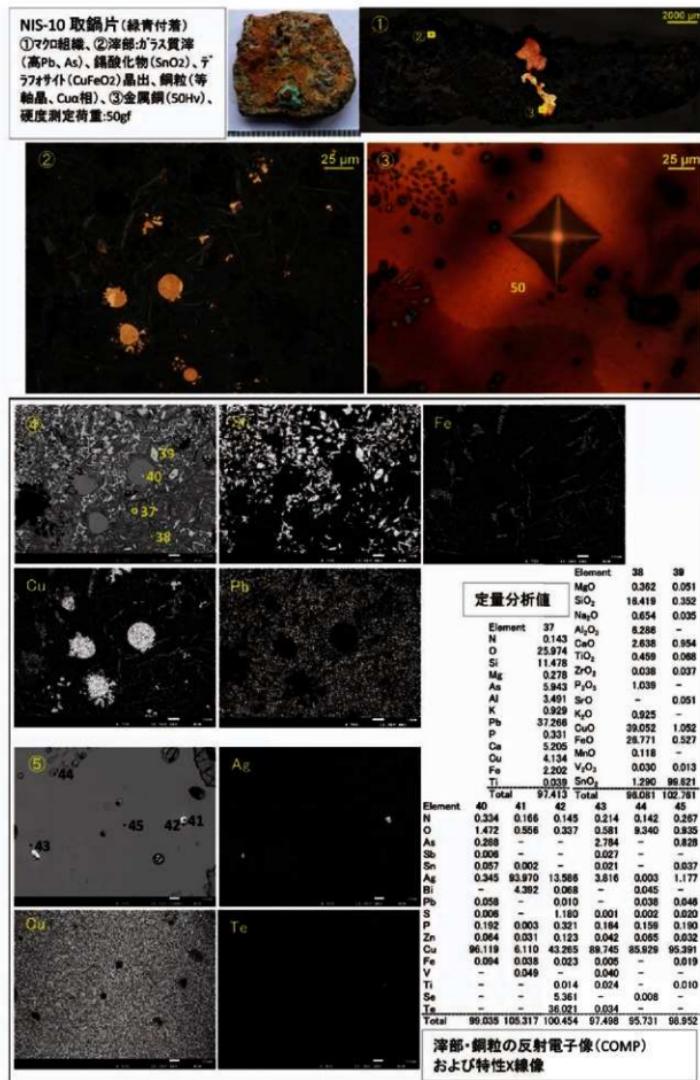
第154図 銀治津の顯微鏡組織・EPMA調査



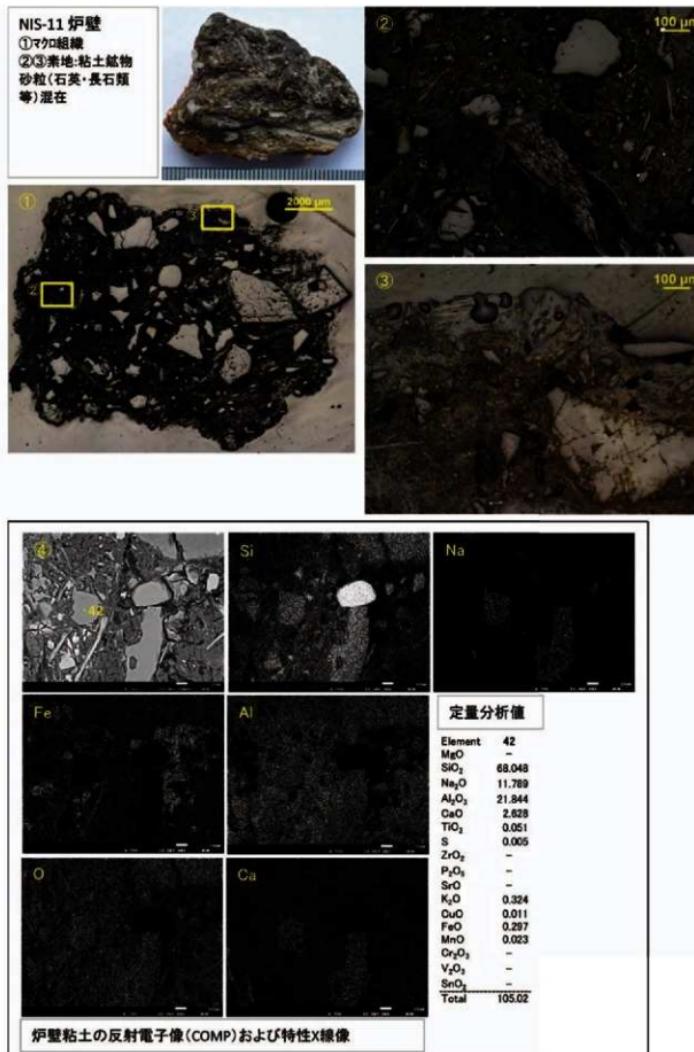
第 155 図 楕形鍛冶津の顕微鏡組織・EPMA 調査



第156図 羽口の顕微鏡組織・EPMA調査

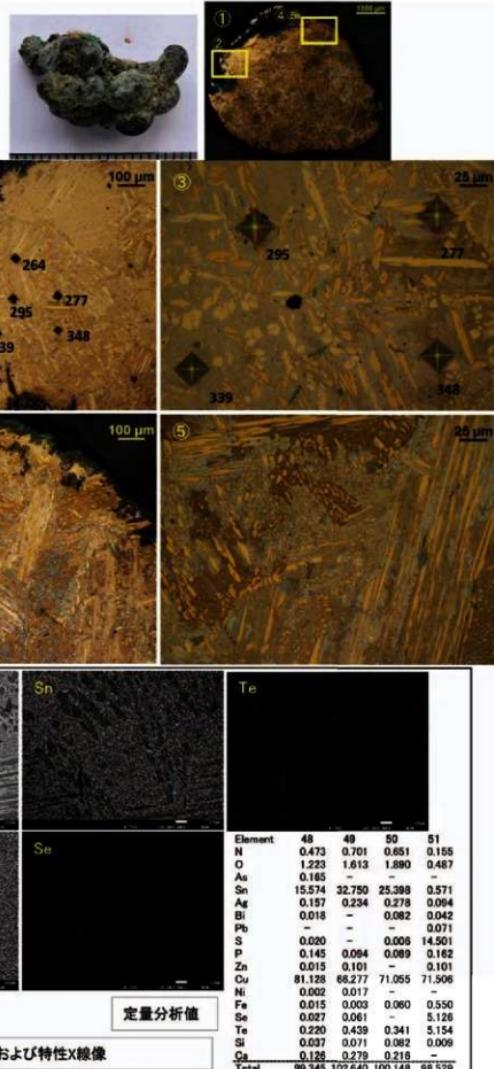


第157図 取鍋片の顕微鏡組織・EPMA調査

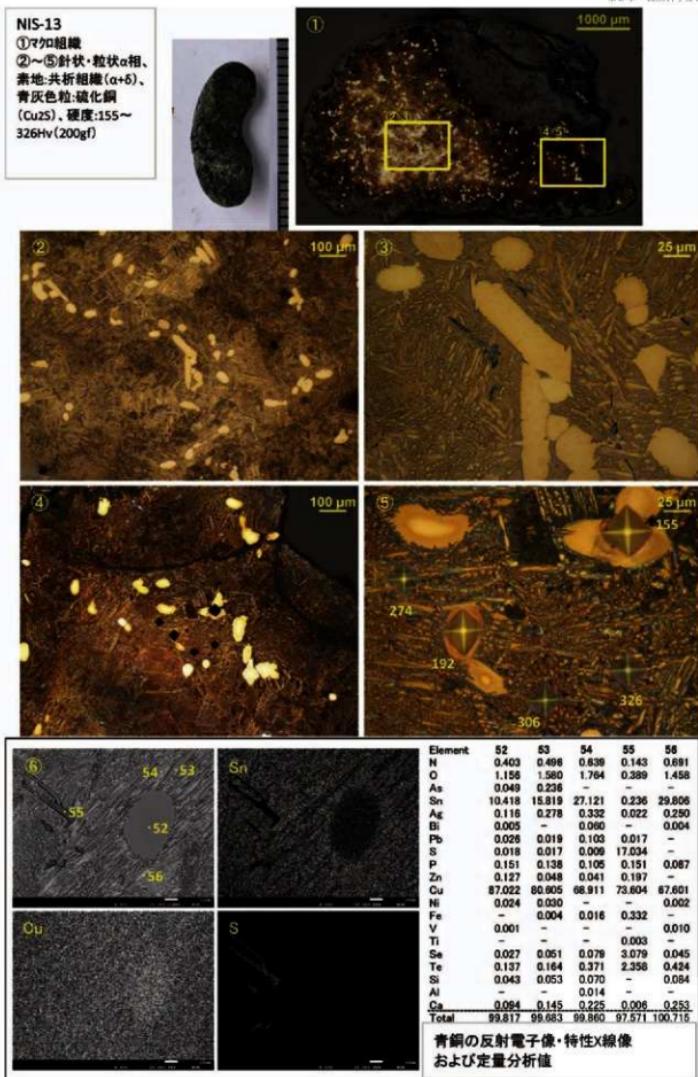


第158図 炉壁の顕微鏡組織・EPMA調査

NIS-12 青銅粒
 ①マクロ組織、
 ②～⑤針状・粒状α相、素
 地・共析組織(α+δ)、青灰色
 粒・硫化銅(Cu₂S)、硬
 度:264～348HV(200g)



第159図 青銅粒の顕微鏡組織・EPMA調査



第160図 青銅粒の顯微鏡組織・EPMA調査

第6章　まとめ

第1節　西村遺跡における遺構の変遷

西村遺跡は県東部の大内平野に所在する集落遺跡である。周知の埋蔵文化財包蔵地の西村古墳・清塚古墳に隣接し、古代南海道推定線にも近く、中世から近世にかけて興隆した与田寺から1km以内の距離にあって、文献史料においては国内で最も新しい戸籍である寛弘元年（1004）讃岐国大内郡入野郷戸籍（九条家本「延喜式」紙背文書）の対象隣接郷で、中世の名僧「増吽」の出生地である与田郷西村に立地する歴史背景の豊富な遺跡である。今回の2カ年にわたる発掘調査では、主に古代後半を中心と現楠谷川を挟んで東西に展開した西村遺跡の地下遺構の状況が明らかとなった。以下、時代ごとに遺跡全体の遺構変遷の概要を提示する。

a) 繩文時代

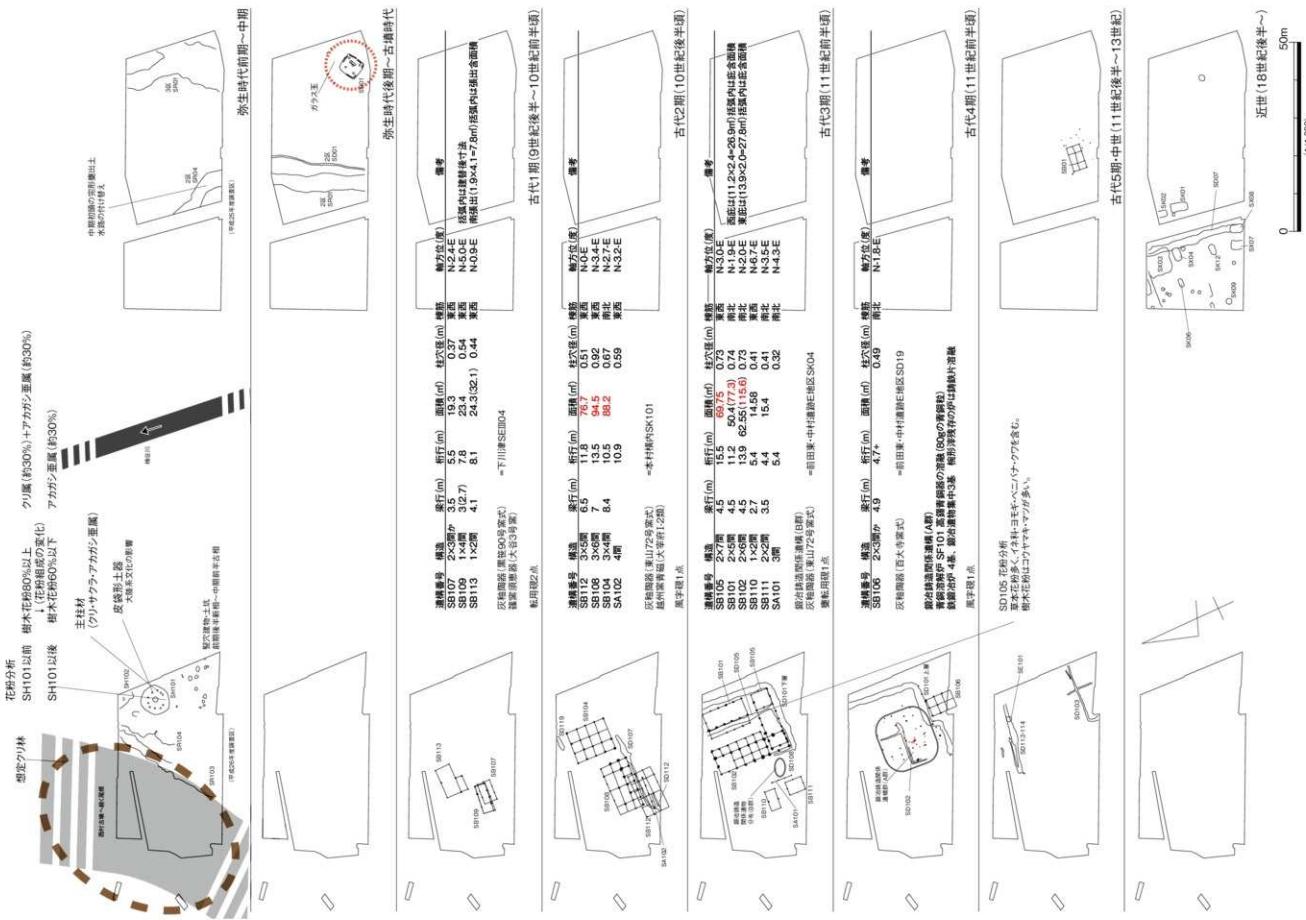
楠谷川より西側の26年度調査区では落し穴の可能性がある土坑SX106を確認した。また東側の25年度調査区では基盤砂層で後期の深鉢形土器（144）が出土した。SX106は直径1.45m、深さ0.84mの円筒形の土坑で花崗岩風化土壌に淡色粘性シルトがブロック状に混じる土で埋積していた。この埋土は弥生時代以後の遺構とは明確に異なり、同様の地盤に営まれた他の遺跡の縄文時代遺構に類似する。県東部地域（尾崎西遺跡、小山南谷遺跡など）で検出されている後期から晩期にかけての落し穴遺構（県教委2006b・同2008a）は集落近辺の丘陵据部等で検出されており、西村遺跡においても調査地周辺に縄文時代後期の集落遺構の存在が想定できる。

b) 弥生時代前期・中期

26年度調査区において堅穴建物2棟（SH101・SH102）とそれを取り巻く溝状の河川（SR104）を確認した。出土した土器は逆L字形口縁の甕が多く、外面に多条沈線文を施すものが目立つ。堅穴建物SH101出土土器には中期初頭の指標である櫛描文が施されていないことから、集落の開始は前期後半新段階（財県埋1998）にある。そして建物周囲の土坑等には櫛描文を施す中期初頭の土器が含まれるので、中期の初めごろまで営まれた集落と考えられる。花粉分析等の結果から集落が本格的に営まれる直前まで周辺はクリ主体の樹木に覆われ、下地にツタ類が茂るような植物相であったが、その後集落が営まれた段階で樹木花粉が60%以下に低下しクリ花粉も激減することから、集落立地にあたっては居住環境を整えるために樹木を伐採したことが推定された。堅穴建物出土柱材の樹種分析ではクリ・サクランボ・カシといった多彩な伐倒樹木の芯持ち丸太を利用していることが判明した。このことは花粉分析結果とも調和する。前期後半の新地開発の具体相を示す資料である。

25年度調査区では自然河川2区SR04とその埋没後の流路SR01を検出した。自然河川では弥生時代中期初頭の完形の逆L字形口縁甕が投棄された状態で出土した。河川を埋めて人工の水路を設置した時期を示すものである。水路からは弥生時代後期から古墳時代の土器が出土した。出土遺物から古墳時代中期初頭ごろまで継続して使い続けられたと考えられることから、水田生産域が長期にわたって安定して使われたことがわかる。

26年度調査地の西に接して落合遺跡が所在する。落合遺跡では大内町史に調査概要が記載されてい



第161図 遺構変遷図

る（大内町史編さん委 1985）ように丘陵裾の堆積層から櫛描文導入以前の弥生時代前期後半の土器群や石器類が多数出土している。時期的にも当遺跡に合致することから、両遺跡は元来同じ集落であった可能性が高い。今回検出した2棟の堅穴建物を含め、落合遺跡側まで続く複数の丘陵斜面に建物が営まれ、丘陵北側の低地一帯には弥生時代前期から安定した生産域が広がっていたものと考えられる。なお県内では弥生時代前期後半の集落の多くで環濠が伴っており今後の周辺の調査では環濠が所在するかどうかの確認が必要であろう。

出土遺物では口縁部が逆L字形で脇部に多条沈線を施すいわゆる瀬戸内形壺が多く、同時に本県坂出市金山（当遺跡とは42km 離れる）産のサヌカイトが小形剥片石器の素材として用いられており、瀬戸内海を介した環瀬戸内海中部地域の広範な交流圏の一角にあることを示している。また、阿波地域の吉野川へは阿讃山脈を越え南方20kmと比較的近距離だが、結晶片岩製の石器は比較的少ない。

堅穴建物 SH101 で出土した皮袋形土器（756）は、後述のように大陸遊牧民族系文化の影響を受けた遺物である。遠方の文化要素が唐突に流入するありかたは、例えば燕系の鋳造鉄器の破片が単発で流入したりする現象にも類似する。少数ながらも遠方からの人の移動を物語る重要な材料の一つであろう。

c) 弥生時代後期～古墳時代

25年度調査区において堅穴建物1棟（3区SH01）と前述した灌漑水路（2区SR01）を検出した。堅穴建物は古墳時代初頭に所属し、周辺で出土したガラス小玉が伴う。灌漑水路には弥生時代後期前半から古墳時代中期までの土器が断続的に投棄されている。前述のとおり水路は弥生時代中期初頭に掘開し長期継続して使われており、周辺には対応する時期の集落が存在するものと考えられる。西村天満宮が鎮座する小丘陵から調査地東南側に伸びる尾根状の微高地が集落位置の候補として有力である。

26年度調査区の西端に所在した埋没尾根の北端には西村古墳が所在する。尾根は削平され旧状はとどめていないが、局所的に墳丘状の円丘が残ることと、今回の調査で6世紀後半の須恵器（548・549・581）が出土したことから、横穴式石室を埋葬主体とする古墳の可能性が高い。さらに一つ西の尾根先端に所在する清塚古墳も前後する時期とすれば、古代に続く勢力が古墳時代後期には成立していたものと考えられる。

d) 古代後期

26年度調査区で検出した当遺跡の主体となる時期である。遺構の切り合い関係や検出層位から次の5期に大区分する。

古代1期（9世紀後半～10世紀前半）

掘立柱建物3棟（SB107・SB109・SB113）がある。SB109は南側の柱穴を再設置しているので、部分的な建て直しを想定する。また、SB109柱穴はSB107柱穴を切っているので、SB107が古い。さらにSB113はSB109の東側梁間の柱筋とSB113西側梁間から廟へ続く柱筋が直線に揃うことから、SB119存続時期に並存するか、あるいはSB109に後続する建物と考えられる。SB109とSB113はこのほかに桁行寸法もほぼ揃っており、強い関連性が読み取れる。丘陵の裾を整地しながら南から北に建物を移動させるのは次の2期にも認められることからも、SB113がSB109に後続する遺構とみるのが妥当である。よって建物はSB107⇒SB109古⇒SB109新⇒SB113の四段階に細分できる。

出土遺物により、SB107は9世紀末～10世紀初頭、後続のSB109・SB113は10世紀前半に位置づけ

られる。遺構から出土する遺物量は少ないが、包含層出土資料や2期以降の遺構埋土には9～10世紀の資料が多く混在して存在する。これは2期に建物等を構築し始める際の整地により、包含層が擾乱を被り遺物が散在したものであろう。したがって1期と2期の間には、少なくとも調査地内においてはしばらく空白期間（10世紀中葉ごろ）が存在したとみるのが現段階では妥当である。

古代2期（10世紀後半）

掘立柱建物3棟（SB112・SB108・SB104）、柵列1基（SA102）、溝（SD107・SD112）がある。SB112は構成柱穴のSP351・SP278がSB108の雨落溝SD107と重複し、切り合い関係からSD107が後出することが判明している。SB108は梁間3間の構造を維持しつつSB112から北に移動して建て替えた建物である。桁行が1間増え6間となる。SB108南東隅柱付近からSD107が幅広く、溝底をやや北にずらして東に向かいSB104の雨落溝となる。このことからSB108とSB104は並存したものとみる。SB108雨落溝のSB107は南西部でSD112及びSA102柱穴に切られる。SA102はSB108とよく柱筋が揃うことから付縁と考えられる。この付縁の作事に伴いSD107が埋められSD112がその後を継ぐ。

以上により、2期の建物はSB112⇒SB108+SD107+SB104⇒SB108+SA102+SD112（+SB104）の3段階に区分する。

出土遺物によりSB112は10世紀後半、SB108・SD107・SD112は10世紀末～11世紀初頭に位置づけられる。1期の出土遺物と比較し黒色土器椀が組成し始める点で相違する。

古代3期（11世紀前半）

掘立柱建物5棟（SB101・SB102・SB105・SB110・SB111）、柵列1基（SA101）、溝（SD101下層・SD108・SD105）がある。このほか、1区③・1区②のSD107東側付近で鍛冶関連遺物が出土した。溝埋土の上面付近で碗形滓や鉄滓多数が含まれることから2期遺構の廃絶直後にその跡地で鍛冶作業が行われ紛れ込んだ遺物である。作業時期は3期遺構群に並行し、その中でもSB111構成柱穴の柱抜取り穴に鍛冶関連遺物が入ることからSB111以前に行われたものと推定する。

なお、建物は2期のSB104に重複しない場所で東西棟のSB105が構築され、SD108・SD101下層がそれを取り巻く。その後SD105が掘開され恐らく基礎地盤をかさ上げした後にSB101の主屋が構築される。SB101の西廊の構築される段階ではSD105は埋没するが、その前にSB105と配置上の関連性があるSB110・SB111・SA101が構築されたものと考えられる。

SB105の完全廃絶後、南北棟のSB102が構築される。

以上により3期の建物は

SB105+SD101下層+SD108+西側鍛冶铸造関連遺構⇒SD105+SB101（古）+SB110+SB111+SA101⇒SB101（新）+SB102+SD108

となる。年代は11世紀前葉である。

古代4期（11世紀前半）

掘立柱建物（SB106）、鍛冶铸造遺構（SF・SX）、溝（SD102・SD101上層）がある。

3期から4期へはSD101の堆積状況と出土土器の様相から見て時間的断絶はない。鍛冶铸造遺構がSB102南付近でその構成柱穴埋没後の隙みを使って鍛冶炉を構築することからみて、3期の遺構は意图

的に取り壊し、恐らくは近隣に移築したうえで、その跡地で金属器生産を行ったものといえる。鍛冶関連遺構の北・西にはSD102が取巻く。SD101は鍛冶関連遺構を矩形に取り巻くように約3m南にクラシクして西へ逃げ、北のSD102と繋がる位置で大きく大きくなってしまい、鍛冶関連遺構を上手く矩形に区画する。SD101のクラシク部の南東側にはそのクラシクを使うように南北棟の掘立柱建物SB106が配置される。出土遺物から11世紀前半である。

古代5期（11世紀後半）

溝（SD103）がある。SD103は西端で南に屈曲し幅や深さが増して調査区外へ延びる。この屈曲する形状はSD112やSD107に酷似する。建物等に伴う溝である可能性が高く、調査区外に建物が広がっていることを示すものである。出土遺物から11世紀後半古相に入る。

5期遺構の埋没後に灰色包含層が建物遺構分布範囲を覆って堆積する。2区北東付近で検出した中世以後の遺構はその灰色包含層堆積後に構築されており、年代は13世紀ごろとなる。

以上、今回調査を実施した西村遺跡における遺構分布及び遺構変遷を次のとおり整理した。

1期 9世紀後半から10世紀前半（3小期）

（空白期間 10世紀中葉）

2期 10世紀後半（3小期）

3期 11世紀前半古相（3小期）

4期 11世紀前半新相

5期 11世紀後半古相

e) 中世

25年度調査区に13世紀の掘立柱建物（SB01）がある。26年度調査区には11世紀後半から13世紀にかけての溝、井戸のほか調査区北端付近で建物を構成しない柱穴が多数ある。

f) 近世

25年度調査区で土坑・溝・不明遺構が所在する。18世紀後半ごろの陶磁器や輪羽口が出土した。

第2節 皮袋形土器について

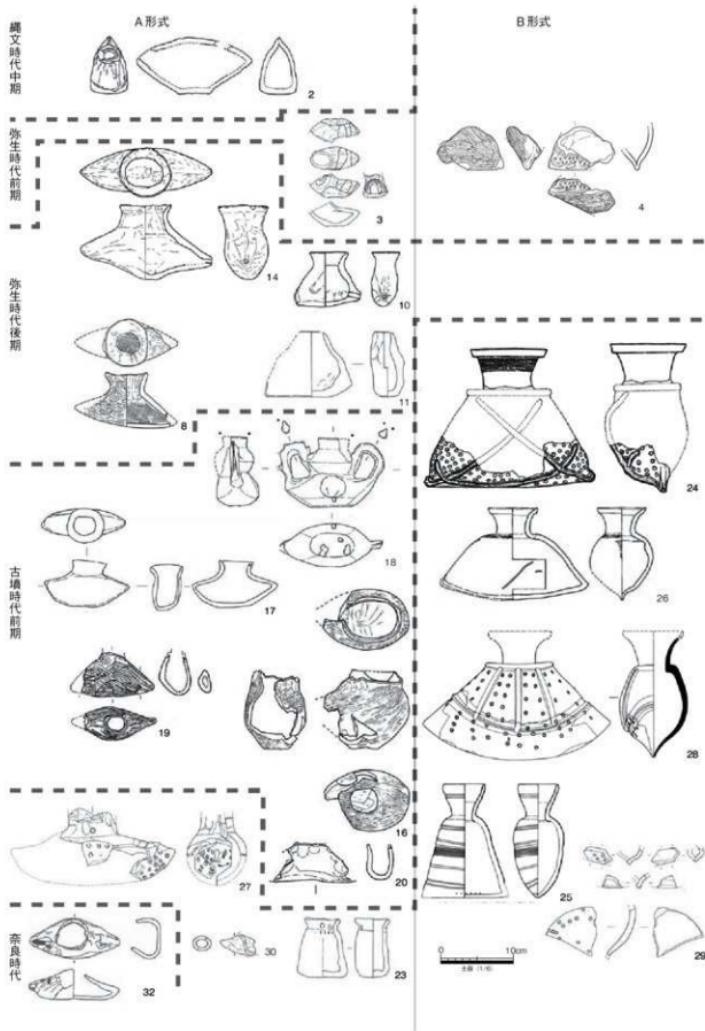
26年度調査区弥生前期の竪穴建物SH101で出土した756は一般的に大陸遊牧民が使用する皮袋の木筒を模して製作されたとされる皮袋形土器の部分破片である。さほど大きな破片ではないので全形は不明だが、表裏の体部の膨らみ方が非対称形で下端部を縫い綴じ状に塞ぎ、片面に縫い穴を模した刺突文を施す。この特徴は朝鮮半島を介して大陸文化との交流が活性する古墳時代の皮袋形須恵器（熊本県塚原古墳群丸山32号墳出土品など）に近い。

皮袋形土器は全国的に縄文時代中期から奈良時代まで認められる（第162図）。その形態から大きく二つの形式に分類できる。A形式は表裏対称の紡錘形で底部は平底または丸底となる。全時期を通じて一般的な形態である。一方でB形式は全体形状が写実的で底部が縫い綴じ状を呈し、そのままでは自立正置し得ない形態である。B形式は5世紀以後の古墳出土の須恵器が多いが、当遺跡出土例は明確にB形式であることから、国内では大変珍しい事例と言える。

A形式は地域的変容や個体ごとの変異が大きいが、B形式は形態的な共通性が強い。本遺跡出土資料は弥生時代前期の竪穴建物SH101の床面資料であり、古代の集落遺構とは構造面も異なることから、新しい時期の遺物が混在したと考えにくい。この時期は中国東北部の燕系鉄器の廃材が瀬戸内海沿岸地域にも流入するなど、数は少ないが大陸文化波及の痕跡も知られており、当該出土遺物もそのような大陸文化の波及に関わる可能性がある資料といえる。

第14表 皮袋形土器出土例（1）

番号	時代	時期	都道府県名	市町村名	遺道路名	形式	種別	文献タイトル	発行年	発行機関
1	縄文時代	中期	宮城県	仙台市	上ノ原遺道	A	集落	西海岸道路第1次発掘調査報告書 山形帯理文化財発掘調査報告書第104集	1991	山形県教育委員会
2			山形県	村山市	西海岸道路	A	集落	木の本遺道 大阪府埋蔵文化財調査報告書2003-2	2004	大阪府教育委員会
3	弥生時代	前期	大阪府	八尾市	木の本道路	A	集落	香川県 東かがわ市		
4			香川県	東かがわ市	西竹道路	B	集落	木の本		
5		中期後半	山口県	熊毛町	天王A地区	A	集落	山口県 鳥取県		
6			福岡県	福岡市	唐原遺道	A	集落	唐原遺道Ⅱ集落延長編 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第207集	1989	福岡県教育委員会
7			長野県	飯山市	岡峰遺道	A	集落			
8		後期	富山県	富山市	下老子堀川道路	A	集落	下老子堀川遺道発掘調査報告書 能越自動車第一直轄線に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書V 第1回 弥生・古墳時代 本文・図面編 富山県文化振興財团埋蔵文化財発掘調査報告書第31集	2006	富山県文化振興財团
9			神戸市	松本遺路	A	集落				
10			兵庫県	神戸市	御蔵遺路	A	集落	御蔵遺路 第4・5・14・32次発掘調査報告書 第5回 西播磨以東復興史上の古墳整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2001	神戸市教育委員会
11			神戸市	古田南遺路	A	集落	古田南遺路第17・18次調査発掘調査報告書	2006	神戸市教育委員会	
12	後期か	大阪府	枚方市	慶塚山遺路	A	集落				
13			高槻市	芝生遺路	A	集落				
14		愛媛県	松山市	枝松遺路 8次調査	A	集落	枝松遺路7・8・9・10次調査 道南中村桑原線沿線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第18次調査報告書2 松山市文化財調査報告書第125集	2008	松山市教育委員会	
15			枚方市	藤田土井山遺路	A	集落				
16	古墳時代	前期	大阪府	八尾市	久宝寺道路	A	集落	久宝寺遺跡 1・久宝寺遺跡(第13次調査) 2・久宝寺遺跡(第14次調査) 3・久宝寺遺跡(第18次調査) 4・久宝寺遺跡(第27次調査) 5・久宝寺遺跡(第59次調査) 財團法人人尾尾市文化財調査研究会報告書122	2009	財團法人八尾市文化財調査研究会



第162図 皮袋形土器の変遷

第15表 皮袋形土器出土例（2）

番号	時代	時間	都道府県名	市町村名	道跡名	形式	種別	文献タイトル	発行年	発行機関
17	前期		富山県	小杉町	伊勢須道跡	A	集落	小杉町伊勢須道跡発掘調査概要	1992	富山県小杉町教育委員会
18					比慮道跡	A	集落	北恵42号道跡群第91次調査報告 福岡市埋蔵文化財調査報告書第898集	2006	福岡市教育委員会
19					雀居道跡	A	集落	雀居道跡5号道跡空堀跡発掘調査報告 福岡市埋蔵文化財調査報告書第635集	2000	福岡市教育委員会
20	前期末		兵庫県	藤山市	桂ヶ谷道跡	A	集落	桂ヶ谷道跡発掘調査報告 神戸市立埋蔵文化財調査報告書第453号	2013	兵庫県教育委員会
21					新沢212号	B	古墳			
22	古墳時代		兵庫県	香美町	八幡山6号墳		古墳			
23										
24			佐賀県	多久市?	石木道跡	A	祭祀	石木道跡調査報告 佐賀県文化財調査報告書第35集	1976	佐賀県教育委員会
25										
26			熊本県	山鹿市	塚原古墳群丸山3号墳	B	古墳	塚原熊本県下城都城南町所在塚原古墳群の調査資料編	1975	熊本県教育委員会
27					丸尾古墳	B	古墳	丸尾古墳 福岡市糸島郡市田道跡群（V）福岡市埋蔵文化財調査報告書第114集	1985	福岡市教育委員会
28			福岡県	福岡市	羽根戸16号墳	B	古墳	羽根戸古墳群羽根戸古墳群N群第9・10・12次調査報告書 福岡市埋蔵文化財調査報告書第95集	2006	福岡市教育委員会
29					石田道跡	A	集落	石田道跡・カンボウ道跡・国吉道跡一般（羽根戸16号墳）建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書	1994	建設省松江工事事務所 羽根県教育委員会
30			鳥取県	岩屋後古墳						
31										
32	古代		静岡県	浜松市	伊場道跡	A	集落	伊場道跡遺物編 7伊場道跡発掘調査報告書第9集	1997	浜松市教育委員会
					石原古墳		古墳			
								東原道跡 平成16-18年度(01)452号道跡(名門門内)2B改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 築岡県埋蔵文化財調査研究会調査報告書第173集	2007	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

第3節 古代後半の在地土師器の編年的検討

本県の10世紀後半から11世紀前半にかけての土器は基準となる資料が少なく、今回出土した土器群は今後の指標の一つとなり得る。ただし、まとまった資料が少ないとから、ここでは前節で定めた遺構の時期グループごとに出土土器を一括して杯を中心とした編年的検討を行うことで、時期的推移の傍証を行いつつ、当遺跡出土土器群の評価を示したい。

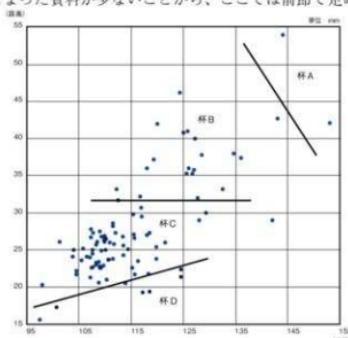
a) 型式分類

すでに本文中に詳説したがここで分類器種をまとめておく。

杯（土師器）

杯は器形及び口径と器高の比率に基づき A ~ E に区分する（第163図参照）。

杯 A 底部が円盤状に下方に突出することで高台を作出するいわゆる円盤高台。



第163図 土師器杯法量グラフ

体部は直線的で斜め上方に開く。口径 15cm 前後、底径 7.5 ~ 10cm、器高 4 ~ 5.5cm。

杯 B 高台を作出せず深手の杯。

杯 B-1 平底で底縁部に稜線を介して体部が斜め上方にやや外反しながら開く。口径 13 ~ 15cm、底径 8 ~ 9cm、器高 3.5cm 前後。

杯 B-2 底面が膨らみ、底縁部から体部へ丸く移行する。体部が斜め上方にやや外反しながら開く。口径 13 ~ 15cm、底径 8 ~ 9cm、器高 3.5cm 前後。

杯 C 高台を作出しない浅手の杯。

杯 C-1 平底で底縁部に稜線を介して体部が斜め上方にやや外反しながら開く。口径 11.5cm 以上 (杯 C-1-a)、口径 11.5cm 未満 (杯 C-1-b)

杯 C-2 底面が膨らみ、底縁部から体部へ丸く移行する。体部が斜め上方にやや外反しながら開く。口径 11.0cm 以上 (杯 C-2-a)、口径 11.0cm 未満 (杯 C-2-b)

杯 D さらに浅手の杯 (皿に近い)

杯 E 高い高台を貼付する杯

椀 (土師器・黒色土器)

椀 A 輪高台を貼付し、平底の底部から屈曲して体部が斜め上方に直線的に開く。

椀 B 輪高台を貼付し、丸底の底部から体部が緩やかにカーブする。

椀 B-a 高台が大形で 高台径 7.0cm 以上

椀 B-b 高台が小形で 高台径 7.0cm 以上

椀 B-c 高台が小形で 高台径 7.0cm 未満

托上椀 高台と体部の間に粘土紐を貼付する。

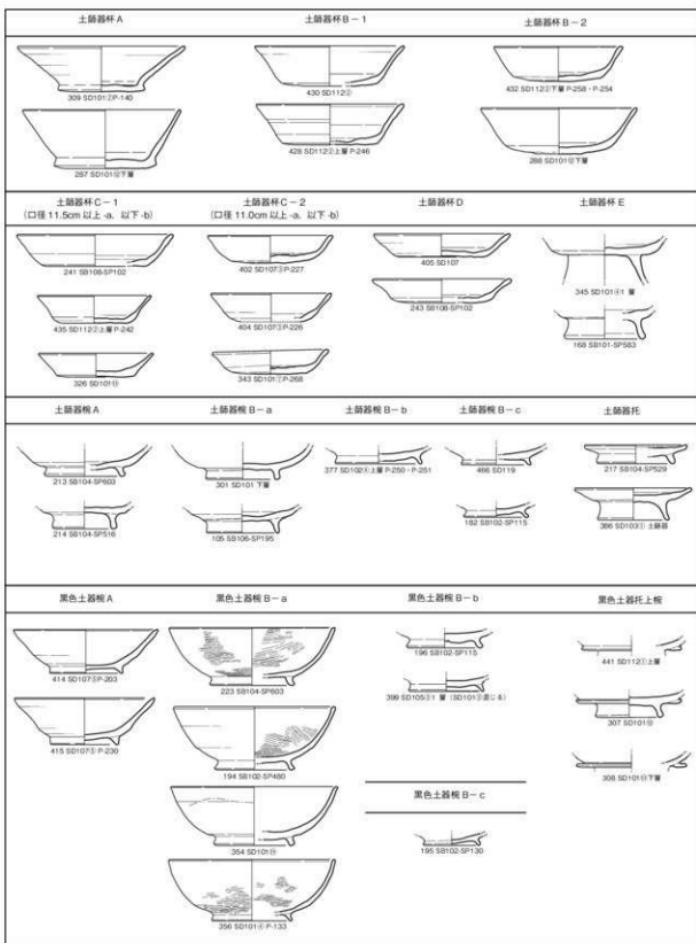
b) 構成変化と画期

前述した当遺跡の遺構変遷において、2 ~ 4 期の遺構出土土器のうち主に杯を対象として器種毎に分類別構成とその系譜を分析する。

杯 A はいわゆる円盤高台から体部が直線的に開くという 10 世紀前半から特徴的にみられる杯底部形態である。杯における構成比率は 7% → 3% → 2% と減少傾向にある。10 世紀代川津東山田 I 遺跡の SD3109 出土の土器 (財県埋文 2001 第 76 図) では、土師器杯 25 点中円盤高台が付されるのは 10 点にとどまり、すべての杯に付される訳ではない。それ以外の杯は基本的にはヘラ切りによる平底形状を呈し底縁部が丸くなるのは 348 の 1 点のみである (混在の可能性あり)。そして杯の中で法量的に大きいものに円盤高台が採用される。ここでも杯 A は大形の杯に採用されることで、系譜は連続する。決して主体とはならず少數ながら形式が存続し、当遺跡 4 期にも存在してその後の中世初期にも残存する杯形式である。

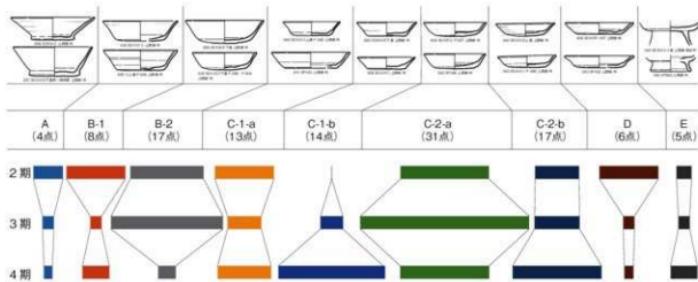
杯 B は深手の杯である。31% → 29% → 10% と 3 期から 4 期にかけて急速に減少する。前述の川津東山田遺跡の杯の主体である平底から口縁部が長く斜め上方に開く形態を形式基点として、口縁部の矮小化、外反化がはじまり、さらに底部を丸く仕上げる特徴的な底部形態を取り込みながら変化するもので、底部が丸くなる B-2 形式は 2 期から 3 期にかけて急に増加する。

杯 C は杯 B を形式の基点としてその矮小化に伴い定義される。構成比は 45% → 63% → 80% と時期



第 164 図 西村遺跡出土土器（土師器杯・同椀・黒色土器椀）分類

が下にしたがって増加する。底部形態では 2 期からすでに底部が丸い C-2 形式の多さが目立つが 3 期にはさらに多く全体の 50% を占めるまでになる。次の 4 期ではやや C-2 形式が減少するが、これは平



第165図 西村遺跡 土師器杯出土頻度の推移

底のC-1形が一方的に減少するのではなく全体の矮小化が進み、細部型式のC-1-bが量的に増加したことによりC-1形が見かけ上増加したものである。この矮小化が次期で中世土器の小皿を生む。

杯Dは須恵器皿の形態を形式の基点として材質転化したもの。前述の川津東山田I遺跡ではまだ出現していない。下川津遺跡SE III 04（財県埋 1990）が初現で須恵器と同様の回転ナデ調整を施すもので10世紀前半新相である。その後の資料として同遺跡SD III 05に続き、さぬき市本村・横内遺跡SK101資料の口縁部が短く強く外反する型式（財県埋 2000a）を派生しつつ、当遺跡杯Dに至る。当遺跡では構成比が14%→3%→2%と縮小しており、中世土器小皿の形式の基点にはなりそうにない。

杯Eは平底底部に長い高台が付き体部が直線的に開くもので杯Aと同様に主体ではないが少数が継続する形式で次第に比率が増え、中世土器にも引き継がれる形式となる。

第16表 西村遺跡及び前田東・中村遺跡の土師器杯分類別組成表

分類＼遺跡名・遺構	西村遺跡			前田東・中村遺跡		
	2期遺構		3期遺構	4期遺構		
	SD108・SD109・SD110・SD111・SA102・SA103・SB101・SP386	SD101・SD104・SD105・SD112・SD106・SA102・SB101・SB102	SD102・上層・SB106・SB111	SD101・SD105・SD112・SA102・SB101・SB102	SD102・上層・SB106・SB111	C IX SK04 C IX SD19
A類	2	1	1	0	6	
B-1類	4	1	3	0	14	
B-2類	5	10	2	0	6	
C-1類	4	3	6	0	18	
C-1-a	4	4	5	18	5	56
C-1-b	0	2	12	5	38	
C-2類	6	15	10	20	11	
C-2-a	6	9	19	20	11	39
C-2-b	3	4	10	0	28	
D類	4	1	1	1	1	
E類	1	1	3	0	5	
計	29	38	48	26	127	

分類＼遺跡名・遺構	西村遺跡			前田東・中村遺跡		
	2期遺構		3期遺構	4期遺構		
	SD108・SD109・SD110・SD111・SA102・SA103・SB101・SP386	SD101・SD104・SD105・SD112・SD106・SA102・SB101・SB102	SD102・上層・SB106・SB111	SD101・SD105・SD112・SA102・SB101・SB102	SD102・上層・SB106・SB111	C IX SK04 C IX SD19
A類	7%	3%	2%	0%	5%	
B-1類	14%	3%	6%	0%	11%	
B-2類	17%	26%	4%	0%	5%	
C-1類	14%	13%	38%	19%	44%	
C-2類	31%	50%	42%	77%	31%	
D類	14%	3%	2%	4%	1%	
E類	3%	3%	6%	0%	4%	
計	100%	100%	100%	100%	100%	

c) 他資料との比較

以上の構成変化を最も時期的に近いと思われる前田東・中村遺跡（財県埋 1995）の資料と対比してみよう。一括資料としてC区SD19とC区SK04がある。

SK04は特殊な埋納遺構で土師器は特定の形式に限定されたものだが、底部の丸いC-2形式がC区SD19と比べて多い点に特徴がある。比率ではC区SD19でC-1形式がやや多いのに対して、C区SK04はC-2形式が77%を占める。そして、C-2形式の内訳をみると、C区SK04で11cmを越えるa類が多いのに対して、C区SD19ではより小さなb類が多い。また、高い高台の付く杯Eが5点組成していることも見逃せない。この構成は西村遺跡に置き換えると4期に相当するものと言え、C区SK04は底部の丸いC-2形式が多い点で3期の特徴に合致する。のことから3期、4期のそれぞれの特徴を抽出することができる。

d) 各期の特徴

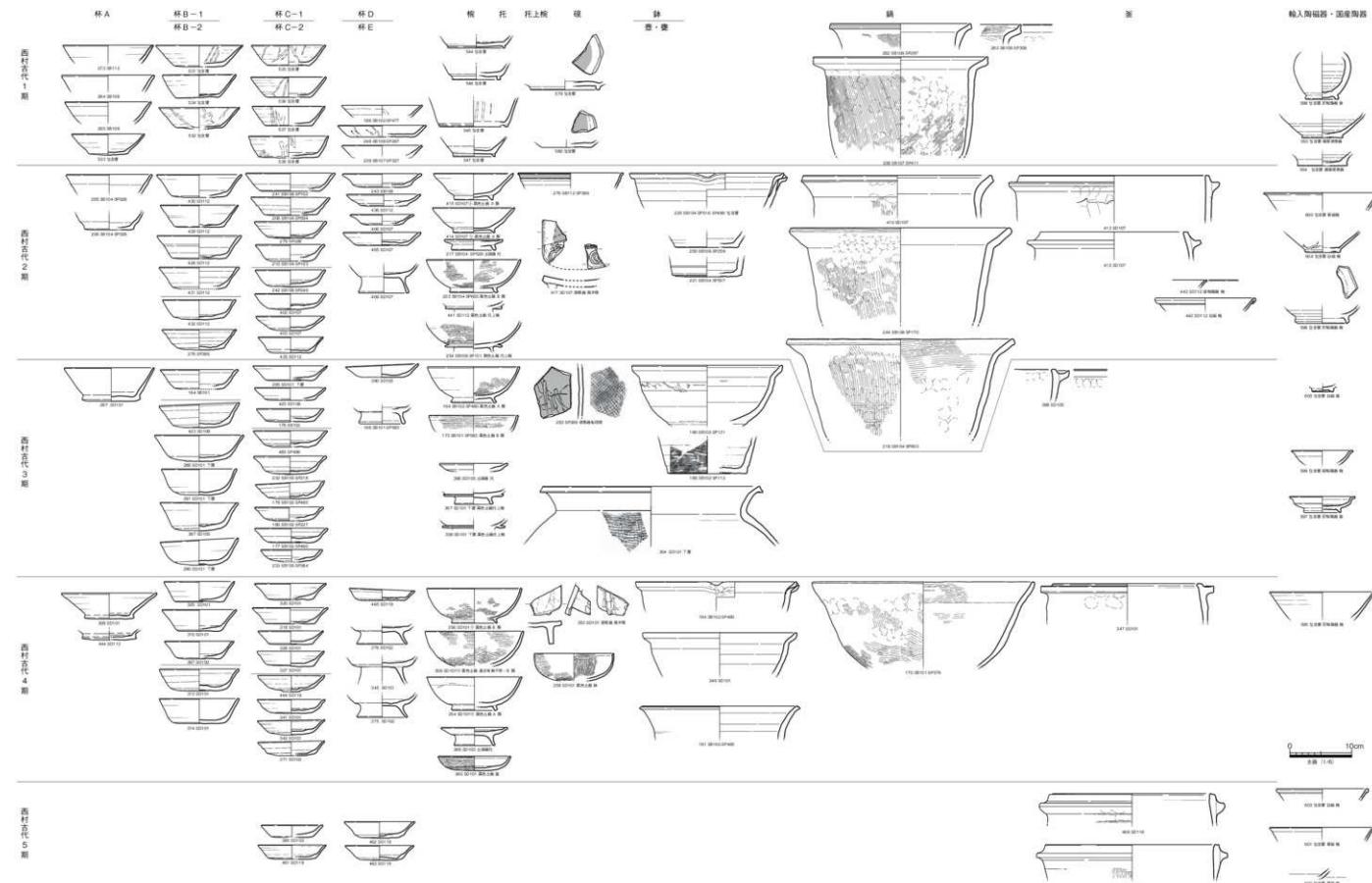
西村遺跡の各期について器種を網羅して提示すると、別図のとおりである。

1期は須恵器が主体となる。底部はハラ切りの平底で底縁部に稜線を有し斜め上方に直線的に開く。内外面に火拂を持つものが多い。高台付杯が僅かに残り、杯内面を覗面にした転用鏡が2点ある。土師器土鍋は体部が寸胴形で口縁端部は比較的シャープに上方に摘み上げる。(9世紀後半を中心とする)。多肥北原西遺跡 SD501（県教委 2015a）資料が対応し、篠窯産須恵器や灰釉陶器が伴う。なお、下川津遺跡SE III O資料は当遺跡今回調査地における空白期に相当する。

2期に対応する資料は国分寺僧坊 SK25・SK26 資料（財県埋 1992）、川津東山田遺跡資料群、東坂元秋常Ⅱ資料群（県教委 2012）、本村・横内遺跡 SK101 資料（財県埋 2000a）がある。10世紀後半。杯は円盤高台が残り、杯Bは底縁部の稜線が残る。黒色土器、托、托上碗が揃う。鍋は体部が外開き形態となり口縁部がやや間延びする。渦巻文を施す風字鏡が伴い、高く直立気味の高台が付く土師器杯が出現する。

3期は前田東中村遺跡C区SK04に対応する。円盤高台は杯Aにある。杯B・杯Cは底縁部が強く丸味を帯びる。

4期は前田東中村遺跡C区SD19に対応する。杯Aは口縁部が大きく聞く円盤高台の形態で杯B・杯Cは小形化する。特に杯Cが中世小皿に近い形態となる。据広がりの高台が付く土師器杯Eが伴う。黒色土器は底縁部が丸く、B類の皿形態や直口椀形態といった無高台のものが新たに出現する。托は高台が発達し、中世に系譜をつなげる。須恵器鉢は口縁部の屈曲が弛緩し間延びする。同様に土師器鍋も弛緩する。



第166図 土師器編年

第4節 特殊遺構・遺物の検討

a) 銀冶铸造遺構・遺物について

①青銅器生産

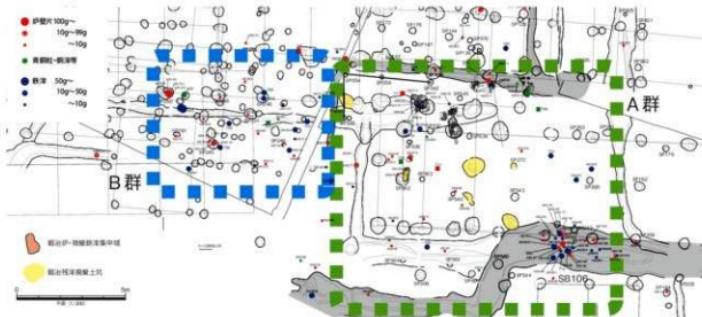
青銅器関係遺物は1区②の銅溶解炉SF101周辺の4期に位置づけられるもの(以下、「A群」と)、1区③で3期に位置づけられる一群(以下、「B群」)の2か所に分かれられて出土した。A群では溶解炉(SF101)が1基、青銅粒多数(473~480、第54~57・73表)、青銅板1(481)、青銅金具1(706)、鉛水瓶1(705)があり、やや離れて壇場2点(361・486)が出土した。B群では青銅粒少量(第81表M0294)、青銅板1(707)、青銅帶金具1(492)、土器軸用取鍋1(727)、輪羽口1(491)がある。いずれも後述する

銀冶関連遺物と共に伴する。このほか第54~83表に出土した銀冶铸造関連遺物をリストにして提示している。以下各群別に遺構及び出土遺物やその科学分析の成果から生産活動の内容を推察する。

まずA群では青銅溶解炉SF101を検出し、最終操業に伴うと考えられる青銅粒(湯玉)が炉底の炭化物層で約600点(合計重量約80g)出土した。炉内径が23~25cmの小規模な銅溶解炉である。出土した青銅粒のうち2点を成分分析したところ、銅(Cu)が73~76%、錫(Sn)が22~24%で、鉛(Pb)が0.015%ほどの砒素、鉄も1%以下という純度の高い高錫青銅と判明した。特に鉛の構成比が低く含有が1%未満のものは二元系高錫青銅器とされる(清水2010)。一般に錫が20%を越えると青銅が硬くなり割れやすくなる(三船2010)。中でも錫が16~25%のものは室温では脆いが特殊な熱処理によって割れにくくなり(熱処理型高錫青銅)、朝鮮半島や中国大陆ではいわゆる熱間加工(鍛打)



第167図 銀冶铸造関連遺構分布概要



第168図 銀冶铸造関連遺構分布詳細



第169図 A群の青銅器生産

によって銅椀や銅鑼などに加工されるという（長柄2010）。鏡（特に唐式鏡）も同程度の銅や錫の構成比のものがあるが、鉛を5%程度組成することが多いのでこの青銅粒の成分とは異なっている。鉛を含むとその後の鍛打加工に弱く、熱間処理（鍛打）する器物には鉛はほとんど含まれない（清水2010）という状況も知られている。このような熱間処理の技術は基本的には日本には伝わっていない。したがってSF101最終操業で溶融対象となった青銅器は熱処理型高錫青銅による銅椀や銅鑼などの輸入器物もしくはその破片の可能性が高い。つまり、古代から中世にかけての輸入銅椀などのリサイクル品を何らかの方法で入手し当該遺跡内で鋳造原料として溶融し、別的小形青銅器を製作しようとしたことが想定できる。

しかし錫による融点低下で意図せず沸騰したことが予測され、炉内を中心に約80gの青銅粒（湯玉）が取り残された。このような銅残滓は通常は回収して再利用するが、ここでは炉底部にそのまま残存し回収された形跡がない。したがってSF101はそのまま廢炉に至ったものと推定できる。ちなみに、溶融に成功し鉛込み作業まで行ったとしても、錫の比率が高いために割れが発生し、順調に作業が継続されたとは考えにくい。つまり入手した高錫青銅は原料としては使うことができなかつた可能性が非常に高い。

なお、炉内出土の小銅板（481）や付近の灰色包含層出土の青銅金具（706）は正式な分析を経た訳ではないが、鉛の含有が極端に少ないと分かっている。そして外見から錫成分が多い高錫青銅とは異なることから、古代の建具等に一般的で加工が容易な純銅に近いものと推定できる。したがってSF101では高錫青銅の出土が目立ってはいるものの、最終操業前はこれら純銅製品等のリサイクル品を溶融原



第170図 B群の青銅器生産

料として、小形の青銅製品の製作を行っていたものと考えられる。

B群では溶解炉は出土していないが、次の理由により至近に炉が存在する可能性が高い。出土した土器転用取鍋に付着した銅は成分分析の結果、錫の含有は少ないが、鉛が1%を越えA群のSF101出土高錫青銅粒とは成分が異なり、砒素を多く含む点で、同じB群で出土した羽口付着物の成分組成に類似する。つまりB群出土で分析に供した2点がいずれも成分が類似し、A群とは明確に異なることから、SF101とは別の生産状況（溶解炉）があったと推定できる。そしてB群は遺構分布上3期に操業したと想定されることから、4期のSF101とは時期も違え、別の青銅素材を入手して小形青銅器を生産していたものと考えられる。

なお、A群では溶解されずに遺存した鉛のミニチュア製品（705）が出土しており鉛同位体分析では国産とも外国産とも判断が付かない製品だった。また、B群では日本産原料による青銅製帯金具（492）が出土している。いずれも素材として持ち込みながら遺棄されたものであろう。

以上のことから、3期（11世紀前半古相）に所属するB群では国産青銅器を主体とした鋳造素材の搬入を、4期（11世紀前半新相）に所属するA群では当初は一般的な鋳造素材を入手して小形青銅器を生産したが、最終段階で舶載青銅器または国産の上質の高錫青銅器を鋳造素材として搬入し、小形の青銅製品を生産しようとする中で廃炉に至ったと推定する。

一般的に11・12世紀は国産銅の生産も一旦途切れ、輸入品も少なく銅枯渇期とされている。A群が国産銅ではない希少品を素材として試みたのもその辺りに要因があるのかもしれない。

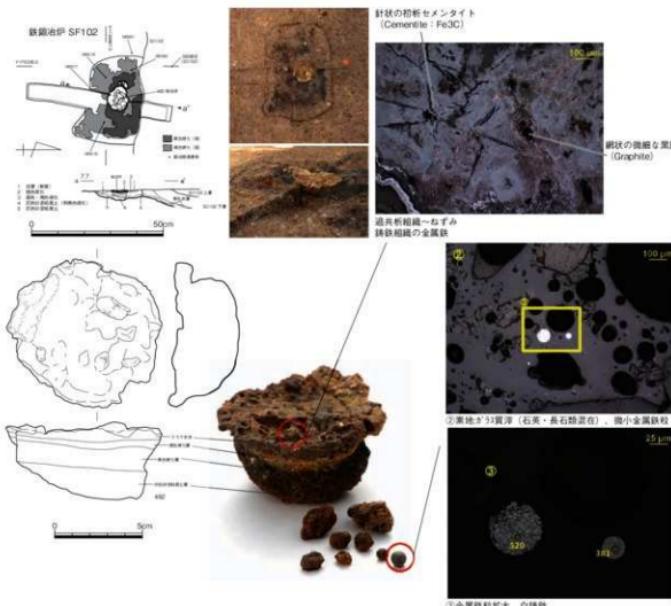
参考資料として鉛同位体分析を行った丸亀市東坂元秋常遺跡II出土の13世紀坩堝の銅（本書第172図H142）は中国華南産原料が想定され中世以後に大量輸入された中国銅がその原材料と考えられた。一方で同市田村庵寺梵鐘鋳造遺構（財県埋2004d）出土の12世紀の銅滴（本書第135図写真5）は他例のない珍しい領域にあり、いくつかの原料混合のありかたと推定された。これは12世紀においてま

だ当遺跡で予測される枯渇期が継続し、地方寺院の梵鐘製作という大量銅消費活動においてもなお11世紀と同様に国産・輸入品を含めた多彩な銅流通品から入手するという方が行われたことが推定できる。

第17表に県内で中世以前で青銅器生産の痕跡が認められる資料を列記した。青銅器生産は弥生時代にさかのほる可能性はあるものの明確な資料はいまだ確認されていない。古墳時代後期前半の善通寺市旧練兵場遺跡で出土した鉛滓に含有する銅粒が県内では最も古い生産資料例である。分析した大澤正己・鈴木瑞穂氏は鍛冶炉において一部小形青銅器製作のため銅素材の融解が行われたと推定している（県教委2016b）。また古墳時代終末期の高松市太田原高州遺跡でも同様に楕円形滓中に微細な金属銅粒が含まれていることが確認された。これにより鉄器生産に伴う形で小形の青銅器が製作されたことが明確となった（県教委2017c）。8世紀後半ごろの東かがわ市坪井遺跡では青銅を溶融する際の道具である錆青が付着した坩埚と金属鉄を含む楕円形冶治滓が出土している（財県研2002d）。同一地点もしくは同一炉で鉄と銅を同時に製作する作業を古墳時代から古代前半まで行っていたことを示すものである。一方、今回の西村遺跡出土の青銅器生産資料は同時に存した鉄器鍛冶炉とは構造が異なる溶解炉を備え、近接して出土した多数の冶治滓を分析したが上記のような銅粒が混在するものはない。鍛冶関連遺物と鉄銅関連遺物を明確に分けることが可能である。また13世紀の東坂元秋常遺跡IIでは村落の一部に青銅器生産のみを行うエリアが出現していた可能性もある。以上の推移はまんのう町中寺庭寺や高松市前田東中村遺跡（宝寿寺跡隣接遺跡）などの特定寺院への供給が見込まれる事例を除くと、集落における青銅器生産の流れを示すものといえる。単純化して示すと、①同一炉・同一地点で鉄器や青銅器の生産を行う段階（古墳時代から古代前半）、②同一地点でありながら個別の炉で鉄器と青銅器の生産を行なう段階（古代後半）、③別地点で個別に鉄器生産と青銅器生産を行う段階（中世）となろう。当遺跡の事例は②段階の事例である。

第17表 香川県内の青銅器生産資料一覧

番号	遺跡名	所在地	近傍遺跡	時期	遺構	遺物	報告書掲載 (分析)番号	鉛滓 共付 か	所見	報告書
1	田舎兵場遺跡	善通寺市 高瀬町		6c前半	自然河川投棄点	銅含有滓（鉛滓）	REN151～4	鉄 滓 共付 か	鉛滓中に微細な金属銅粒が含まれる	県教委2016b
2	太田原高州遺跡	高松市太田原町		7c前半	魔棄土坑	銅含有滓（楕円形滓）	N04	鉄 滓 共付 か	鉛滓中に微細な金属銅粒が含まれる	県教委2017c
3	坪井遺跡	東かがわ市		8～9c	包含層	錆青付着の土製垣塀	958		土製垣塀に錆青付着	財県研2002d
4	中寺庭寺跡	まんのう町 田代田	宝寿寺跡	8～9c	第1テラス盛土中	銅滓	131	不明	錆色を呈す	まんのう町教委2007
5	前田東中村遺跡Ⅲ	高松市前田東町		10c	溝	銅滓	409	鉛 滓 共付 か	銅粒（径約10mm）	県教委2006a
6	西村遺跡	東かがわ市 市西町		10-11c	溶解炉	青銅粒・銅滓・土製取扱・土製垣塀	本書NIS-9 ～13	鉛 滓 共付 か	高錆青銅含む	本書
7	田村遺跡	丸亀市田村町	田村庭寺	12c	梵鐘・鍛造遺構・溶解炉	梵鐘型・網漁・銅 滓	本著第5 章「附録」 別説、「本著第 5章「附録」」			財県研2004b
8	東坂元秋常遺跡II	丸亀市坂山町		13c	遺物跡・土坑等	銅鏡・増堀・銅滓	142～143, 別説、「本著第 5章「附録」」			県教委2012
9	大坂城跡	まんのう町 吉野		13c	包含層	銅滓	338	鉛 滓 共付 か	銅粒（径約15mm）	県教委2005a



第171図 A群の鉄器生産

②鉄器生産について

鉄器生産に関係する遺物は青銅関係と同様にA群とB群に分かれて出土した。報告した椀形鍛治澤16点のうちA群が11点、B群が5点ある。後表にはそれ以外の鉄滓も多数出土していることを提示しており、A群、B群どちらも青銅器の生産と共に鉄器の生産も行っていたことがわかる。

A群では4基の鍛冶炉(SF102-SF105-SF106-SF107)とそれに伴う3箇所の微細鉄滓集中域(SF104-SF108-SF109)を確認した。鉄滓や炉壁に付着した滓の分析の結果、いずれも鍛練鍛治澤であり、砂鉄に由来する鉄チタン酸化物の晶出ではなく、鉄材を熱間で鍛打加工した時の反応副産物で遺跡内では鍛練鍛冶による鍛造鉄器の製作が行われていたことが示された。素材となる鉄材を入手し、鍛打加工して鍛造鉄器を製作していたことがわかる。

A群の鍛冶炉SF102は炉底の椀形滓(482)が原位置にとどまって出土した希少な例である。炉の外形は30×20cm程度で炉の内径は直径約10cmに復元できる。炉底は最大厚さ25mmの粘土に真砂土を混ぜた土で炉床土を形成し、それに接して出土した炉底の鉄滓(NIS-1)は鉄酸化物と粘土溶融物からなる鍛練鍛治澤と判定された。滓の上面には直径1cmの鉄滓(過共析組織～ネズミ鉄組織)の鉄粒が付着していた。また、炉内埋土で出土したガラス質の粒状滓(NIS-5)は炉材溶融物と判定され、滓

中に白鉄組織が混在することが判明した。これらの分析結果は鍛造鉄器を製作するための鉄素材の一部に少量の鉄を使用した局面があったことを示すもので、鉄素材の多様性がうかがえる資料である。

③香川県内の金属器生産の特性

本県では金屬鉱脈から鉄鉱石や砂鉄を探査して原材料とする製鉄や鉱山から採掘した銅の精錬など鉄や銅といった金属を生産した歴史は知られておらず、多くは他所より素材を入手し铸造や鍛冶を行って金属器を加工生産し需要を満たしてきた。弥生時代の鍛冶作業は本格的な鍛冶作業とは異なり入手した鉄素材を温め、鑿による切断や板状に伸ばして折り曲げるなどにより形状を作り出す技術レベルであり、鉄自体に熱による化学変化を生じさせて造形することは不可能で、県内では今のところ素材を外部から入手し鍛冶炉を使った鍛錬鍛治が行われた痕跡が見つかるのは古墳時代後期で、原材料から素材を生成するいわゆる大鍛冶（精錬鍛治）の痕跡は少なくとも中世以前には明確ではない。

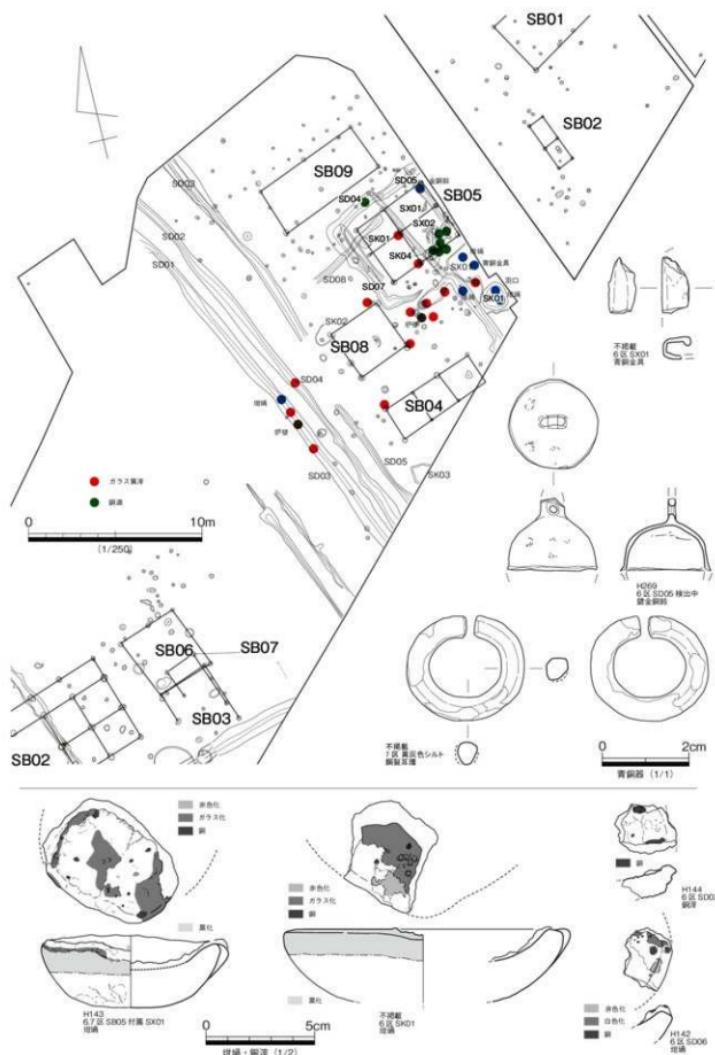
第18・19表は県内の遺跡で行われた古墳時代以降の鍛冶铸造関連遺物の金属学的分析例を年代順にまとめたものである。一部近県資料を含めてかいとまんでも説明すると、次のとおりである。

1990年代は下川津遺跡の鉄滓の分析が和銅博物館によって行われた（財県埋 1990）。主にSEMによる微細組織を確認し、ヴィスタイト（FeO）が多く晶出していることから、ヴィスタイトとフェライトを主要原料とする鍛冶滓と認定された。

1999年から主に大澤正己・鈴木瑞穂両氏による分析が行われている。中間西井坪遺跡II（財県埋 1999b）では7世紀中葉及び15世紀の椀形鍛冶滓が最終段階の精錬鍛治の滓と評価され、7世紀のものは鉄鉱石系、15世紀は砂鉄系とされた。荒鉄の成分調整や折り返し曲げ鍛接時の高温作業が想定され、精錬鍛治が行われた可能性が指摘された。

2000年代に入り、2000年には川津東山田I遺跡の10世紀前半の資料群が分析された。鉄滓はすべて鍛錬鍛冶滓であったが、 $23 \times 26 \times 19\text{mm}$ の鉄塊系遺物（財県埋 2000cの292）は全体に放射割れが顕著で一部表層が剥落し吸炭が進んだ鍛冶系鉄塊系遺物でCMA（EPMA）調査の結果、ウルボスピニエル（ $2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$ ）・クロム（Cr）が検出されたことから砂鉄系原料とする製錬生成物と判断した。2002年の西打遺跡IIでは12世紀前半の椀形鍛冶滓1点の分析ではクロム含有量が高いことから四国の特徴としての砂鉄系鉄素材の可能性が指摘された。また、高知県入野南山の陰遺跡では近世鍛冶で砂鉄始原の鉄滓が調査され、高クロム含有の賦在の砂鉄（中村市・金ヶ浜・平野浜）が注目された（土佐山田町教委 2002）。2003年に刊行された高知県居德遺跡Vでは古墳中期の砂鉄入り鉢の砂鉄に酸化クロム（Cr2O3）が多いことで注目された（財高知県埋文 2003）。2006年の矢野遺跡3では古代の鉄滓2点にEPMAでウスタイト内に二酸化チタン（ TiO_2 ）が固溶していることから砂鉄系鉄素材とされた（財徳島県埋文 2006）。以上のように香川県内四国内の砂鉄製錬が想定され、四国内の製鉄遺跡の検出が期待される状況であったが、いまのところ四国には製鉄遺跡は見いだされていない。なお、2013年旧練兵場遺跡III報告ではイビソク社分析により6世紀後半の鉄滓（表の27）が砂鉄始原の精錬鍛治とされており、上記砂鉄精錬との関係も注目される。

2016年の旧練兵場遺跡IV報告では6世紀の鉄材の熱間加工滓（粒状滓）や銅を含む化学組成が注目され、2017年の太田原高州遺跡2では7世紀の滓に銅及びヒ素が高めで、鉄だけでなく青銅小物製作も想定され、古墳時代から古代初期にかけては同一炉における副次的な青銅器生産が行われたことが明確となってきた。小型炉であることから鉄釘の製作とともに建具・装飾具などの製作を同時に行ったよ



第172図 東坂元秋常2金属生産関係遺物の分布

うな事情を反映するものであろう。これとは別に、2012年の中東坂元秋常遺跡IIでは13世紀ごろの銅に特化した生産場所が特定された。溶解炉の所在が想定され、粒状滓や坩堝が出土している。（今回の参考資料）。今回の西村遺跡では鐵滓中に銅が含まれることはなく、同一地点でありながら炉は区分されている。2017年刊行の養水中筋遺跡では中世13世紀の砂鉄系鍛冶滓で銅は伴っていない。

以上のように香川県内ではチタンやクロムを特徴とする砂鉄系原料で製錬鍛冶から鍛造鍛冶に供されるものと、流通した窯器を使用した鍛造機器の生産が行われた。また青銅器生産も古墳時代から古代にかけて建具や装飾具等の小物の生産が鐵器生産に連動して行われ、その後12世紀ごろを境に梵鐘や仏具などの中・大型の青銅器が生産され、中世以後には鐵鍋等の鐵製鋳物製品が集落でも製作されるようになったと考えられる。

今回の西村遺跡では11世紀前半において前述したように銅は多彩な撒入素材で銅生産を行ったことが証明されており、作業スペースは共通するものの鉄と銅の生産施設については区分されていた可能性が高い。そして鍛冶関連作業においてはその素材となった製品の素材として次の4種が見いだされた。

- a. 過共析組織～ネズミ鉄組織をもつ鉄 NIS-1
- b. 白鉄組織をもつ鉄 NIS-5 M0016
- c. 砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタンやバナジウムが低率な素材 NIS-1・3・7・8
- d. 製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）の影響によりチタニアが高率の素材 NIS-4

これらのうち從来四国において主体的にされた砂鉄系のdはむしろ少數派で、チタンやバナジウムの少ないわゆる鉄鉱石系とされていたcが多數派である。また、a・bのように鉄が鍛冶作業に使用された事例は、川津東山田遺跡の鐵塊素材において少量の鉄鉱材の混入（製錬時）があったがほかには見ることがない。

つまり從来知られていた四国内の鍛冶関連遺物とは様相がやや異なり、青銅関係遺物においてもそうであったように、多種多様な素材を入手した事がここに表れている。さらにうがった見方をすると、金属器生産に関する十分な技術・知識をもたらす多様な素材を安直に原材料として使うような便宜性が垣間見られる。実際の鍛冶鍛造作業の施工がどのような性質の集団であったのか、推察する手がかりとなる資料群ともいえよう。

第18表 香川県内の鋳治関連遺物分析事例一覧（1）

番号	遺跡名	出土遺物名	分析番号	報告番号	時期	評価	所見	重量(g)	分析機関・分析者(分析協力者)	所収
1	下川津遺跡	SH III 05 1			古墳後期	精鍛鍛冶鋳	全鉄量 50%以下、造済成分 20%以上、砂鉄系原料が用いられた	75	和銅博物館 財県理 1990	
2		SH III 05 2			古墳後期	精鍛鍛冶鋳		40		
3		SD III 86 4			古墳前期～後期	精鍛鍛冶鋳		20		
4		SD III 01 5			平安	精鍛鍛冶鋳		250		
5		SD III 75 6			平安	精鍛鍛冶鋳		20		
6		SD III 71 9			鎌倉	精鍛鍛冶鋳		20		
7	中国西岸坪遺跡Ⅱ	7b 区 SK II 26	NNT-4	976	7世紀中	楕円形鍛冶鋳	精鍛鍛冶鋳最終段階か鍛鍛冶鋳初期段階 砂鉄系	132	大澤正己 財県理 1999b	
8		8 区 SD II 30	NNT-2	1207	15世紀	楕円形鍛冶鋳	精鍛鍛冶鋳最終段階か鍛鍛冶鋳初期段階 砂鉄系	83		
9		6a 区 SX II 02	NNT-3		16世紀代	羽口				
10	川津川西遺跡	S D I 3 5 上層	KTK-1	328	9世紀後半～13世紀	合鍛楕円形鍛冶鋳	砂鉄系原科鉄の鍛鍛冶鋳	31.81	大澤正己 鈴木雄徳 財県理 1999c	
11		SD01 上層	KTK-2	819	14世紀	楕円形鍛冶鋳	全鉄量 63.62%、造済成分 11.38%	108.54		
12		混合層 I	KTK-3	920	14世紀	鉄化物鉄	脱炭用加熱鉄の可能性	41.89		
13	川津川西遺跡	SP0783	KTK-4	625	14世紀	鉄系系遺物	脱炭用加熱鉄の可能性	15.1	大澤正己 鈴木雄徳	
14		SD01	KWT-1	331	10世紀前半	羽口	四角柱での砂鉄始原の鍛鍛冶鋳生成鉄である小ぶりの砂鉄塊が鍛冶用原料として使用された	201.9		
15	川津東山田遺跡Ⅰ	SD01	KWT-2	336	10世紀前半	楕円形鍛冶鋳	全鉄量 40.63%、造済成分 40.5% 砂鉄鍛冶鋳	517.2	九州テクノ 大澤正己 鈴木雄徳 財県理 2000c	
16		SD01	KWT-3	337	10世紀前半	楕円形鍛冶鋳	全鉄量 51.64%、造済成分 24.66% 砂鉄鍛冶鋳	277		
17		SB01(D) 上層	KWT-4	763	10世紀前半	楕円形鍛冶鋳	全鉄量 52.54%、造済成分 24.31% 砂鉄鍛冶鋳	62.6		
18		SB01(D) 上層	KWT-5	764	10世紀前半	楕円形鍛冶鋳		31.7		
19		SB02(B) 第1層	KWT-6	1188	10世紀前半	合鍛鉄鋳	小振りの高品位鍛冶原料	6		
20		SD01	KWT-7	292	10世紀前半	鉄塊系遺物	タコム(Cr)を多く含む砂鉄系原料の製錬の成物 高品位鍛冶原料	15.5		
21	岡清水遺跡	III・③ 区 C	KOK-1		古代以降	楕円形鍛冶鋳	全鉄量 55.12%、造済成分 24.62% 砂鉄鍛冶鋳 廃棄系原料	98.8	九州テクノ 大澤正己 鈴木雄徳 財県理 2001	
22	西打道跡Ⅱ	B II 番区	SD08	TKM-1	12世紀	楕円形鍛冶鋳	全鉄量 51.8%、造済成分 28.0% 砂鉄鍛冶鋳 砂鉄系原料か	114.9	九州テクノ 大澤正己 鈴木雄徳 財県理 2002c	
23	浜ノ町遺跡	SK016	HNM-1	14世紀		溶接ガラス質と鉄化鉄の混在				
24	成畠道跡Ⅰ	SK001	HNM-2	14～15世紀		鍛鍛冶鋳	全鉄量 55.83%、造済成分 11.69% 砂鉄系原料	76	和銅博物館 村川義行 財県理 2004c	
25		II 区谷 2 上層	NSG-1	11世紀後半～12世紀		鍛鍛冶鋳	全鉄量 45.90%、ガラス質成分 26.45%、砂鉄系原料	74		
26		II 区谷 2 上層	NSG-2	11世紀後半～12世紀		鍛鍛冶鋳	全鉄量 39.71%、ガラス質成分 41.46%、砂鉄系原料	151		
27		II 区谷 2 上層	NSG-3	11世紀後半～12世紀		鍛鍛冶鋳	全鉄量 50.88%、ガラス質成分 28.4%、砂鉄系原料	46		
28		II 区谷 2 上層	NSG-4	11世紀後半～12世紀		鍛鍛冶鋳	全鉄量 48.63%、ガラス質成分 30.47%、砂鉄系原料	106		
29		II 区谷 2 上層	NSG-5	11世紀後半～12世紀		鍛鍛冶鋳	全鉄量 42.54%、ガラス質成分 40.0%、砂鉄系原料	121		
30		II 区谷 1 番区	NSG-6	11世紀後半～12世紀		鍛鍛冶鋳	全鉄量 分析未定 ガラス質成分 43.15%、砂鉄系原料	33		
31		II 区谷 1 番区	NSG-7	11世紀後半～12世紀		鍛鍛冶鋳	全鉄量 分 51.20%、ガラス質成分 23.61%、砂鉄系原料	63		
32		II 区谷 1 番区 ST33	NSG-8	11世紀後半～12世紀		鍛鍛冶鋳	全鉄量 分 62.71%、ガラス質成分 17.09%、砂鉄系原料	15		
33		U 区 F6	SP519	No.1	7世紀	鍛鍛冶鋳	全鉄量 65.8%、造済成分 8.03%	114	(株)イビツ 財県理 2013	
34	旧城兵場遺跡Ⅱ	L 区 SH5018	No.2	7世紀		鍛鍛冶鋳	全鉄量 65.5%、造済成分 6.37%	89.6		
35	SH6012	No.3	6世紀後半		精鍛鍛冶鋳	全鉄量 43.4%、造済成分 43.3%	40.6			
36	SH1004	No.4	6世紀前半		精鍛鍛冶鋳	全鉄量 38.2%、造済成分 46.8%	168			

第19表 香川県内の鍛冶関連遺物分析事例一覧（2）

番号	道路名	出土遺 跡名	分類 番号	報告 番号	時期	評価	所見	重量(g)	分析機関・ 分析力合計	所取
37		4区③ SR4001 上層	REN15-1-1		6世紀前半	鉄津	全鉄量 61.96%、造津成分 15.94% 鋼を含む金属性あり。鏡造鉄器製作 と共に銅（青銅）小物の製作も行わ れていた可能性	125		
38		4区③ SR4001 上層	REN15-1-2		6世紀前半	鉄津	全鉄量 59.16%、造津成分 17.57% 銅を含む金属性あり	168		
39		4区③ SR4001 上層	REN15-1-3		6世紀前半	鉄津	全鉄量 51.8%、造津成分 27.57% 銅 を含む金属性あり	164		
40		4区③ SR4001 上層	REN15-1-4		6世紀前半	鉄津	全鉄量 52.53%、造津成分 24.27% 銅を含む金属性あり	67		
41	田舎兵場道 跡壁	4区③ SR4001 下層	REN15-2-1		6世紀前半	粒状津	内部微細気孔、鉄酸化物主体の微細 遺物、熱間鍛造加工に伴う微細遺物	-	日鉄住金 大津正己 鈴木瑞穂	県教委 2016b
42		4区③ SR4001 中層	REN15-5-1		5世紀後半	鍛治津	銅の影響は見られない鍛治津	-		
43		4区③ SR4001 下層	REN15-7-1		5世紀後半	鍛治津	微細鍛治津片	-		
44		4区③ SR4001 下層	REN15-7-2		5世紀後半	鍛治津	微細鍛治津片	-		
45		4区③ SR4001 下層	REN15-8-3		5世紀後半	鍛治津	微細鍛治津片	-		
46		SH803	2		7世紀前半	楕形鍛治津	全鉄量 53.53%、造津成分 22.61% 硫素がやや高い。鉄鉱石系原料	51.6		
47		SH806	3		7世紀前半	楕形津	全鉄量 18.58%、造津成分 64.88% 鋼を含む	221		
48		SH806	4		7世紀前半	楕形津	全鉄量 43.94%、造津成分 35.63% 津中に金属性・銅を含む	168.6		
49	大田屋高州 道跡2	SH806	5		7世紀前半	楕形津	全鉄量 59.43%、造津成分 16.38% 津中に金属性・銅を含む	19.7	日鉄住金 大津正己 鈴木瑞穂	県教委 2017c
50		SH804	6		7世紀前半	鉄津	全鉄量 42.70%、造津成分 40.72% 津中に銅・硫素の影響あり	3.7		
51		SH804	7		7世紀前半	鍛治津	全鉄量 61.67%、造津成分 14.75% 鉄鉱石系原料	5.2		
52		SH804	8-1		7世紀前半	楕形鍛治津	全鉄量 38.22%、造津成分 33.07% 鉄鉱石系原料だが銅・硫素が高め	11.5		
53		SH804	8-2		7世紀前半	鍛治津	全鉄量 36.02%、造津成分 37.06% 鉄鉱石系原料だが銅・硫素が高め	8.0		
54		3区 SD309	1	1008	13世紀	楕形鍛治津	全鉄量 51.47%、造津成分 26.43%	188.9		
55		3区 SD42	2	1049	13世紀	楕形鍛治津	全鉄量 46.45%、造津成分 31.72%	278.6		
56		3区 SD38	3	890	13世紀	楕形鍛治津	全鉄量 57.70%、造津成分 19.84%	32.4		
57		10区 SP248	4	294	13世紀	楕形鍛治津	全鉄量 52.48%、造津成分 27.04%	97.4		
58		9区 SD14	5	691	13世紀	楕形鍛治津	全鉄量 39.16%、造津成分 43.97%	155.2		
59	吉永中筋道 跡	10区 SP302	6	179	13世紀	楕形鍛治津	全鉄量 60.96%、造津成分 16.91%	136	日鉄住金 大津正己 鈴木瑞穂	県教委 2017b
60		10区 SP248	7	293	13世紀	楕形鍛治津	全鉄量 57.92%、造津成分 19.95%	35		
61		8区 SP544	8	295	13世紀	楕形鍛治津	全鉄量 56.99%、造津成分 21.44%	90.7		
62		8区 SP490	9	292	13世紀	楕形鍛治津	全鉄量 55.28%、造津成分 24.19%	21.5		
63		8区 SD32	10	760	13世紀	楕形鍛治津	全鉄量 45.81%、造津成分 34.51% 鉄鉱石系原料	216		
64		11区 SP391	11	296	13世紀	楕形鍛治津	全鉄量 53.53%、造津成分 85.34% 鉄鉱石系原料	130.7		

b) 風字硯について

風字硯は中国唐代に焼物で作られた硯が流行し、様々なかたちの陶硯が作られた中で出現した一形式である。硯面が奥に向かって傾斜し、手前の硯尻が平面的にみて開いた形状が「風」字の類似することから命名された形式名である。傾斜する硯面をもつ硯は石製が古く、それを焼き物で模倣したもので、五代（10世紀前半）には風字硯は少なくなり、宋代（10世紀後半）には石製の長方形硯に移行するとされる（吉田 1985）。日本でも大陸の影響をもって概ね同様の推移をたどる（横田 1983）。

これまでに本県内で出土した9遺跡25例を集成した。最も多いのは諫岐国府跡の14例である。また、生産地で出土したのは3遺跡4例である。残る7例は2遺跡で2点ずつ出土しており、うち1遺跡が今回報告する西村遺跡である。

各資料についての特徴及び帰属時期について解説しておきたい。

まず1の多肥松林遺跡例は残存長9.3cm、残存幅8.0cm、硯面中央の厚さは約5mmで、長方形状の須恵質の風字硯である。上面から見て右手前部分が残存する。右端は緩やかに側縁が立ち上がり、手前の小口面は平坦なままである。裏面はハラケズリ整形で、縁近くに断面六角形の脚柱を貼付する。硯面中央部分に光沢が出るほど顯著な使用痕があり、器面の微細気泡への墨の貫入もあるが、破断面には墨は付着しない。上面の右側縁付近、裏面の手前側、小口面に明らかに墨痕と色調が異なる茶色付着物があり、漆と考えられる。細かく範囲を観察すると、小口部、右側部いずれも幅1.2cmの範囲には墨痕がなく、部分的にはあるが漆が残存する。裏面も端から12cmの範囲に漆の付着は収まる。つまり漆を使用した硯縁装飾が行われた可能性が考えられる。河川跡で弥生土器等に混じて出土したが、元来は同報告によるVI区SD02・XII区SD06に所属したもので、その出土土器が示す9世紀後半を当該資料の所属時期と判断できる（財県埋文1999a）。高松市教育委員会調査の多肥遺跡では当該遺物出土地に近接して同時期の建物群が検出されている（高松市教委1996）。

2の多肥北原西遺跡例は残存長7.3cm、残存幅6.2cm、硯面中央の厚さ20mmをはかる大形で須恵質の風字硯である。大形の割に小片のため平面形状は定かでないが、後述の脚部形状から類推すると緩やかな隅丸方形となる。厚い粘土板を格子叩きで成形し、縁辺をハラケズリで面を整え、上面を平坦に研磨、裏面に方形の脚を貼付する。上面は平坦ながら縁辺に向かい僅かに下がることから、硯とみるとには躊躇するが、上面を観察すると裏面の方形脚の軸に合致する方向の研磨線状痕が認められることから大形風字硯の一つとみた。この遺跡では宗教関連具が多数出土し、近隣の多肥庵寺との関係が想定されている。所属時期は伴出の土器から9世紀後半である（県教委2015a）。

3のすべっと窯跡（綾南町教委1994）例は6号窯と7号窯間の落ち込みで出土したものである。残存長11.0cm、残存幅12.3cm、硯面中央の厚さ7mmの須恵質風字硯である。伴出した須恵器は10世紀中葉。底面が剥離のため形状不明なのが残念だが、側縁は1.5～2cmの立ち上がりがある。生産地品。

4・6は当遺跡出土例にて詳細説明は省略する。4は10世紀後半、6は11世紀前葉である。

5は丸亀市川西北・鍛冶屋遺跡出土の風字硯平板脚である。前傾する本体から剥離した部品で厚さ12mm、脚の側面形状を健形につくり、各面隅を細かく面取る。底面には顯著な磨減があり長期使用したものと考えられる。10世紀後半の土器とともに溝から出土した。調査区内に集落遺構はないが、近隣に同時期の集落が想定できる（財県埋1996）。

7・8は綾川町西末則遺跡の12世紀前半の集落で出土した二面硯2点である。奥の立ち上がり部の破片と手前右側の大形破片の2点。仕切板の裏面部が窪む特徴が両者で共通することから、同一個体の可

能性が高い。復元幅は約11cmで、片側の陸部幅は3.5cmである。右側縁は約2cmの立ち上がりを作り裏面には断面裾広がりの台形を呈した平板脚を貼付する。表面裏ともミガキのような丁寧なヘラケズリで調整する。硯面の磨滅はあまり進行していないが表面に墨痕が残る（県教委 2007）。

9は田所深池窯跡例である。生産地で出土した完形品、長さ9.6cm、幅8.3cm、硯面中央の厚さ10mmの小形方形の風字硯である。硯面の奥（海）側が緩やかに屈曲して立ち上がるがそれ以外の3方は側縁の立ち上がりは少ない。裏面には成形時の格子目叩きが残り、手前側左右に縦線で平板脚を貼付する。窯跡は10世紀後半のロストル窯と12世紀前葉の平床窯が重複し、周間に排水溝を巡らせる。溝からは当該硯は12世紀前葉の壺・壺とともに排水溝から出土した。したがって硯は12世紀の平床窯で壺・壺とともに焼かれたものと推定する（綾南町教委 2000）。

10・11は十瓶山窯跡群内に存在する綾川町西村遺跡（県教委 1982）で出土した硯である。11世紀後半に始まる西村遺跡は土器・瓦窯を付設した工人集団の居宅群で13世紀まで継続する。2点の硯はその最も東の川北地区で出土したもので、12世紀後半の京都搬出瓦同范の三巴文軒平瓦（県教委 2016c）がまとまって出土したエリアの土坑・溝で出土した。10は長さ16.5cm、幅13.3cmの二面硯。意図的と思われる中央裏面部分の敲打によって割れている。左右縁から奥縁にかけて1~2cmの緩やかな立ち上がりを作り、上面を取りする。全体の表面調整はやや粗くヘラケズリとナデによる。硯面は墨の滑りをよくするための縦線のヘラミガキを施すが、間隔があいてやや粗い。仕切板は側縁立ち上がりと高さを揃え、手前が約0.5cmと低く奥は約2cmある。仕切板の裏面は若干の窪みが伴うが7・8ほど顕著でない。脚は平板脚で面取りはしない。上面左右硯面に墨痕があるので、生産地出土ながら実際に使用したものである可能性があるが、硯面の磨滅はまったく進行していない。想像をたくましくすれば生産地において試し使用後の廃棄品と思えるが確認はない。

11は方形硯で硯面奥側に波状の飾り彫りがある。実見できていないので、詳細は不明。

12は坂出市下川津遺跡出土の瓦質の二面硯である。幅約11cmで仕切板剥離の痕跡が残る。側縁の立ち上がりは陸から海にかけても屈曲なく緩やかなカーブが作られるのみである。器面調整はヘラケズリとナデで仕上げる。前傾器形から有脚と思われる。硯面は磨滅顕著で墨痕が残る（財県埋 1990）。

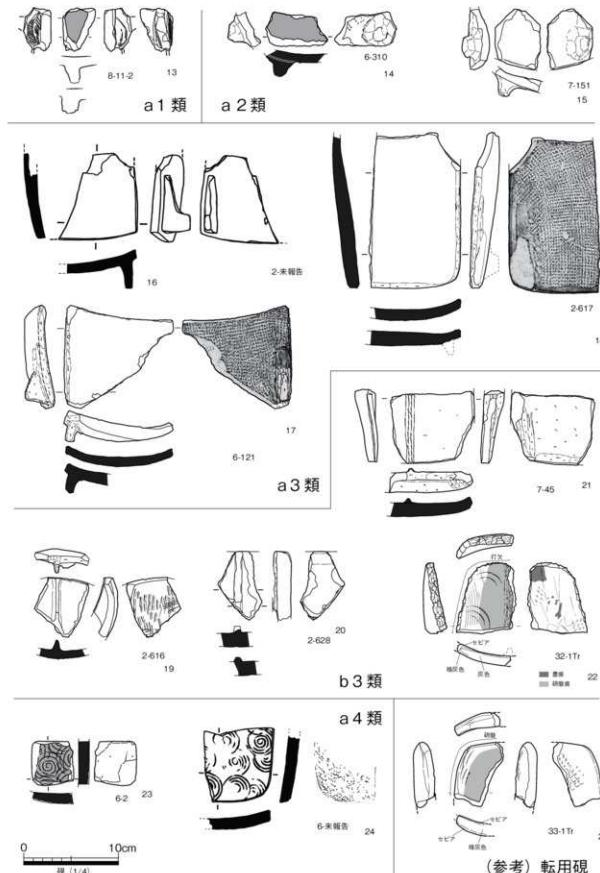
13~25は讃岐国府跡出土の風字硯（猿面硯・一部転用硯含む）である。13~15は獸脚・円脚の硯、16~18は平板脚の單面硯、19~22は二面硯、23・24は硯面に渦巻線刻文を施す無脚のいわゆる猿面硯、25は参考提示の壺転用硯である（県教委 2016d・2019）。そのうち22は二面硯として作られた硯面の仕切板を打削して除去し剥離痕を丁寧に研磨、さらに周縁部を意図的に石等の硬いハンマーを使って細かく打ち欠いたものである。そのため周縁面には石器の剥離のような痕跡が残る。脚部が遺存しないが有脚の可能性が大である。23・24は上面に渦巻線刻を施す。裏面には成形時の叩き目が残る。25は上面に青海波文、外面上に格子目の叩きが残り周縁を完全に研磨した硯である。猿面硯の可能性もあるが、断面が22と異なり研磨した側縁に表裏のセピアが途切れで胎芯の暗灰色部が露出していることから、壺・壺の転用硯の可能性が高い。これら讃岐国府跡出土の風字硯は時期の明確でないものを多く含むが、多数出土している円面硯より時期的に新しいものと思われる。

以上の硯を分類すると、單面硯（a類）、二面硯（b類）、方形硯（c類）に区分できる。また脚部断面形状により方獸脚形（1類）、太形多角脚（2類）、平板形（3類）、無脚（4類）に区分できる。

所属時期が明らかなものを中心として、時間的な流れを捉える。まず出現期は單面硯で方獸脚形のa1類（2）太形多角脚のa2類（1）があり、11世紀までに平板脚のa3類（4~6）が揃う。二面硯のb



香川県内出土風字硯の変遷（讃岐國府跡出土品を除く）



讃岐國府跡出土風字硯の分類

第173図 風字硯の変遷



第174図 香川県内出土風字窯（傾斜窯）の変遷

同心円叩き目や渦巻文線刻などを窯面に施文するいわゆる猿面窯はa3類(4)、a4類(23・24)にあり、10世紀後半以後にある。

全国的な傾向を述べると、9世紀前半には風字窯が各所で出現しており9世紀後半には概に区分することでいう二面窯が出現する（横田1983・石井1985・田中広2007）。その脚部は9世紀後半段階では1類（円・方柱）または2類（多角）で10世紀に至って限られた地域で3類（平板）が出現する。篠窯では円面窯と風字窯が9世紀後半に並存し、風字窯は脚2類（多角）を最終型式とする（高橋2012）。東日本では10世紀後半までは陶硯が消失（田中広2007）し、京都周辺でも11世紀前半で終わるようである。長久4年（1040）竣工高陽院の先行池地で出土した表裏面に叩き目をもち裏面に平板脚を貼付した窯（a3類）が該当しよう（京都市觀光局1982）。北部九州では11世紀以降は猿面窯（ここでいうa4類）及び方形窯（c類）が残存し、12世紀前半を最後に消える（横田1983）。

一方、讃岐地域では集落で出土する風字窯は13世紀まで存続しており、生産地で出土する窯もむしろ12世紀に盛期があって、その特異性が際立つ。そもそも、讃岐国内の古代の須恵器生産地は十瓶山窯跡群に集約され、国衙系生産地として調納品のみならず交易流通品を多数生産しており、他の官衙系生産地の多くが古代末で終わるのにに対し、十瓶山窯跡群では13世紀末まで生産を継続する。その背景には10世紀後半まで続いた十瓶山山麓の国衙による窯跡経営（佐藤1994）が、11世紀後半に出現した綾川町西村遺跡でみられるような居宅と窯が一体となった工房にその生産が引き継がれ、京都への供給瓦や壺や西村型碗を流通品として大量生産し、受領や国衙経営に深く関わることで勢力を維持し続けた在守官人を主体とする有力層の台頭が考えられ、その品目に窯が加わったことがその要因として挙げられよう。13世紀代の下川津例は器面に僅かながら光沢が生じるほど焼き締まっており、12世紀後半の瓦生産停止後も継続する十瓶山窯跡群須恵器の焼き締めに類似することから、13世紀末の同窯跡群停止時期まで生産が継続したものであろう。

また、窯の機能が継続する途上で意図的に形状変更を行ったもの（b3類の22）や壺堀転用窯にあえて類似させ四周を焼成前に面取り調整した窯面に渦巻文を線刻し裏面を無脚とするいわゆる「猿面窯」（24、ここでいうa4類）が存在するのは、県内では現在のところ讃岐国府跡のみである。孰り行われた事務手続きや従事者層や従事環境など、国衙における特殊な使用環境を反映した可能性もある。当遺跡で出土した渦巻文を施文するa3類の窯（4）や綾川町西村遺跡で出土した完形窯（10）は、使用後の形状変更として意図的に破壊した可能性が考えられるものの使用途上の形状変更ではなく、讃岐国府跡出土品の前述の状況は特異である。

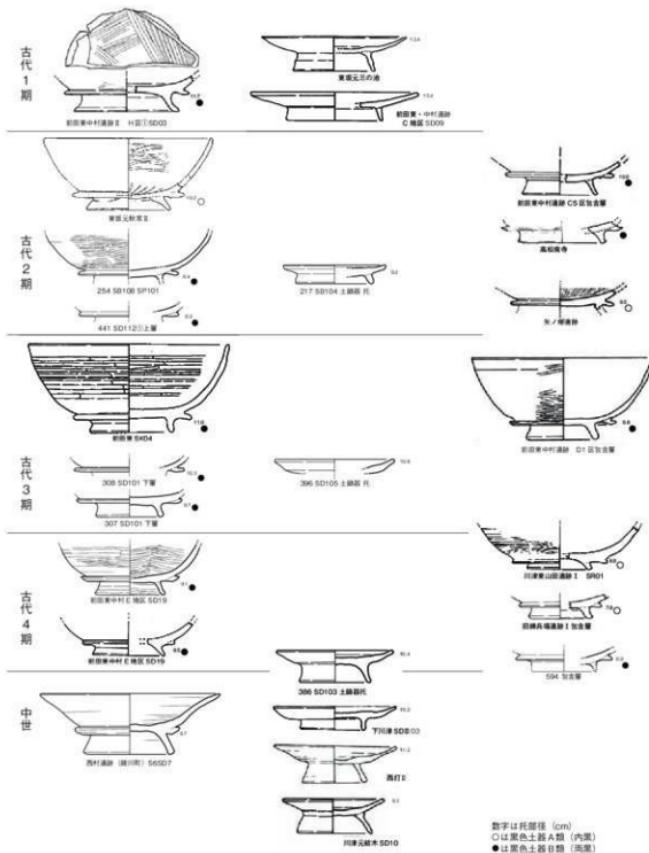
以上、県内出土の風字窯に限ってその変遷をたどり、当遺跡出土の窯が全国的にみるとほぼ形式が消失する時期の風字窯であることと、讃岐国ではその後も13世紀まで在來の国衙系窯を維持して作り続

類は今のところ12世紀に出現し平板脚と組み合うb3類（7・8・10・12）が主体で13世紀まで続く。方形窯c類（11）は12世紀後半に出現するがその後石窯に転換して陶窯の方形窯は作られなくなる。

このうち、壺堀転用窯を模倣し

けられたことを提示した。

硯は一般集落で当たり前に出土する品目ではなく、社会において文書事務の実務的役割を担った場所で出土するものと考える。当遺跡では古代1期からすでに杯転用硯が出土し4期までの各時期の遺構で硯が出土していることから、9世紀後半から11世紀前半までの間、当該地域の何らかの政治的役割を継続して担っていたことが想定できるであろう。



第175図 托上椀_托の変遷

c) 托及び托上椀について

托上椀は椀形土器の下に高台付の皿を置いた状態を一体化して成形した土器形態で、黒色土器に多い。森氏によると、畿内では両黒の黒色土器B類の楠葉系黒色土器に出現し、九州も大宰府では両黒のB類にあるが、南九州では内黒のA類にも少量認められるという（森1990・1991）。したがって両黒の黒色土器と托上椀は必ずしもセット関係にある訳でない。

非日常的な宗教的儀礼の容器である托上椀は、銅製の椀と脚台がセットになった仏具六器を起源としてその模倣である施釉陶器の椀皿の組み合わせに始点がある。これらが土師器等在地生産品に影響を及ぼすのが9世紀からである。まず托が導入され、托上に椀を置いて使用した。県内では丸亀市東坂元三の池遺跡で10世紀前半の遭構より口径13.5cm柱状の高い高台の托が出土している。薄手で水盤粘土を使い、高台のみを黒化する。高松市前田東中村遺跡C区SD08支流（c）上層で出土した口径15.4cmの托も精良粘土を使う格上品である。県内例は少なくまだ器種として定着した形跡はない。

当該地域では10世紀後半、当遺跡2期のSB104で高台の高さが土師器椀と同様の托が出現する。その後高松市前田東中村遺跡E区SD191例→坂出市下川津遺跡SD III 03例と11世紀をとおして構成比を増し、12世紀前葉まで継続する。

托の出現とともに托上椀も出現した。種別は香川県東部ではすべて黒色土器B類、西部では土師器または黒色土器A類である。

一方で、非日常土器の一つとして高い高台付杯がある。福岡県多々良込田遺跡などに搬入された越州窯青磁をモデルとして10世紀前半に土師器で形態模写がおこなわれたとされる（片桐1992）。県内では讃岐国分寺SK25では10世紀末頃の楠葉系黒色土器に伴って土師器高高台杯が出土している。10～11世紀において西日本各地で時期的にバラツキを示しながら主体的ではない範囲で器種構成に加わる。県内では11世紀をとおして、托上椀とともに非日常器種とともに存在し、時期が下るにつれて構成比を増す。

以上のような非日常的器種の推移において、托上椀は10世紀後半から11世紀前半に存在する。量的には土師器の托や高高台杯に及ばないが、非日常器種を構成する要素の一つである。

第20表 香川県内出土托上椀一覧

番号	遺跡名	所在地	遺物名	器種	材質	文献・報告番号	開先端径(cm)	開形状分類	備考
1			C5区匂合層	椀	黒色土器B	1016	100	b類	
2			D1区匂合層	椀	黒色土器B	651	98	b類	
3	前田東中村	高松市前田東町	E区SD19	椀	黒色土器B	390	91	c類	西村4期
4			E区SD19	椀	黒色土器B	393	85	c類	西村4期
5			E区SD04	椀	黒色土器B	688	110	b類	西村3期
6	前田東中村II	H区U SD03	椀	黒色土器B	94	11.7	a類	12c?	
7	西村(西村II-S6区)	波川町	SD07 800711	杯	土師器(赤土仕上)	未報告	9.7	c類	
8			SB108SP101	椀	黒色土器B	木曾・254	94	b類	西村2期
9			SD112	椀	黒色土器B	木曾・441	92	c類	西村2期
10	西村	東かわ市	SD101 下層	椀	黒色土器B	木曾・307	97	c類	西村3期
11			SD101 下層	椀	黒色土器B	木曾・308	103	b類	西村3期
12			匂合層	椀	黒色土器B	木曾・599	90	c類	
13	東坂元丘堂II	丸亀市飯山町	S806	椀	黒色土器A	24回74	10.3	b類	西村2期
14	旧神長塚	善通寺市仙瀬町	匂合層	椀	土師器	6706	77	c類	11世紀後半
15	川津長山田I	坂出市川津町	S801D	椀	土師器	678	88	c類	
16	矢ノ原	善通寺市	匂合層	椀	黒色土器A	1437	9.5	b類	
17	国分寺僧坊	高松市国分寺町		椀	黒色土器B	未報告		b類	展示資料
18	永井北	善通寺市中村町	SD4005	椀	黒色土器A	26			
19	高松魔寺	東かわ市	匂合層	椀	黒色土器B	80		不明	

県内では次の遺跡で18個体が出土している。

これらは（a類）鉢状突帯が長く張り出し、鉢先端径が11.5cmを越えるもの、（b類）同様に鉢状突帯が長く張り出しが、鉢先端径が11.5cm以下のもの、（c類）鉢状突帯が短く突出し、鉢先端径が10cm以下のものに分かれる。

材質は、県東部では両黒の黒色土器、県西部では内黒の黒色土器または土師器で、現段階で例外はない。材質に関わらず、鉢先端径が10cm以上のものは例外なくaまたはb類で、10cm以下のものはbまたはc類である。

伴出土器から時期別出土傾向を検討すると、西村2期3点中、b類2、c類1で鉢先端径はb類が10cm以上1点、以下1点、c類は10cm以下である。3期はb類2、c類1でb類2点はいずれも10cm以上、c類はc類中最大の9.7cmである。4期はc類2点ありいずれも10cm以下である。そして12世紀には11.5cmを越える大形が出現する。また托上杯の西村例は鉢状突帯直径が9.7cmと径は10cm以下に戻る。

以上、托上椀は11世紀前葉を中心存在し、西村古代2期の出現当初は托部直径が小さいが、次第に大きく変化することを示した。これは土師器にみられる托の出現と推移に連動すると思われる。次に托について触れておきたい。

托は10世紀代の東坂元三の池遺跡例を除き、西村古代2期に出現する。SB104で口径9.5cmである。高台部の形態は椀高台部と同一であり、地域的な初現の様相である。4期には前田東・中村遺跡E区SD19に2点ある。10.8cm、10.9cm。後続する下川津遺跡SD III 03・西打遺跡II SB01で合計4点（10.7、10.8、11.3、11.5cm）、さらに後続する11世紀末～12世紀初頭が川津元結木遺跡SD10、下川津遺跡SD III 75、十瓶山西村遺跡N31・32SD01の合計5点（8.0×2、9.0、9.4、9.5cm）である。つまり出現当初は10cm以下で3期以後に大きくなり4期またはその後統期に最も大型化し、今度は12世紀に向かって小型化するという流れを読み取ることができる。この動きは、上の托上椀・杯とは同一歩調である。

托と托上椀（杯）の推移において次の点が抽出できる。

①金属器や施釉陶器による仏具は貴重品として一般的には流通していないが、地域毎の需要の高まりに応じて土師器や黒色土器で模倣品が創作された。

②県内では県の西部と東部で対象とする器形は共通するが、材質において相違がみられた。東部では黒色土器B類を薄く丁寧に光沢を帯びるほど器面調整し、両面を確実に黒化処理して焼き上げたもので、金属器模倣が想定できる創作法である。一方で西部では黒色土器でも黒化処理に不十分さが残るA類かまたは最初から黒化処理の意図がうかがえない土師器をその材質とした。

③托上椀だけでなく托自体も同一歩調により土師器で創作し、土師器椀と組み合わせて使用されたものとみられる。

④托及び托上椀が出土した遺跡は官衙・寺院関係遺跡に多いが、東坂元秋常遺跡II・旧練兵場遺跡I・川津東山田遺跡Iのように一般集落でも出土する。当遺跡も含め、11世紀以後の集落でそれまで上位階層で行われていた宗教的儀礼が下位層に浸透する過程を示す要素の一つとみられる。

第5節 古代後期の西村遺跡の性格と時代性について

今回の西村遺跡では古代後期の集落の一角を調査した。全体調査ではないので、自ずと集落の性格付けには限界がある。しかし、狭いながらも時期ごとに多くの建物が復元でき、一般的な建物とは異なる

大形の建物が多い点が今回調査の要である。

ここでは、調査場所より広範囲の地形を考察して集落の地形的広がりを推定し、建物の大きさと構造について類例を示して当該集落の性格付けについて考察する。

a) 地形的広がりと幹線道

発掘調査が行われたのは、周知の遺跡である「西村古墳」「清塚古墳」を避け50mほど南の地点である。付近は今でこそ地形がわかりにくいか戦後間もないころの空中写真には南の虎丸丘陵から北に延びる尾根筋の先端付近に当遺跡が立地していることが分かる。

標高8.6～9.6mの範囲に平坦面が広がる。これは今回調査した弥生時代前期河川SR103が埋没しその上面に同前期末ごろの堅穴建物等の遺構が構築され、その後もさらに堆積が進んで水平化が達成された地形面である。ただ今回調査地の北西側には西村古墳に続く細尾根が存在しその南裾部が数回にわたって削平整地が行われた痕跡が確認されたが、当該地より南には水平面が広がっていたものと思われる。そのエリアは東西幅50m、南北200mを最大とする範囲である。それより南は楠谷川が入り組んで地形を制約し、西側は落合遺跡が所在する谷で区切られる。東は楠谷川への傾斜地となる。

調査地から北350mに古代南海道推定線がある。前述したが東かがわ市坪井遺跡で検出した道路遺構を延長したラインと大内町史に示された現字境が東西方向に直線で延びるラインが一直線に揃うことから推定できるラインである。これは江戸時代の讃岐往還絵図にも一部（与田川付近）が一致し、その場所は中世から江戸時代末期まで続いたとされる街道沿いの市（与田の市）が立ち小字地名にもなったエリアである。また当遺跡に最も近い場所に、讃岐往還（江戸期街道）の馬糞所があったと絵図に描かれている。つまり、当遺跡の立地は古代及び中世史においては交通・交易の要衝にあったことが読み取れる。また、与田川・番屋川が近く、海へのアプローチも良好である。

b) 建物の大きさと類例

建物の変遷は先に述べたとおりである。大きさと配置に絞って2・3期を再述する

2期（10世紀後半）

2-1 SB112（身舎2間×5間総柱、1間の南面庇）主屋総面積78m²

2-2 SB108（同構造）総面積88.5m²

2-2 SB104（身舎3間×4間総柱）総面積90m²

3期（11世紀前半古相）

3-1 SB105（2間×7間）総面積67m²

3-2 SB101（主屋2間×5間、1間の西面庇）総面積75m²

3-3 SB102（主屋2間×6間、1間の東面庇）総面積90m² ※さらに付属棟あり

すべてが50m²を越える大形建物である。2期は3棟ともに総柱構造、3期は個柱構造である。付属屋を伴う可能性があるが、調査範囲外であろう。

県内の同様の建物を古代後期から中世前期の時間幅で探ってみる。

1) 高松市前田東中村遺跡E地区SB08屋敷地

80m前後の大形建物に2～3棟の付属棟があり、60m×30mほどの範囲に広がる屋敷地。時期的には10世紀後半から11世紀前半。

西に2町離れた同遺跡C地区SB04屋敷地では区画溝SD09に開まれた範囲に重複する建物配置があるが、いずれも50m未満である。9世紀後半から11世紀前半まで含む。

搬入遺物は縄袖陶器を中心で篠窯須恵器が少量含まれる。

2) 高松市西打遺跡II

約50m四方の範囲を区画溝で開まれた居宅地である。中心部に東西棟の建物がある。本体小屋組み周りに構造的に一体化したと思われる縁が巡る。雨落溝から想定される建物規模は80m前後で大形建物といえる。その周間に2~3棟の付属棟がある。

黒色土器はA類が主体で、搬入品としての楠葉型黒色土器B類が目立つ。その他のB類は数えるほどしかない。B類のみで比率をみると、楠葉が7~8割を占める。時期的には11世紀後半から12世紀前半で白磁等の輸入陶磁器は出土していない。

3) 丸亀市北岸南遺跡

西面庇の南北棟SB01が70m²を有す。付属棟が数棟。12世紀中葉に所属する。

4) 東かがわ市營水中筋遺跡

庇を含めて60m²の建物SB06と70m²のSB08があり、付属棟が数棟ある。13世紀後半でいずれも東西棟である。50m四方の範囲に建物が重複し、その東隣に仏堂と想定できる建物(SB12)や墳墓、宝塚などがまとまる宗教施設区域がある。

13世紀の輸入陶磁器の出土量は目を見張るものがある。越州窯青磁碗が1点含まれ、12世紀中ごろから営為が開始されたものと思われる。当遺跡の近隣にあって、当遺跡の廃絶後に興隆する集落である。

5) 高松市多肥松林遺跡

11区SB01 10世紀後半と思われる大形建物 南北棟58.3m²と40.5m²の複合建物か 合計面積98.8m²。風字硯や墨書き土器、斎串などの祭祀具が出土している。

6) 綾川町西末則遺跡II・V

Vで報告されたJ調査区の東南付近約50m四方の範囲に12世紀後半の建物及び柱穴が密集、重複して存在する。建物復元が十分に行われていないので、明確ではないが、柱穴の並びからみて総面積が50m²を越える建物が少なくとも数棟はある。さらに区画溝で開まれた複数の範囲でそれぞれ建物が何度も建て替えられた様子が窺える。溝出土遺物には12世紀後半の時間幅を大きく逸脱する土器はないので、半世紀あまりの間に一定箇所での営為を継続したものと思われる。屋敷地内の墳墓において最も豊富な副葬品を有すものがあることや瓦や輸入陶磁器・ガラス玉など多数の貴重遺物が出土しており、遺跡内の他の地区と比べ格が高いエリアである。

またIIで報告されたK地区東南付近の建物群も50m²を越える建物が1棟あり、時期は12世紀後半である。J調査区と比べて存続期間が短いためシンプルな建物配置となっており、単純化して示すと中央部30m四方のエリアに核となる居住スペースと、その北部に小区画された鍛冶工房域、西に区画された祠のような宗教施設がある。

7) 坂出市下川津遺跡

第4微高地に展開する複数の建物群がある。主屋を中心に数棟の付属屋で構成するが、主屋は床面積50m²を越えるものはなく20m²代の建物が多い。

以上の類例と比較した場合、今回の西村遺跡の2期(6小期)にわたる建物はいずれも他遺跡における主屋としての大形建物に相当する規模を有すものであった。調査範囲が限られるので全体の建物配置

については比較する材料が整わないが、地形的には東西最大半町、南北最大一町強の面積に建物が配置されている可能性があり、調査範囲外には付属建物などが配されるまとまりの良い施設であることが推測できる。

c) 西村遺跡の建物群の位置づけ

10世紀後半の西村古代2期に所属する東西棟の建物（SB112・SB108）は50mを大きく上回る規模と南面庇の総柱構造で南側に空闊地を伴うといった配置上の特徴から、当該施設の中心となる大形建物であった可能性が高い。その機能は一時的に並存の可能性もある南北棟の総柱構造のSB104に引き継がれ、3期に至って床東のない長大な東西棟の側柱建物SB105に移行する。その後同構造で南北棟の側柱建物SB101へ、そして並存する可能性がある同構造で南に付属屋がある南北棟のSB102に移行する。これらは直前の建物範囲とは重複せず、その前段階の建物の範囲に重複するように建てられている。これは建物がその機能を維持しながら建て替えが繰り返されたことを示しており、約50年にわたってある特定の目的があって建て替え続けられた建物であったと考えられる。

このような大形建物の変遷は9世紀後半に始まる西村1期では小規模な建物が丘陵裾を削平しながら平坦地を広げていく過程が読み取れることと、須恵器転用器を保持すること、また西村2期以降に継続する灰釉陶器が搬入され続けていることから、1期と2期の間に空白期があったとしても近隣においてその営為は継続したとみることができる。また西村4期に金属器生産工房域に移行した後も、11世紀前半新相ごろに灰色包含層で埋没するまで、隣接地に建物が存在したことを示す多くの土器群がある。土器の分布からは漁業にも進出する多角経営であったことがわかる。

西村遺跡の建物施設の主体者はこのようにみると律令体制の変化が生じて一般的に郡衙機能がほぼ停止する9世紀後半ごろから占地を開始し、その後連縫と占拠しつづけ、文房具を必要とする事務処理を継続して行う社会的性格を帯びるに至った有力層であった可能性が高い。出土する土器は供膳具の比率が多いものの、煮沸具や貯蔵具も出土し、土鍤等の生業具も出土することから、検出した大形建物を含む西村遺跡の建物群は公的に特化した施設ではなく、居宅を兼ね、当時の郷を統括するような役割を有した施設とみるのが妥当であろう。中国産磁器や国産施釉陶器、非日常的な仏事に使用する托や托上椀を交易により入手、また入手した金属器廃材等を材料として小形の金属器を加工・生産するなどの経済活動を行い、交易を支配監視可能な場所に立地することで安定した社会的立場を継続し得た主体者像が推定できよう。

今後、国道バイパス沿線における開発が増加することが予測される中で、今回の調査成果を生かしたさらに細やかな埋蔵文化財の保護への取り組みが、地域を培ってきた歴史の解明に寄与することになる。

<参考文献>

- 石井清司 1983 「arkan陪群出土の須恵器について」『京都府埋蔵文化財情報 第7号』財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 石井清司 1995 「arkan須恵器」『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
- 石井清司 2000 「arkanの実年代」『京都府埋蔵文化財論集 第4集 -創立20周年記念誌-』財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 石井則孝 1985 「陶器」ニューサイエンス社
- 泉拓良 1981 「縄文後期の土器—近畿地方の土器—」『縄文文化の研究4』講談社
- 大内町史 編さん委員会 1985 「大内町史」大内町
- 太田陽子 2004 「日本の地形6 近畿・中国・四国」東京大学出版会
- 香川県教育委員会 1982 「国道32号鹿南バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 西村遺跡III」
- 香川県教育委員会 1987 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 矢ノ塚遺跡」
- 香川県教育委員会 1994 「平成5年度香川県土木部道路整備事業に伴う発掘調査報告集、五条遺跡・八丁地遺跡・仲善寺遺跡、西村遺跡」
- 香川県教育委員会 2005a 「県営田舎農業道路拡幅事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 大瀬城跡」
- 香川県教育委員会 2005b 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第55冊 前田東・中村遺跡II」
- 香川県教育委員会 2006a 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第56冊 前田東・中村遺跡III」
- 香川県教育委員会 2006b 「県営高松度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 小山・南谷遺跡II」
- 香川県教育委員会 2007 「香川県農業試験場移転に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 西末則遺跡II」
- 香川県教育委員会 2008a 「県営高松長尾大内道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 尾崎西遺跡」
- 香川県教育委員会 2008b 「一般国道11号坂出丸亀バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊 榆木北遺跡・永井北遺跡・小塚遺跡」
- 香川県教育委員会 2009 「善通寺病院看学校建設及び統合事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 旧練兵場遺跡I」
- 香川県教育委員会 2012 「国道438号道路改修事業(飯山工区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3冊 東坂元秋常遺跡II」
- 香川県教育委員会 2013 「独立行政法人国立病院機構善通寺病院統合事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3冊 旧練兵場遺跡III」
- 香川県教育委員会 2015a 「県道太田上町志度線道路改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 多肥北原西遺跡」
- 香川県教育委員会 2015b 「香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第5冊 西末則遺跡V」
- 香川県教育委員会 2016a 「国道11号大内白鳥バイパス改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第一晉仲戸遺跡・仲戸東遺跡」
- 香川県教育委員会 2016b 「独立行政法人国立病院機構善通寺病院統合事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第7冊 旧練兵場遺跡IV」
- 香川県教育委員会 2016c 「水道第3号投棄場整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 丸山窯跡」
- 香川県教育委員会 2016d 「譜岐城跡I」
- 香川県教育委員会 2017a 「県道白鳥引田線及び大内白鳥インター線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 川北遺跡・住屋遺跡」
- 香川県教育委員会 2017b 「国道11号大内白鳥バイパス改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 賢水中筋遺跡」
- 香川県教育委員会 2017c 「県道太田上町志度線道路改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 太田原高州遺跡2」
- 香川県教育委員会 2017d 「国道3号道路改修事業(飯山工区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第5冊 北岸南遺跡」
- 香川県教育委員会 2019 「譜岐城跡II」
- 香川県教育委員会 2006 「香川県埋蔵文化財センターだより いにしえの譜岐 No.51 特集 譜岐の古代遺跡と南海道」
- 川見典久 2014 「室宣文系分析による和銅の金属組成調査・黒川古文化研究所の所蔵品を中心に-」『古文化研究 黒川古文化研究所紀要13』黒川古文化研究所
- 京都市文化観光局・財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1982 「平安京跡発掘調査報告 昭和56年度」
- 古代の土器研究会 1993 「古代の土器2 郡城の土器集成 II」古代の土器研究会
- (社)別府駿河鉄道記念センター 1990 「櫛沢大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 下川津遺跡」
- (社)別府駿河鉄道記念センター 1992 「中小河川大東改修工事(津ノ郷橋~弘光橋)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 川津元絆木道路」
- (社)別府駿河鉄道記念センター 1995 「高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 前田東・中村遺跡」
- (社)別府駿河鉄道記念センター 1996 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第22冊 川西北・七条II遺跡 川治原遺跡」
- (社)別府駿河鉄道記念センター 1998 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第29冊 龍川五条遺跡II 饭野東分山崎山遺跡」
- (社)別府駿河鉄道記念センター 1999a 「高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 多肥松林遺跡」
- (社)別府駿河鉄道記念センター 1999b 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第32冊 中間西井坪遺跡II」
- (社)別府駿河鉄道記念センター 1999c 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第33冊 川津川西遺跡・飯山一本松遺跡」
- (社)別府駿河鉄道記念センター 2000a 「県道改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 八丁地遺跡・本村・横内遺跡」

- (財) 国際埋蔵文化財センター
2000b 「空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第4冊 空港跡地遺跡IV」
- (財) 国際埋蔵文化財センター
2000c 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第38冊 川津東山田遺跡I」
- (財) 国際埋蔵文化財センター
2000d 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第36巻 金見羅山遺跡I、塔の山遺跡、庵の谷道路」
- (財) 国際埋蔵文化財センター
2001 「国道193号改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第193号 岡清水遺跡」
- (財) 国際埋蔵文化財センター
2002a 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第39冊 原間遺跡I」
- (財) 国際埋蔵文化財センター
2002b 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第42冊 原間遺跡II」
- (財) 国際埋蔵文化財センター
2002c 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第43冊 楠浦道路」
- (財) 国際埋蔵文化財センター
2002d 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第40冊 坂井道路」
- (財) 国際埋蔵文化財センター
2002e 「サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 西打道跡II」
- (財) 国際埋蔵文化財センター
2004a 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第48冊 大山遺跡・中谷道路・楠谷道路」
- (財) 国際埋蔵文化財センター
2004b 「県道高松久礼線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 田村遺跡」
- (財) 国際埋蔵文化財センター
2004c 「サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第6冊 浜ノ町遺跡」
- (財) 国際埋蔵文化財センター
2004d 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第47冊 成重遺跡I」
- (財) 高知県文化財団
埋蔵文化財センター 2003 「高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第86集 居慈道跡群V」
- (財) 白鳥県
埋蔵文化財センター 2006 「徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第63集 矢野遺跡(Ⅲ)(弥生・古代編)」
- 唐藤孝正 2000 「日本の美術 6 №.409 越州陪都と銀軸・灰釉器」至文堂
- 佐藤竜馬 1994 「十輪古跡群の分布に関する一試考」『新日本考古学研究会』研究紀要 II 〈新日本考古学研究会編〉
- 沢井 静芳・六車 功 1980 「一般国道32号線ハイバス建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告 西村遺跡」香川県教育委員会
- 清水康二 2010 「佐渡銅伝来~二元高錫青銅容器の來た道~」「アジアの高錫青銅器~製作技術と地域成~ 平成22年度 独立法人日本学術振興会 国際研究集会』富山大学芸術文化学部
- 白鳥町教育委員会 2002 「白鷹寺 成重遺跡 植櫛埴立塚 白鳥町内所在位置発掘調査報告書」
- 下向井龍彦 2001 「日本の歴史 06 武士の成長と院政」講談社
- 高橋照彦 2012 「篆文の変遷での位置」『篆文群谷大3号室の研究』大阪大学文学研究科考古学研究室
- 高松市教育委員会 1996 「高松市埋蔵文化財調査報告第31集 松林遺跡 香川県立高松桜井高校周辺通路整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」
- 武田和昭 2005 「伊豫僧正 善通寺創建1200年記念出版」紀本山善通寺
- 太宰府市教育委員会 2000 「大宰府奈坊跡XV ～陶器分類編～」太宰府市教育委員会
- 田中広明 2007 「古墳の官衙や集落と開拓」『研究紀要 第22号』財团法人堀玉県埋蔵文化財調査事業団
- 田中 慎 1967 「播磨姫の地頭原家人について」『實月主吉先生還暉記念会編』日本社会経済史研究 古代中世編』吉川弘文館
- 千葉幸伸 1981 「平安後期岐古瓦の地方的様相」『瀬戸内海歴史民俗資料館年報 第6号』瀬戸内海歴史民俗資料館
- 独立行政法人文化財研究所
奈良文化財研究所 1992 「飛鳥と飛鳥 延喜式」
- 独立行政法人文化財研究所
奈良文化財研究所 2002 「山田寺発掘調査報告・奈良文化財研究所学報63号」
- 独立行政法人文化財研究所
奈良文化財研究所 2002 「土佐佐田町埋蔵文化財発掘調査報告書 第27集 い野南山ノ遺跡・製鉄関連遺跡確認調査報告書」
- 土佐山田町教育委員会 2002 「現代のインド、韓国における高錫青銅器の加工と熱処理－熱間加工温度と熱処理温度の調査報告－」『アジアの高錫青銅器－製作技術と地城成－ 平成22年度 独立法人日本学術振興会 国際研究集会』富山大学芸術文化学部
- 植崎彰一 1982 「日本古代の陶現－くに分類について－」『考古学論考 小林行雄博士古稀記念論文集』平凡社
- 野市町教育委員会 2000 「野市町埋蔵文化財発掘調査報告書第1集 下ノ坪遺跡Ⅲ」高知
- 野口華世 2005 「安楽寺院と高食家・東京大学史料編纂所蔵『安楽寺院文書』の紹介」『東京大学史料編纂所研究紀要 第15号』東京大学史料編纂所
- 兵庫県教育委員会 1988 「中尾城跡」
- 広瀬和雄 1989 「畿内の古代集落」『国立歴史民俗博物館研究報告 第22集 共同研究「古代の集落」』国立歴史民俗博物館
- 松澤和人・河合君近 1995 「古代末期灰陶器調査報告(下)」『財团法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第3輯』
- 松本和彦 2004 「大山道路・守尾千軒」「大山道路・中谷道路・楠谷道路・四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第48冊(上)」「香川県埋蔵文化財調査センター」
- まんのう町教育委員会 2007 「まんのう町内遺跡発掘調査報告書第3集 中寺庵寺跡」
- 三船温尚 2010 「現代アジアの高錫青銅器製作技術の比較」「アジアの高錫青銅器－製作技術と地城成－ 平成22年度 独立法人日本学術振興会 国際研究集会』富山大学芸術文化学部
- 村田和弘ほか 2014 「共同研究 美濃山城出土の古代銅製品に関する研究－瑠璃反覆八花鏡を中心として－」『京都府埋蔵文化財情報第124号』公益財团法人 京都府埋蔵文化財調査センター
- 森隆 1990 「西日本の黒色土器生産(上)」「考古学研究 第37卷第2号」考古学研究会
- 森隆 1990 「西日本の黒色土器生産(中)」「考古学研究 第37卷第3号」考古学研究会
- 森隆 1991 「西日本の黒色土器生産(下)」「考古学研究 第37卷第4号」考古学研究会

- 山下峰司 1995 「灰釉陶器・山茶碗」『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
- 横田賢次郎 1983 「福岡県内の鏡について－分類と編年に関する一試案－」『九州歴史資料館研究論集 9』九州歴史資料館
- 吉田恵二 1985 「日本古代陶鏡の特質と系譜」『國學院大學考古学資料館紀要 第1輯』國學院大學考古学資料館
- 綾南町教育委員会 1994 「十歳山窯跡群すべつと支群－綾南町総合運動公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査－」
- 綾南町教育委員会 2000 「県営ため池等整備事業（再編総合整備形）綾南南部地区工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業Ⅰ 田所深池窯跡』

第21表 西村通路出土土器觀察表(1)

番号	調査区	遺構名	解説等	出土位置	種類	器種	文様・調査			色調			船形	内面	外側	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口沿	器高	底径	その他	現存率	備考
							外面	内面	器種	外側	内面	表面													
1	32	SH01	K1	P-146	土師器	盤	+	+	+	10YR7.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR7.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR7.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	中・並	-	-	-	105	134	-	10YR7.4 12.5Y5.0	6.8				
2	32	SH01	(1)上層	東生土器	要	竹・網目	+	+	+	10YR7.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR7.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR7.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	中・並	-	-	-	6.8	-	-	1.8					
3	32	SH01	(1)上層	东生土器	要	竹・網目	+	+	+	10YR7.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR7.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR7.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	中・並	-	-	-	-	-	-	1.8	未調				
4	32	SH01	(4)	P-95	土師器	盆	+	+	+	10YR6.6 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR6.6 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR6.6 12.5Y5.0 12.5Y5.0	中・並	-	-	-	(19.0)	-	-	-	1.8				
5	32	SH01	(2)東西 トレンド	P-96	土師器	盆	網目+え・+竹	+	+	10YR7.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR7.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR7.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	中・並	-	-	-	(17.7)	-	-	-	3.8				
6	32	SH01	(2)上層	P-98	土師器	盆	網目+え・+竹	+	+	25Y 6.2 10Y 7.4 12.5Y 5.0	25Y 7.4 10Y 7.4 12.5Y 5.0	25Y 7.4 10Y 7.4 12.5Y 5.0	粗・黄	-	-	-	(10.0)	4.3	-	-	3.8				
7	32	SH01	K1	P-147	土師器	盆	網目+え・+竹	+	+	25Y 7.3 10Y 7.4 12.5Y 5.0	25Y 7.3 10Y 7.4 12.5Y 5.0	25Y 7.3 10Y 7.4 12.5Y 5.0	粗・黄	-	-	-	(10.9)	5.5	-	-	6.8				
8	32	SH01	K1a	P-148	土師器	盆	網目+え・+竹	+	+	10YR6.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR6.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR6.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	中・並	-	-	-	10.4	6.4	-	-	6.8				
9	32	SH01	(1)下層	P-149	土師器	盆	網目+え・+竹	+	+	10YR7.6 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR7.6 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR7.6 12.5Y5.0 12.5Y5.0	中・並	-	-	-	-	-	-	-	7.8				
10	32	SH01	(1)S層 積起	P-157	土師器	盆	網目+え・+竹	+	+	10YR7.6 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR7.6 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR7.6 12.5Y5.0 12.5Y5.0	中・並	-	-	-	(15.3)	-	-	-	1.8				
11	32	SH01	(1)F層 積起	P-156	土師器	盆	網目+え・+竹 (1)F層 現状)	+	+	10YR7.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR7.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR7.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	中・並	-	-	-	中・少	2.1	5.2	29	-	7.8	口輪部地痕刷毛孔		
12	22	SH01	SPI8	P-5	土師質土器	足湯	網目+え・+竹	+	+	10YR6.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR6.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR6.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	中・並	-	-	-	中・少	(14.3)	-	-	-	3.8	剛筋		
13	22	SH01	SPI9	P-5	土師質土器	足湯	網目+え・+竹	+	+	10YR6.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR6.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR6.4 12.5Y5.0 12.5Y5.0	中・並	-	-	-	中・少	(23.3)	-	-	-	1.8	剛筋		
14	22	SH01	SPI13	P-5	青磁	碗	施釉	施釉	施釉	25Y 7.4 10Y 6.6 12.5Y 5.0	25Y 7.4 10Y 6.6 12.5Y 5.0	25Y 7.4 10Y 6.6 12.5Y 5.0	施上・ カリ一様	-	-	-	無	(16.8)	-	-	-	1.8			
15	14	SK03	トレンド	P-153	土師質土器	盆	網目+え・+竹 (1)F層 現状)	+	+	10YR6.6 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR6.6 12.5Y5.0 12.5Y5.0	10YR6.6 12.5Y5.0 12.5Y5.0	中・並	-	-	-	中・少	-	-	-	1.8	未調			
16	14	SK03	南半部 中層	P-5	土師質土器	船形	網目+え・+竹	+	+	10YR4.2 12.5Y 5.4 12.5Y 5.4	10YR4.2 12.5Y 5.4 12.5Y 5.4	10YR4.2 12.5Y 5.4 12.5Y 5.4	船形	-	-	-	中・少	(40.0)	-	-	-	1.8			
17	14	SK03	南半部	P-5	陶器	小鉢	施釉	施釉	施釉	25Y 6.3 10Y 6.6 12.5Y 5.0	25Y 6.3 10Y 6.6 12.5Y 5.0	25Y 6.3 10Y 6.6 12.5Y 5.0	施上・ カリ一様	-	-	-	無	(11.4)	-	-	-	1.8	地痕		
18	14	SK04	(2)	P-5	土師質土器	要	竹・網目	網目+え・+竹	網目+え・+竹	10YR6.6 12.5Y 5.4 12.5Y 5.4	10YR6.6 12.5Y 5.4 12.5Y 5.4	10YR6.6 12.5Y 5.4 12.5Y 5.4	網目+え・+竹	-	-	-	中・多	-	-	-	(13.0)	-			
20	14	SK07	P-5	土師質土器	要	竹・網目	網目+え・+竹	網目+え・+竹	網目+え・+竹	10YR6.6 12.5Y 5.4 12.5Y 5.4	10YR6.6 12.5Y 5.4 12.5Y 5.4	10YR6.6 12.5Y 5.4 12.5Y 5.4	網目+え・+竹	-	-	-	細・少	-	-	-	-	1.8			
21	14	SK08	西半部 1層	P-5	土師質土器	要	竹・網目	網目+え・+竹	網目+え・+竹	10YR6.2 12.5Y 6.2 12.5Y 6.2	10YR6.2 12.5Y 6.2 12.5Y 6.2	10YR6.2 12.5Y 6.2 12.5Y 6.2	網目+え・+竹	-	-	-	細・少	-	-	-	-	1.8	未調		
22	14	SK08	西半部 1層	P-5	発生	碗	施釉	施釉	施釉	透明 NSW白	透明 NSW白	透明 NSW白	施釉	-	-	-	無	(6.9)	-	-	-	3.8	地痕		
23	14	SK08	1層	P-5	発生	皿	施釉	施釉	施釉	25Y 8.1.18E2 8.1.18E2	25Y 8.1.18E2 8.1.18E2	25Y 8.1.18E2 8.1.18E2	施釉	-	-	-	細・少	(12.7)	3.9	4.6	-	4.8	地痕		
24	14	SK08	1層	P-5	発生	皿	施釉	施釉	施釉	25Y 8.1.18E2 8.1.18E2	25Y 8.1.18E2 8.1.18E2	25Y 8.1.18E2 8.1.18E2	施釉	-	-	-	細・少	(12.2)	3.3	(4.6)	-	3.8	地痕		

第22表 西村遺跡出土土器観察表(2)

番号	調査区	遺物名	層位等	位置	種類	形態	文様・調整		色調		輪上		法量(cm)		内容	備考		
							外面	内面	外側	内側	石英	ホウ素	角閃石	雲母	砂粒			
25	1-2	SX08	西半	甕付	乳頭	施釉	8.1	白	8.1	白	8.1	白	7.3	-	-	-	7.8 肥前系	
26	1-2	SX08	西半部1層	周器	陶	施釉	8.1	白	8.1	白	8.1	白	7.3	-	-	-	6.8 肥前系	
27	1-2	SX08	西半	周器	陶	施釉	8.1	白	8.1	白	8.1	白	7.3	-	-	-	7.8 肥前系	
28	1-2	SX08	西半部1層	周器	陶	施釉(直貫入)	8.4	白	8.4	白	8.4	白	7.4	2.5	Y.4	-	5.8 肥前系	
29	1-2	SX08	周器	陶	施釉(直貫入)	8.4	白	8.4	白	8.4	白	7.4	2.5	Y.4	-	5.8 肥前系		
30	1-2	SX08	西半	周器	陶	施釉	8.3	白	8.3	白	8.3	白	7.5	-	-	-	5.8 肥前系	
31	1-2	SX08	西半	朱付器皿	陶	施釉	8.3	白	8.3	白	8.3	白	7.5	-	-	-	5.8 肥前系	
32	1-2	SX08	1層	周器	陶	施釉(直貫入)	8.4	白	8.4	白	8.4	白	7.4	2.5	Y.4	-	5.8 肥前系	
33	1-2	SX08	西半	周器	陶	施釉	8.4	白	8.4	白	8.4	白	7.5	2.5	Y.4	-	5.8 肥前系	
34	1-2	SX08	西半部1層	周器	陶	施釉	8.4	白	8.4	白	8.4	白	7.5	2.5	Y.4	-	5.8 肥前系	
35	1-2	SX08	周器	陶	施釉	8.4	白	8.4	白	8.4	白	7.5	2.5	Y.4	-	5.8 肥前系		
36	1-2	SX08	1層	周器	陶	施釉	8.4	白	8.4	白	8.4	白	7.5	2.5	Y.4	-	5.8 肥前系	
37	1-2	SX08	西半	周器	陶	施釉	8.4	白	8.4	白	8.4	白	7.5	2.5	Y.4	-	5.8 肥前系	
38	1-2	SX08	西半	周器	陶	施釉	8.4	白	8.4	白	8.4	白	7.5	2.5	Y.4	-	5.8 肥前系	
39	1-2	SX08	西半部1層	周器	陶	施釉	8.4	白	8.4	白	8.4	白	7.5	2.5	Y.4	-	5.8 肥前系	
40	1-2	SX08	西半	輪	陶	施釉	8.4	白	8.4	白	8.4	白	7.5	2.5	Y.4	-	5.8 肥前系	
41	1-1	S007	③上層	P-13	周器	陶	施釉	8.4	白	8.4	白	8.4	白	7.5	2.5	Y.4	-	5.8 肥前系
42	1-2	S007	④下層	P-22	甕付	陶	施釉	8.4	白	8.4	白	8.4	白	7.5	2.5	Y.4	-	5.8 肥前系
43	1-1	S007	2-4層	P-23	甕付	陶	施釉	8.4	白	8.4	白	8.4	白	7.5	2.5	Y.4	-	5.8 肥前系
44	1-1	S007	中層	P-12	甕付	陶	施釉	8.4	白	8.4	白	8.4	白	7.5	2.5	Y.4	-	5.8 肥前系
45	1-1	S007	②上層	P-25	甕付	陶	施釉	8.4	白	8.4	白	8.4	白	7.5	2.5	Y.4	-	5.8 肥前系
46	1-2	S007	上層	P-25	甕付	陶	施釉	8.4	白	8.4	白	8.4	白	7.5	2.5	Y.4	-	5.8 肥前系

第23表 西村遺跡出土土器觀察表(3)

番号	調査区 番号	遺物名	層位等	位置	種類	器種	外觀				内觀				色調				測定				備考
							前面	側面	背面	底面	前面	側面	背面	底面	内面	前面	側面	背面	内面	前面	側面	背面	
47	1-1	S607	⑤中層	P-20	罐	口沿	圓柱形	輪轉	輪轉	輪轉	直口	直口	直口	直口	米白色	-	-	-	65.5	3.8	(2.7)	-	4.8
48	22	2.5K S601	下層	P-119 P-120 P-125	学生土器	要	橫口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	米白色 淡黃褐色	-	-	-	103.9	32.2	7.5	-	7.8
49	22	2.5K S601	下層	P-119	学生土器	要	橫口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	米白色 淡黃褐色	-	-	-	103YRS-3.1	中-深	-	-	1.8
50	22	2.5K S601	下層	P-119	学生土器	要	橫口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	米白色 淡黃褐色	-	-	-	103YRS-2	中-深	-	-	4.8
51	22	2.5K S601	下層	P-160	学生土器	要	橫口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	米白色 淡黃褐色	-	-	-	103YRS-2.3	中-深	-	-	4.8
52	24	2.5K S601	中層	P-76	学生土器	要	橫口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	米白色 淡黃褐色	-	-	-	103YRS-2.3	中-深	-	-	6.8
53	24	2.5K S601	下層	P-89	学生土器	要	圓筒形	2条縫	2条縫	2条縫	直口	直口	直口	直口	米白色 淡黃褐色	-	-	-	103YRS-2.3	中-深	-	-	7.8
54	22	2.5K S601	中層	P-119	学生土器	要	橫口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	米白色 淡黃褐色	-	-	-	103YRS-2.3	中-深	-	-	7.8
55	22	2.5K S601	中層	P-119	学生土器	要	橫口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	米白色 淡黃褐色	-	-	-	103YRS-2.3	中-深	-	-	7.8
56	22	2.5K S601	下層	P-121	学生土器	要	橫口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	米白色 淡黃褐色	-	-	-	103YRS-2.3	中-深	-	-	7.8
57	22	2.5K S601	下層	P-122	学生土器	要	圓筒形	2条縫	2条縫	2条縫	直口	直口	直口	直口	米白色 淡黃褐色	-	-	-	103YRS-2.3	中-深	-	-	7.8
58	22	2.5K S601	下層	P-119	学生土器	要	橫口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	米白色 淡黃褐色	-	-	-	103YRS-2.3	中-深	-	-	3.8
59	22	2.5K S601	下層	P-167	学生土器	要	橫口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	米白色 淡黃褐色	-	-	-	103YRS-2.3	中-深	-	-	1.8
60	22	2.5K S601	下層	P-166	学生土器	要	圓筒形	2条縫	2条縫	2条縫	直口	直口	直口	直口	米白色 淡黃褐色	-	-	-	103YRS-2.3	中-深	-	-	2.8
61	24	2.5K S601	中層	P-84	学生土器	要	橫口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	米白色 淡黃褐色	-	-	-	103YRS-2.3	中-深	-	-	3.8
62	24	2.5K S601	中層	P-81	学生土器	要	橫口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	米白色 淡黃褐色	-	-	-	103YRS-2.3	中-深	-	-	2.8
63	22	2.5K S601	下層	P-119	学生土器	要	橫口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	米白色 淡黃褐色	-	-	-	103YRS-2.3	中-深	-	-	3.8
64	24	2.5K S601	中層	P-39	学生土器	要	橫口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	米白色 淡黃褐色	-	-	-	103YRS-2.3	中-深	-	-	5.8
65	22	2.5K S601	下層	P-119	学生土器	要	橫口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	米白色 淡黃褐色	-	-	-	103YRS-2.3	中-深	-	-	2.8
66	22	2.5K S601	中層	P-152	学生土器	要	橫口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	直口	米白色 淡黃褐色	-	-	-	103YRS-2.3	中-深	-	-	2.8

第24表 西村遺跡出土土器觀察表(4)

番号	調査区	通称名	層位等	出土	位置	種類	形態	文様・調整		外圓	内圓	石基	角閃石	黒母	砂粒	口径	體高	底径	その他	測量(cm)	測量	備考	
								外側	内側														
67	2.5	S801	下層	赤土	赤土罐	钵	輪形・指揮 輪形・指揮 輪形・指揮	輪形・指揮 輪形・指揮	10YR7.4 12.5-13.5黄褐色	中・並	少	-	-	(30.0	-	-	-	-	-	-	1.8	口部磨耗	
68	2.5	S801	下層	P-117	赤土土器	罐	輪形・指揮 輪形・指揮	輪形・指揮	25Y5/4 12.5-13.5黄褐色	中・少	中・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.8	口部磨耗
69	3.1	S801	中國北半	P-69	赤土土器	高杯	輪形・指揮 輪形・指揮	輪形・指揮	10YR6.4 12.5-13.5黄褐色	中・多	中・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8
70	2.5	S801	中國北半	P-73	赤土土器	高杯	輪形・指揮 輪形・指揮	輪形・指揮	10YR7.3 12.5-13.5黄褐色	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8
71	2.5	S801	中國北半	P-73	赤土土器	高杯	輪形・指揮 輪形・指揮	輪形・指揮	10YR5.3 12.5-13.5黄褐色	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8
72	2.5	S801	中國北半	P-71	赤土土器	高杯	輪形・指揮	輪形・指揮	10YR6.2 12.5-13.5黄褐色	中・少	中・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.8
73	2.5	S801	上層・中國	P-103	土陶器	壺	輪形・指揮 輪形・指揮	輪形・指揮	25Y5E.6相 12.5-13.5相	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8
74	2.5	S801	上層南半	P-58	土陶器	壺	輪形・指揮	輪形・指揮	10YR7.4 12.5-13.5黄褐色	中・並	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8
75	2.5	S801	中層	P-139	土陶器	壺	輪形・指揮	輪形・指揮	10YR7.4 12.5-13.5黄褐色	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8
76	2.5	S801	上層	P-108	土陶器	壺	輪形・指揮	輪形・指揮	10YR6.6 12.5-13.5黄褐色	中・少	中・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8
77	2.5	S801	上層南半	P-101	土陶器	壺	輪形・指揮	輪形・指揮	75YR6.6相 12.5-13.5相	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8
78	2.5	S801	上層北半	P-56	土陶器	壺	輪形・指揮 輪形・指揮	輪形・指揮	10YR6.4 12.5-13.5黄褐色	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.8
79	2.5	S801	中層	P-136	土陶器	壺	輪形・指揮	輪形・指揮	10YR7.4 12.5-13.5黄褐色	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.8
80	2.5	S801	上層南半	P-55	土陶器	壺	輪形・指揮	輪形・指揮	10YR5.3 12.5-13.5黄褐色	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8
81	2.5	S801	中層	P-72	土陶器	壺	輪形・指揮	輪形・指揮	10YR7.2 12.5-13.5黄褐色	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.8
82	2.5	S801	2中層	P-137	土陶器	壺	輪形・指揮	輪形・指揮	10YR6.4 12.5-13.5黄褐色	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.8
83	2.5	S801	中層	P-107	土陶器	壺	輪形・指揮	輪形・指揮	10YR6.2 12.5-13.5黄褐色	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8
84	2.5	S801	上層	P-101	土陶器	壺	輪形・指揮	輪形・指揮	10YR7.3 12.5-13.5黄褐色	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8
85	2.5	S801	上層	P-101	土陶器	壺	輪形・指揮	輪形・指揮	10YR6.3 12.5-13.5黄褐色	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.8
86	2.5	S801	1上層	P-35	土陶器	壺	輪形・指揮	輪形・指揮	10YR7.3 12.5-13.5黄褐色	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8
87	2.5	S801	上層北半	P-65	土陶器	壺	輪形・指揮	輪形・指揮	75YR6.4 12.5-13.5黄褐色	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8
88	2.5	S801	上層北半	P-51	土陶器	壺	輪形・指揮	輪形・指揮	75YR8.6 12.5-13.5黄褐色	中・少	中・少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.8
89	2.5	S801	上層北半	P-49	土陶器	壺	輪形・指揮	輪形・指揮	75YR2.1 12.5-13.5相	中・並	少	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.8

第25表 西村通路出土土器觀察表(5)

番号	調査区	遺物名	解説等	出土位置	種類	器種	外觀			内觀			色調			法量(cm)	保存率	備考
							外觀	内觀	外觀	内觀	外觀	内觀	白灰	赤褐色	青銅石	黒母	砂粒	口沿
90	21	2.5cm 北半周 P82	土陶器	直筒 横縫 斜縫 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面 側面 側面	縫合 縫合 縫合 縫合 縫合	縫合 縫合 縫合 縫合 縫合	10YR8.3 10YR8.3 10YR8.3 10YR8.3 10YR8.3	10YR8.3 10YR8.3 10YR8.3 10YR8.3 10YR8.3	直 直 直 直 直	少 少 少 少 少	-	(10.8)	-	-	-	2.8
91	21	2.5cm 中周 P34	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR8.3 10YR8.3 10YR8.3	10YR8.3 10YR8.3 10YR8.3	直 直 直	少 少 少	-	(2.7)	4.6	1.8	-	5.8
92	22	2.5cm 上層 P109	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR6.3 10YR6.3 10YR6.3	10YR6.3 10YR6.3 10YR6.3	黒 黒 黒	少 少 少	-	(18.2)	-	-	-	6.8
93	21	2.5cm 下部 P87	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR6.4 10YR6.4 10YR6.4	10YR6.4 10YR6.4 10YR6.4	中 中 中	少 少 少	-	(15.2)	-	-	-	2.8
94	21	2.5cm 中層 P70	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR7.4 10YR7.4 10YR7.4	10YR7.4 10YR7.4 10YR7.4	中 中 中	少 少 少	-	(13.1)	-	-	-	7.8
95	21	2.5cm 中層 P66	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR4.3 10YR4.3 10YR4.3	10YR4.2 10YR4.2 10YR4.2	中 中 中	多 多 多	(11.6)	14.9	-	-	-	6.8
96	21	2.5cm 中層 P74	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR7.3 10YR7.3 10YR7.3	10YR7.4 10YR7.4 10YR7.4	中 中 中	少 少 少	-	(12.2)	12.6	-	-	4.8
97	21	2.5cm 上層 P54	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR6.3 10YR6.3 10YR6.3	10YR6.3 10YR6.3 10YR6.3	中 中 中	少 少 少	-	(14.6)	-	-	-	5.8
98	22	2.5cm 下層 P128	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR7.4 10YR7.4 10YR7.4	10YR7.4 10YR7.4 10YR7.4	中 中 中	少 少 少	-	(13.4)	12.1	-	-	7.8
99	21	2.5cm 下層 P86	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR5.2 10YR5.2 10YR5.2	10YR3.1 10YR3.1 10YR3.1	中 中 中	多 多 多	-	-	-	-	-	7.8
100	21	2.5cm 上層 P61	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR6.3 10YR6.3 10YR6.3	10YR7.4 10YR7.4 10YR7.4	中 中 中	少 少 少	-	(12.9)	-	-	-	2.8
101	21	2.5cm 下部 P94	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR7.3 10YR7.3 10YR7.3	10YR7.3 10YR7.3 10YR7.3	中 中 中	少 少 少	-	(8.3)	4.05	-	-	7.8
102	22	2.5cm 下層 P118	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR8.4 10YR8.4 10YR8.4	10YR8.4 10YR8.4 10YR8.4	中 中 中	少 少 少	-	(15.6)	-	-	-	2.8
103	22	2.5cm 中層 P150	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR2.9 10YR2.9 10YR2.9	10YR7.4 10YR7.4 10YR7.4	中 中 中	多 多 多	(7.7)	5.6	-	-	-	8.8
104	22	2.5cm 中層 P164	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR7.3 10YR7.3 10YR7.3	10YR5.2 10YR5.2 10YR5.2	中 中 中	少 少 少	-	(13.5)	3.4	-	-	8.8
105	22	2.5cm 下層 P163	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR8.3 10YR8.3 10YR8.3	10YR8.3 10YR8.3 10YR8.3	中 中 中	少 少 少	-	(13.1)	2.3	(6.0)	-	2.8
106	21	2.5cm 上層 P145	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR7.2 10YR7.2 10YR7.2	10YR7.2 10YR7.2 10YR7.2	中 中 中	少 少 少	-	(15.9)	11.9	10.6	-	4.8
107	21	2.5cm 上層 P42	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR8.1 10YR8.1 10YR8.1	10YR8.1 10YR8.1 10YR8.1	中 中 中	少 少 少	-	(15.0)	-	-	-	4.8
108	21	2.5cm 上層 P40	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR7.4 10YR7.4 10YR7.4	10YR7.4 10YR7.4 10YR7.4	中 中 中	多 多 多	(13.7)	-	-	-	-	3.8
109	21	2.5cm 上層 P301	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR7.4 10YR7.4 10YR7.4	10YR7.4 10YR7.4 10YR7.4	中 中 中	少 少 少	-	(12.8)	-	-	-	2.8
110	22	2.5cm 上層 P302	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR7.3 10YR7.3 10YR7.3	10YR7.3 10YR7.3 10YR7.3	中 中 中	少 少 少	-	(14.2)	-	-	-	3.8
111	21	2.5cm 中層 P130	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR7.4 10YR7.4 10YR7.4	10YR7.4 10YR7.4 10YR7.4	中 中 中	少 少 少	-	(13.7)	-	-	-	4.8
112	21	2.5cm 上層 S801	土陶器	直筒 縫合縫 縫合縫	直筒	側面 側面 側面	側面 側面 側面	側面 側面 側面	10YR8.6 10YR8.6 10YR8.6	10YR8.6 10YR8.6 10YR8.6	中 中 中	少 少 少	-	(22.6)	-	-	-	2.8

第26表 西村遺跡出土土器觀察表(6)

番号	調査区	通称名	層位等	出土	種類	形態	文様・調整		外觀	内面	石英 長石 斜長石	赤色粒 角閃石 黒母	粒径	口径 底高 底径	法量(cm)	内存率	備考
							外側	内側									
113	24	SR01	中層南半	土器	高杯	側面	無	無	10Y96.3 12.5cm×1.5cm 直壁	10Y96.3 12.5cm×1.5cm 直壁	-	-	-	中・少 (18.4)	-	2.8	
114	24	SR01	高K P.372.3層 P.92	土器	P.89.1	高杯	網毛目後付	無	10Y97.4 12.5cm 直壁	10Y97.4 12.5cm 直壁	-	-	-	粗・多 (17.6)	-	4.8	
115	24	SR01	中層	土器	P.130	高杯	板面・側底 側面	無	10Y98.3 12.5cm 直壁	10Y98.3 12.5cm 直壁	-	-	-	粗・少 (13.8)	-	3.8	
116	24	SR01	① トレンチ	土器	高杯	側面	無	無	10Y98.4 12.5cm 直壁	10Y98.4 12.5cm 直壁	-	-	-	粗・少 (6.2)	-	4.8	
117	24	SR01	中層	土器	P.143	高杯	側面	無	10Y97.2 12.5cm 直壁	10Y97.2 12.5cm 直壁	-	-	-	粗・少 (10.4)	-	3.8	
118	24	SR01	上層南半	土器	P.47	高杯	側面・側底 側面	無	10Y96.5 12.5cm 直壁	10Y96.5 12.5cm 直壁	-	-	-	粗・少 (6.1)	-	3.8	
119	24	SR01	②中層	土器	P.46	高杯	側面・側底 側面	無	10Y97.3 12.5cm 直壁	10Y97.3 12.5cm 直壁	-	-	-	粗・少 (12.1)	-	4.8	
120	24	SR01	上層南半	土器	P.52	高杯	側面・側底 側面	無	10Y96.4 12.5cm 直壁	10Y96.4 12.5cm 直壁	-	-	-	粗・少 (0.6)	-	3.8	
121	24	SR01	上層北半	P.41	土器	高杯	側面	無	10Y97.3 12.5cm 直壁	10Y97.3 12.5cm 直壁	-	-	-	粗・多 (10.3)	-	4.8	
122	24	SR01	上層北半	P.43	土器	高杯	側面	無	10Y97.4 12.5cm 直壁	10Y97.4 12.5cm 直壁	-	-	-	粗・少 (6.8)	-	4.8	
123	24	SR01	中層	土器	P.55	高杯	側面	無	10Y97.6 12.5cm 直壁	10Y97.6 12.5cm 直壁	-	-	-	粗・少 (7)	-	3.8	
124	24	SR01	中層南半	土器	P.56	高杯	側面・側底 側面	無	10Y95.3 12.5cm 直壁	10Y95.3 12.5cm 直壁	-	-	-	中・少 (4.3)	-	2.8	
125	24	SR01	中層	P.32	須世器	杯身	側面	無	10N.4 12.5cm 直壁	10N.4 12.5cm 直壁	-	-	-	中・少 (15.0)	-	2.8	
126	24	SR01	中層	P.34	須世器	杯身	側面	無	10N.4 12.5cm 直壁	10N.4 12.5cm 直壁	-	-	-	中・少 (15.1)	-	1.8	
128	24	SR04	下層	P.173	承生土器	要	無	無	10Y98.3 12.5cm 直壁	10Y98.3 12.5cm 直壁	粗・多 少	中・少 (21.0)	-	-	2.8		
129	24	SR04	下層	P.174	承生土器	要	芝	無	10Y95.2 12.5cm 直壁	10Y95.2 12.5cm 直壁	-	-	-	粗・少 (7.0)	-	2.8	
130	24	SR04	下層	P.175	承生土器	要	無	無	10Y95.1 12.5cm 直壁	10Y95.1 12.5cm 直壁	-	-	-	粗・少 (7.0)	-	2.8	
131	24	SR04	西壁4.5層 柱芯	P.176	承生土器	要	無	無	10Y97.4 12.5cm 直壁	10Y97.4 12.5cm 直壁	粗・多	-	-	粗・少 (7.0)	-	2.8	
132	24	SR04	下層	P.177	承生土器	要	無	無	10Y97.4 12.5cm 直壁	10Y97.4 12.5cm 直壁	-	-	-	粗・少 (7.0)	-	2.8	
133	24	SR04	下層	P.178	承生土器	要	無	無	10Y97.4 12.5cm 直壁	10Y97.4 12.5cm 直壁	-	-	-	粗・少 (7.0)	-	2.8	
134	34	SR01	①下層	承生土器	要	無	無	無	10Y.7.2 12.5cm 直壁	10Y.7.2 12.5cm 直壁	-	-	-	粗・少 (5.7)	-	3.8	
135	34	SR01	②中層	承生土器	要	無	無	無	10Y.7.3 12.5cm 直壁	10Y.7.3 12.5cm 直壁	-	-	-	粗・少 (7.0)	-	3.8	
136	34	SR01	③下層	承生土器	要	無	無	無	10Y.7.3 12.5cm 直壁	10Y.7.3 12.5cm 直壁	-	-	-	粗・少 (7.0)	-	3.8	

第27表 西村遺跡出土土器観察表(7)

番号	調査区	遺物名	層位等	出土位置	種類	器種	文様・調査		色調		土器		法量(cm)	備考
							外側	内側	外側	内側	口径	蓋高		
137	3区 S8901	①上層	生土器	要	平	土器	10Y86.6	10Y86.4	中・多	-	-	-	(96)	- 2.8
138	3区 S8901	②下層	生土器	要	平	陶瓶	10Y86.6	10Y86.6	中・多	少	-	-	(64)	- 4.8
139	3区 S8901	下層	P.29	生土器	要	平・切	7.5V85.4	7.5V85.2	粗・素面	並	-	-	(64)	- 4.8
144	3区 S8901	黑色	織錦織萬 ベース土器	調文土器	深井	陶瓶	10Y86.3	10Y82.3	粗・多	-	-	-	-	- 1.8未測(底部の焼修復)
145	3区 S8901	黑色	織錦織出	生土器	強	陶瓶	7.5V86.4	7.5V87.4	粗・多	-	-	-	-	- 2.8
146	3区 S8901	黑色	織錦織萬	土器	要	陶瓶	7.5V87.6	7.5V87.6	粗・多	中・並	-	-	-	- 制造地 (128)
147	3区 S8901	黑色	織錦織萬	土器質土器	杯	陶瓶	10Y86.3	10Y86.3	粗・少	少	-	-	(66)	- 4.8
148	1区 S8901	黑色	織錦織出	黑色土器	碗	陶瓶	2.5V84.1	2.5V84.1	粗・少	少	-	-	(66)	- 2.8 A類
149	2区 S8901	黑色	織錦織萬	黑色土器	碗	陶瓶	10Y86.3	10Y86.3	粗・少	少	-	-	(150)	- 1.8 B類
150	1区 S8901	黑色	織錦織萬	瓦器	碗	陶瓶	NS/灰	NS/灰	粗・少	少	-	-	(158)	- 1.8 相似型
151	1区 S8901	黑色	織錦織萬	瓦器	碗	陶瓶	10Y86.2	5.5V86.4	粗・少	少	-	-	(130)	- 1.8
152	1区 S8901	黑色	織錦織萬	瓦器	碗	陶瓶	2.5V87.1	2.5V87.1	粗・少	少	-	-	(62)	- 3.8
153	1区 S8901	黑色	織錦織萬	瓦器	碗	陶瓶	2.5V87.1	2.5V88.2	粗・少	少	(11.0)	-	-	- 1.8
164	2区 SB101	SB887	土器	杯	平・切	陶瓶	2.5V84	2.5V84	粗・少	少	(12.4)	3.2	(62)	- 2.8
165	2区 SB101	SB883	土器	杯	平	陶瓶	10Y86.3	10Y86.3	粗・少	少	-	-	(77)	- 4.8
166	2区 SB101	SB897	土器	杯	平	陶瓶	7.5V85.4	7.5V85.4	粗・少	少	(11.0)	-	-	- 1.8
167	2区 SB101	SB866	土器	杯	平・切	陶瓶	2.5V86.3	2.5V86.3	粗・少	少	-	-	(60)	-
168	2区 SB101	SB863	土器	杯	平	陶瓶	7.5V86.6	7.5V86.6	粗・少	少	-	-	(75)	- 2.8
169	2区 SB101	SB868	土器質土器	小皿	平・切	陶瓶	10Y87.4	7.5V87.6	粗・少	少	-	-	(60)	- 1.8
170	2区 SB101	SB879	土器	杯	平・切	陶瓶	2.5V85.2	10Y87.3	粗・少	少	(35.7)	-	-	- 2.8
171	2区 SB101	SB886	瓷器	杯	平・切	陶瓶	5.5V84.1	5.5V84.1	粗・少	少	-	-	(90)	- 1.8
172	2区 SB101	SB888	黑色	瓦器	碗	陶瓶	10Y87.3	10Y87.1	粗・少	少	-	-	(78)	- 2.8 A類
173	2区 SB101	SB883	黑色	瓦器	碗	陶瓶	7.5V85.1	7.5V85.1	粗・少	少	(14.5)	-	-	- 1.8 B類
174	2区 SB102	SB880	土器	杯	平・切	陶瓶	7.5V86.8	7.5V86.4	粗・少	少	(12.0)	3.6	(60)	- 2.8

第28表 西村遺跡出土土器觀察表(8)

番号	調査区	通称名	層位等	出土	位置	種類	形態	文様・調整		外側	内面	石英	角閃石	黒母	粒状	口括	断面	底延	底延	その他	保存率	備考
								外側	内面													
175	1.6(2)	SB102	SP161 板瓦	土師器	杯 内切口	圓筒形	圓筒形+	10YR3/3	10YR3/3	-	-	-	-	-	-	中・少	-	8.4	-	5.8		
176	2.6(2)	SB102	SP157	土師器	杯 内切口	圓筒形	圓筒形+	10YR7/4	10YR7/2	-	-	-	-	-	-	中・少	(108.2	60.0	-	1.8		
177	2.6(2)	SB102	SP180	土師器	杯 内切口	圓筒形	圓筒形+	10YR7/4	10YR7/6	-	-	-	-	-	-	中・少	(117.2	24	(7.7)	-	2.8	
178	2.6(2)	SB102	SP180 P-277	土師器	杯 内切口	圓筒形	圓筒形+	10YR7/4	10YR7/4	-	-	-	-	-	-	中・少	111	29	77	-	5.8	
179	1.6(2)	SB102	SP168 半 片	土師器	杯 内切口	圓筒形	圓筒形+	10YR3/6	10YR3/6	-	-	-	-	-	-	細・少	(108.0	23	(7.8)	-	3.8	
180	2.6(2)	SB102	SP227	土師器	杯 内切口	圓筒形	圓筒形+	10YR7/4	10YR7/3	-	-	-	-	-	-	中・少	(108.0	23	(7.8)	-	3.8	
181	2.6(2)	SB102	SP165	土師器	杯 内切口	圓筒形	圓筒形	10YR8/4	10YR8/4	-	-	-	-	-	-	細・少	(107.7	-	-	-	2.8	
182	1.6(2)	SB102	SP115 上層 F-17	土師器	碗	盤形	盤形	23YR5/4	10YR3/2	-	-	-	-	-	-	細・少	-	60	-	8.8		
183	1.6(2)	SB102	SP105	土師器	土鍋	橢圓形+桶口目	橢圓形	10YR6/3	10YR7/4	-	-	-	-	-	-	中・多	-	-	-	1.8未満		
184	2.6(2)	SB102	SP169	土師器	鉢	盤形+指呼さえ	盤形	23YR7/4	10YR7/1	-	-	-	-	-	-	細・少	(36.0)	-	-	1.8	片口	
185	2.6(2)	SB102	SP169 瓶	土師器	鉢	盤形	盤形	23YR6/6	5WY7/1	-	-	-	-	-	-	無	(36.0)	-	-	-	1.8	
186	2.6(2)	SB102	SP177	土師器	碗	盤形	盤形	23YR7/6	10YR7/6	-	-	-	-	-	-	中・多	-	-	-	1.8未満		
187	1.6(2)	SB102	SP107 瓶	須恵器	杯 内切口	圓筒形	圓筒形+	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	無	-	-	(72.2)	-	2.8	
188	2.6(2)	SB102	SP177	須恵器	皿	圓筒形	圓筒形+	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	細・少	(131.0)	-	-	-	1.8	
189	1.6(2)	SB102	SP112 3合器	須恵器	盃	圓筒形+平形	圓筒形+	NS/灰	NS/灰	-	-	-	-	-	-	細・少	-	-	(126.0)	-	2.8	
190	1.6(2)	SB102	SP131	須恵器	杯 内切口	圓筒形	圓筒形+	23YR8/1	23YR8/1	-	-	-	-	-	-	中・少	(24.2)	-	-	-	2.8	
191	2.6(2)	SB102	SP195	須恵器	甕 内切口	圓筒形	圓筒形	23YR5/2	5WY5/1	-	-	-	-	-	-	中・多	(25.0)	-	-	-	2.8	
192	2.6(2)	SB102	SP176	須恵器	甕 内切口	圓筒形	圓筒形	NA/灰	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	中・少	-	-	-	1.8未満		
193	2.6(2)	SB102	SP194	須恵器	甕 内切口	圓筒形	圓筒形	NS/灰	NS/灰	-	-	-	-	-	-	中・少	(117.9)	-	-	-	1.8未満	
194	2.6(2)	SB102	SP180	黑色器	甕	圓筒形	圓筒形	23YR7/6	NS/灰	-	-	-	-	-	-	中・少	(15.0)	5.8	-	-	3.8	
195	1.6(2)	SB102	SP130	黑色器	甕 内切口	圓筒形	圓筒形	NS/灰	NS/灰	-	-	-	-	-	-	細・少	-	-	-	7.8	瓶	
196	1.6(2)	SB102	SP115	黑色器	甕 内切口	圓筒形	圓筒形	10YR4/1	10YR4/1	-	-	-	-	-	-	中・少	-	-	-	7.8	瓶	
197	1.6(2)	SB102	SP105	土壙	土壙	土壙	土壙	23Y7/2	NS/灰	-	-	-	-	-	-	細・少	(14.7)	-	(7.0)	-	3.8	
203	2.6(2)	SB102	SP166	燒土	-	-	-	23YR6/8	10YR6/8	-	-	-	-	-	-	細・大	(116.0)	10.8	-	1.8未満	原949%	

第29表 西村通路出土土器觀察表(9)

番号	調査区 番号	遺物名	層位等 位置	構體 器種	外觀		内觀		色調		細部		口径 幅高 底径 法量(cm)	保存率	備考					
					外圓	内圓	外圓	内圓	白灰 良石	赤色粒 角閃石	素面	形貌								
204	2 K(2) SB102	SF565	燒土	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8未測					
205	2 K(2) SB104	SF528	土陶器	杯 倒扣口+	明系帶	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8					
206	2 K(2) SB104	SF528	土陶器	杯 倒扣口	帶底	10YR6/4 12.5Y6/6 13.5Y6/6 14.5Y6/6 15Y6/6 16Y6/6	-	-	-	-	-	-	-	-	3.8					
207	1 K(2) SB104	SF117	土陶器	杯 倒扣口	帶底	5YR7.6 6YR7.6 7YR7.6 8YR7.6 9YR7.6 10YR7.6 11.5YR7.6 12.5YR7.6 13.5YR7.6 14.5YR7.6 15YR7.6 16YR7.6	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8					
208	2 K(2) SB104	SF594	土陶器	杯 倒扣口	帶底	10YR7.4 11.5YR7.4 12.5YR7.4 13.5YR7.4 14.5YR7.4 15YR7.4 16YR7.4 17YR7.4 18YR7.4 19YR7.4 20YR7.4 21YR7.4 22YR7.4 23YR7.4 24YR7.4 25YR7.4 26YR7.4 27YR7.4 28YR7.4 29YR7.4 30YR7.4 31YR7.4 32YR7.4 33YR7.4 34YR7.4 35YR7.4 36YR7.4 37YR7.4 38YR7.4 39YR7.4 40YR7.4 41YR7.4 42YR7.4 43YR7.4 44YR7.4 45YR7.4 46YR7.4 47YR7.4 48YR7.4 49YR7.4 50YR7.4 51YR7.4 52YR7.4 53YR7.4 54YR7.4 55YR7.4 56YR7.4 57YR7.4 58YR7.4 59YR7.4 60YR7.4 61YR7.4 62YR7.4 63YR7.4 64YR7.4 65YR7.4 66YR7.4 67YR7.4 68YR7.4 69YR7.4 70YR7.4 71YR7.4 72YR7.4 73YR7.4 74YR7.4 75YR7.4 76YR7.4 77YR7.4 78YR7.4 79YR7.4 80YR7.4 81YR7.4 82YR7.4 83YR7.4 84YR7.4 85YR7.4 86YR7.4 87YR7.4 88YR7.4 89YR7.4 90YR7.4 91YR7.4 92YR7.4 93YR7.4 94YR7.4 95YR7.4 96YR7.4 97YR7.4 98YR7.4 99YR7.4 100YR7.4 101YR7.4 102YR7.4 103YR7.4 104YR7.4 105YR7.4 106YR7.4 107YR7.4 108YR7.4 109YR7.4 110YR7.4 111YR7.4 112YR7.4 113YR7.4 114YR7.4 115YR7.4 116YR7.4 117YR7.4 118YR7.4 119YR7.4 120YR7.4 121YR7.4 122YR7.4 123YR7.4 124YR7.4 125YR7.4 126YR7.4 127YR7.4 128YR7.4 129YR7.4 130YR7.4 131YR7.4 132YR7.4 133YR7.4 134YR7.4 135YR7.4 136YR7.4 137YR7.4 138YR7.4 139YR7.4 140YR7.4 141YR7.4 142YR7.4 143YR7.4 144YR7.4 145YR7.4 146YR7.4 147YR7.4 148YR7.4 149YR7.4 150YR7.4 151YR7.4 152YR7.4 153YR7.4 154YR7.4 155YR7.4 156YR7.4 157YR7.4 158YR7.4 159YR7.4 160YR7.4 161YR7.4 162YR7.4 163YR7.4 164YR7.4 165YR7.4 166YR7.4 167YR7.4 168YR7.4 169YR7.4 170YR7.4 171YR7.4 172YR7.4 173YR7.4 174YR7.4 175YR7.4 176YR7.4 177YR7.4 178YR7.4 179YR7.4 180YR7.4 181YR7.4 182YR7.4 183YR7.4 184YR7.4 185YR7.4 186YR7.4 187YR7.4 188YR7.4 189YR7.4 190YR7.4 191YR7.4 192YR7.4 193YR7.4 194YR7.4 195YR7.4 196YR7.4 197YR7.4 198YR7.4 199YR7.4 200YR7.4 201YR7.4 202YR7.4 203YR7.4 204YR7.4 205YR7.4 206YR7.4 207YR7.4 208YR7.4 209YR7.4 210YR7.4 211YR7.4 212YR7.4 213YR7.4 214YR7.4 215YR7.4 216YR7.4 217YR7.4 218YR7.4 219YR7.4 220YR7.4 221YR7.4 222YR7.4 223YR7.4 224YR7.4 225YR7.4 226YR7.4 227YR7.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8

第30表 西村遺跡出土土器観察表(10)

番号	調査区	通称名	層位等	出土 位置	種類	形態	文様・調整		色調	輪裏	口径	底高	底径	その他の 特徴	備考	
							外面	内面								
228	1区(1)	SB105	SP269	土陶器	杯	盤底	圓底	直腹	10YR8.3 灰黄褐	10YR8.3 灰黄褐	-	-	中・少	-	(6.0) -	1.8
229	1区(1)	SB105	SP269	土陶器	杯	圓底+口切付	直腹	圓底+	10YR8.3 灰黄褐	10YR8.3 灰黄褐	-	-	中・少	-	(6.0) -	3.8
230	1区(1)	SB105	SP269	土陶器	杯	盤底	盤底	直腹	73YR7.6 灰	73YR7.6 灰	-	-	中・少	-	(7.0) -	2.8
231	1区(1)	SB105	半中 [?]	土陶器	杯	盤底	盤底	直腹	5YR7.6 稲	5YR7.6 稲	-	-	中・少	-	(7.0) -	2.8
232	1区(1)	SB105	半中 [?]	土陶器	杯	圓底+口切付	直腹	圓底+	23YR2 灰白	23YR2 灰黄	-	-	中・少	(1.4) 3.0	(0.0) -	3.8
233	1区(2)	SB105	SP284	土陶器	杯	圓底+口切付	直腹	圓底+口切付	73YR8.6 灰黄褐	73YR8.6 灰黄褐	-	-	中・少	-	(6.0) 1.7	2.8
234	1区(2)	SB105	SP262	須恵器	杯	圓底+口切付	直腹	圓底+	10YR8.4 灰黄褐	10YR8.4 灰黄褐	-	-	中・少	-	(7.0) -	1.8
236	1区(3)	SB106	SP266	土陶器	杯	圓底+口切付	直腹	圓底+	72YR7.4 灰	72YR7.4 灰	-	-	中・少	-	(7.0) -	2.8
237	1区(3)	SB106	SP195	土陶器	碗	盤底	直腹	圓底+	73YR8.6 灰	73YR8.6 灰	-	-	中・少	-	-	8.8
238	1区(3)	SB107	SP227	須恵器	皿	圓底	直腹	圓底+	10YR5.3 灰	10YR5.3 灰	-	-	中・多	(28.0) -	-	2.8
239	1区(3)	SB107	SP227	須恵器	皿	圓底	直腹	圓底+	5Y 8.1 灰白	5Y 8.1 灰白	-	-	無	(12.8) -	-	1.8
241	1区(2)	SB108	SP192	土陶器	杯	盤底	直腹	圓底+	10YR7.3 灰黄褐	10YR7.3 灰黄褐	-	-	中・少	(12.2) 3.0	(0.9) -	1.8
242	1区(3)	SB108	SP249	P201	土陶器	杯	盤底+口切付	直腹	10YR7.3 灰黄褐	10YR7.3 灰黄褐	-	-	中・少	(11.2) 2.8	8.1	7.8
243	1区(2)	SB108	半中 [?]	土陶器	杯	盤底	盤底	直腹	10YR8.2 灰	10YR8.2 灰	-	-	中・少	(12.4) 2.2	(0.5) -	1.8
244	1区(2)	SB108	P203	土陶器	土鍋	圓底+口切付	直腹	圓底+	10YR7.3 灰黄褐	10YR7.3 灰黄褐	-	-	恒・多	3.48	-	2.8
245	1区(3)	SB108	SP258 半12.17	須恵器	杯	圓底+口切付	直腹	圓底+	10YR6.1 灰灰	10YR6.1 灰灰	-	-	無	(13.9) -	-	2.8
246	1区(3)	SB108	SP259 半12.17	須恵器	杯	圓底+口切付	直腹	圓底+	23YR7.2 灰黄	23YR7.2 灰黄	-	-	中・少	(12.8) 3.5	(7.0) -	2.8
247	1区(3)	SB108	SP259 半12.17	須恵器	皿	圓底	直腹	圓底+	NT/灰白	NT/灰白	-	-	無	-	(7.0) -	2.8
248	1区(3)	SB108	半中 [?]	須恵器	皿	圓底	直腹	圓底+	5 Y 7.1 灰	5 Y 7.1 灰	-	-	中・少	(14.1) 1.9	(0.0) -	2.8
249	1区(3)	SB108	SP267	須恵器	皿	圓底	直腹	圓底+	23YR5.1 灰	23YR5.1 灰	-	-	細・少	6.88	-	1.8
250	1区(3)	SB108	SP269 半12.17	須恵器	皿	圓底	直腹	圓底+	NT/灰白	NT/灰白	-	-	無	-	(0.2) -	1.8
251	1区(3)	SB108	SP258 半12.17	黑色土器	碗	盤底	直腹	圓底+	23Y 8.2 灰白	23Y 8.2 灰白	-	-	中・少	-	(7.0) -	2.8

第31表 西村遺跡出土土器觀察表(11)

番号	調査区	遺物名	層位等	出土位置	種類	器形	外觀		内觀		色調		鰐土	白色粒状堅石	表面	口径	底高	法量(cm)	残存率	その他	備考	
							外側	内側	外側	内側	外側	内側										
252	1区3	SB108	SP102 1区2号F		黑色土器	碗	盤底	盤底	10YR7.3 1.5-2.5cm厚	10YR7.2 1.5-2.5cm厚	灰白	-	-	無	-	-	(6.5)	-	1/8	A類		
253	1区3	SB108	SP126 半1号F		黑色土器	碗	口縁+底 内側+外側	盤底	10YR7.3 1.5-2.5cm厚	10YR7.6 1.5-2.5cm厚	灰白	-	-	中・少	(13.9)	-	-	-	2/8	B類		
254	1区3	SB108	SP101		黑色土器	碗	口縁+底 内側+外側	盤底	10YR7.3 1.5-2.5cm厚	10YR7.1 1.5-2.5cm厚	灰白	-	-	中・少	-	-	-	-	1/8	B類		
255	1区3	SB108	SP198		土器	碗	口縁	-	10YR8.4 瓦質體	-	灰白	-	-	細・少	最高2.5cm 最深1.5cm	孔径: 1.5cm	1.0	0.2	最大2.5cm 最深1.5cm	孔径: 1.5cm		
256	1区3	SB108	SP290		土器	碗	口縁	-	10YR6.6 陶質	10YR6.6 陶質	灰白	-	-	細・少	最高2.5cm 最深1.5cm	孔径: 1.5cm	-	-	6.8	最大2.5cm 最深1.5cm	孔径: 1.5cm	
262	1区3	SB109	SP186 瓦質		土器	碗	口縁+底 内側+外側	盤底	10YR6.6 陶質	10YR6.6 陶質	灰白	-	-	中・多	(22.6)	-	-	-	1/8	-	-	
263	1区3	SB109	SP198		土器	碗	口縁+底 内側+外側	盤底	10YR5.2 1.5-2.5cm厚	10YR5.2 1.5-2.5cm厚	灰白	-	-	中・多	-	-	-	-	1/8未満	-	-	
264	1区3	SB109	SP196		須恵器	杯	口縁+底	口縁+底	10YR7.1 瓦質	10YR7.1 瓦質	灰白	-	-	細・少	(14.9)	-	-	-	1/8	-	-	
265	1区3	SB109	SP199 半1号F		須恵器	杯	口縁+底	口縁+底	10YR8.1 瓦質	10YR8.1 瓦質	灰白	-	-	中・少	(13.9)	-	-	-	1/8	-	-	
267	1区3	SB111	SP290 半1号F		土器	碗	口縁+底 内側+外側	盤底	10YR8.4 瓦質體	10YR8.4 瓦質體	灰白	-	-	中・少	(12.0)	-	-	-	1/8	-	-	
268	1区3	SB111	SP408		須恵器	杯	口縁+底	口縁+底	NS-灰 瓦質	NS-灰 瓦質	灰白	-	-	細・少	-	-	-	-	1/8未満	-	-	
269	1区3	SB111	SP430		土器	碗	口縁	口縁+底	10YR4.1 瓦質	10YR4.1 瓦質	灰白	-	-	中・少	最高2.5cm 最深1.5cm	孔径: 1.5cm	1.0	0.2	最高2.5cm 最深1.5cm	孔径: 1.5cm	最高2.5cm 最深1.5cm	孔径: 1.5cm
270	1区3	SB112	SP295 半1号F		黑色土器	碗	口縁+底	口縁+底	10YR7.4 1.5-2.5cm厚	10YR7.4 1.5-2.5cm厚	灰白	-	-	細・少	-	-	(7.2)	-	2/8	A類		
271	1区3	SB112	SP247		須恵器	碗	口縁+底	口縁+底	10YR8.1 瓦質	10YR8.1 瓦質	灰白	-	-	細・少	(16.8)	-	-	-	1/8	口縫外侧面無痕	-	
272	1区3	SB112	SP456		土玉	秤秤	秤秤	秤秤	10YR7.4 1.5-2.5cm厚	-	灰白	-	-	中・少	最高2.5cm 最深1.5cm	孔径: 1.5cm	1.0	0.2	最高2.5cm 最深1.5cm	孔径: 1.5cm	最高2.5cm 最深1.5cm	孔径: 1.5cm
273	1区3	SB113	SP340		土器	碗	口縁	口縁	10YR6.6 瓦質	10YR6.6 瓦質	灰白	-	-	中・少	(14.9)	-	-	-	1/8未満	-	-	
274	1区3	SA102	SP255 瓦質		土器	碗	口縁	口縁	10YR7.4 1.5-2.5cm厚	10YR7.4 1.5-2.5cm厚	灰白	-	-	細・少	(12.0)	2.2	(6.0)	-	1/8	-	-	
275	2区3	SE101			土器	碗	口縁+底	口縁+底	10YR8.3 瓦質	10YR8.3 瓦質	灰白	-	-	中・少	-	-	(6.1)	-	5.8	-	-	
276	1区2	SP286			土器	碗	口縁+底	口縁+底	10YR7.3 瓦質	10YR7.3 瓦質	灰白	-	-	中・少	11.8	3.3	7.1	-	8.8	-	-	
277	1区2	SP286			土器	碗	口縁+底	口縁+底	10YR7.3 1.5-2.5cm厚	10YR7.3 1.5-2.5cm厚	灰白	-	-	中・少	11.8	3.6	8.0	-	8.8	-	-	
278	1区2	SP286			土器	碗	口縁+底	口縁+底	10YR8.3 瓦質	10YR8.3 瓦質	灰白	-	-	中・少	11.2	3.2	7.5	-	7.8	-	-	
279	1区2	SP286			土器	碗	口縁+底	口縁+底	10YR7.3 瓦質	10YR7.3 瓦質	灰白	-	-	中・少	(11.0)	1.8	7.5	-	4/8	-	-	
280	1区2	SP286			土器	碗	口縁+底	口縁+底	10YR8.3 瓦質	10YR8.3 瓦質	灰白	-	-	中・少	-	5.2	-	8.8	-	-	-	-

第32表 西村遺跡出土土器観察表(12)

番号	調査区	通称名	層位等	出土位置	種類	形態	文様・調整		色調	輪裏	外側	内面	石英	角閃石	黒母	斜長	口括	跡高	底延	その他	測量(cm)	測量	備考	
							外側	内面																
281	1区2	SD266	下層	須恵器 表 切口	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	N7/灰白	N6/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	(0.07)	-	4.8					
282	1区2	SD266	下層	須恵器 楕円	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	10YR2/3 12.5%重ね剥 オリーブ里	N4/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	(7.0)	-	3.8	A類				
283	1区2	SD266	下層	須恵器 楕	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	N4/灰	N4/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満	完全圓錐形 完全圓錐形				
287	2区3	SD101	③下層	土器	土器	不規則・圓筒 切口・圓底	7.5YR8/4 瓦質	7.5YR8/4 瓦質	中・茎	-	-	-	-	-	-	-	(14.0)	9.4	-	3.8	円窓合			
288	2区3	SD101	③下層	土器	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	7.5YR7/4 12.5%重ね 剥	7.5YR7/4 12.5%重ね	中・茎	少	中・少	少	-	-	-	-	(14.0)	4.3	(6.0)	-	2.8			
289	2区3	SD101	③下層	土器	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	10YR8/3 瓦質	7.5YR8/6 瓦質	-	-	-	-	-	-	-	-	12.6	4.1	8.9	-	7.8			
290	2区3	SD101	③下層	土器	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	10YR8/3 瓦質	7.5YR8/3 瓦質	-	-	-	-	-	-	-	-	12.6	3.7	8.5	-	6.8			
291	2区3	SD101	③下層	土器	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	7.5YR7/4 12.5%重ね	7.5YR7/4 12.5%重ね	-	-	-	-	-	-	-	-	12.0	4.4	8.0	-	5.8			
292	2区3	SD101	③下層	土器	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	10YR7/3 12.5%重ね 剥	7.5YR7/3 12.5%重ね 剥	中・茎	-	-	-	-	-	-	-	-	12.0	4.2	8.0	-	4.8		
293	2区3	SD101	③下層	土器	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	7.5YR7/4 12.5%重ね 剥	7.5YR7/4 12.5%重ね 剥	-	-	-	-	-	-	-	-	11.0	2.6	(7.0)	-	3.8			
294	2区3	SD101	③下層	土器	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	7.5YR7/4 12.5%重ね 剥	7.5YR7/4 12.5%重ね 剥	中・多	-	-	-	-	-	-	-	11.8	2.15	(6.0)	-	2.8			
295	2区3	SD101	③下層	土器	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	7.5YR7/4 12.5%重ね 剥	7.5YR7/4 12.5%重ね 剥	-	-	-	-	-	-	-	-	12.0	2.0	(6.0)	-	2.8			
296	2区3	SD101	③下層	土器	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	7.5YR7/4 12.5%重ね 剥	7.5YR7/4 12.5%重ね 剥	-	-	-	-	-	-	-	-	11.8	2.9	(7.0)	-	3.8			
297	2区3	SD101	③下層	土器	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	7.5YR7/4 12.5%重ね 剥	7.5YR7/4 12.5%重ね 剥	-	-	-	-	-	-	-	-	11.3	3.5	7.8	-	7.8			
298	2区3	SD101	③下層	土器	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	7.5YR7/4 12.5%重ね 剥	7.5YR7/4 12.5%重ね 剥	細・少	-	-	-	-	-	-	-	11.2	2.6	(7.0)	-	4.8			
299	2区3	SD101	③下層	土器	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	10YR8/3 瓦質	10YR8/3 瓦質	-	-	-	-	-	-	-	-	11.0	2.7	8.2	-	8.8			
300	2区3	SD101	③下層	土器	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	23YR6.8/2 25%重ね 剥	23YR6.8/2 25%重ね 剥	-	-	-	-	-	-	-	-	11.0	2.7	(6.0)	-	4.8			
301	2区3	SD101	③下層	土器	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	10YR7/2 4%重ね 剥	10YR7/2 4%重ね 剥	-	-	-	-	-	-	-	-	11.8	2.0	(6.0)	-	4.8			
302	2区3	SD101	③下層	土器	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	7.5YR8/4 12.5%重ね 剥	7.5YR8/4 12.5%重ね 剥	-	-	-	-	-	-	-	-	11.0	2.6	(7.0)	-	3.8			
303	2区3	SD101	③下層	土器	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	7.5YR8/4 12.5%重ね 剥	7.5YR8/4 12.5%重ね 剥	-	-	-	-	-	-	-	-	11.0	2.7	8.2	-	8.8			
304	2区3	SD101	③下層	須恵器 楕	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	NS/灰	NS/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	11.0	2.7	6.6	-	4.8			
305	2区3	SD101	③下層	須恵器 楕	土器	直筒形・ ^平 口 内側斜削・ ^平 底	10YR7/3 12.5%重ね 剥	10YR7/3 12.5%重ね 剥	-	-	-	-	-	-	-	-	11.0	2.7	6.6	-	4.8	A類		

第33表 西村遺跡出土土器觀察表(13)

番号	調査区 番号	遺物名	解説等	位置	種類	器形	外觀		内觀		色調		基上 部		法量(cm)	保存率	備考	
							前面	背面	前面	背面	内面	外面	内面	外面	内面	外面		
306	2 K(3) SD01	① 1層 下層	黑色土器	桶 形	直筒	19Y67.4 [1.45-1.65] 壁 厚	19Y68.3 [1.45-1.65] 壁 厚	-	-	中・少	15.8	-	-	-	-	3.8	B類	
307	2 K(3) SD01	② 1層 下層	黑色土器	桶 形	直筒	19Y72.1 [1.45-1.65] 壁 厚	19Y72.1 [1.45-1.65] 壁 厚	-	-	中・少	-	-	-	6.2	15.8	7.8	B類	
308	2 K(3) SD01	③ 1層 下層	黑色土器	桶 形	直筒	19Y73.1 [1.45-1.65] 壁 厚	19Y73.1 [1.45-1.65] 壁 厚	-	-	中・少	-	-	-	-	15.6	1.8	B類	
309	1 K(1) SD01	②	P.140	土陶器	杯	直筒+切口 直筒+切口	直筒+切口 直筒+切口	19Y68.2 [1.45-1.65] 壁 厚	19Y68.3 [1.45-1.65] 壁 厚	中・少	15.3	4.2	7.9	-	3.8	[10.2]		
310	2 K(3) SD01	③	P.141	土陶器	杯	直筒	直筒	19Y68.3 [1.45-1.65] 壁 厚	19Y68.3 [1.45-1.65] 壁 厚	中・多	-	-	中・少	12.0	3.5	7.2	-	2.8
311	2 K(3) SD01	④	P.142	土陶器	杯	直筒+切口 直筒+切口	直筒+切口 直筒+切口	23Y66.8 [2.5-3.0] 壁 厚	23Y66.8 [2.5-3.0] 壁 厚	中・多	-	-	少	11.4	3.3	6.0	-	2.8
312	1 K(1) SD01	④	P.143	土陶器	杯	直筒	直筒	19Y78.6 [1.45-1.65] 壁 厚	19Y78.6 [1.45-1.65] 壁 厚	中・多	-	-	粗・少	-	-	7.4	-	5.8
313	1 K(1) SD01	④	P.144	土陶器	杯	直筒+切口 直筒+切口	直筒+切口 直筒+切口	19Y68.4 [1.45-1.65] 壁 厚	19Y68.4 [1.45-1.65] 壁 厚	中・少	-	-	中・少	12.7	3.5	9.1	-	8.8
314	2 K(3) SD01	⑤ 1層 上層	土陶器	杯	直筒 直筒 直筒 直筒	直筒 直筒 直筒 直筒	19Y72.3 [1.45-1.65] 壁 厚	19Y72.3 [1.45-1.65] 壁 厚	中・少	-	-	中・少	12.8	4.0	8.4	-	6.8	
315	1 K(1) SD01	④	P.145	土陶器	杯	直筒+切口 直筒+切口	直筒+切口 直筒+切口	5YR7.6 [5.0-7.0] 壁 厚	5YR7.6 [5.0-7.0] 壁 厚	中・中・量	-	-	粗	-	-	8.2	-	4.8
316	2 K(3) SD01	⑥ 1層 上層	土陶器	杯	直筒+切口 直筒+切口	直筒+切口 直筒+切口	19Y72.4 [1.45-1.65] 壁 厚	19Y72.4 [1.45-1.65] 壁 厚	中・量	-	-	中・多	13.4	3.3	8.6	-	4.8	
317	2 K(3) SD01	④	P.146	土陶器	杯	直筒	直筒	19Y68.1 [1.45-1.65] 壁 厚	19Y68.1 [1.45-1.65] 壁 厚	中・少	-	-	中・少	13.0	3.0	10.0	-	2.8
318	1 K(1) SD01	④	P.147	土陶器	杯	直筒+切口 直筒+切口	直筒+切口 直筒+切口	19Y72.3 [1.45-1.65] 壁 厚	19Y72.3 [1.45-1.65] 壁 厚	中・量	-	-	中・少	12.0	2.6	6.0	-	5.8
319	1 K(1) SD01	④	P.148	土陶器	杯	直筒+切口 直筒+切口	直筒+切口 直筒+切口	5YR6.6 [5.0-6.0] 壁 厚	5YR6.6 [5.0-6.0] 壁 厚	中・量	-	-	中・少	11.6	2.7	6.2	-	2.8
320	2 K(3) SD01	④	P.149	土陶器	杯	直筒+切口 直筒+切口	直筒+切口 直筒+切口	19Y68.3 [1.45-1.65] 壁 厚	19Y68.3 [1.45-1.65] 壁 厚	中・量	-	-	中・少	11.4	2.7	6.6	-	3.8
321	1 K(2) SD01	⑩	P.150	土陶器	杯	直筒+切口 直筒+切口	直筒+切口 直筒+切口	19Y72.3 [1.45-1.65] 壁 厚	19Y72.3 [1.45-1.65] 壁 厚	中・量	-	-	中・少	11.4	2.5	7.4	-	7.8
322	1 K(1) SD01	④ 1層	P.151	土陶器	杯	直筒+切口 直筒+切口	直筒+切口 直筒+切口	19Y68.3 [1.45-1.65] 壁 厚	19Y68.3 [1.45-1.65] 壁 厚	中・量	中・少	-	粗	10.8	2.3	7.9	-	8.8
323	1 K(1) SD01	④	P.152	土陶器	杯	直筒+切口 直筒+切口	直筒+切口 直筒+切口	19Y67.4 [1.45-1.65] 壁 厚	19Y67.4 [1.45-1.65] 壁 厚	中・量	中・少	-	中・量	10.4	2.7	6.6	-	8.8
324	1 K(2) SD01	⑨	P.153	土陶器	杯	直筒+切口 直筒+切口	直筒+切口 直筒+切口	5YR6.6 [5.0-6.0] 壁 厚	5YR6.6 [5.0-6.0] 壁 厚	中・量	-	-	中・少	11.1	2.6	8.3	-	7.8
325	1 K(1) SD01	④	P.154	土陶器	杯	直筒+切口 直筒+切口	直筒+切口 直筒+切口	19Y76.6 [1.45-1.65] 壁 厚	19Y76.6 [1.45-1.65] 壁 厚	中・量	-	-	中・少	10.8	2.2	7.8	-	4.8
326	2 K(3) SD01	⑪	P.155	土陶器	杯	直筒+切口 直筒+切口	直筒+切口 直筒+切口	23Y68.3 [2.5-3.0] 壁 厚	23Y68.3 [2.5-3.0] 壁 厚	中・量	-	-	中・多	10.6	2.2	7.2	-	5.8
327	2 K(3) SD01	⑫	P.156	土陶器	杯	直筒+切口 直筒+切口	直筒+切口 直筒+切口	19Y72.3 [1.45-1.65] 壁 厚	19Y72.3 [1.45-1.65] 壁 厚	中・量	-	-	中・少	10.8	2.5	7.5	-	4.8
328	1 K(2) SD01	⑩	P.157	土陶器	杯	直筒+切口 直筒+切口	直筒+切口 直筒+切口	19Y76.6 [1.45-1.65] 壁 厚	19Y76.6 [1.45-1.65] 壁 厚	中・量	-	-	中・少	10.4	2.5	7.0	-	6.8

第34表 西村遺跡出土土器観察表(14)

番号	調査区	遺物名	層位等	出土・位置		形状	器種	外側・内面		色調		輪上	法量(cm)	測定	参考						
				出土	位置			外側	内面	石英	赤鉄	角閃石	黒母	粒状	口径	體高	底径	その他			
329	1.K(1) SD01	(4) 1 磁	P.113	土加器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	57R6.6 桶	57R6.6 桶	-	-	-	中・少	0.02	2.6	6.1	-	4.8			
330	2.K(3) SD01	(3) 1 上層	P.125	土加器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8S.2 10Y8S.2 10Y8S.1	10Y8S.2 10Y8S.2 10Y8S.1	粗 多孔	少	-	細	差	0.20	2.6	6.78	-	3.8		
331	1.K(2) SD01	(3)	P.288	土加器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8S.3	10Y8S.3	-	-	-	中・少	0.10	2.4	7.2	-	4.8			
332	2.K(3) SD01	(4)	P.123	土加器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8S.3	10Y8S.3	中・多	-	細	差	0.14	2.5	7.9	-	2.8			
333	2.K(3) SD01	(4)	P.123	土加器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8S.2 10Y8S.2 10Y8S.1	10Y8S.2 10Y8S.2 10Y8S.1	-	-	-	中・少	0.08	2.6	6.7	-	3.8			
334	1.K(1) SD01	(3)	P.130	土加器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8T.2	10Y8T.2	10Y8T.2	10Y8T.2	10Y8T.2	-	-	中・少	0.04	2.5	7.6	-	5.8	
335	2.K(3) SD01	(4)	P.123	土加器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8T.3	10Y8T.3	中・強	-	-	中・少	0.08	2.6	7.5	-	2.8			
336	1.K(1) SD01	(3)	P.123	土加器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8S.3	10Y8S.3	粗	少	-	無	1.16	2.3	7.3	-	7.8			
337	2.K(3) SD01	(4)	P.123	土加器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8T.2	10Y8T.2	中・多	-	-	中・少	0.10	2.7	6.6	-	2.8			
338	2.K(3) SD01	(4)	P.123	土加器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8S.3	10Y8S.3	10Y8T.3	-	-	中・多	0.08	2.6	7.3	-	2.8			
339	2.K(3) SD01	(4)	P.287	土加器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8T.4	10Y8T.4	粗	少	-	細	少	0.09	2.6~	7.4	-	7.8		
340	1.K(2) SD01	(3)	P.287	土加器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8S.6	10Y8S.6	中・多	-	-	中・少	0.05	2.6	7.4	-	8.8			
341	2.K(3) SD01	(3) 1 上層	P.123	土加器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8T.6	10Y8T.6	中・多	少	-	中・少	0.08	2.3	6.8	-	2.8			
342	2.K(3) SD01	(3) 1 上層	P.123	土加器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8T.6	10Y8T.6	中・強	少	-	中・少	0.08	2.5	7.0	-	6.8			
343	1.K(2) SD01	(7)	P.288	土加器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8S.3	10Y8S.3	10Y8T.7	10Y8T.7	10Y8T.7	-	-	細	少	0.04	2.3	6.9	-	7.8
344	2.K(3) SD01	(3) 1 上層	P.123	土加器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8S.4	10Y8S.4	中・強	少	-	中・少	0.07	2.3	7.1	-	3.8			
345	1.K(1) SD01	(4) 1 磁	P.117	土加器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8T.4	10Y8T.4	10Y8T.4	10Y8T.4	10Y8T.4	-	-	中・少	-	-	-	-	4.8	
346	1.K(1) SD01	(4) 1 磁	P.117	土加器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8T.5	10Y8T.5	10Y8T.5	10Y8T.5	10Y8T.5	-	-	中・少	0.08	-	-	-	1.8	
347	2.K(3) SD01	(4)	P.123	土加器	土器	圓底片 刃	砂輪片 刃	23YH5.6	23YH5.6	明治	毛目	-	中・多	0.20	-	-	-	-	2.8		
348	1.K(1) SD01	(2)	P.130	土加器	土器	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8S.6	10Y8S.6	粗	差	中・少	-	-	-	-	-	-	1.8		
349	1.K(1) SD01	(4) 1 磁	P.115	土加器	土器	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8T.4	10Y8T.4	10Y8T.4	10Y8T.4	10Y8T.4	-	-	粗	多	0.09	0.69	-	1.8	
350	1.K(2) SD01	(9)	P.288	須恵器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8T.5	10Y8T.5	N7.4	灰白	-	中・少	0.12	2.8	3.8	0.0	-	2.8		
351	1.K(2) SD01	(9)	P.288	須恵器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8T.5	10Y8T.5	N6/灰	灰	-	細	少	0.10	-	-	-	1.8		
352	1.K(2) SD01	(9)	P.288	須恵器	杯 切口 刃	圓底片 刃	砂輪片 刃	10Y8T.5	10Y8T.5	N6/灰	灰	-	中・少	-	-	0.08	-	7.6	-	3.8	

第35表 西村遺跡出土土器觀察表(15)

番号	調査区	遺物名	層位等	位置	種類	器形	文様・調査		色調		基上		法量(cm)	保存率	備考
							外圓	内圓	外圓	内圓	口径	底径			
353	1区(1)	SD01	④ 1層	P-06	須恵器	亂字 瓶	N/A	N/A	10YR5/1	-	-	-	中・少	最高人頭像・全頭像 1.2cm	1.8未調平地盤
354	2区(3)	SD01	⑩		黑色土器	碗	鶴	鶴	10YR5/4	-	-	-	細・少	(15.1) 5.5 (7.4)	3.8 A類
355	2区(3)	SD01	⑪		黑色土器	碗	鶴	鶴	10YR5/3	-	-	-	粗・少	-	-
356	1区(1)	SD01	③	P-23	黑色土器	碗	鶴	鶴	10YR5/4	-	-	-	中・少	(15.1) 6.7 (7.4)	4.8 A類
357	2区(3)	SD01	⑫		黑色土器	碗	鶴	鶴	10YR5/4	-	-	-	細・少	-	-
358	2区(3)	SD01	⑬上層		黑色土器	碗	鶴	鶴	10YR5/4	-	-	-	粗・少	-	-
359	1区(2)	SD01	⑯		黑色土器	鉢	鶴	鶴	10YR5/4	-	-	-	細・少	-	-
360	1区(2)	SD01	⑰		黑色土器	鉢	鶴	鶴	10YR5/4	-	-	-	中・少	11.6 (15.0)	7.8 B類
361	1区(1)	SD01	④ 1層		井欄	蓋	斜押字・直線斜溝	斜溝	10YR5/3	-	-	-	粗・少	-	-
367	1区(3)	SD02		P-174	土陶器	杯	斜切口	斜切口	10YR5/4	-	-	-	中・少	-	-
368	1区(2)	SD02		P-157	土陶器	杯	鶴	鶴	10YR5/4	-	-	-	細・少	-	-
369	1区(3)	SD02		P-176	土陶器	杯	鶴	鶴	10YR5/4	-	-	-	粗・少	-	-
370	1区(3)	SD02		P-175	土陶器	杯	鶴	鶴	10YR5/4	-	-	-	中・少	10.3 (10.7)	4.8 土頭質・淤泥質
371	1区(2)	SD02	⑩上層	P-249	土陶器	杯	鶴	鶴	10YR5/4	-	-	-	中・少	-	-
372	1区(2)	SD02	⑪上層	P-248	土陶器	杯	鶴	鶴	10YR5/4	-	-	-	中・少	-	-
373	1区(2)	SD02	④	P-280	土陶器	杯	鶴	鶴	10YR5/4	-	-	-	中・少	-	-
374	1区(2)	SD02		P-158	土陶器	杯	鶴	鶴	10YR5/4	-	-	-	中・少	(14.6)	2.8
375	1区(2)	SD02		P-158	土陶器	杯	鶴	鶴	10YR5/2	-	-	-	中・少	-	-
376	1区(2)	SD02	上面		土陶器	杯	鶴	鶴	10YR5/6	-	-	-	粗・少	-	8.8
377	1区(2)	SD02	⑩上層	P-250	土陶器	杯	鶴	鶴	10YR5/6	-	-	-	中・少	-	6.8
378	1区(2)	SD02	⑩上層	P-251	須恵器	杯	鶴	鶴	10YR5/6	-	-	-	中・少	-	6.8
379	1区(2)	SD02	⑩上層	P-278	須恵器	杯	鶴	鶴	10YR5/6	-	-	-	粗・少	-	2.8
380	1区(2)	SD02	⑩上層		黑色土器	碗	鶴	鶴	10YR5/6	-	-	-	中・少	(7.2)	2.8 B類

第36表 西村遺跡出土土器観察表(16)

番号	調査区	通称名	層位等	出土	位置	種類	形態	文様・調整		色調		施上		法量(cm)	内容	備考						
								外面	内面	外觀	内觀	石英	赤色粒	角閃石	黒母	砂粒	口崩	跡高	底高	底延	その他	
381	1K(2)	SD102	トレンチ②	P-03	土塹	有縫 土器	筒形 直筒	-	-	5YR7.6 横	-	-	-	-	-	中・少	最大長:最大幅:最大幅:最大深:最大高:最大底:最大底延	8.8	8.8			
385	1K(1)	SD103	①	土陶器	杯	回転引子 ^ノ 直筒	筒形 ^ノ	7.5YR7.4 12.5YR7.6	7.5YR7.4 12.5YR7.6	中・多	-	-	-	-	中・少	6.7	1.3	6.7	6.7			
386	1K(1)	SD103	①	土陶器	杯	直筒	筒形 ^ノ	10YR7.6 12.5YR7.6	10YR7.6 12.5YR7.6	-	-	-	-	-	中・少	(10.0)	3.0	6.6	6.8			
387	1K(1)	SD105	④	P-038	土陶器	杯	回転引子 ^ノ 直筒	筒形 ^ノ	10YR7.4 12.5YR7.6	10YR7.4 12.5YR7.6	-	-	-	-	-	中・少	12.4	4.6	8.8	8.8		
388	2K(2)	SD105	⑧	土陶器	杯	回転引子 ^ノ 直筒	筒形 ^ノ	5YR6.4 12.5YR7.6	5YR7.4 12.5YR7.6	細・巻中・少	-	-	-	-	-	(11.2)	-	-	2.8			
389	2K(2)	SD105	⑦	土陶器	杯	回転引子 ^ノ 直筒	筒形 ^ノ	5YR6.6 横	10YR7.6 横	巻中・巻	-	-	-	-	-	(11.0)	2.6	7.0	-	4.8		
390	1K(1)	SD105	④	P-037	土陶器	杯	回転引子 ^ノ 直筒	筒形 ^ノ	10YR8.2 12.5YR7.6	10YR8.2 12.5YR7.6	細・巻	-	-	-	-	巻・少	11.8	2.2	6.6	-	5.8	
391	1K(1)	SD105	③2 周	土陶器	杯	回転引子 ^ノ 直筒	筒形 ^ノ	5YR8.4 12.5YR7.6	5YR7.6 横	中・巻中・少	-	-	-	-	-	中・少	-	-	-	-		
392	2K(2)	SD105	⑧	土陶器	杯	回転引子 ^ノ 直筒	筒形 ^ノ	7.5YR7.3 12.5YR7.6	7.5YR7.3 12.5YR7.6	細・巻中・少	-	-	-	-	中・少	(11.2)	-	-	-	2.8		
393	2K(2)	SD105	⑥	土陶器	椀	回転引子 ^ノ 直筒	筒形 ^ノ	5YR7.8 横	5YR7.6 横	巻中・少	-	-	-	-	-	(6.5)	-	-	(6.5)	-		
394	2K(2)	SD105	⑦	土陶器	椀	回転引子 ^ノ 直筒	筒形 ^ノ	7.5YR8.3 12.5YR7.6	7.5YR8.3 12.5YR7.6	細・巻中・多	-	-	-	-	-	(7.0)	-	-	(7.0)	-		
395	1K(1)	SD105	④	P-039	土陶器	椀	回転引子 ^ノ 直筒	筒形 ^ノ	10YR7.2 12.5YR7.6	10YR7.3 12.5YR7.6	細・巻	-	-	-	-	-	(7.0)	-	-	(7.0)	-	
396	2K(2)	SD105	⑩	土陶器	椀	回転引子 ^ノ 直筒	筒形 ^ノ	5YR8.3 12.5YR7.6	5YR8.3 12.5YR7.6	巻中・少	-	-	-	-	-	(10.8)	-	-	(6.5)	-		
397	2K(2)	SD105	⑩	土陶器	椀	回転引子 ^ノ 直筒	筒形 ^ノ	10YR8.4 12.5YR7.6	10YR7.3 12.5YR7.6	中・多	-	-	-	-	粗・多	-	-	-	-	1.8未満		
398	2K(2)	SD105	⑩	土陶器	土鍋	指脚丸 ^ノ 直筒	筒形 ^ノ	10YR6.4 12.5YR7.6	10YR7.3 12.5YR7.6	巻中・巻	-	-	-	-	-	中・少	-	-	-	-	1.8未満	
399	1K(1)	SD105	③1 周	黑色器	椀	回転引子 ^ノ 直筒	筒形 ^ノ	7.5YR8.3 12.5YR7.6	7.5YR4.2 12.5YR7.6	中・多	-	-	-	-	無	-	-	(6.7)	-	2.8 A 級		
400	2K(2)	SD105	⑧	黑色器	椀	回転引子 ^ノ 直筒	筒形 ^ノ	10YR8.2 12.5YR7.6	10YR8.2 12.5YR7.6	中・多	-	-	-	-	中・少	-	-	(7.0)	-	2.8 B 級		
401	1K(1)	SD105	③1 周	土陶器	杯	回転引子 ^ノ 直筒	筒形 ^ノ	-	-	-	-	-	-	-	巻・少	6.7	-	2.7	2.7			
402	1K(3)	SD107	③	P-227	土陶器	杯	回転引子 ^ノ 直筒	筒形 ^ノ	-	-	-	-	-	-	中・少	(11.3)	2.6	7.1	-	6.8		
403	1K(2)	SD107	③	P-031	土陶器	杯	回転引子 ^ノ 直筒	筒形 ^ノ	10YR8.2 12.5YR7.6	10YR8.2 12.5YR7.6	中・巻中・少	-	-	-	-	(10.8)	2.3	(4.9)	-	4.8		
404	1K(3)	SD107	③	P-226	土陶器	杯	直筒	-	-	10YR8.3 12.5YR7.6	10YR8.3 12.5YR7.6	中・巻	-	-	-	中・少	1.1	2.6	(7.0)	-	5.8	
405	1K(3)	SD107	③	P-297	土陶器	杯	回転引子 ^ノ 直筒	筒形 ^ノ	5YR6.6 横	5YR6.6 横	粗・多	-	-	-	-	粗・多	(12.0)	2.2	(8.2)	-	3.8	

第37表 西村通路出土土器觀察表(17)

番号	調査区 番号	遺物名	層位等 位置	種類	器種	外觀			内觀			色調			法量(cm) 底径	保存率	備考	
						外圓	内圓	外縁	内縁	底	内底	外縁	内縁	底	内底			
406	1(E3)	SD107 トレーナー	(2)	土陶器	杯	筒形 直縁	筒形 直縁	筒形 直縁	筒形 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・少	(18.0) 4.7	(7.0) -	1/8
407	1(E3)	SD107 ③	P-224	土陶器	杯	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・多	(18.0) 4.7	6.7 -	4/8
408	1(E3)	SD107 ④	P-228	土陶器	杯	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・多	-	7.0 -	3/8
409	1(E3)	SD107 ⑤	土陶器	杯	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・少	-	8.2 -	7/8	
410	1(E3)	SD107 ⑥	P-225	土陶器	杯	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・少	(30.0) -	-	1/8
411	1(E3)	SD107 ⑦	P-226	土陶器	杯	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・多	(28.0) -	-	1/8
412	1(E3)	SD107 ⑧	P-227	土陶器	杯	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・浅	(25.8) -	-	1/8
413	1(E3)	SD107 ⑨	P-228	土陶器	杯	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・少	(30.0) -	-	1/8
414	1(E3)	SD107 ⑩	P-229	黑色土器	碗	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	黑色 オリーブ	黑色 オリーブ	-	-	-	中・少	(32.2) 4.1	6.8 -	6/8 A類
415	1(E3)	SD107 ⑪	P-230	黑色土器	碗	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	黑色 オリーブ	黑色 オリーブ	-	-	-	中・少	(32.8) 4.3	6.2 -	4/8 A類
416	1(E3)	SD107 ⑫	P-231	黑色土器	碗	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	黑色 オリーブ	黑色 オリーブ	-	-	-	中・少	(5.6) -	-	3/8 B類
417	1(E3)	SD107 ⑬	P-232	黑色土器	碗	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	黑色 オリーブ	黑色 オリーブ	-	-	-	中・少	現存大 底 厚 (7.0) 4.0 (1.1)	-	3/8 平底盤
418	1(E3)	SD107 ⑭	P-233	土陶器	杯	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・少	最高大 底 厚 (11.4) 3.4 (1.4)	-	4/8
419	1(E3)	SD107 ⑮	P-234	土陶器	杯	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・少	最高大 底 厚 (10.8) 3.4 (1.4)	-	3/8
420	1(E3)	SD108 ⑯	P-271	土陶器	杯	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・少	(12.8) 4.1	9.1 -	8/8
421	1(E3)	SD108 ⑰	P-273	土陶器	杯	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・少	-	7.4 -	6/8
422	1(E3)	SD108 ⑱	P-275	土陶器	杯	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・多	(14.0) 2.0	2.0 -	2/8 外・削減加工
423	1(E3)	SD108 ⑲	P-277	土陶器	杯	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・少	(11.1) 2.4	7.7 -	6/8
424	1(E3)	SD108 ⑳	P-279	土陶器	杯	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・少	(13.4) 3.8	6.8 -	2/8
425	1(E3)	SD108 ㉑	P-280	土陶器	杯	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・少	(12.6) 3.6	6.0 -	1/8 内・削減加工
426	1(E3)	SD108 ㉒	P-286	土陶器	杯	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・少	(13.8) 3.7	6.8 -	1/8 内・削減加工
427	1(E3)	SD112 ㉓上層	P-287	土陶器	杯	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・少	(12.6) 3.6	6.0 -	1/8 内・削減加工
428	1(E3)	SD112 ㉔下層	P-257	土陶器	杯	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・少	(12.6) 3.6	6.0 -	1/8 内・削減加工
429	1(E3)	SD112 ㉕	P-258	土陶器	杯	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・少	(13.8) 3.7	6.8 -	1/8 内・削減加工
430	1(E3)	SD112 ㉖	P-259	土陶器	杯	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	筒形 直切口 直縁	白色 R.G.	白色 R.G.	-	-	-	中・少	(13.8) 3.7	6.8 -	1/8

第38表 西村遺跡出土土器観察表(18)

番号	調査区	通称名	層位等	文様・調整				色調				施上		法量(cm)		参考			
				出土器	土加器	外側	内面	石英	赤色粒	角閃石	黒母	砂粒	口径	體高	底径	その他			
431	1 [K3]	SD112	[2]上層	P-247	土加器	杯 輪底切口+ 周縁切口+	盤底	灰黃	-	-	-	中・少	12.6	6.6	(8.7)	-	1/8		
432	1 [K3]	SD112	[2]下層	P-254	土加器	杯 輪底切口+ 周縁切口+	盤底	灰黃	10YR8.3 10YR8.4	10YR8.4 10YR8.5	-	中・少	11.7	3.2	8.1	-	7/8		
433	1 [K3]	SD112	[2]下層	P-258	土加器	杯 輪底切口+ 周縁切口+	盤底	灰黃	10YR8.3	10YR8.4	-	中・少	10.8	2.8	6.6	-	2/8		
434	1 [K3]	SD112	[2]下層	P-253	土加器	杯 輪底切口+ 周縁切口+	盤底	73YR6.4 12.5%白	73YR6.4 12.5%白	中・差	中・少	11.8	-	-	-	2/8			
435	1 [K3]	SD112	[2]下層	P-242	土加器	杯 輪底切口+ 周縁切口+	盤底	灰黃	10YR8.3 10YR8.4	10YR8.4 10YR8.5	中・差	中・少	-	粗・多	10.4	2.5	6.2	-	2/8
436	1 [K3]	SD112	[2]下層	P-260	土加器	杯 輪底切口+ 周縁切口+	盤底	灰黃	10YR8.4 10YR8.5	10YR8.4 10YR8.5	粗・多	-	中・多	11.9	1.9	(7.6)	-	1/8	
437	1 [K3]	SD112	[2]上層	P-247	土加器	高台 輪底切口+ 周縁切口	盤底	灰黃	10YR7.4 12.5%白	73YR6.4 12.5%白	粗・多	-	粗・多	-	-	-	-	3/8	
438	1 [K3]	SD112	[2]下層	P-259	黑色器	碗 輪底切口+ 周縁切口	底	灰白	10YR8.2 10YR8.3	10YR8.2 10YR8.3	中・差	粗・少	-	(15.0)	-	-	-	1/8 A類	
439	1 [K3]	SD112	[2]下層	P-261	黑色器	碗 輪底切口+ 周縁切口	底	灰白	10YR7.1 10YR7.2	10YR7.1 10YR7.2	中・差	中・少	-	(15.0)	-	-	-	2/8 A類	
440	1 [K3]	SD112	[2]上層	P-240	黑色器	板状 輪底切口+ 周縁切口	底付高台	灰白	10YR7.1 10YR7.2	10YR7.1 10YR7.2	中・少	-	-	-	(5.0)	-	-	2/8 B類	
441	1 [K3]	SD112	[1]上層	P-240	黑色器	板状 輪底切口+ 周縁切口	底付高台	灰白	73YR4.1 12.5%白	73YR4.1 12.5%白	中・少	-	-	-	-	-	-	1/8 素面	
442	1 [K3]	SD112	[2]	P-256	白色器	碗 輪底切口+ 周縁切口	底	灰白	10YR7.2 10YR7.3	10YR7.2 10YR7.3	中・少	-	-	無	(16.0)	-	-	1/8 素面	
443	1 [K3]	SD112	[2]	P-256	綠釉器	碗 輪底切口+ 周縁切口	底	綠	57YR6.6 12.5%白	57YR6.6 12.5%白	粗・細・少	-	-	無	-	-	-	1/8 素面	
444	2 [K2]	SD113	(4)	土加器	杯 輪底切口+ 周縁切口	盤底	灰黃	10YR7.3 10YR7.4	10YR7.3 10YR7.4	粗・細	少	-	-	-	(6.8)	-	-	2/8	
445	2 [K2]	SD113	(4)	土面質土器	杯 輪底切口+ 周縁切口	盤底	灰黃	10YR7.4 12.5%白	10YR7.4 12.5%白	中・多	中・少	-	(10.7)	3.0	(6.4)	-	2/8		
446	2 [K2]	SD113	(4)	土面質土器	碗 輪底切口+ 周縁切口	底	灰白	25Y8.2 10YR7.4	25Y8.2 10YR7.4	中・少	-	中・少	(12.9)	-	-	-	1/8 素面		
447	2 [K2]	SD113	(5)	土面質土器	碗 輪底切口+ 周縁切口	底	灰白	57YR8.2 10YR7.4	57YR8.2 10YR7.4	粗・細	-	-	-	-	(7.6)	-	1/8		
448	2 [K2]	SD113	(1)	土加器	土碗 輪底切口+ 周縁切口	底	灰白	10YR7.3 10YR7.4	10YR7.3 10YR7.4	中・少	-	中・多	(26.0)	-	-	-	2/8		
449	2 [K2]	SD114	(1)	土加器	土碗 輪底切口+ 周縁切口	底	灰白	73YR8.4 12.5%白	73YR8.4 12.5%白	中・多	中・少	-	中・過中	多	-	-	1/8 素面		
450	2 [K2]	SD113	(2)	土面質土器	碗 輪底切口+ 周縁切口	底	灰白	25Y7.6 10YR7.3	25Y7.6 10YR7.3	中・少	-	中・少	-	-	-	-	1/8		
451	2 [K2]	SD113	(3)	土加器	土碗 輪底切口+ 周縁切口	底	灰白	10YR7.3 10YR7.4	10YR7.3 10YR7.4	粗・細	少	-	粗・多	-	-	-	1/8 素面		
452	2 [K2]	SD113	(4)	土加器	土碗 輪底切口+ 周縁切口	底	灰白	10YR7.4 12.5%白	10YR7.4 12.5%白	中・少	中	少	最人長 最高	18.2	-	-	1/8		
453	2 [K2]	SD113	(5)	土加器	土碗 輪底切口+ 周縁切口	底	灰白	10YR6.6 12.5%白	10YR6.6 12.5%白	中・差	-	中・多	最高 最高	22.8	-	-	1/8		
454	2 [K2]	SD114	(1)	瓦	瓦瓦	瓦 輪底切口+ 周縊切口	底	灰白	57Y4.2 10YR7.4	57Y4.2 10YR7.4	中・差	-	-	明有瓦 明有瓦	42.1	1.8	-	1/8 素面	

第39表 西村通路出土土器觀察表(19)

番号	調査区	遺物名	層位等	位置	構類	器種	色調				口径	高さ	底径	法量(cm)				保存率	備考
							外	内	外	内				外	内	外	内		
455	2 K(2)	S013	(3)	P-265	土壠	有蓋 有脚 直縁 筒形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.8	混入焼成灰
456	2 K(2)	S014	(3)	P-275	土壠	有脚 直縁 筒形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.8	燒成灰
457	2 K(2)	S013	(2)	P-266	土壠	管状 砂輪 鉢底 鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.8	燒成灰
461	2 K(2)	S019	(1)	土陶器	杯 口切引 圓輪	圓輪+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.8	重量10.8g
462	2 K(2)	S019	(2)	土陶器	杯 口切引 圓輪	圓輪+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.8	燒成灰
463	2 K(2)	S019	(1)	P-290	土陶器	杯 口切引 圓輪	圓輪+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8	燒成灰
464	2 K(2)	S019	(1)	P-290	土陶器	杯 口切引 圓輪	圓輪+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	燒成灰
465	2 K(2)	S019	(1)	土陶器	杯 口切引 圓輪	圓輪+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	燒成灰
466	2 K(2)	S019	(1)	土陶器	杯 口切引 圓輪	圓輪+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.8	燒成灰
467	2 K(2)	S019	(2)	土陶器	杯 口切引 圓輪	圓輪+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	燒成灰
468	2 K(2)	S019	(1)	土陶器	土塗 口切引 圓輪	圓輪+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	燒成灰
469	2 K(2)	S019	(1)	土陶器	土塗 口切引 圓輪	圓輪+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	燒成灰
471	1 K(2)	SP173	-	土陶器	杯 直縁 筒形	直縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.0	燒成灰
472	1 K(2)	SP147	-	黑色盤	杯 直縁 筒形	直縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	燒成灰
483	1 K(2)	SK05	-	土陶器	杯 直縁 筒形	直縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.8	燒成灰
484	2 K(2)	SP965	採取	土陶器	杯 直縁 筒形	直縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	燒成灰
485	2 K(2)	SP965	採取	土陶器	杯 直縁 筒形	直縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.8	燒成灰
486	2 K(2)	SP965	-	坩埚	身 圓形膨化	圓輪	圓輪+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	燒成灰
487	1 K(2)	SP204	-	明思想器	杯 口切引 圓輪	圓輪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	燒成灰
488	1 K(2)	SP244	-	黑色盤	杯 直縁 筒形	直縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	燒成灰
489	1 K(2)	SP241	-	須恵器	盞 直縁 筒形	直縁	圓輪+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.8	燒成灰
490	1 K(2)	SP223	-	P-212	土壠	有脚 直縁 筒形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.8	燒成灰
495	2 K(2)	501	土壠	須恵器	茶碗 直縁	直縁	圓輪	圓輪	圓輪	圓輪	25 Y 6.3	25 Y 7.2	25 Y 6.3	14.5 X 7.0	14.5 X 7.0	14.5 X 7.0	-	8.8	燒成灰
496	2 K(2)	501	土壠	須恵器	茶碗 直縁	直縁	圓輪	圓輪	圓輪	圓輪	N7/灰白	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	3.8	燒成灰
497	2 K(2)	501	土壠	須恵器	茶碗 直縁	直縁	圓輪	圓輪	圓輪	圓輪	N7/灰白	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	4.8	燒成灰

第40表 西村遺跡出土土器觀察表(20)

報告番号	調査区	通査名	層位等	出土位置	種類	形態	文様・調整		色調	輪裏	外側	内面	石英	角閃石	黒母	砂粒	口径	體高	底径	その他	残存率	備考
							外面	内面														
497 2.6 2.5.3	第1面 5合層	楕円形	手土器	要 輪底・指揮丸	管底	圓底	10YR7.3 12.5YR7.3 5YR8.8	10YR7.3 12.5YR7.3 5YR8.8	灰	少	-	-	-	-	-	(6.0)	-	4.8	外・里層			
498 2.6.3	第1面 5合層	楕円形	手土器	杯 側面・つ	管底	圓底	10YR7.3 12.5YR7.3 5YR8.8	10YR7.3 12.5YR7.3 5YR8.8	灰	少	-	-	-	-	-	(6.0)	-	6.8				
499 2.6.3	第1面 5合層	楕円形	手土器	杯 側面	管底	圓底	10YR7.3 12.5YR7.3 5YR8.8	10YR7.3 12.5YR7.3 5YR8.8	灰	少	-	-	-	-	-	(6.0)	-	2.8				
500 1.6.3	第1面 5合層	圓底	手土器	杯 切口	管底	圓底	2.5YR6.4 5YR6.1	2.5YR6.4 5YR6.1	灰	少	-	-	-	-	-	(6.0)	-	4.8				
501 1.6.3 2.6.3	第1面 5合層 6合層 6合層	圓底	手土器	杯 側面	管底	圓底	5YR6.8	5YR6.8	灰	少	-	-	-	-	-	(6.0)	-	8.8				
502 1.6.3	第1面 5合層	圓底	手土器	杯 側面	管底	圓底	5YR6.8 5YR7.3 5YR7.8	5YR6.8 5YR7.3 5YR7.8	灰	少	-	-	-	-	-	(11.0)	2.2	7.4	-	7.8		
503 1.6.3 2.6.3	第1面 5合層	圓底	手土器	杯 側面	管底	圓底	5YR6.8 5YR7.3 5YR7.8	5YR6.8 5YR7.3 5YR7.8	灰	少	-	-	-	-	-	(11.0)	2.2	(7.0)	-	3.8		
504 1.6.3 2.6.3	第1面 5合層	褐色	手土器	杯 側面	管底	圓底	10YR8.3 5YR8.3	10YR8.3 5YR8.3	灰	少	-	-	-	-	-	(11.0)	2.4	7.2	-	6.8		
505 2.6.3	第1面 5合層	楕円形	手土器	杯 側面	管底	圓底	7.5YR6.4 12.5YR6.4 10YR7.3 12.5YR7.3 5YR8.2	7.5YR6.4 12.5YR6.4 10YR7.3 12.5YR7.3 5YR8.2	灰	少	-	-	-	-	-	(10.0)	2.0	(6.0)	-	3.8		
506 2.6.3	第1面 5合層	楕円形	手土器	杯 側面	管底	圓底	12.5YR7.3 15.5YR7.3 10YR8.3 12.5YR8.3 10YR8.3	12.5YR7.3 15.5YR7.3 10YR8.3 12.5YR8.3 10YR8.3	灰	少	-	-	-	-	-	(10.0)	2.3	7.0	-	5.8		
507 1.6.3	第1面 5合層	褐色	手土器	杯 側面	管底	圓底	10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2	10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2	灰	少	-	-	-	-	-	(11.0)	2.7	(7.0)	-	3.8		
508 1.6.3	第1面 5合層	褐色	手土器	杯 側面	管底	圓底	10YR8.3 5YR8.3 10YR8.3 5YR8.3	10YR8.3 5YR8.3 10YR8.3 5YR8.3	灰	少	-	-	-	-	-	(11.0)	3.0	7.4	-	7.8		
509 2.6.3	第1面 5合層	上面積食 第一面	手土器	杯 側面	管底	圓底	10YR7.3 12.5YR7.3 5YR8.2 10YR8.2 5YR8.2	10YR7.3 12.5YR7.3 5YR8.2 10YR8.2 5YR8.2	灰	少	-	-	-	-	-	(11.0)	2.8	(6.0)	-	2.8		
510 1.6.3	第1面 5合層	褐色	手土器	杯 側面	管底	圓底	10YR8.3 5YR8.3 10YR8.3 5YR8.3	10YR8.3 5YR8.3 10YR8.3 5YR8.3	灰	少	-	-	-	-	-	(11.0)	1.8	(7.0)	-	3.8		
511 2.6.3	第1面 5合層	楕円形	手土器	杯 側面	管底	圓底	10YR7.6 5YR7.6 10YR7.6 5YR7.6	10YR7.6 5YR7.6 10YR7.6 5YR7.6	灰	少	-	-	-	-	-	(7.0)	-	2.8	-	2.8		
512 2.6.3	第1面 5合層	楕円形	手土器	高台 周縁	管底	圓底	5YR6.2 12.5YR6.2 10YR7.3 12.5YR7.3 5YR8.2	5YR6.2 12.5YR6.2 10YR7.3 12.5YR7.3 5YR8.2	灰	少	-	-	-	-	-	(1.58)	-	1.8	-	1.8		
513 2.6.3	第1面 5合層	楕円形	手土器	杯 側面	管底	圓底	10YR7.3 12.5YR7.3 5YR8.2 10YR8.2 5YR8.2	10YR7.3 12.5YR7.3 5YR8.2 10YR8.2 5YR8.2	灰	少	-	-	-	-	-	(3.0)	-	1.8	-	1.8		
514 2.6.3	第1面 5合層	褐色	手土器	要 側面	管底	圓底	10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2	10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2	灰	少	-	-	-	-	-	(2.0)	-	1.8	-	1.8		
515 2.6.3 2.6.3	第1面 5合層	褐色 含鉄	手土器	土塗 側面	管底	圓底	10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2	10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2 10YR8.2	灰	少	-	-	-	-	-	(2.0)	-	1.8	-	1.8		
516 1.6.3	第1面 5合層	楕円形	手土器	高台 周縁	管底	圓底	7.5YR6.4 12.5YR6.4 10YR7.3 12.5YR7.3 5YR8.3	7.5YR6.4 12.5YR6.4 10YR7.3 12.5YR7.3 5YR8.3	灰	少	-	-	-	-	-	(2.0)	-	1.8	-	1.8		
517 2.6.3	第1面 5合層	褐色	手土器	土塗 側面	管底	圓底	10YR6.4 10YR6.4 10YR6.4 10YR6.4	10YR6.4 10YR6.4 10YR6.4 10YR6.4	灰	少	-	-	-	-	-	(2.0)	-	1.8	-	1.8		
518 1.6.3	第1面 5合層	褐色	手土器	土塗 側面	管底	圓底	7.5YR6.4 12.5YR6.4	7.5YR6.4 12.5YR6.4	灰	少	-	-	-	-	-	(2.0)	-	1.8	-	1.8		

第41表 西村遺跡出土土器觀察表(21)

番号	調査区	遺物名	解説等	出土位置	種類	器形	外觀		内觀		色調		地質		法量(cm)	保存率	備考	
							前面	裏面	前面	裏面	白灰	赤褐色	角閃石	雲母	砂粒	口沿	底面	
519	1区(3)	第1面 5合器		楕圓形	土陶器	土鍋	圓底+・附耳 板子+	附耳後方 板子+	723YR6.4 12.4cm	723YR6.4 12.4cm	中・多	中・多	(24.7)	-	-	1.8		
520	1区(2)	第1面 5合器	第2面器	土陶器	土鍋	圓底+・附耳 板子+	附耳後方 板子+	723YR5.6 明治期	5YR5.8 明治期	-	-	中・多	(25.8)	-	-	1.8		
521	1区(3)	第1面 5合器	第2面器	土陶器	土鍋	圓底+・附耳 板子+	附耳後方 板子+	723YR6.6 明治期	723YR6.6 明治期	中・多	-	(30.0)	-	-	-	1.8		
522	1区(3)	第1面 5合器	第1面器	土陶器	土鍋	圓底+・附耳 板子+	附耳後方 板子+	723YR5.3 12.5cm	723YR5.3 12.5cm	-	-	細・混	中・多	-	-	1.8		
523	1区(2)	第1面 5合器	楕圓形	土陶器	土鍋	圓底+・附耳 板子+	附耳後方 板子+	233YR5.6 明治期	233YR5.6 明治期	中・混	-	細・混	中・多	-	-	1.8未満		
524	2区(3)	第1面 5合器	楕圓形	土陶器	土鍋	圓底+・附耳 板子+	附耳後方 板子+	N4/灰	N4/灰	中・多	-	細・少	中・多	粗・多	大トガ 0.9m	1.8		
525	2区(3)	第1面 5合器	楕圓形	土陶器	土鍋	圓底+・附耳 板子+	附耳後方 板子+	10YR5.4 明治	-	中・多	-	-	粗・多	大トガ 0.9m	1.8			
526	2区(3)	第1面 北切り		土陶器	罐	圓底+・附耳 板子+	附耳後方 板子+	10YR8.2 明治	-	中・混	-	-	粗・少	大トガ 1.2m	2.8			
527	2区(2)	第1面 5合器	第2面器	土陶器	土鍋	圓底+・附耳 板子+	附耳後方 板子+	5YR5.6 明治期	5YR5.6 明治期	中・多	-	中・少	大トガ 1.2m	2.4	-	2.8		
528	2区(2)	第1面 5合器	第1面器	土陶器	脚部	指揮さく+・行 行+	指揮さく+・行 行+	10YR8.3 洋食器	10YR8.3 洋食器	少	-	細・少	少	-	-	1.8未満		
529	1区(2)	第1面 5合器	第2面器	須恵器	杯	圓底+・附耳 板子+	附耳後方 板子+	5Y7.1灰白 明治	-	-	-	細・少	(16.8)	-	-	1.8		
530	1区(3)	第1面 5合器	楕圓形	須恵器	杯	圓底+・附耳 板子+	附耳後方 板子+	N6/灰	N6/灰	-	-	細・少	(45.2)	-	-	1.8		
531	2区(2)	第1面 5合器	楕圓形	須恵器	杯	圓底+・附耳 板子+	附耳後方 板子+	N8/灰白	N8/灰白	細・少	-	細・少	(14.0)	(3.5)	(8.0)	2.8		
532	1区(2)	第1面 5合器	楕圓形	須恵器	杯	圓底+・附耳 板子+	附耳後方 板子+	N7/灰白	-	-	-	細・少	(13.0)	-	(7.6)	2.8		
533	1区(3)	第1面 5合器	楕圓形	須恵器	杯	圓底+・附耳 板子+	附耳後方 板子+	23YR8.2 明治	-	-	-	中・少	(11.8)	3.4	(6.2)	1.8		
534	1区(3)	第1面 5合器	須恵器	杯	圓底+・附耳 板子+	附耳後方 板子+	37Y8.1灰白 明治	23YR8.2 明治	-	-	細・多	11.7	3.8	7.0	-	6.8		
535	1区(3)	第1面 5合器	楕圓形	須恵器	杯	圓底+・附耳 板子+	附耳後方 板子+	N7/灰白	N7/灰白	-	-	細・少	(12.0)	3.4	(6.8)	-	2.8	
536	1区(3)	第1面 5合器	楕圓形	須恵器	杯	圓底+・附耳 板子+	附耳後方 板子+	N6/灰	N6/灰	-	-	中・少	(12.2)	3.3	(7.2)	-	4.8	
537	2区(3)	第1面 5合器	上釉精陶	須恵器	杯	圓底+・附耳 板子+	附耳後方 板子+	N7/灰白	N7/灰白	細・少	-	細・少	(11.6)	-	(7.6)	-	2.8	
538	1区(3)	第1面 5合器	楕圓形	須恵器	杯	圓底+・附耳 板子+	附耳後方 板子+	N7/灰白	N7/灰白	-	-	細・少	(12.8)	-	(9.8)	-	2.8	
539	1区(3)	第1面 5合器	須恵器	杯	圓底+・附耳 板子+	附耳後方 板子+	N7/灰白	N7/灰白	-	-	細・少	(14.0)	-	-	-	1.8		

第42表 西村遺跡出土土器觀察表(22)

番号	調査区	遺物名	層位等	出土 位置	種類	形態	文様・調整		色調	輪	内面	外縁	外縁	内面	石英 長石 角閃石 雲母 斜長石 輝石		口徑	體高	底径	その他	保存状 態
							外面	内面							石英 長石 角閃石 雲母 斜長石 輝石						
540	1区(2)	第1層 5合層	第2塑性層	須恵器	杯	切妻口 圓底平	圓底平+	圓底平+	73Y71/1 灰白	-	-	-	-	-	73Y71/1 灰白	褐色	-	-	(78)	-	3.8
541	2区(3)	第1層 5合層	須恵器	杯	直口 圓底平	圓底平+	圓底平+	73Y71/1 灰白	NS/灰 灰	圓・淺	-	-	-	-	73Y71/1 灰白	褐色	-	-	(16.5)	-	1.8
542	2区(2)	第1層 5合層	第2塑性層	須恵器	杯	直口 圓底平	圓底平+	圓底平+	73Y71/1 灰白	-	-	-	-	-	73Y71/1 灰白	褐色	-	-	(13.7)	-	1.8
543	1区(3)	第1層 5合層	第2塑性層	須恵器	杯	切妻口 圓底平	圓底平+	圓底平+	57Y81/1 灰白	-	-	-	-	-	57Y81/1 灰白	褐色	-	-	(11.9)	-	1.8
544	2区(2)	第1層 5合層	第2塑性層	須恵器	杯	直口 圓底平	圓底平+	圓底平+	73Y62/2 灰白	NS/灰 灰	圓・淺	-	-	-	73Y62/2 灰白	褐色	-	-	(6.9)	-	3.8
545	2区(3)	第1層 5合層	須恵器	杯	直口 圓底平	圓底平+	圓底平+	73Y62/2 灰白	NS/灰 灰	圓・淺	-	-	-	-	73Y62/2 灰白	褐色	-	-	(11.2)	-	1.8
546	1区(1)	第1層 5合層	須恵器	杯	直口 圓底平	圓底平+	圓底平+	73Y62/2 灰白	NS/灰 灰	圓・淺	-	-	-	-	73Y62/2 灰白	褐色	-	-	(7.8)	-	4.8
547	2区(2)	第1層 5合層	第2塑性層	須恵器	杯	直口 圓底平	圓底平+	圓底平+	23Y71/1 灰白	-	-	-	-	-	23Y71/1 灰白	褐色	-	-	(6.5)	-	4.8
548	1区(1)	第1層 5合層	須恵器	杯	直口 圓底平	圓底平+	圓底平+	73Y62/2 灰白	NS/灰 灰	圓・淺	-	-	-	-	73Y62/2 灰白	褐色	-	-	(6.9)	受熱	7.8
549	2区(2)	第1層 5合層	須恵器	杯	直口 圓底平	圓底平+	圓底平+	73Y62/2 灰白	NS/灰 灰	圓・淺	-	-	-	-	73Y62/2 灰白	褐色	-	-	(12.0)	-	1.8
550	1区(2)	第1層 5合層	須恵器	皿	切妻口 圓底平	圓底平+	圓底平+	10Y88/1 灰白	-	-	-	-	-	10Y88/1 灰白	褐色	-	-	(1.9)	1.5	(12.0)	
551	1区(3)	第1層 5合層	須恵器	皿	切妻口 圓底平	圓底平+	圓底平+	10Y88/1 灰白	NS/灰 灰	圓・淺	-	-	-	-	10Y88/1 灰白	褐色	-	-	(11.0)	-	2.8
552	1区(3)	第1層 5合層	第1塑性層 第1變質層	須恵器	皿	切妻口 圓底平	圓底平+	圓底平+	10Y61/1 灰白	-	-	-	-	-	10Y61/1 灰白	褐色	-	-	(13.2)	2.0	(9.4)
553	1区(2) 3 (4)	第1層 5合層	須恵器	杯	直口 圓底平	圓底平+	圓底平+	NS/灰 灰	NS/灰 灰	圓・淺	-	-	-	-	NS/灰 灰	褐色	-	-	(1.9)	-	4.8
554	1区(3)	第1層 5合層	須恵器	杯	直口 圓底平	圓底平+	圓底平+	NS/灰 灰	NS/灰 灰	圓・淺	-	-	-	-	NS/灰 灰	褐色	-	-	(6.1)	-	2.8
555	1区(1)	第1層 5合層	須恵器	杯	直口 圓底平	圓底平+	圓底平+	10Y61/1 灰白	-	-	-	-	-	10Y61/1 灰白	褐色	-	-	(21.1)	-	1.8	
556	1区(2)	第1層 5合層	須恵器	杯	直口 圓底平	圓底平+	圓底平+	NS/灰 灰	NS/灰 灰	圓・淺	-	-	-	-	NS/灰 灰	褐色	-	-	(2.9)	-	1.8
557	1区(3)	第1層 5合層	須恵器	杯	直口 圓底平	圓底平+	圓底平+	10Y71/1 灰白	-	-	-	-	-	10Y71/1 灰白	褐色	-	-	(2.8)	-	1.8	
558	2区(3)	第1層 5合層	須恵器	杯	直口 圓底平	圓底平+	圓底平+	NS/灰 灰	NS/灰 灰	圓・淺	-	-	-	-	NS/灰 灰	褐色	-	-	(5.8)	-	1.8
559	2区(3)	第1層 5合層	須恵器	杯	直口 圓底平	圓底平+	圓底平+	NS/灰 灰	NS/灰 灰	圓・淺	-	-	-	-	NS/灰 灰	褐色	-	-	(1.9)	-	1.8未満
560	2区(3)	第1層 5合層	須恵器	須恵器	皿	切妻口 圓底平	圓底平+	圓底平+	NS/灰 灰	NS/灰 灰	圓・淺	-	-	-	NS/灰 灰	褐色	-	-	(1.9)	-	1.8

第43表 西村通路出土土器觀察表(23)

番号	調査区	遺構名	解説等	出土位置	種類	器形	文様・調査			色調			地質			法量(cm)	保存率	備考
							外圓	内圓	外縁	内縁	石英	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口沿	窓高	底深
561	2区(3)	第1面 第1面合 面	楕円形 桶	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	N3/ 壁虎	N6/ 壁虎	細・浅	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8
562	1区(1)	第1面合 面	第1面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	N7/ 天白	N7/ 天白	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
563	2区(2)	第1面 第1面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	N7/ 天白	N5/ 壁虎	中・少	-	-	細・少	(33.0)	-	-	-	-	-	1/8
564	2区(3)	第1面 第1面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	N7/ 天白	N5/ 壁虎	-	-	細・少・少	(33.0)	-	-	-	-	-	-	1/8未満
565	1区(2) 2区(2)	第1面 第1面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	73Y868.1 73Y868.4	N6/ 壁虎	-	-	-	-	(28.0)	-	-	-	-	-	1/8
566	2区(2)	第1面 第1面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	73Y868.4	N5/ 壁虎	細・浅	-	細・少・中・多	(26.6)	-	-	-	-	-	-	1/8
567	1区(3)	第1面 第1面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	73Y71 85H1	23Y71 85H1	-	-	中・少	(22.8)	-	-	-	-	-	-	2/8
568	1区(3)	第1面 第1面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	73Y71 85H1	23Y71 85H1	-	-	細・少	(19.8)	-	-	-	-	-	-	1/8
569	2区(3)	第1面 第1面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	N6/ 壁虎	N6/ 壁虎	-	-	中・少	(16.8)	-	-	-	-	-	-	1/8
570	2区(3)	第1面 第1面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	N4/ 壁虎	N6/ 壁虎	-	-	細・少	(13.2)	-	-	-	-	-	-	1/8
571	2区(3)	第1面 第1面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	57Y71 85H1	57Y71 85H1	中・多	-	中・多	-	-	-	-	-	-	-	3/8
572	1区(3)	第1面 第1面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	N6/ 壁虎	N6/ 壁虎	中・量	-	中・多	-	-	(10.8)	-	-	-	-	2/8
573	2区(3)	第1面 第1面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	N5/ 壁虎	N6/ 壁虎	中・多	-	細・少	-	-	(8.8)	-	-	-	-	2/8
574	1区(2)	第1面 第1面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	N6/ 壁虎	N7/ 天白	-	-	細・少	-	-	(9.0)	-	-	-	-	2/8
575	1区(3)	第1面 第2面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	N7/ 天白	N7/ 天白	-	-	細・少	-	-	(7.8)	-	-	-	-	2/8
576	2区(2)	第1面 第2面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	N7/ 天白	N7/ 天白	細・少	-	中・少	-	-	(7.2)	-	-	-	-	3/8
577	1区(1)	第1面 第1面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	N5/ 壁虎	N5/ 壁虎	-	-	細・少	-	-	(9.0)	-	-	-	-	1/8 内・自然輸付着
578	1区(3)	第1面 第2面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	N5/ 壁虎	N6/ 壁虎	-	-	細・多	-	-	(9.0)	-	-	-	-	2/8
579	1区(3)	第1面 第1面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	N5/6.1 壁虎	N8/ 天白	-	-	無	-	-	(11.2)	-	-	-	-	2/8 材形形便
580	1区(2)	第1面 第1面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	N6/ 壁虎	N6/ 壁虎	-	-	細・少	-	-	(8.0)	-	-	-	-	1/8 休耕田裏
581	2区(2)	第1面 第1面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	N6/ 壁虎	N6/ 壁虎	-	-	細・少	-	-	-	-	-	-	-	5/8
582	1区(2)	第1面 第1面合 面	須恵器 要 回転打+	須恵器 要 回転打+	回転打+	N5/ 壁虎	N5/ 壁虎	-	-	細・少	(2.8)	-	-	-	-	-	-	2/8

第44表 西村遺跡出土土器觀察表 (24)

番号	調査区	遺物名	層位等	出土 位置	種類	形態	文様・調整		色調		施土		法量(cm)	保存状 態					
							外面	内面	外面	内面	石英	赤鉄粒	角閃石	黒母	砂粒	口括	砂高	底延	その他
583	2 K(3)	第1層 合合層	機械掘削	須恵器	二重 切妻 縁付 筒子	輪 輪底 輪	NS/灰	N6/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8
584	1 K(3)	第1層 合合層	機械掘削	黒色土器	輪 輪底 輪	輪 輪底 輪	10Y8R8.4 10Y7T7.4 瓦質	10Y7R8.4 10Y7T7.4 瓦質	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8 A類
585	1 K(3)	第1層 合合層	漆器土器	黑色土器	輪 輪底 輪	輪 輪底 輪	12.5R6.4 12.5S.4 輪	12.5R6.4 12.5S.4 輪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8 A類
586	2 K(3)	第1層 合合層	機械掘削	黒色土器	輪 輪底 輪	輪 輪底 輪	5Y8R8.3 5Y8R8.3 漆質	5Y8R8.3 5Y8R8.3 漆質	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8 A類
587	1 K(2)	第1層 合合層	上面積査	黒色土器	輪 輪底 輪	輪 輪底 輪	10Y7R8.4 10Y7T7.4 瓦質	10Y7R8.4 10Y7T7.4 瓦質	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8 A類
588	2 K(3)	第1層 合合層	漆器皿	黒色土器	輪 輪底 輪	輪 輪底 輪	10Y7R7.2 10Y8S1 瓦質	10Y7R7.2 10Y8S1 瓦質	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8 A類
589	1 K(2)	第1層 集中部分	漆土器	黒色土器	輪 輪底 輪	輪 輪底 輪	2Y9E6.1 2Y9E6.1 瓦質	2Y9E6.1 2Y9E6.1 瓦質	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8 A類
590	1 K(1)	第1層 集中部分	漆器土器	黒色土器	輪 輪底 輪	輪 輪底 輪	10Y8R8.3 10Y8R8.3 瓦質	10Y8R8.3 10Y8R8.3 瓦質	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8 A類
591	1 K(2)	第1層 集中部分	漆器土器	黒色土器	輪 輪底 輪	輪 輪底 輪	7.5N7T7.4 7.5N7T7.4 輪	7.5N7T7.4 7.5N7T7.4 輪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.8 A類
592	2 K(2)	第2層 集中部分	漆器皿	黒色土器	輪 輪底 輪	輪 輪底 輪	7.5Y8E6.6 7.5Y8E6.6 輪	7.5Y8E6.6 7.5Y8E6.6 輪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8 A類
593	—	漆土	漆土	黒色土器	輪 輪底 輪	輪 輪底 輪	2.5N7T1.9 2.5N7T1.9 輪	2.5N7T1.9 2.5N7T1.9 輪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.8 B類
594	2 K(2)	第1層 合合層	黄色 合合層	黑色土器	輪 輪底 輪	輪 輪底 輪	5Y7V1.4 5Y7V1.4 瓦質	5Y7V1.4 5Y7V1.4 瓦質	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8 B類
595	2 K(3)	第1層 合合層	機械掘削	漆器皿	漆器皿	漆器皿	7.5N7T7.2 7.5N7T7.2 輪	7.5N7T7.2 7.5N7T7.2 輪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8
596	2 K(2)	第1層 合合層	漆器皿	漆器皿	漆器皿	漆器皿	7.5N7T7.2 7.5N7T7.2 輪	7.5N7T7.2 7.5N7T7.2 輪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8
597	1 K(2)	第1層 合合層	漆器皿	漆器皿	漆器皿	漆器皿	5.5E6.8 5.5E6.8 輪	5.5E6.8 5.5E6.8 輪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8
598	2 K(3)	第1層 合合層	漆器皿	漆器皿	漆器皿	漆器皿	7.5N7T7.2 7.5N7T7.2 輪	7.5N7T7.2 7.5N7T7.2 輪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8
599	1 K(2)	第1層 合合層	灰色 合合層	漆器皿	漆器皿	漆器皿	7.5N7T7.2 7.5N7T7.2 輪	7.5N7T7.2 7.5N7T7.2 輪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8
600	2 K(3)	第1層 合合層	漆器皿	青磁	青磁	青磁	7.5N7T7.2 7.5N7T7.2 輪	7.5N7T7.2 7.5N7T7.2 輪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8
601	2 K(2)	第1層 合合層	漆器皿	青磁	青磁	青磁	7.5N7T7.2 7.5N7T7.2 輪	7.5N7T7.2 7.5N7T7.2 輪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8
602	2 K(3)	第1層 合合層	漆器皿	青磁	青磁	青磁	4.5ZJ7E6.1 4.5ZJ7E6.1 輪	4.5ZJ7E6.1 4.5ZJ7E6.1 輪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満 雜質含む
603	2 K(2)	第1層 合合層	上面積査	白色 合合層	漆器皿	漆器皿	7.5N7T7.2 7.5N7T7.2 輪	7.5N7T7.2 7.5N7T7.2 輪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満

第45表 西村通路出土土器觀察表(25)

番号	調査区	遺物名	解説等	出土位置	種類	器形	外觀		内觀		色調		鉢		法量(cm)		保存率	備考
							外圓	内圓	外輪	内輪	白灰	灰石	白灰	灰石	口径	底径		
634	1.K(2)	第1面 5合器	第1面	白色	桶	輪制 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	無	-	(5.8)	1.8
635	2.K(2)	第1面 5合器	上海精金	白色	桶	輪制 高筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	無	-	(3.4)	1.8
636	1.K(3)	第1面 5合器	陶瓶頭	黑色	瓶	輪制 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	無	-	(7.2)	2.8
637	1.K(3)	第1面 5合器	陶瓶頭	瓦	平底	輪制 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	現存長 現存最 底径 底板	-	1.8未満	現存底板
638	1.K(3)	第1面 5合器	陶瓶頭	瓦	平底	輪制 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	現存長 現存最 底径 底板	-	1.8未満	現存底板
639	1.K(2)	第1面 5合器	第1面	土黃	罐	輪制 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	中・少 現存長 現存最 底径 底板	-	6.8	現存底板
640	1.K(2)	第1面 5合器	第1面	土黃	罐	輪制 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	中・少 現存長 現存最 底径 底板	-	8.8	現存底板
641	1.K(1)	第1面 5合器	第1面	土黃	罐	輪制 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	中・少 現存長 現存最 底径 底板	-	8.8	現存底板
642	1.K(2)	合器	K色	P-178	土罐	有孔 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	中・少 現存長 現存最 底径 底板	-	8.8	現存底板
643	1.K(2)	合器	K色	P-179	土罐	有孔 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	中・少 現存長 現存最 底径 底板	-	7.8	現存底板
644	2.K(2)	3合器	上面精金	P-289	土罐	有孔 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	中・少 現存長 現存最 底径 底板	-	8.8	現存底板
645	1.K(2)	2合器	第1面	P-102	土罐	有孔 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	中・少 現存長 現存最 底径 底板	-	8.8	現存底板
646	2.K(2)	2合器	第1面	P-291	土罐	有孔 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	中・少 現存長 現存最 底径 底板	-	7.8	現存底板
647	1.K(2)	3合器	K色	P-286	土罐	有孔 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	中・少 現存長 現存最 底径 底板	-	8.8	現存底板
648	2.K(2)	3合器	上面精金	P-274	土罐	有孔 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	中・少 現存長 現存最 底径 底板	-	8.8	現存底板
649	1.K(2)	2合器	第1面	P-145	土罐	有孔 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	中・少 現存長 現存最 底径 底板	-	8.8	現存底板
650	2.K(3)	3合器	上面精金	P-283	土罐	有孔 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	中・少 現存長 現存最 底径 底板	-	7.8	現存底板
651	1.K(1)	3合器	第1面	P-215	土罐	有孔 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	中・少 現存長 現存最 底径 底板	-	7.8	現存底板
652	1.K(3)	3合器	K色	P-102	土罐	有孔 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	中・少 現存長 現存最 底径 底板	-	8.8	現存底板
653	1.K(2)	3合器	上面精金	P-283	土罐	有孔 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	中・少 現存長 現存最 底径 底板	-	8.8	現存底板
654	1.K(2)	3合器	西側面	P-102	土罐	有孔 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	中・少 現存長 現存最 底径 底板	-	7.8	現存底板
655	1.K(2)	3合器	第1面	P-102	土罐	有孔 直筒型	灰白	灰白	灰白	灰白	土黃	土黃	-	-	中・少 現存長 現存最 底径 底板	-	8.8	現存底板

第46表 西村遺跡出土土器観察表(26)

番号	調査区	通称名	層位等	出土			文様・調整			色調			施土			法量(cm)			参考
				位置	種類	形種	外面	内面	石英	赤色粒	角閃石	黒母	砂粒	口括	膨大部	底延	底延	その他	
636	1区(2)	第1面 5合層 上層粘土	P-148	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	10YR8.3 浅黄褐色	-	-	-	-	-	細・少	最高大長 底延	1.3	-	8.8	最高大長 底延 7.5g
637	2区(2)	第1面 5合層 板状粘土	-	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	10YR7.4 5ない黄褐色	-	-	-	-	-	中・少	最高大長 底延	1.2	-	7.8	最高大長 底延 0.7
638	1区(2)	第1面 5合層 透水粘土	-	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	2.5YR8.4 浅黄	-	-	-	-	-	中・少	最高大長 底延	1.1	-	8.8	最高大長 底延 0.8
639	1区(2)	第1面 5合層 第1堆積層P-200	-	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	2.5YR7.3 浅黄	-	-	-	-	-	中・少	最高大長 底延	1.0	-	8.8	最高大長 底延 10.2g
640	1区(3)	第1面 5合層 所含瓦片 粘土塊	P-169	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	10YR8.2 白灰	-	-	-	-	-	細・少	最高大長 底延	1.2	-	6.8	最高大長 底延 7.5g
641	1区(3)	第1面 5合層 所含瓦片 粘土塊	P-159	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	2.5YR8.2 白灰	-	-	-	-	-	中・少	最高大長 底延	1.1	-	8.8	最高大長 底延 7.5g
642	1区(2)	第1面 5合層 板状粘土	-	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	10YR8.3 浅黄褐色	-	-	-	-	-	中・少	最高大長 底延	1.0	-	7.8	最高大長 底延 0.9
643	1区(2)	第1面 5合層 透水粘土	-	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	2.5YR8.6 褐	-	-	-	-	-	細・少	最高大長 底延	1.2	-	8.8	最高大長 底延 8.0g
644	1区(3)	第1面 5合層 所含瓦片 粘土塊	P-218	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	51YR8.6 褐	-	-	-	-	-	細・少	最高大長 底延	1.0	-	7.8	最高大長 底延 8.0g
645	1区(3)	第1面 5合層 所含瓦片 粘土塊	P-254	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	10YR8.2 白灰	-	-	-	-	-	中・少	最高大長 底延	1.0	-	7.8	最高大長 底延 6.0g
646	1区(1)	第1面 5合層 板状粘土	-	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	10YR6.3 5ない黄褐色	-	-	-	-	-	細・少	最高大長 底延	1.5	-	7.8	最高大長 底延 11.1g
647	1区(2)	第1面 5合層 板状粘土	P-013	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	2.5YR8.3 浅黄	-	-	-	-	-	中・少	最高大長 底延	1.0	-	7.8	最高大長 底延 11.4g
648	1区(3)	第1面 5合層 所含瓦片 粘土塊	P-238	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	2.5YR7.8 褐	-	-	-	-	-	中・少	最高大長 底延	1.5	-	8.8	最高大長 底延 6.0g
649	2区(2)	第1面 5合層 上層粘土	P-281	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	2.5YR7.3 浅黄	-	-	-	-	-	中・少	最高大長 底延	1.2	-	8.8	最高大長 底延 8.7g
650	1区(2)	第1面 5合層 板状粘土	-	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	10YR8.3 浅黄褐色	-	-	-	-	-	細・少	最高大長 底延	1.5	-	6.8	最高大長 底延 0.9
651	1区(3)	第1面 5合層 透水粘土	-	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	2.5YR8.4 5ない黄褐色	-	-	-	-	-	中・少	最高大長 底延	1.2	-	4.8	最高大長 底延 0.7
652	1区(2)	第1面 5合層 上層粘土	P-147	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	7.5YR8.2 白灰	-	-	-	-	-	細・少	最高大長 底延	1.1	-	7.8	最高大長 底延 8.0g
653	1区(3)	第1面 5合層 所含瓦片 粘土塊	P-165	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	10YR8.1 7.5ない白	-	-	-	-	-	細・少	最高大長 底延	1.0	-	4.8	最高大長 底延 0.7
654	1区(3)	第1面 5合層 板状粘土	P-161	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	2.5YR7.3 1.5ない白	-	-	-	-	-	中・少	最高大長 底延	1.1	-	4.8	最高大長 底延 0.7
655	—	第1面 5合層 透水粘土	-	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	2.5YR7.3 1.5ない白	-	-	-	-	-	中・少	最高大長 底延	1.2	-	8.8	最高大長 底延 56.7g
656	2区(2)	第1面 5合層 灰土	P-267	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	10YR7.3 5ない黄褐色	-	-	-	-	-	中・少	最高大長 底延	1.2	-	8.8	最高大長 底延 44.26g
657	1区(3)	第1面 5合層 板状粘土	P-221	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	2.5YR7.3 浅黄	-	-	-	-	-	中・少	最高大長 底延	1.8	-	8.8	最高大長 底延 41.68g
658	1区(3)	第1面 5合層 板状粘土	-	土塊	有薄 土層	有薄 土層	-	10YR8.4 5ない黄褐色	-	-	-	-	-	中・少	最高大長 底延	1.5	-	8.8	最高大長 底延 14.70g

第47表 西村通路出土土器觀察表(27)

番号	調査区	遺構名	解説等	出土位置	種類	器形	外觀			内觀			色調			法線(cm)			備考	
							外側	内側	外側	内側	外側	内側	表面	口沿	窓高	底厚	窓母	内窓	外窓	
669	1区(2)	第1面 合掌	白色	P-285	土壇	管狀	17	-	23Y7/3	-	-	-	中・少 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
670	1区(2)	第1面 合掌	褐色 透視模様	P-286	土壇	管狀	17	-	23Y7/2	-	-	-	中・少 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
671	1区(2)	第1面 合掌	褐色 透視模様	P-1011	土壇	管狀	17	-	574/1灰	-	-	-	中・少 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
672	1区(2)	第1面 合掌	灰色	P-1814	土壇	管狀	17	-	73Y7/6	-	-	-	中・少 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
673	1区(2)	第1面 合掌	灰色	P-1815	土壇	管狀	17	-	23Y7/2	-	-	-	中・少 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
674	1区(2)	第1面 合掌	褐色 透視模様	P-232	土壇	管狀	17	-	10Y7/6	-	-	-	中・少 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
675	1区(2)	第1面 合掌	灰色 透視模様	P-233	土壇	管狀	17	-	10Y7/3	-	-	-	中・少 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
676	1区(2)	第1面 合掌	第1切口 切口	P-1816	土壇	管狀	17	-	73Y7/6	-	-	-	中・多 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	薄壁	薄壁
677	1区(3)	第1面 合掌	第1切口 切口	P-1913	土壇	棒状	17	-	73Y7/4	-	-	-	中・多 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
678	1区(3)	第1面 合掌	白色	P-232	土壇	棒状	17	-	23Y7/3	-	-	-	中・少 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
679	1区(3)	第1面 合掌	白色	P-235	土壇	棒状	17	-	10Y7/3	-	-	-	中・少 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
680	1区(3)	第1面 合掌	白色	P-239	土壇	棒状	17	-	10Y7/6	-	-	-	中・多 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
681	1区(3)	第1面 合掌	褐色 透視模様	P-233	土壇	棒状	17	-	10Y7/4	-	-	-	中・少 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
682	1区(3)	第1面 合掌	白色 透視模様	P-233	土壇	棒状	17	-	10Y7/4	-	-	-	中・少 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
683	1区(3)	第1面 合掌	白色 透視模様	P-216	土壇	棒状	17	-	10Y7/4	-	-	-	中・少 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
684	1区(3)	第1面 合掌	白色 透視模様	P-236	土壇	棒状	17	-	23Y7/3	-	-	-	中・少 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
685	1区(3)	第1面 合掌	褐色 透視模様	P-153	土壇	棒状	17	-	10Y7/3	-	-	-	中・少 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
686	1区(3)	第1面 合掌	褐色 透視模様	P-153	土壇	棒状	17	-	10Y7/4	-	-	-	中・少 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
687	1区(2)	第1面 合掌	灰色 透視模様	P-154	土壇	棒状	17	-	10Y7/3	-	-	-	中・多 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
688	1区(3)	第1面 合掌	白色 透視模様	P-156	土壇	棒状	17	-	10Y7/4	-	-	-	中・少 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
689	1区(3)	第1面 合掌	褐色 透視模様	P-157	土壇	棒状	17	-	10Y7/3	-	-	-	中・少 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
690	1区(3)	第1面 合掌	白色 透視模様	P-158	土壇	棒状	17	-	10Y7/4	-	-	-	中・少 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形
691	1区(3)	第1面 合掌	白色 透視模様	P-160	土壇	棒状	17	-	10Y7/4	-	-	-	中・少 黄人頭 模様	0.8	1.0	-	-	-	孔形	孔形

第48表 西村遺跡出土土器観察表(28)

番号	調査区	通称名	層位等	出土位置	種類	形態	文様・調整		色調	外觀	内面	石英	赤色粒	角閃石	黒母	斜長	口徑	腹高	底延	その他	測量(cm)	測量(cm)	測量(cm)	備考	
							外面	内面																	
672	1区(2)	第1面 5合層 灰色	P-210	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中・少 痕・5.8 12.5×1.9	1.4	1.2	-	4.8	孔径:0.4			
673	1区(3)	第1面 5合層 灰褐色	P-168	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中・少 痕・5.8 12.5×1.9	1.7	1.4	-	4.8	孔径:0.5			
674	1区(3)	第1面 5合層 灰色含 泥質	P-168	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中・少 痕・5.8 12.5×1.9	1.6	1.1	-	4.8	孔径:0.4			
675	1区(2)	第1面 5合層	P-214	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中・少 痕・5.9 12.5×1.9	1.5	1.3	-	4.8	孔径:0.3			
676	1区(2)	第1面 5合層 頭輪輪胎	-	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中・少 痕・5.8 12.5×1.9	1.5	1.2	-	4.8	孔径:0.4			
677	1区(3)	第1面 5合層 灰色	P-219	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中・少 痕・5.8 12.5×1.9	1.6	1.2	-	4.8	孔径:0.3			
678	1区(3)	第1面 5合層 頭輪輪胎	P-223	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	細・多 痕・5.8 12.5×1.9	1.7	1.2	-	4.8	孔径:0.4			
679	1区(3)	第1面 5合層 灰色含 泥質	P-170	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中・少 痕・5.8 12.5×1.9	1.5	1.2	-	4.8	孔径:0.3			
680	1区(3)	第1面 5合層 第1歩道	P-167	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中・少 痕・5.8 12.5×1.9	1.6	1.3	-	4.8	孔径:0.3			
681	1区(3)	第1面 5合層 頭輪輪胎	P-162	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中・少 痕・5.8 12.5×1.9	1.4	1.3	-	4.8	孔径:0.3			
682	1区(3)	第1面 5合層 灰色	P-207	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中・多 痕・5.8 12.5×1.9	1.6	1.6	-	4.8	孔径:0.4			
683	1区(3)	第1面 5合層 第1歩道	P-264	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中・少 痕・4.4 12.5×1.9	1.6	1.1	-	4.8	孔径:0.4			
684	1区(2)	第1面 5合層 頭輪輪胎	P-282	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中・少 痕・5.8 12.5×1.9	1.2	1.2	-	4.8	孔径:0.6			
685	1区(3)	第1面 5合層 頭輪輪胎	P-284	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中・少 痕・5.8 12.5×1.9	1.3	1.3	-	4.8	孔径:0.3			
686	1区(2)	第1面 5合層 頭輪輪胎	P-284	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	細・少 痕・5.8 12.5×1.9	1.6	1.2	-	4.8	孔径:0.4			
687	1区(3)	第1面 5合層 黄色	P-166	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中・少 痕・5.8 12.5×1.9	1.2	1.2	-	4.8	孔径:0.3			
688	1区(3)	第1面 5合層 灰色含 泥質	P-173	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中・少 痕・5.8 12.5×1.9	1.2	1.2	-	4.8	孔径:0.3			
689	1区(3)	第1面 5合層 頭輪輪胎	-	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中・少 痕・5.8 12.5×1.9	1.3	1.3	-	4.8	孔径:0.4			
690	1区(3)	第1面 5合層 灰色	P-150	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	細・少 痕・5.8 12.5×1.9	1.9	1.1	-	2.8	孔径:0.4			
691	1区(2)	第1面 5合層 灰色含 泥質	P-166	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中・少 痕・5.8 12.5×1.9	1.9	1.2	-	3.8	孔径:0.5			
692	1区(3)	第1面 5合層 灰色	P-173	土壠	棒状 土块	棒状 砂砾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中・少 痕・5.8 12.5×1.9	1.2	1.2	-	4.8	孔径:0.5			
730	2区(3)	SH101	SS109	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	中・少 痕・5.8 12.5×1.9	1.2	1.2	-	4.8				
731	2区(3)	SH101	SS109	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	水引	1.8未満

第49表 西村遺跡出土土器観察表(29)

番号	調査区	遺構名	解説等	出土位置	種類	器形	外觀			内觀			色調			地質			法量(cm)	保存率	備考
							外觀	内觀	表面	底面	内壁	外壁	内壁	外壁	底面	内壁	外壁	底面			
732	2 K(3)	SH101	オリーブ 色砂質 シルト層	出土土器	無	丸い底付圓錐 底付丸い底付 底付丸い底付	23Y7/3 25Y6/2 25Y6/2	23Y7/3 25Y7/2 25Y7/2	灰質 灰質 灰質	中・並 中・並 中・並	-	-	(8.1)	-	-	-	-	-	1/8 1/8 1/8	柱根2条一帯の 柱根2条一帯の	
733	2 K(3)	SH101	SX109	出土土器	無	丸い底付圓錐 底付丸い底付 底付丸い底付	23Y7/3 25Y6/2 25Y6/2	23Y7/3 25Y7/2 25Y7/2	灰質 灰質 灰質	中・並 中・並 中・並	-	-	-	-	-	-	-	(10.0)	-	2/8	
734	2 K(3)	SH101	①	出土土器	無	丸い底付圓錐 底付丸い底付 底付丸い底付	23Y7/3 25Y6/2 25Y6/2	23Y7/3 25Y7/2 25Y7/2	灰質 灰質 灰質	中・並 中・並 中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満		
735	1 K(1)	SH101	⑥	出土土器	無	丸い底付圓錐 底付丸い底付 底付丸い底付	23Y7/3 25Y6/2 25Y6/2	23Y7/3 25Y7/3 25Y7/3	灰質 灰質 灰質	中・多 中・多 中・多	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満		
736	2 K(3)	SH101	②	出土土器	無	丸い底付圓錐 底付丸い底付 底付丸い底付	23Y7/3 25Y6/2 25Y6/2	23Y7/3 25Y7/3 25Y7/3	灰質 灰質 灰質	中・多 中・多 中・多	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満		
737	2 K(3)	SH101	オリーブ 色砂質 シルト層	出土土器	無	丸い底付圓錐 底付丸い底付 底付丸い底付	23Y7/3 25Y6/2 25Y6/2	23Y7/3 25Y7/2 25Y7/2	灰質 灰質 灰質	中・並 中・並 中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満		
738	1 K(1)	SH101	出土土器	無	丸い底付圓錐 底付丸い底付 底付丸い底付	23Y7/3 25Y6/2 25Y6/2	23Y7/3 25Y7/3 25Y7/3	灰質 灰質 灰質	中・並 中・並 中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満		
739	2 K(3)	SH101	P296	出土土器	無	丸い底付圓錐 底付丸い底付 底付丸い底付	23Y7/3 25Y6/2 25Y6/2	23Y7/3 25Y7/3 25Y7/3	灰質 灰質 灰質	中・少 中・少 中・少	-	-	-	-	-	-	-	-	(24.6)	-	1/8
740	2 K(3)	SH101	SX109	出土土器	無	丸い底付圓錐 底付丸い底付 底付丸い底付	23Y7/3 25Y6/2 25Y6/2	23Y7/3 25Y7/3 25Y7/3	灰質 灰質 灰質	中・並 中・並 中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	(20.8)	-	1/8
741	1 K(1)	SH101	下層	出土土器	無	丸い底付圓錐 底付丸い底付 底付丸い底付	23Y7/3 25Y6/2 25Y6/2	23Y7/3 25Y7/3 25Y7/3	灰質 灰質 灰質	中・並 中・並 中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	(20.8)	-	1/8
742	2 K(3)	SH101	オリーブ 色砂質 シルト層	出土土器	無	丸い底付圓錐 底付丸い底付 底付丸い底付	23Y7/3 25Y6/2 25Y6/2	23Y7/3 25Y7/3 25Y7/3	灰質 灰質 灰質	中・少 中・少 中・少	-	-	-	-	-	-	-	-	(16.0)	-	3/8
743	2 K(3)	SH101	オリーブ 色砂質 シルト層	出土土器	無	丸い底付圓錐 底付丸い底付 底付丸い底付	23Y7/3 25Y6/2 25Y6/2	23Y7/3 25Y7/3 25Y7/3	灰質 灰質 灰質	中・多 中・多 中・多	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2/8
744	2 K(3)	SH101	SX109	出土土器	無	丸い底付圓錐 底付丸い底付 底付丸い底付	23Y7/3 25Y6/2 25Y6/2	23Y7/3 25Y7/3 25Y7/3	灰質 灰質 灰質	中・並 中・並 中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	(6.0)	-	3/8
745	2 K(3)	SH101	オリーブ 色砂質 シルト層	出土土器	無	丸い底付圓錐 底付丸い底付 底付丸い底付	23Y7/3 25Y6/2 25Y6/2	23Y7/3 25Y7/3 25Y7/3	灰質 灰質 灰質	中・並 中・並 中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	(7.0)	-	4/8
746	2 K(3)	SH101	オリーブ 色砂質 シルト層	出土土器	無	丸い底付圓錐 底付丸い底付 底付丸い底付	23Y7/3 25Y6/2 25Y6/2	23Y7/3 25Y7/3 25Y7/3	灰質 灰質 灰質	中・多 中・多 中・多	-	-	-	-	-	-	-	-	(6.0)	-	2/8
747	2 K(3)	SH101	オリーブ 色砂質 シルト層	出土土器	無	丸い底付圓錐 底付丸い底付 底付丸い底付	23Y7/3 25Y6/2 25Y6/2	23Y7/3 25Y7/3 25Y7/3	灰質 灰質 灰質	中・並 中・並 中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	(6.0)	-	2/8
748	2 K(3)	SH101	SX109	出土土器	無	丸い底付圓錐 底付丸い底付 底付丸い底付	23Y7/3 25Y6/2 25Y6/2	23Y7/3 25Y7/3 25Y7/3	灰質 灰質 灰質	中・並 中・並 中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	(7.0)	-	2/8
749	2 K(3)	SH101	SX109	出土土器	無	丸い底付圓錐 底付丸い底付 底付丸い底付	23Y7/3 25Y6/2 25Y6/2	23Y7/3 25Y7/3 25Y7/3	灰質 灰質 灰質	中・並 中・並 中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	(6.0)	-	4/8

第50表 西村遺跡出土土器観察表(30)

番号	調査区	通称名	層位等	出土位置	種類	形態	文様・調整		色調		施土		法量(cm)	測高	底高	底径	その他	参考	
							外面	内面	外圓	内圓	石英	赤色粒	角閃石	黒母	砂粒	口径			
750	2 K(3)	SH101	オリーブ 風色砂質 シリコン	P-266	学生土器	鉢	圓筒形	+	25 Y 6/3 12.5V3	25 V 5/2 12.5V3	粗	粗	-	-	9.2	9.0	6.2	-	8.8 燒成跡有孔
751	2 K(3)	SH101	(2)	学生土器	盞	指開口	+	+	25 Y 7/3 12.5V3	25 V 8/3 12.5V3	中	粗	-	-	-	-	-	-	4.8 火井部 (16.1)
752	2 K(3)	SH101	(2)	P-302	学生土器	盞	圓筒形	+	10 Y 6/3 12.5V3	25 V 5/2 12.5V3	粗	粗	-	-	-	-	-	-	6.8 (4.0)
753	2 K(3)	SH101	(2)	P-301	学生土器	盞	圓筒形	+	10 Y 6/3 12.5V3	25 V 7/2 12.5V3	中	粗	-	-	-	-	-	-	7.8 (4.0)
754	2 K(3)	SH101	(2)	P-299	学生土器	盞	圓筒形	+	10 Y 7/3 12.5V3	25 V 7/3 12.5V3	中	粗	-	-	-	-	-	-	6.8 火井部 (16.1)
755	2 K(3)	SH101	(1)	P-297	学生土器	盞	圓筒形	+	10 Y 6/3 12.5V3	25 V 7/3 12.5V3	中	粗	-	-	-	-	-	-	6.8 火井部 (16.1)
756	2 K(3)	SH101	(2)	P-300	学生土器	盞	圓筒形	+	10 Y 6/3 12.5V3	25 Y 5/3 12.5V3	中	粗	-	-	-	-	-	-	1.8未満
759	2 K(3)	SH102	学生土器	甌	圓筒形	+	10 Y 7/3 12.5V3	25 Y 7/3 12.5V3	中	粗	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満
770	2 K(3)	SH102	学生土器	甌	圓筒形	+	10 Y 6/3 12.5V3	25 Y 5/3 12.5V3	中	粗	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満
771	2 K(3)	SH102	学生土器	甌	圓筒形	+	10 Y 6/3 12.5V3	25 Y 4/2 12.5V3	中	粗	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8 (24.1)
772	2 K(3)	SH102	学生土器	甌	圓筒形	+	10 Y 7/3 12.5V3	25 Y 7/4 12.5V3	中	粗	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8 (20.3)
773	2 K(3)	SH102	学生土器	甌	圓筒形	+	10 Y 7/3 12.5V3	25 Y 7/3 12.5V3	中	粗	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満
774	2 K(3)	SH102	学生土器	甌	圓筒形	+	10 Y 7/3 12.5V3	25 Y 6/4 12.5V3	中	粗	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満
775	2 K(3)	SH102	学生土器	甌	圓筒形	+	10 Y 7/4 12.5V3	25 Y 7/4 12.5V3	中	粗	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満
776	2 K(3)	SH102	学生土器	甌	圓筒形	+	10 Y 7/3 12.5V3	25 Y 7/3 12.5V3	中	粗	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満 火井部一帯の 化粧文
777	2 K(3)	SH102	学生土器	甌	圓筒形	+	25 Y 4/1 12.5V3	25 V 9/2 12.5V3	中	粗	-	-	-	-	-	-	-	-	3.8 (7.0)
779	1 K(1)	SK104	学生土器	甌	圓筒形	+	10 Y 6/4 12.5V3	25 Y 6/2 12.5V3	中	粗	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満
780	1 K(1)	SK104	土器(4)	学生土器	甌	圓筒形	+	5 Y 4/1 12.5V3	25 Y 6/2 12.5V3	中	粗	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満
781	1 K(1)	SK104	(2)	学生土器	甌	圓筒形	+	5 Y 4/1 12.5V3	25 Y 7/3 12.5V3	中	粗	-	-	-	-	-	-	-	2.8 (19.0)
782	1 K(1)	SK104	土器(1)	学生土器	甌	圓筒形	+	5 Y 4/1 12.5V3	25 Y 8/3 12.5V3	中	粗	-	-	-	-	-	-	-	1.8 (22.0)

第51表 西村遺跡出土土器觀察表(31)

番号	調査区	遺物名	解説等	位置	構類	器種	外觀			内觀			色調			細部			法量(cm)	保存率	備考
							外圓	内圓	口沿	底	内面	外圓	底	内面	口沿	底	内面	外圓			
783	1 K(1)	SK003	土器①	弦生土器	板	筒形・指揮さえ・行	19Y5.3 1.5cm 直筒	17.5Y5.6 1.5cm 直筒	中・少	-	-	-	-	5.5	-	7.8					
784	1 K(1)	SK005	土器③	弦生土器	板	筒形・指揮さえ・行	23Y7.4 1.5cm 直筒	23Y7.4 1.5cm 直筒	中・多	-	-	(25.0)	-	-	-	-	3.8				
785	1 K(1)	SK006	土器②	弦生土器	板	筒形・指揮さえ・行	19Y5.3 1.5cm 直筒	17.5Y5.7 1.5cm 直筒	中・少	-	-	(25.0)	-	-	-	-	2.8				
786	1 K(1)	SK005	土器⑤・⑥	弦生土器	板	筒形・指揮さえ・行	10Y5.8 1.5cm 直筒	10Y5.8 1.5cm 直筒	中・多	-	-	-	-	-	-	-	1.8				
787	1 K(1)	SK005	土器①	弦生土器	板	筒形・指揮さえ・行	12.5Y5.9 1.5cm 直筒	12.5Y5.9 1.5cm 直筒	中・多	-	-	(25.0)	-	-	-	-	6.8				
788	1 K(1)	SK007	弦生土器	板	筒形・指揮さえ・行	10Y5.8 1.5cm 直筒	10Y5.8 1.5cm 直筒	中・多	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満				
789	1 K(2)	SR004	オリーブ 色砂質 シルト層	弦生土器	板	筒形・指揮さえ・行	10Y5.8 1.5cm 直筒	10Y5.8 1.5cm 直筒	中・少	-	-	(25.0)	-	-	-	-	2.8				
790	1 K(2)	SR004	オリーブ 色砂質 シルト層	弦生土器	板	筒形・指揮さえ・行	10Y5.8 1.5cm 直筒	10Y5.8 1.5cm 直筒	中・多	-	-	-	-	-	-	-	4.8				
791	1 K(2)	SR004	オリーブ 色砂質 シルト層	弦生土器	板	筒形・指揮さえ・行	10Y5.8 1.5cm 直筒	10Y5.8 1.5cm 直筒	中・多	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満				
792	2 K(2)	SR004	オリーブ 色砂質 シルト層	弦生土器	板	筒形・指揮さえ・行	10Y5.8 1.5cm 直筒	10Y5.8 1.5cm 直筒	中・多	-	-	-	-	-	-	-	2.8				
793	1 K(2)	SR004	オリーブ 色砂質 シルト層	弦生土器	板	筒形・指揮さえ・行	10Y5.8 1.5cm 直筒	10Y5.8 1.5cm 直筒	中・多	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満				
794	1 K(2)	SR004	オリーブ 色砂質 シルト層	弦生土器	板	筒形・指揮さえ・行	10Y5.8 1.5cm 直筒	10Y5.8 1.5cm 直筒	中・多	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満				
795	2 K(3)	SR004	オリーブ 色砂質 シルト層	弦生土器	板	筒形・指揮さえ・行	10Y5.8 1.5cm 直筒	10Y5.8 1.5cm 直筒	中・多	-	-	-	-	-	-	-	1.8				
796	2 K(2)	SR004	オリーブ 色砂質 シルト層	弦生土器	板	筒形・指揮さえ・行	10Y5.8 1.5cm 直筒	10Y5.8 1.5cm 直筒	中・多	-	-	(11.6)	-	-	-	-	6.8	内付物			
797	1 K(2)	SR004	オリーブ 色砂質 シルト層	弦生土器	板	筒形・指揮さえ・行	10Y5.8 1.5cm 直筒	10Y5.8 1.5cm 直筒	中・多	-	-	(24.0)	-	-	-	-	2.8				
798	2 K(3)	SR004	オリーブ 色砂質 シルト層	弦生土器	板	筒形・指揮さえ・行	10Y4.2 1.5cm 直筒	10Y4.2 1.5cm 直筒	中・多	-	-	(23.2)	-	-	-	-	2.8				
799	2 K(3)	SR004	オリーブ 色砂質 シルト層	弦生土器	板	筒形・指揮さえ・行	12.5Y7.3 1.5cm 直筒	12.5Y7.3 1.5cm 直筒	中・多	-	-	(27.2)	-	-	-	-	1.8				

第52表 西村遺跡出土土器観察表(32)

報告番号	調査区	遺構名	層位等	出土位置	形状	構造	表面	文様・調整		色調	輪	石器	手取	底面	法量(cm)	内容等	備考	
								外側	内側									
800	1区(2)	SR04	リード 灰色砂質 シルト層	生土器 要	行・圓毛 目・縦合板	++ ++	輪形・直 縫合・縦目	10YR7/3 12.5-15.5cm 灰質	10YR7/3 12.5-15.5cm 灰質	中・多・少	-	細・多	-	(24.6)	-	-	4.8	外・里色付物
801	1区(2)	SR04	リード 灰色砂質 シルト層	生土器 要	行	++	輪形・直 縫合	25Y6/2 灰質	25Y6/2 灰質	粗・多・細・少	-	細・多	-	(22.0)	-	-	1.8	
802	2区(3)	SR04	リード 灰色砂質 シルト層	生土器 要	圓筒形 行・縦目	++ ++	輪形・直 縫合	10YR4/1 12.5-15.5cm 灰質	10YR7/2 12.5-15.5cm 灰質	中・少	-	細・少	-	-	-	-	2.8	外・里付物
803	2区(3)	SR04	リード 灰色砂質 シルト層	生土器 要	圓筒形 行・縦目	++ ++	輪形・直 縫合	10YR7/2 12.5-15.5cm 灰質	10YR7/2 12.5-15.5cm 灰質	中・並	-	細	-	-	-	-	3.8	
804	2区(3)	SR04	リード 灰色砂質 シルト層	生土器 要	圓筒形 行・縦目	++ ++	輪形・直 縫合	73YR5/3 12.5-15.5cm 灰質	73YR5/3 12.5-15.5cm 灰質	中・多・中・並	-	細	-	-	-	-	1.8未調	
805	2区(3)	SR04	リード 灰色砂質 シルト層	生土器 要	圓筒形 行・縦目	++ ++	輪形・直 縫合	25YR7/8 灰質	25YR7/8 灰質	粗・多・中・多	-	細	-	-	-	-	1.8未調	
806	2区(3)	SR04	リード 灰色砂質 シルト層	生土器 要	圓筒形 行・縦目	++ ++	輪形・直 縫合	10YR7/2 12.5-15.5cm 灰質	10YR7/2 12.5-15.5cm 灰質	中・並	-	細	-	-	-	-	1.8未調	
807	2区(3)	SR04	リード 灰色砂質 シルト層	生土器 要	圓筒形 行・縦目	++ ++	輪形・直 縫合	10YR7/2 12.5-15.5cm 灰質	10YR7/2 12.5-15.5cm 灰質	中・並	-	細・少	-	-	-	-	1.8未調	
808	2区(2)	SR04	リード 灰色砂質 シルト層	生土器 要	圓筒形 行・縦目	++ ++	輪形・直 縫合	25Y4/1 灰質	25Y4/1 灰質	中・並	-	細	-	-	-	-	1.8未調	
809	1区(2)	SR04	リード 灰色砂質 シルト層	生土器 要	圓筒形 行・縦目	++ ++	輪形・直 縫合	10YR7/3 12.5-15.5cm 灰質	10YR7/3 12.5-15.5cm 灰質	中・並	-	細・並	-	-	-	-	1.8未調	
810	2区(3)	SR04	リード 灰色砂質 シルト層	生土器 要	圓筒形 行・縦目	++ ++	輪形・直 縫合	10YR7/2 12.5-15.5cm 灰質	10YR7/2 12.5-15.5cm 灰質	粗・少	-	細	-	-	-	-	1.8未調	
811	2区(2)	SR04	リード 灰色砂質 シルト層	生土器 要	圓筒形 行・縦目	++ ++	輪形・直 縫合	73YR5/2 灰質	73YR5/2 灰質	中・並	-	細	-	-	-	-	1.8未調	
812	2区(2)	SR04	リード 灰色砂質 シルト層	生土器 要	圓筒形 行・縦目	++ ++	輪形・直 縫合	10YR6/2 12.5-15.5cm 灰質	10YR6/2 12.5-15.5cm 灰質	中・並	-	細	-	-	-	-	1.8	
813	1区(2)	SR04	リード 灰色砂質 シルト層	生土器 要	圓筒形 行・縦目	++ ++	輪形・直 縫合	10YR6/3 12.5-15.5cm 灰質	10YR6/3 12.5-15.5cm 灰質	粗・多	-	細・並	-	-	-	-	1.8未調	
814	2区(3)	SR04	リード 灰色砂質 シルト層	生土器 要	圓筒形 行・縦目	++ ++	輪形・直 縫合	10YR8/2 灰質	10YR8/2 灰質	粗・多・中・多	-	細	-	-	-	-	1.8未調	
815	1区(2)	SR04	リード 灰色砂質 シルト層	生土器 休	圓筒形 行・縫合	++ ++	輪形・直 縫合	73YR8/4 灰質	73YR8/4 灰質	粗・多・中・多	-	中・少	-	-	-	-	1.8	
816	1区(2)	SR04	リード 灰色砂質 シルト層	生土器 要	圓筒形 行・縫合	++ ++	輪形・直 縫合	10YR7/2 12.5-15.5cm 灰質	10YR7/2 12.5-15.5cm 灰質	粗・多	-	細・並	-	-	7.8	-	4.8	

第53表 西村通路出土土器觀察表(33)

番号	調査区	遺物名	解説等	出土位置	種類	器形	外觀		内觀		色調		地質		保存率	備考	
							外面	内面	外觀	内觀	内面	外觀	石英	赤色粒	角閃石	雲母	
837	2 K(3)	SR04	オリーブ 色砂質 シルト層	生土器	要	II-後側毛目 +フ	指揮え 指揮え	10Y88.2 灰白	10Y87.2 灰白	中・並	少・細・並	-	-	-	-	(7.9)	5.8
838	1 K(2)	SR04	灰色砂質 シルト層	生土器	要	II-	指揮え	23Y87.2 灰黃	23Y77.2 灰黃	中・少	中・並	-	-	-	-	5.4	3.8
839	2 K(2)	SR04	オリーブ 色砂質 シルト層	生土器	要	AI-前・左・右 +フ	指揮え	23Y77.1 灰白	23Y77.1 灰白	粗・多	多・粗・並	-	-	-	-	6.0	2.8
840	2 K(3)	SR04	オリーブ 色砂質 シルト層	生土器	要	II-後側毛目 +フ	指揮え後側毛目 +フ	10Y88.3 灰黃	10Y85.2 灰黃	粗・多	-	-	-	-	-	(7.9)	4.8
841	1 K(2)	SR04	灰色砂質 シルト層	生土器	要	II-後側毛目 +フ 下・前・左・右 +フ	指揮え・後側毛目 +フ	23Y87.3 灰黃	10Y84.2 灰黃	粗・並	-	-	-	-	-	(8.1)	4.8
842	1 K(2)	SR04	オリーブ 色砂質 シルト層	生土器	要	II-前・左・右 +フ	指揮え 指揮え	10Y87.3 灰白	10Y87.3 灰白	粗・少	-	-	-	-	-	天井 6.0	4.8
843	2 K(3)	SR04	オリーブ 色砂質 シルト層	生土器	要	II-後側毛目 +フ	指揮え 指揮え	23Y87.2 灰白	10Y87.2 灰白	中・多	粗・細・並	-	-	-	-	天井 7.4	4.8
844	2 K(3)	SR04	灰色砂質 シルト層	生土器	要	II-後側毛目 +フ	指揮え 指揮え	23Y77.2 灰黃	23Y77.2 灰黃	粗・多	細・少	-	-	-	-	天井 3.1	2.8
845	1 K(2)	合層	オリーブ 色砂質 シルト層	生土器	要	II-後側毛目 +フ	指揮え 指揮え	10Y85.1 灰黃	10Y85.1 灰黃	中・少	-	-	-	-	-	4.8	内・有機物付着
849	1 K(1)	合層	オリーブ 色砂質 シルト層	生土器	要	II-後側毛目 +フ	指揮え 指揮え	23Y77.2 灰黃	10Y85.6 灰黃	粗・多	-	-	-	-	-	(8.8)	4.8
850	1 K(2)	合層	黒灰色 砂層	生土器	要	II-前・左・右 +フ	指揮え 指揮え	10Y85.6 灰黃	10Y85.3 灰黃	中・並	-	-	-	-	-	(8.8)	4.8
851	1 K(2)	合層	オリーブ 色砂質 シルト層	生土器	要	II-後側毛目 +フ	指揮え 指揮え	23Y77.2 灰黃	10Y85.4 灰黃	粗・少	-	-	-	-	-	2.8	
852	2 K(2)	合層	黒灰色 砂層	生土器	要	II-前・左・右 +フ	指揮え 指揮え	10Y85.4 灰黃	10Y86.4 灰黃	粗・少	-	-	-	-	-	1.8未満	
853	1 K(2)	合層	黒灰色 砂層	生土器	要	II-前・左・右 +フ	指揮え 指揮え	10Y87.3 灰白	10Y87.3 灰白	中・多	-	-	-	-	-	1.8未満	
854	1 K(2)	合層	オリーブ 色砂質 シルト層	生土器	要	II-前・左・右 +フ	指揮え 指揮え	10Y87.2 灰白	10Y87.2 灰白	中・並	-	-	-	-	-	1.8未満	
855	1 K(2)	合層	オリーブ 色砂質 シルト層	生土器	要	II-前・左・右 +フ	指揮え 指揮え	10Y87.2 灰白	10Y87.2 灰白	中・多	-	-	-	-	-	1.8未満	
856	1 K(2)	合層	黒灰色 砂層	生土器	要	II-前・左・右 +フ	指揮え 指揮え	23Y77.2 灰黃	23Y77.2 灰黃	粗・多	-	-	-	-	-	2.8	

第54表 西村遺跡出土土器観察表(34)

報告番号	調査区	通称名	層位等	出土位置	種類	形態	文様・調整		色調	外側	内面	石英 長石 角閃石 斜長石	石英 長石 角閃石 斜長石	母岩	砂粒	口径	體高	底径	その他	保存率	備考
							外側	内面													
837	1区(3) 第2面 5合層	第2面 5合層	生土器 表土器	井干・水引付 井干	鉢	井干・水引付 井干	十字 +	十字 +	10YR7.3 [12.5%] 黄褐色	10YR7.3 [12.5%] 黄褐色	中・並	-	-	(21.4)	-	-	-	-	-	1.8	
838	1区(1) 第2面 3合層	第2面 3合層	生土器 表土器	井干・水引付 井干	鉢	井干・水引付 井干	十字 +	十字 +	10YR6.3 [12.5%] 黄褐色	25Y6.4 [12.5%] 黄褐色	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満	
839	1区(1) 第3面 5合層	第3面 5合層	生土器 表土器	井干・水引付 井干	鉢	井干・水引付 井干	十字 +	十字 +	10YR5.2 [12.5%] 黄褐色	10YR5.2 [12.5%] 黄褐色	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	
840	1区(2) 第2面 3合層	第2面 3合層	生土器 表土器	井干・水引付 井干	鉢	井干・水引付 井干	十字 +	十字 +	25Y3.2 [12.5%] 黄褐色	25Y3.2 [12.5%] 黄褐色	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	3.8	
841	1区(2) 第2面 5合層	第2面 5合層	P43	生土器 表土器	井干・水引付 井干	井干・水引付 井干	十字 +	十字 +	25Y7.2 [12.5%] 黄褐色	25Y7.2 [12.5%] 黄褐色	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8未満	
842	1区(1) 第2面 5合層	第2面 5合層	生土器 表土器	井干・水引付 井干	鉢	井干・水引付 井干	十字 +	十字 +	25Y4.2 [12.5%] 黄褐色	25Y4.2 [12.5%] 黄褐色	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	8.8	土器片未用
843	1区(2) 第2面 5合層	第2面 5合層	生土器 表土器	井干・水引付 井干	鉢	井干・水引付 井干	十字 +	十字 +	10YR7.3 [12.5%] 黄褐色	10YR7.3 [12.5%] 黄褐色	中・少	現存 長さ:41 幅:16	現存 長さ:41 幅:16	現存 長さ:41 幅:16	現存 長さ:41 幅:16	現存 長さ:41 幅:16	現存 長さ:41 幅:16	現存 長さ:41 幅:16	現存 長さ:41 幅:16	4.8	土器片未用

第55表 西村遺跡出土石器観察表(1)

報告番号	調査区	遺物名	層位等	出土位置	材質	形態	色調		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考		
							柱	底							
127	22	2区 SR03	下層(奥山山頂上)	SR03	粘晶岩	石頭	N3	サカナイト	28	25	0.6	254			
133	22	2区 SR04	四壁45度斜面	SR04	粘晶岩	石頭	S16	サカナイト	5.9	28	1.6	3506			
141	21	3区 SR01	(SR01・SR01間の隙)	SR01	粘晶岩	石頭	S15	サカナイト	3.6	37	0.5	392	白色化		
142	21	3区 SR01	(SR01・SR01間の隙)	SR01	粘晶岩	石頭	S16	サカナイト	3.5	24	0.8	623			
143	31	3区 SR01	(SR01・SR01間の隙)	SR01	粘晶岩	石頭	S9	サカナイト	25Y6.4 オリーブ灰	25Y6.4 オリーブ灰	30	1.7	0.5	3506	
154	14	1区包含層	上面構造	S7	サカナイト	石頭	S7	サカナイト	25Y5.1 白	25Y5.1 白	38	1.7	0.4	233	
155	14	1区包含層	上面構造	S2	サカナイト	石頭	S2	サカナイト	25Y5.1 白	25Y5.1 白	29	1.6	0.4	164	
156	14	1区包含層	上面構造	S4	サカナイト	石頭	S4	サカナイト	25Y5.1 白	25Y5.1 白	32	1.1	0.3	122	
157	12	1区包含層	上面構造	S8	サカナイト	石頭	S8	サカナイト	34 白	34 白	29	1.8	0.5	251	
158	14	1区包含層	西側側面	S1	サカナイト	石頭	S1	サカナイト	NS3 白	NS3 白	30	1.2	0.4	126	施部調整不完全
159	12	1区包含層	上面構造	S10	サカナイト	石頭	S10	サカナイト	25Y7.2 白	25Y7.2 白	25	1.4	0.3	270	
160	12	1区包含層	濃褐色面シート土	S11	サカナイト	石頭	S11	サカナイト	5Y5.1 白	5Y5.1 白	27	1.5	0.3	0.99	
161	22	2区包含層	鉢土	S5	サカナイト	石頭	S5	サカナイト	5Y5.1 白	5Y5.1 白	20	1.1	0.3	0.57	
162	34	2区包含層	邊緣突出	S5	サカナイト	石頭	S5	サカナイト	5Y5.1 白	5Y5.1 白	1.8	1.4	0.3	0.73	

第56表 西村遺跡出土石器觀察表(2)

報告番号	測定区	遺物名	層位等	出土位置	材質	等級	色調	長さ(cm)	幅さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
163	21	1区含合層	無標出	S42 サカイト	石頭	555.1灰	16	1.2	0.2	0.39		
198	1区(2)	SH012	SP014 手斧	手刃カット	石頭	555.1灰	2.2	1.8	0.5	2.33		
225	1区(2)	SH014	SP529	直刃	石頭	555.1灰	8.4	1.3	1.33	15		
240	1区(3)	SH017	SP411	直刃	石頭	555.1灰白	4.7	3.0	2.6	45.55		
266	1区(3)	SH109	SP738	直刃	石頭	557.1灰白	13.9	9.0	7.1	1218.68	-灰色化(被熱風化)	
284	1区(2)	SP786	直刃	砂岩	石頭	556.1灰	12.0	6.9	7.0	83.96		
285	1区(2)	SP786	直刃	砂岩	石頭	556.1灰	10.8	15.5	6.4	146.59		
286	1区(2)	SP786	直刃	砂岩	石頭	556.1灰	24.3	9.6	10.1	267.96	-灰色化(被熱風化)	
262	1区(3)	SD101	①下層	S113 サカイト	石頭	557.1灰	2.4	1.5	0.3	1.087		
363	1区(1)	SD101	④上層	サカイト	石頭	556.1灰	1.9	1.9	0.3	1.27		
364	2区(2)	SD101	③	砂岩	砂岩	557.1灰白	9.6	6.6	2.8	25.16		
422	1区(3)	SD107	④	直刃	石頭	555.1灰	1.8	1.2	0.3	0.49		
427	1区(3)	SD110	①	直刃	石頭	555.1灰	1.5	1.1	0.3	0.47		
458	2区(2)	SD113	(SN107)	S103 サカイト	石頭	554.1灰	1.9	1.4	0.3	0.63		
659	2区(2)	SD113	③	直刃	石頭	555.1灰	1.6	1.7	0.3	0.58		
493	1区(3)	SP412		直刃	石頭	557.1灰白	6.0	3.8	1.3	34.24	上面-底面色	
494	1区(3)	SP732	第1面	直刃	砂岩	557.1灰白	19.3	8.7	5.8	1384.80	上面-底面色	
692	1区(2)	第1面包含層	第1面包含層	S101 サカイト	石頭	556.1灰	2.5	2.1	0.3	1.45		
693	2区(2)	第1面包含層	上部包含層	S117 サカイト	石頭	556.1灰	1.9	1.4	0.2	0.69		
694	1区(3)	第1面包含層	上部包含層	サカイト	石頭	556.1灰	2.0	1.4	0.3	0.66		
695	1区(3)	第1面包含層	表層	サカイト	石頭	557.1灰白	2.0	1.5	0.4	1.09		
696	1区(3)	第1面包含層	第1整削	サカイト	石頭	554.1灰	1.6	1.3	0.3	0.67		
697	1区(3)	第1面包含層	第1面 機械削除	サカイト	石頭	555.1灰	1.4	1.8	0.4	1.16		
698	1区(3)	第1面包含層	灰色包含層	サカイト	石頭	555.1灰	1.6	1.4	0.3	0.79		
699	1区(3)	第1面包含層	直刃	サカイト	石頭	556.1灰	2.5	1.2	0.3	0.76		
700	2区(2)	第1面包含層	第2整削	サカイト	石頭	555.1灰	2.4	1.1	0.4	1.17		
701	2区(2)	第1面包含層	第2整削	直刃	石頭	557.1灰白	4.5	3.8	1.3	28.42	直刃強い削減	
702	1区(3)	第1面包含層	無標出	直刃	石頭	555.1灰	11.0	11.1	9.6	1710.58		
703	2区(2)	第1面包含層	第2整削	直刃	石頭	557.1灰白	5.6	2.8	1.7	44.74		
704	2区(2)	第1面包含層	第2整削	直刃	石頭	554.1灰	3.7	3.3	3.1	39.28		
757	2区(3)	SH101	SN109 (1)	直刃	石頭	556.1灰	1.9	1.4	0.3	0.94		
758	2区(3)	SH101		直刃	石頭	556.1灰	2.1	1.5	0.2	0.66		
759	1区(1)	SH101		直刃	石頭	556.1灰	2.6	1.2	0.4	1.18		
760	2区(3)	SH101		直刃	石頭	554.1灰	3.6	2.6	0.6	40.01		
761	1区(1)	SH101		直刃	石頭	556.1灰	6.2	2.8	0.6	6.02		
762	1区(3)	SH101	①	直刃	極次石灰岩	555.1灰	5.8	7.1	1.6	69.23		
763	2区(3)	SH101	①	直刃	山砂岩	557.1灰	4.3	4.1	1.8	40.81		

第57表 西村遺跡出土石器観察表(3)

報告番号	測定区	通称名	層位等	出土位置	材質	器種	色調	長さ(cm)	幅(cm)	注記(cm)	重量(g)	備考	
764	2[6]③	SH101	2	安山岩	石片	7575.1灰	4.1	.3	.3	.08	3.95		
766	2[8]①	SH101	2	安山岩	石片	7576.1灰	7.6	.5	.3	.36	26.06		
766	2[8]②	SH101	カリーブル色砂質シルト層	安山岩	石片	N6.灰	12.3	10.3	6.7		119.76		
778	2[8]②	SH102	カリーブル色砂質シルト層	ナスカイト	板状石核	N5.灰	5.5	10.4	1.3		8.83		
825	2[6]③	SH104	カリーブル色砂質シルト層	ナスカイト	打製石核	N5.灰	4.5	2.4	0.7		10.44		
826	2[6]③	SH104	カリーブル色砂質シルト層	ナスカイト	板状石核	N4.灰	4.8	6.3			54.75		
827	2[6]③	SH104	カリーブル色砂質シルト層	頁岩	块状石核	N58.1灰白	9.2	.58	.23		15.45		
844	8[1]	第2面包含層	黄色色含層	ナスカイト	石核	NY5.1灰	2.2	1.7	0.3		0.94		
845	8[1]①	第2面包含層	黄色色含層	ナスカイト	石核	N5.灰	2.5	2.2	0.4		1.23		
846	8[1]②	第2面包含層	黄色色含層	ナスカイト	石核	NY6.1灰	2.6	1.9	0.5		1.48		
847	8[1]③	第2面包含層	黄色色含層	ナスカイト	石核	7575.1灰	2.1	1.9	0.4		1.44		
848	8[6]①	第2面包含層	[第2面] 遷移上下面精整	ナスカイト	石核	2577.2灰黄	1.8	1.1	0.3		0.45		
849	1[8]①	第2面包含層	[第2面] 遷移上下面精整	ナスカイト	石核	5Y6.1灰	4.0	1.8	0.3		2.16	未完成	
850	1[8]①	第2面包含層	[第2面] 遷移上下面精整	ナスカイト	石核	N5.灰	2.3				1.28		
851	1[8]①	第2面包含層	オリーブ灰色質シルト層	ナスカイト	板状石核	N4.灰	4.1	5.0	1.0		18.32		
852	1[8]①	第2面包含層	黄灰褐色層	ナスカイト	石核	N4.灰	7.0	8.8	4.5		29.12		
853	1[8]②	第2面包含層	南側削痕 [灰灰褐色層]	ナスカイト	石核	7576.1灰	10.7	4.6	0.7		50.95		
854	1[8]③	第2面包含層	南側削痕 [灰灰褐色層]	ナスカイト	石核	7575.1灰	6.7	3.3	0.9		33.33	石核の可塑性	
855	1[8]③	第2面包含層	縦延長 [灰灰褐色層]	ナスカイト	石核	7575.1灰白	5.4	4.6	0.9		20.90		
856	1[8]①	第2面包含層	カリーブル色砂質シルト層	ナスカイト	块状石核	扁平片状石核	2575.5カリーブル	8.8	3.7	1.4		70.32	
857	1[8]①	第2面包含層	カリーブル色砂質シルト層	ナスカイト	块状石核	2578.4灰白	10.1	3.6	1.9		79.67		
858	1[8]②	第2面包含層	[第1面] 遷移上下面精整 [灰灰褐色層]	砂岩	砂岩	7576.1明陶灰	9.9	4.5	4.4		319.19		
859	1[8]③	第2面包含層	[第1面] 上面精整 [灰灰褐色層]	ナスカイト	石核	N4.灰	1.3	1.1	0.2		1.29		
860	3[4]	3[5] SH01	Y層	ナスカイト	石核	N5.灰	1.9	1.2			0.62		
861	1[8]①	第2面包含層	[第3面] 遷移上下面精整	ナスカイト	石核	N5.灰	1.9	1.6	0.3		1.99		
862	1[8]①	第2面包含層	[第2面] 遷移上下面精整 [灰灰褐色層]	ナスカイト	石核	N5.灰	1.5	1.0	0.4		1.56		
863	1[8]①	第2面包含層	黄灰褐色層	ナスカイト	石核	N5.灰	1.8	1.6	0.5		1.28		
864	1[8]②	第2面包含層	縦延長 [灰灰褐色層]	ナスカイト	石核	N5.灰	1.5	1.1	0.3		0.32		
865	2[8]②	SH0113	Y層	ナスカイト	石核	N5.灰	1.6	1.4	0.3		0.53		
866	2[8]③	SH101	2	ナスカイト	石核	N5.灰	1.1	1.4	0.3		1.54		
867	1[8]③	第2面包含層	黄色色含層	ナスカイト	石核	N7.7灰白	2.3	2.1	0.3		1.42		
868	2[8]②	SP	接觸	ナスカイト	石核	N4.灰	2.1	1.2	0.4		0.84		
869	1[8]④	第2面包含層	黄灰褐色層	ナスカイト	石核	扁平片状石核	N4.灰	2.3	1.3	0.3		0.79	

第58表 西村遺跡出土石器觀察表(4)

報告番号	測定区	遺物名	層位等	出土位置	材質	等級	色調	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
870	2段(2)	SD113	(4)	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	N4.灰	2.7	2.2	0.5	303		
871	2段(2)	SH101	1区 第1面包含層	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	N5.灰	2.9	2.8	0.5	308		
872	1段(2)	第1面包含層	灰色包含層	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	N5.灰	3.3	1.7	0.5	2.4		
873	1段(2)	第2面包含層	灰色包含層	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	N5.灰	3.2	2.4	0.5	394		
874	1段(2)	第1面包含層	第1面 灰色包含層 主:灰色 副:黑色(生漆)	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	N7.灰白	3.2	1.7	0.5	2.45		
875	1段(2)	SH101	1区 第1面包含層	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	N3.褐灰	2.8	2.1	0.5	284		
876	1段(2)	SH101	1区 第1面包含層	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	N4.灰	2.4	1.9	0.5	223		
877	2段(2) ・(3)	第1面包含層	灰色包含層	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	N5.灰	3.1	1.9	0.4	222		
878	2段(2)	SH101	1区 第1面包含層	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	N3.褐灰	3.2	1.3	0.8	279		
879	1段(2)	第1面包含層	第1面 灰色包含層	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	N5.灰	2.5	1.0	0.4	337		
880	1段(2)	第1面包含層	灰色包含層	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	N3.褐灰	3.0	2.5	0.8	557		
881	2段(2)	SH101	②	ナスカイト 打削加工	ナスカイト 打削加工	N4.灰	3.4	3.3	0.7	83		
882	1段(2)	SH101	第2面包含層	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	N5.灰	4.6	3.1	0.9	1102		
883	1段(2)	SH101	第2面 灰色包含層 主:灰色 副:黑色(生漆)	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	25Y7.1灰白	2.2	3.5	0.5	363		
884	1段(2)	SH101	1区 第1面包含層	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	N5.灰	3.8	3.7	0.5	81.3		
885	2段(2)	SH101	第1面包含層	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	一次加工 高点削除	N4.灰	3.3	2.3	1.3	1155	
886	2段(2)	SP		ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	二次加工 高点削除	N4.灰	2.0	3.6	0.9	1556	
887	1.4	1区包含層	灰色包含層	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	二次加工 高点削除	N4.灰	3.2	3.4	0.9	859	
888	2段(2)	SH101	(1)	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	二次加工 高点削除	N4.灰	2.0	2.6	0.5	222	
889	1段(2)	SH101	第2面包含層	黄色包含層	ナスカイト 石頭製品	二次加工 高点削除	N4.灰	3.8	2.9	0.6	13.9	
890	2段(2)	SH101	(1)	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	二次加工 高点削除	N5.灰	3.1	2.8	0.6	14.0	
891	1段(2)	第1面包含層	灰色包含層	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	施用有 色漆	N7.灰白	3.3	4.4	0.6	8.3	
892	1段(1)	第2面包含層	黄色包含層	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	施用有 色漆	N4.灰	3.2	4.9	0.6	912	
893	1段(2)	第1面包含層	灰色包含層	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	施用有 色漆	51Y7.1灰白	4.5	4.1	0.9	1778	
894	1段(2)	第1面包含層	灰色包含層	ナスカイト 石頭製品	ナスカイト 石頭製品	施用有 色漆	N6.灰	1.6	1.8	0.5	1.1	
895	1段(1)	第2面包含層	第3面 機械削削	砂岩	砂岩	磨石	N8.灰白	7.9	6.5	5.8	438.78	
896	2段(2)	第1面包含層	灰色包含層	安山岩	安山岩	玄武岩	N4.灰	1.8	2.3	1.6	1.088	

第59表 西村遺跡出土木器觀察表

報告番号	調査区	遺物名	層位等	断面	断面	長さ(cm)	幅	厚さ(cm)
260	1区(3)	SH108	SP101	七ノ牛	柱材	24.0	15.9	7.5
261	1区(2)	SH108	SP102	七ノ牛	柱材	26.0	10.2	6.3
767	2区(3)	SH101	SH24	サクダ属	柱材	10.5	19.3	17.0
768	2区(3)	SH101	SH29	アリ	柱材	8.5	20.8	16.4

第60表 西村遺跡出土玉類觀察表

報告番号	調査区	遺物名	層位等	材質	形態	法面	法面	法面	備考
140	31	3区(SB01)	②下層	ガラス	小玉	骨管 23H26.5/4	0.5	0.2	0.4 孔幅0.2cm

第61表 西村遺跡出土金属器觀察表(1)

報告番号	調査区	遺物名	層位等	出土位置	材質	形態	法面			備考
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	
19	1区(1)	SX04	①	1.2	鋼	鉄	22	2.2	0.3	206
199	1区(3)	SB102	SP115	1.38	鉄	鉄	40	1.8	2.0	647
200	1区(2)	SB102	SP115	1.38	鉄	鉄	28	0.6	0.6	683
201	2区(2)	SB102	SP102	1.38	鉄	鉄	21	0.8	0.8	697
202	1区(2)	SB102	SP115+4	1.38	鉄	鉄	21	0.7	0.5	688
224	1区(2)	SB104	SP113	1.38	鉄	鉄	27	0.9	0.8	290
257	1区(3)	SB108	SP267	1.26	鉄	刀子	36	1.5	1.4	832
382	1区(2)	SD102	③上層	1.03	鉄	刀子	37	0.8	0.3	118
383	1区(2)	SD113	(SX107)	1.05	鉄	鉄	1.1	0.6	0.3	0.27
460	2区(3)	SD113	1.31/313	1.38	鉄	棒状武器	7.3	1.0	0.8	839
470	2区(2)	SD119	1.38	鉄	鉄	刀子	5.7	1.5	1.4	846
481	1区(2)	SF91	1.39	鉄	不明細板	刀子	29	1.2	0.6	119
492	1区(3)	SB224	柱板	1.178	鉄	不明器具	2.5	2.8	0.6	590
705	1区(2)	第1面 上面精柆	1.50	鉄	1.2=4.2×外板	口径0.7	1.0	1.1	3060	削留大径20
706	1区(2)	第1面 包含層	1.65	鉄	不明	金具	1.5	0.9	0.9	1.40
707	1区(3)	第1面 包含層	1.65	鉄	不明細板	金具	3.3	2.0	0.3	370
708	1区(2)	第1面 包含層	1.65	鉄	不明	真志材片	2.6	1.6	0.9	384
709	1区(1)	第1面 包含層	1.65	鉄	不明	刀子	1.4	2.0	0.6	272
710	1区(2)	第1面 包含層	1.65	鉄	不明	鐵頭金具	3.2	1.8	1.6	479
711	1区(2)	第1面 包含層	1.65	鉄	不明	鐵頭金具	3.3	1.7	1.3	570
712	2区(2)	第1面 包含層	1.65	鉄	不明	刀子	6.2	0.9	1.0	1030
713	2区(2)	第1面 包含層	1.65	鉄	不明	刀子	3.1	1.1	0.7	285
714	2区(1)	第1面 包含層	1.65	鉄	不明	刀子	3.1	1.1	1.0	432
715	1区(2)	第1面 包含層	1.65	鉄	不明	刀子	2.4	0.5	0.4	49

第62表 西村道路出土金屬器觀察表(2)

報告番号	測定区	遺物名	層位等	出土位置	材質	器種	法量 長さ(cm) 幅(cm) 厚さ(cm)	重量(g)	備考
716 1[6]2	第1面合層	第1面	上面青色	1-06	真	鉢	27 66 0.5	126	
717 1[6]2	第1面合層	第1面	灰色合層	1-06	真	不明板	33 45 1.7	2190	

第63表 西村道路出土鐵物觀察表

報告番号	測定区	遺物名	層位等	出土位置	材質	器種	法量 長さ(cm) 幅(cm) 厚さ(cm)	重量(g)	備考 (NSは分析番号)		
235 1[6]3	SB105	SP777 3+4	真	輪形治溝	20 28 1.8		15.53	x			
258 1[6]3	SB108	SP248	真	輪形治溝	34 3.3		16.79	x	鉛粘土粘付		
259 1[6]3	SB108	SP248	真	輪形治溝	48 26 1.3		12.34	x	鉛粘土粘付		
365 1[6]1	SD101	4.11層	真	輪形治溝	底径(64)		27	14.02	x		
366 2[6]3	SD101	11	真	輪形治溝	40 35 3.4		12.43	x	NTS7		
384 1[6]3	SD102	2	真	輪形治溝	48 3.7		35.18	x	土器片付着		
420 1[6]3	SD107	6	真	輪形治溝	34 5.9		20.57	x	NTS8		
421 1[6]3	SD107	1	真	輪形治溝	53 4.9		17	22.53	x		
473 1[6]2	SF701	薄土層	輪	青銅鏡	1.8 1.3		0.06	1.51	x		
474 1[6]2	SF701		輪	青銅鏡	1.4 1.2		0.06	3.27	x		
475 1[6]2	SF701		輪	青銅鏡	1.6 0.7		0.06	2.12	x		
476 1[6]3	SF701		輪	青銅鏡	1.1 1.2		0.07	3.26	x		
477 1[6]2	SF701		輪	青銅鏡	1.3 2.2		12	7.69	x		
478 1[6]2	SF701		輪	青銅鏡	0.9 1.1		0.08	2.39	x		
479 1[6]3	SF701		輪	青銅鏡	1.4 0.9		0.05	2.10	x		
480 1[6]3	SF701		輪	青銅鏡	1.6 1.2		0.06	4.74	x		
482 1[6]2	SF702		真	輪形治溝	8.4 8.1		4.4	23.7	x		
491 1[6]3	SP223		粘土	羽口	20 4.1		1.8	14.29	○		
718 1[6]2	第1面合層	灰色包含層	1.95	真	輪形治溝	4.2 3.0		2.7	31.77	△	
719 1[6]3	第1面合層	海1層	灰色包含層	1.110	真	輪形治溝	4.2 4.2		18.20	△	
720 1[6]2	第1面合層	第1面	上面青色	灰色包含層	1.157	真	輪形治溝	3.6 3.1		19.52	△
721 1[6]3	第1面合層	第1面	上面青色	灰色包含層	1.168	真	輪形治溝	3.3 3.9		25.71	○
722 1[6]3	第1面合層	第1面	黑色	灰色包含層	1.175	真	輪形治溝	2.3 3.2		34.07	○
723 1[6]3	第1面合層	第1面	灰色	灰色包含層	1.182	真	輪形治溝	2.9 3.4		12.67	x
724 2[6]2	第1面合層	第1面	黑色	灰色包含層		鉢	28 3.0		18.02	△	
725 2[6]2	第1面合層	上	黑色	灰色包含層		鉢	1.8 3.1		13.35	x	
726 1[6]3	第1面合層	第1面	黑色	黑色包含層	50 61		2.1	64.97	○		
727 1[6]2	第1面合層	第1面	黑色	黑色包含層	1.102	土器	上部未使用	22 2.4	0.99	4.78	○
729 1[6]3	第1面合層	第1面	灰色	灰色包含層	1.184	真	鉢	2.5 2.0		16.77	x

第 64 表 西村遺跡鍛冶鑄造遺物觀察表 SF101 (1)

第65表 西村遺跡鍛冶遺物觀察表 SF101 (2)

1,000 と 1,746 の 11,000 以下であることを示す。

西村遺跡鍛冶铸造関連遺物観察表 SF104 第69表

设备序号	设备名称	规格	材质	功率	连接方式	连接端口	连接线缆	连接端口	连接线缆	连接端口	连接线缆	连接端口	连接线缆
M0002	水泵	100W	铁质	100W	叶轮	进水口	进水口	出水口	出水口	叶轮	进水口	进水口	进水口
M0003	水泵	100W	铁质	100W	叶轮	进水口	进水口	出水口	出水口	叶轮	进水口	进水口	进水口
M0004	水泵	100W	铁质	100W	叶轮	进水口	进水口	出水口	出水口	叶轮	进水口	进水口	进水口
M0005	水泵	100W	铁质	100W	叶轮	进水口	进水口	出水口	出水口	叶轮	进水口	进水口	进水口
M0006	水泵	100W	铁质	100W	叶轮	进水口	进水口	出水口	出水口	叶轮	进水口	进水口	进水口
M0007	水泵	100W	铁质	100W	叶轮	进水口	进水口	出水口	出水口	叶轮	进水口	进水口	进水口

西村遺跡鍛冶鑄造関連遺物観察表 SF105 第 70 表

表第 71 西村遺跡鍛冶鑄造関連遺物觀察表 SF106

登錄編號 調查區 通稱名 編號 單位 取樣方法 種別 量級 級別 地質 山稜

第 74 表 西村遺跡鍛冶鑄造関連遺物観察表 SX105

第75表 西村遺跡鍛冶鋪造関連遺物観察表 SA102

组别	性别	年龄	基线	治疗	时间	结果	意义
M0/II	1(女)	S2P2S	1.007	地屈孕酮	单药	降低血清癌胚抗原	N
M0/II	1(女)	S2P2S	1.206	地屈孕酮	单药	降低血清癌胚抗原	N
M0/II	1(女)	S2P2S	1.209	地屈孕酮	单药	降低血清癌胚抗原	N
M0/II	1(女)	S2P2S	1.210	地屈孕酮	单药	降低血清癌胚抗原	N

第76表 西村遺跡鍛冶場遺物觀察表 SB1T01

项目	指标	单位	数值	备注
项目编号	项目名	新村	—	—
M05173	2区2 S0008	米	3.31	△

監督番号	監督名	備註	会員	常規	時式	機制	竹筒
M012B	14K±	S1104		1,247	多孔土	左側	一部ガラ

第 78 表 西村遺跡鐵冶鑄造遺物觀察表 SB105

表第 72 西村遺跡鍛冶鑄造場遺物觀察表 SF108

西村遺跡鍛冶鋪造開連遺物觀察表 SF109 第 73 表

西村遺跡鍛冶鑄造関連遺物観察表 SB108

西村遺跡鍛冶鋪造関連遺物観察表 SB111 第80表

第 82 表 西村遺跡鍛冶鑄造関連遺物観察表 SD101 (2)

项目名称	单位	起止点	里程	耗油量	耗时	耗电	耗气	耗水	耗风
3.0208 1.4(L) S30301 0.3 1.0	公里	1.132	公里	0.022	分钟	0.002	米	0.002	米
3.0300 1.4(L) S30301 0.1 1.0	公里	1.136	公里	0.020	分钟	0.002	米	0.002	米
M3031 1.4(L) S30301 0.1 1.0	公里	1.137	公里	0.020	分钟	0.002	米	0.002	米
3.0304 1.4(L) S30301 0.1 1.0	公里	1.139	公里	0.020	分钟	0.002	米	0.002	米
M3036 1.4(L) S30301 0.1 1.0	公里	1.140	公里	0.020	分钟	0.002	米	0.002	米
M3037 1.4(L) S30301 0.1 1.0	公里	1.141	公里	0.020	分钟	0.002	米	0.002	米
M3038 1.4(L) S30301 0.1 1.0	公里	1.142	公里	0.020	分钟	0.002	米	0.002	米

MEQ00	1 [X]	SQ001	①1%	1.144	弱	弱风	弱雨	弱雷	弱震	弱光	弱温	弱湿	弱盐	弱酸	弱碱
MEQ01	1 [X]	SQ001	①1%	1.145	弱	弱风	弱雨	弱雷	弱震	弱光	弱温	弱湿	弱盐	弱酸	弱碱

	产地	品种	株型	穗型	穗粒数	千粒重	抗性	熟期	备注
晋麦2020	1.4.3	SJ201	1.1 嫩	直立	14.47	39.5	中抗白粉病 中抗赤霉病 中抗条锈病 中抗秆锈病	133.03	◎
晋麦2021	1.4.3	SJ201	1.1 嫩	直立	11.09	40.0	中抗白粉病 中抗赤霉病 中抗条锈病 中抗秆锈病	120.20	×
晋麦2009	1.1.2	SJ201	0.9	半直立	13.75	39.5	中抗白粉病 中抗赤霉病 中抗条锈病 中抗秆锈病	244.92	NS(46)
晋麦2255	1.1.2	SJ201	0.9	半直立	13.75	39.5	中抗白粉病 中抗赤霉病 中抗条锈病 中抗秆锈病	125.26	×
晋麦2026	1.1.2	SJ201	0.9	半直立	13.79	39.5	中抗白粉病 中抗赤霉病 中抗条锈病 中抗秆锈病	117.01	×
晋麦2025	1.1.2	SJ201	0.9	半直立	13.79	39.5	中抗白粉病 中抗赤霉病 中抗条锈病 中抗秆锈病	115.05	△
晋麦2029	2.4.3	SJ201	0.9	直立	12.80	41.0	中抗白粉病 中抗赤霉病 中抗条锈病 中抗秆锈病	124.53	×
晋麦2023	2.4.3	SJ201	0.9	直立	12.80	41.0	中抗白粉病 中抗赤霉病 中抗条锈病 中抗秆锈病	205.44	○
晋麦2023	2.4.3	SJ201	0.9	直立	12.82	41.0	中抗白粉病 中抗赤霉病 中抗条锈病 中抗秆锈病	147.1	△
晋麦2023	2.4.3	SJ201	0.9	直立	12.82	41.0	中抗白粉病 中抗赤霉病 中抗条锈病 中抗秆锈病	145.81	△

第 83 表 西村遺跡鐵冶鑄造闢連遺物觀察表 SD102

監測番号	測定点名	地點	基準	基材	種別	特徵	出土	埋藏	形狀	尺寸
M03207	1/1/2	SD102	基層	多孔	素朴				圓柱	Φ39
M03210	1/1/2	SD102	土上	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	2.28	×		
M03213	1/1/2	SD102	1.1/1/2	鐵灰	鐵灰	表面有鉻化。	0.81	×		
M03216	1/1/2	SD102	1.1/1/2	鐵灰	鐵灰	表面有鉻化。	0.44	△		
M03217	1/1/2	SD102	1/1/2	鐵灰	鐵灰	表面有鉻化。	2.73	○	水洗	
M03218	1/1/2	SD102	1.1/1/2	鐵灰	鐵灰	表面有鉻化。	0.12	○	水洗	
M03219	1/1/2	SD102	1.1/1/2	鐵灰	鐵灰	表面有鉻化。	1.41	×	水洗	
M03220	1/1/2	SD102	1.1/1/2	鐵灰	鐵灰	表面有鉻化。	0.30	○	水洗	
M03221	1/1/2	SD102	1/1/2	鐵灰	鐵灰	表面有鉻化。	0.35	○	水洗	
M03222	1/1/2	SD102	1/1/2	鐵灰	鐵灰	表面有鉻化。	0.29	×	水洗	
M03223	1/1/2	SD102	1/1/2	鐵灰	鐵灰	表面有鉻化。	0.73	×		
M0324	1/1/2	SD102	1/1/2	鐵灰	鐵灰	表面有鉻化。	2.97	×		
M0325	1/1/2	SD102	1/1/2	鐵灰	鐵灰	表面有鉻化。	10.38	△		

第 85 表 西村遺跡鐵冶鑄造闢連遺物觀察表 SD107

監測番号	測定点名	地點	基準	基材	種別	出土	埋藏	形狀	尺寸	
M0305	1/1/3	SD107	基層	多孔	素朴			圓柱	Φ39	
M0306	1/1/3	SD107	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	1.95	水洗		
M0308	1/1/3	SD107	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	1.50	水洗		
M0310	1/1/3	SD107	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	1.24	水洗		
M0311	1/1/3	SD107	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	1.27	水洗		
M0312	1/1/3	SD107	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	0.87	△		
M0313	1/1/3	SD107	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	1.30	水洗		
M0314	1/1/3	SD107	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	22.53	水洗		
M0315	1/1/3	SD107	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	42.5	水洗		

第 86 表 西村遺跡鐵冶鑄造闢連遺物觀察表 SD112

監測番号	測定点名	地點	基準	基材	種別	出土	埋藏	形狀	尺寸	
M0314	1/1/3	SD112	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	1.95	水洗		
M0315	2/1/3	SD112	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	1.67	水洗		
M0316	2/1/3	SD112	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	2.06	水洗		

第 87 表 西村遺跡鐵冶鑄造闢連遺物觀察表 SD113

監測番号	測定点名	地點	基準	基材	種別	出土	埋藏	形狀	尺寸	
M0317	2/1/3	SD113	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	1.34	△		
M0318	2/1/3	SD113	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	1.49	水洗		
M0319	2/1/3	SD113	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	0.71	水洗		
M0320	2/1/3	SD113	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	0.12	○	水洗	
M0321	2/1/3	SD113	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	0.17	水洗		
M0322	2/1/3	SD113	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	0.87	○	水洗	
M0323	2/1/3	SD113	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	0.98	水洗		
M0324	2/1/3	SD113	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	0.98	水洗		
M0325	2/1/3	SD113	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	0.98	水洗		
M0326	2/1/3	SD113	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	0.98	水洗		

第 88 表 西村遺跡鐵冶鑄造闢連遺物觀察表 SD119

監測番号	測定点名	地點	基準	基材	種別	出土	埋藏	形狀	尺寸	
M0327	1/1/2	SD119	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	2.06	針孔土	圓柱	Φ38
M0328	1/1/2	SD119	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	1.94	水洗		
M0329	1/1/2	SD119	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	0.98	水洗		
M0330	1/1/2	SD119	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	0.89	水洗		
M0331	1/1/2	SD119	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	1.25	水洗		
M0332	1/1/2	SD119	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	1.25	水洗		
M0333	1/1/2	SD119	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	1.25	水洗		
M0334	1/1/2	SD119	①	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	1.25	水洗		

第 84 表 西村遺跡鐵冶鑄造闢連遺物觀察表 SD105

監測番号	測定点名	地點	基準	基材	種別	出土	埋藏	形狀	尺寸	
M0223	1/1/2	SD105	①	素朴	素朴	表面無鉻化。	5.73	水洗		
M0224	1/1/2	SD105	②	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	7.97	水洗		
M0225	1/1/2	SD105	③上層	鐵灰	鐵灰	表面無鉻化。	10.38	△		

表 89 第 3 開造銅鑄物遺物觀察表 SP 西村遺跡鍛冶鍛造

西村遺跡鍛冶鑄造場遺物觀察表第1面包含層 (1)

第 91 表 西村遺跡鍛冶鋪造関連遺物観察表第 1 面包含層 (2)

第92表 西村遺跡鐵冶铸造関連遺物觀察表第3面包含層(3)

第93表 西村遺跡鐵冶铸造関連遺物觀察表第4面包含層(4)

遺物番号	遺物名	時代	層位	番号	原土	裏土	形状	材質	特徴	頂上・側面		番号	原土	裏土	形状	材質	特徴	出土・調査年	出土地		
										頂上	側面										
M0298	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.76	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	3382	×	M0318	1.1.2.1 鋼	褐色含鉄	1.2.28	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	0.03	○
M0299	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.77	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	463	×	M0319	2.1.2.2 鋼	褐色含鉄	2.1.39	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	7.27	×
M0300	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.79	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	607	×	M0320	2.1.2.2 鋼	褐色含鉄	2.1.40	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	18.02	△
M0301	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.80	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	0.85	○	M0321	2.1.2.2 鋼	褐色含鉄	2.1.41	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	6.22	△
M0302	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.81	多孔土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	374	△	M0322	2.1.2.2 鋼	褐色含鉄	2.1.42	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	13.35	×
M0303	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.82	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	12.87	×	M0323	1.1.2.2 鋼	褐色含鉄	1.1.43	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	2.5	○
M0304	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.83	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	0.11	×	M0324	2.1.2.2 鋼	褐色含鉄	2.1.43	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	2.64	○
M0305	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.84	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	8.24	△	M0325	2.1.2.2 鋼	褐色含鉄	2.1.44	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	2.65	○
M0306	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.87	多孔土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	4.4	×	M0326	1.1.2.2 鋼	褐色含鉄	1.1.45	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	0.05	○
M0308	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.88	多孔土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	2.96	×	M0327	1.1.2.2 鋼	褐色含鉄	1.1.46	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	18.53	×
M0309	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.89	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	1.91	×	M0328	1.1.2.2 鋼	褐色含鉄	1.1.47	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	0.39	○
M0310	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.90	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	31.77	△	M0329	2.1.2.2 鋼	褐色含鉄	2.1.45	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	3.69	○
M0311	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.91	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	8.17	×	M0330	2.1.2.2 鋼	褐色含鉄	2.1.46	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	2.46	○
M0313	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.92	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	0.8	×	M0331	1.1.2.2 鋼	褐色含鉄	1.1.47	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	14.74	△
M0314	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.93	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	15.98	△	M0332	1.1.2.2 鋼	褐色含鉄	1.1.48	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	5.19	×
M0306	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.94	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	12.01	×	M0333	2.1.2.2 鋼	褐色含鉄	2.1.47	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	6.29	○
M0307	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.95	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	2.21	×	M0334	2.1.2.2 鋼	褐色含鉄	2.1.48	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	5.95	×
M0308	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.96	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	1.93	×	M0335	2.1.2.2 鋼	褐色含鉄	2.1.49	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	6.82	○
M0309	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.97	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	4.52	×	M0336	2.1.2.2 鋼	褐色含鉄	2.1.50	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	3.45	×
M0310	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.98	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	1.37	×	M0337	2.1.2.2 鋼	褐色含鉄	2.1.51	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	7.08	×
M0311	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.99	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	0.4	○	M0338	2.1.2.2 鋼	褐色含鉄	2.1.52	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	24.31	○
M0312	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.100	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	6.1	×	M0339	2.1.2.2 鋼	褐色含鉄	2.1.53	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	7.17	×
M0313	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.101	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	6.26	○	M0340	2.1.2.2 鋼	褐色含鉄	2.1.54	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	5.09	×
M0314	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.102	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	18.11	△	M0341	2.1.2.2 鋼	褐色含鉄	2.1.55	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	12.42	○
M0316	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.103	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	1.27	×	M0342	2.1.2.2 鋼	褐色含鉄	2.1.56	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	1.27	○
M0317	1.1.3.1 鋼	唐	褐色含鉄	1.1.104	地土	鐵灰	棒状	鐵	高碳素 内部分布鉄化。	1.27	×	M0343	2.1.2.2 鋼	褐色含鉄	2.1.57	地土	鐵灰	棒状	高碳素 内部分布鉄化。	1.27	○

第98表 サヌカイト製石器別片一覧表（5）

番号	分類	品目	規格	備考	所蔵者	所蔵地名	所蔵番号	形態	平均厚さ
SNS24	E.C.	31.73	丸石	1.05	1.74		SNS24	打刃器	2.1
SNS25	E.C.	26.52	1.05	1.15	1.35		SNS25	打刃器	2.3
SNS26	E.C.	30.79	4.96	3.49	1.77		SNS26	打刃器	2.3
SNS27	E.C.	12.6	2.7	4.03	0.94		SNS27	打刃器	2.3
SNS28	E.C.	4.32	3.19	2.7	0.73		SNS28	打刃器	2.3
SNS29	E.C.	6.56	5.52	2.53	0.7		SNS29	打刃器	2.3
SNS30	E.C.	2.39	2.00	1.16	0.74		SNS30	打刃器	2.3
SNS31	E.C.	3.17	2.31	2.5	0.66		SNS31	打刃器	2.3
SNS32	E.C.	1.18	3.28	0.9	1.19		SNS32	打刃器	2.3
SNS33	E.C.	2.76	2.93	2.54	1.12		SNS33	打刃器	2.3
SNS34	E.C.	12.73	3.16	2.19	1.9		SNS34	打刃器	2.3
SNS35	E.C.	5.57	3.2	2.06	0.66		SNS35	打刃器	2.3
SNS36	E.C.	9.49	3.25	2.39	0.65		SNS36	打刃器	2.3
SNS37	E.C.	3.79	2.74	2.49	0.65		SNS37	打刃器	2.3
SNS38	E.C.	5.6	2.6	1.95	1.05		SNS38	打刃器	2.3
SNS39	E.C.	6.17	4.72	2.19	1		SNS39	打刃器	2.3
SNS40	E.C.	3.76	3.19	1.62	1.05		SNS40	打刃器	2.3
SNS41	E.C.	3	2.13	0.72	0.72		SNS41	打刃器	2.3
SNS42	E.C.	4.51	2.14	1.61	1.21		SNS42	打刃器	2.3
SNS43	E.C.	3.11	2.12	2.15	0.66		SNS43	打刃器	2.3
SNS44	E.C.	3.18	2.28	2.58	0.62		SNS44	打刃器	2.3
SNS45	E.C.	3.77	2.63	2.45	0.65		SNS45	打刃器	2.3
SNS46	E.C.	3.04	1.92	2.28	0.58		SNS46	打刃器	2.3
SNS47	E.C.	2.99	2.44	1.26	0.53		SNS47	打刃器	2.3
SNS48	E.C.	2.98	2.14	2.12	0.65		SNS48	打刃器	2.3
SNS49	E.C.	3.8	2.7	2.14	0.52		SNS49	打刃器	2.3
SNS50	E.C.	6.26	2.3	1.76	0.57		SNS50	打刃器	2.3
SNS51	E.C.	4.28	3.33	3.45	0.67		SNS51	打刃器	2.3
SNS52	E.C.	3	2.17	2.19	0.73		SNS52	打刃器	2.3
SNS53	E.C.	5.3	3.96	1.55	0.92		SNS53	打刃器	2.3
SNS54	E.C.	3.46	1.96	2.45	0.92		SNS54	打刃器	2.3
SNS55	E.C.	3.09	1.95	2.7	0.62		SNS55	打刃器	2.3
SNS56	E.C.	15.97	2.67	2.61	0.94		SNS56	打刃器	2.3
SNS57	E.C.	37.1	3.7	2.92	0.75		SNS57	打刃器	2.3
SNS58	E.C.	3.15	3.53	1.94	0.6		SNS58	打刃器	2.3
SNS59	E.C.	11.54	5.59	4.35	0.65		SNS59	打刃器	2.3
SNS60	E.C.	36.5	5.18	3.08	0.94		SNS60	打刃器	2.3
SNS61	E.C.	4.62	4.27	1.93	0.62		SNS61	打刃器	2.3
SNS62	E.C.	7.51	4.1	3.49	0.78		SNS62	打刃器	2.3
SNS63	E.C.	4.9	2.31	1.73	0.65		SNS63	打刃器	2.3
SNS64	E.C.	9.33	4.08	3.12	0.96		SNS64	打刃器	2.3

第99表 石材別石器集計表

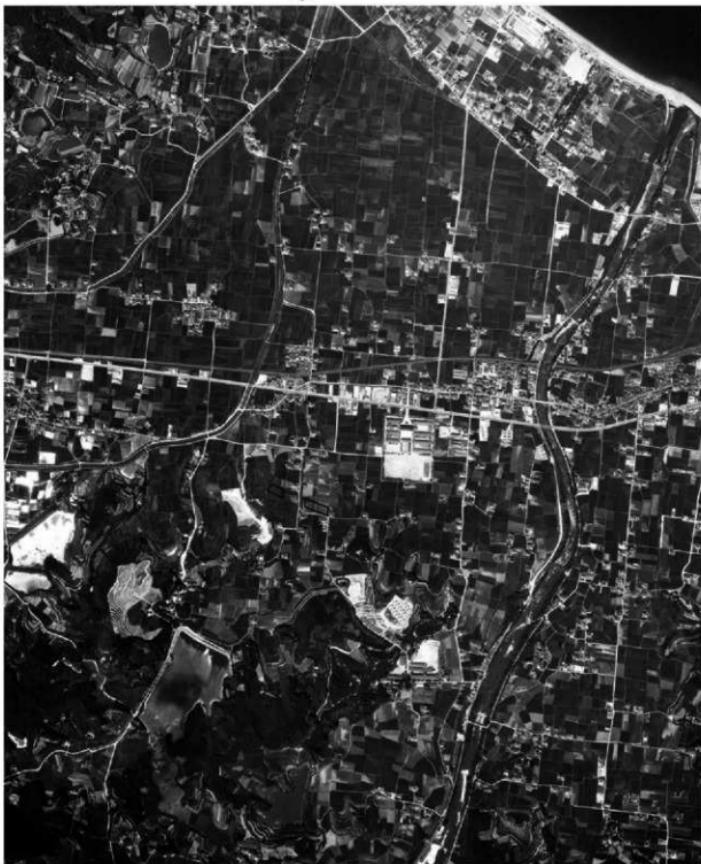
分類	品目	規格	所蔵者	所蔵地名	所蔵番号	形態	平均厚さ	
							打刃器	刮削器
			中野市立博物館	中野市立博物館	1.986		2.3	
			高野町立博物館	高野町立博物館	1.981		4	
			御岳村立博物館	御岳村立博物館	1.91		2	
			御嶽山立博物館	御嶽山立博物館	1.13		1	
			御嶽山立博物館	御嶽山立博物館	1.07		6	
			御嶽山立博物館	御嶽山立博物館	1.380		361	

第100表 サヌカイト製石器集計表

分類	品目	規格	所蔵者	所蔵地名	所蔵番号	形態	平均厚さ	
							打刃器	刮削器
			中野市立博物館	中野市立博物館	1.986		16	
			高野町立博物館	高野町立博物館	1.981		40	
			御岳村立博物館	御岳村立博物館	1.91		31	
			御嶽山立博物館	御嶽山立博物館	1.13		16.8	
			御嶽山立博物館	御嶽山立博物館	1.07		61	
			御嶽山立博物館	御嶽山立博物館	1.380		361	

※NSNSは手取河岸遺跡、NSNS2は平成海岸遺跡

写真図版



西村遺跡周辺の空中写真（1967年8月4日国土地理院撮影 MSI-67-1X C6B 30 を複製使用）

図版2 西村遺跡

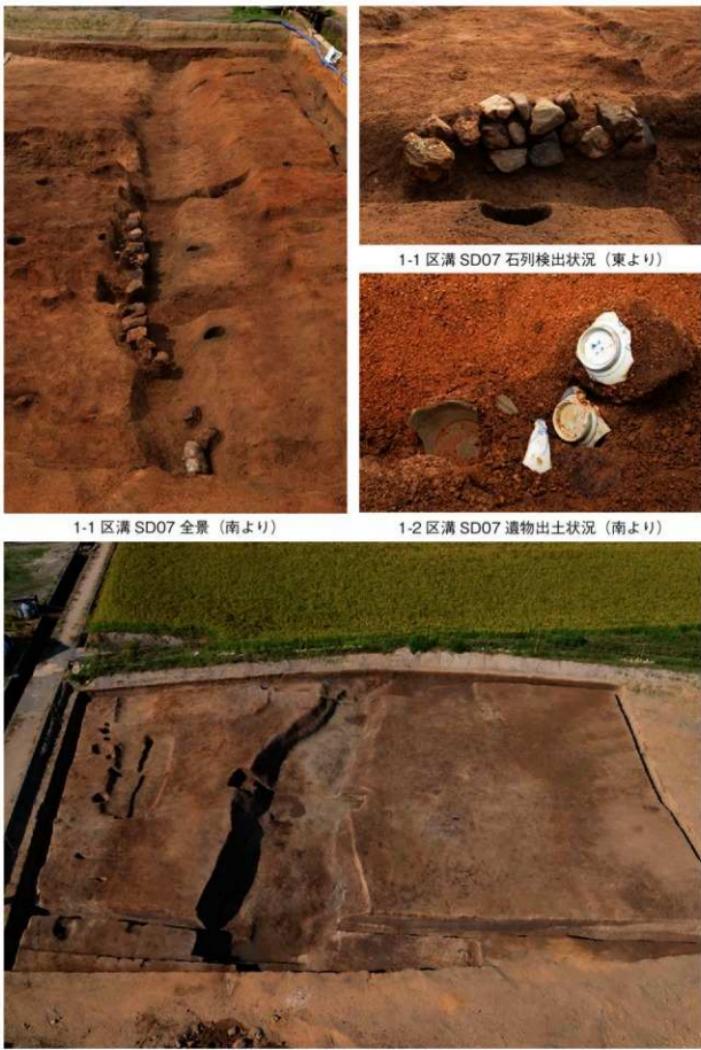


1-2区調査区全景（東より）



1-1区 SX03・04 完掘（南より）

図版 3 西村遺跡



1-1 区溝 SD07 全景（南より）

1-2 区溝 SD07 遺物出土状況（南より）

2-1 区全景（南より）

図版4 西村遺跡



2-2区 SR01 完掘状況（北より）



2-2区 SR01 上層土器出土状況（南より）



2-2区 SR01 中層遺物出土状況（北より）



2-2区 SR02・SR04 完掘状況（北より）



3-1区河川 SR01 完掘状況（南より）

図版 5 西村遺跡



3-2 区 SH01 完掘状況（西より）



3-2 区 SH01 炭化材検出状況（南東より）



3-2 区 SH01 土器出土状況（北より）



3-2 区 SH01 土器出土状況（北より）



3-2 区 SH01 土器出土状況（北より）

図版6 西村遺跡



調査地からの眺望（東南より右に西村古墳、左に清塚古墳）



調査地からの眺望（南より西村古墳）

図版 7 西村遺跡



1区① 第1構造面完掘状況（北より）



1区②・2区②全景（東より）

図版 8 西村遺跡



1区③全景（北より）



3区①完掘全景（東より）



2区①全景（東より）

図版 9 西村遺跡



2区③全景（東より）

図版 10 西村遺跡



1 区①第 1 遺構面検出状況（北より）



1 区②第 1 遺構面検出状況（北より）

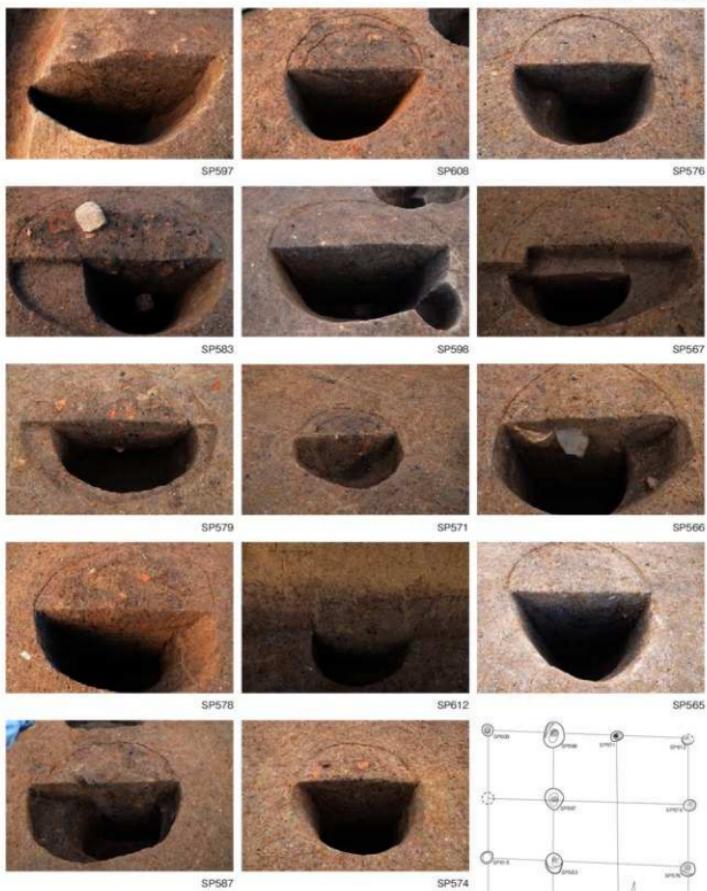


2 区②第 1 遺構面検出状況（西より）

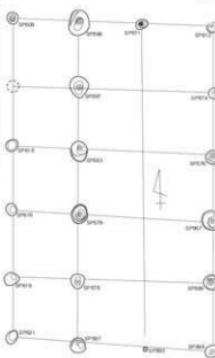


1 区①第 1 遺構面 遺構検出状況（北より）

図版 11 西村遺跡



建物 SB101 構成柱穴断面

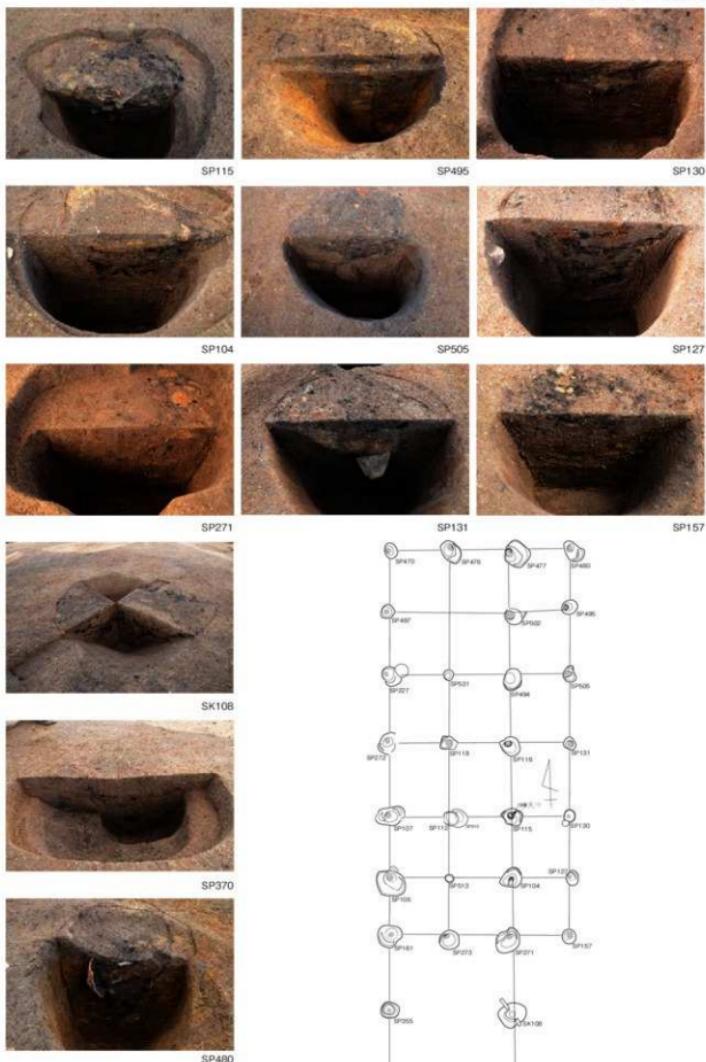


図版 12 西村遺跡



建物 SB102 構成柱穴断面（1）

図版 13 西村遺跡



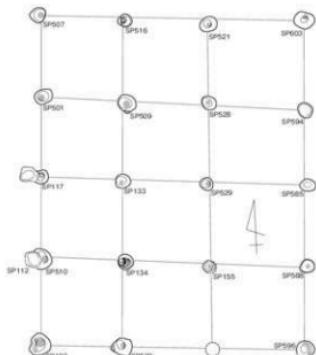
建物 SB102 構成柱穴断面（2）

図版 14 西村遺跡



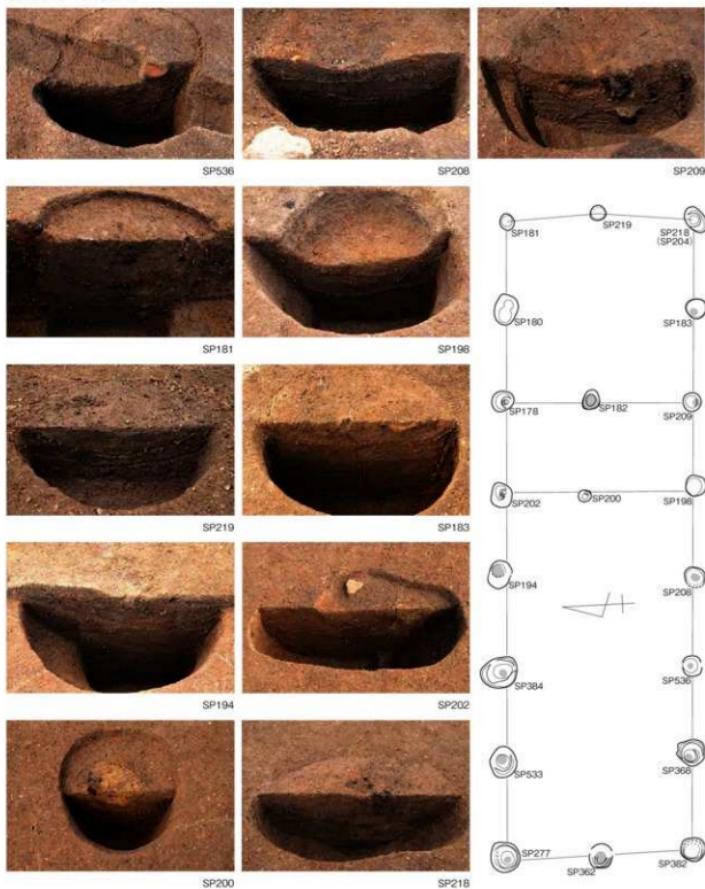
建物 SB104 構成柱穴断面

図版 15 西村遺跡



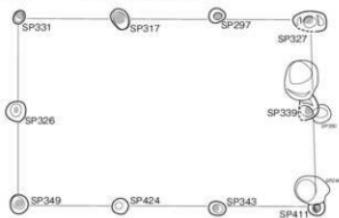
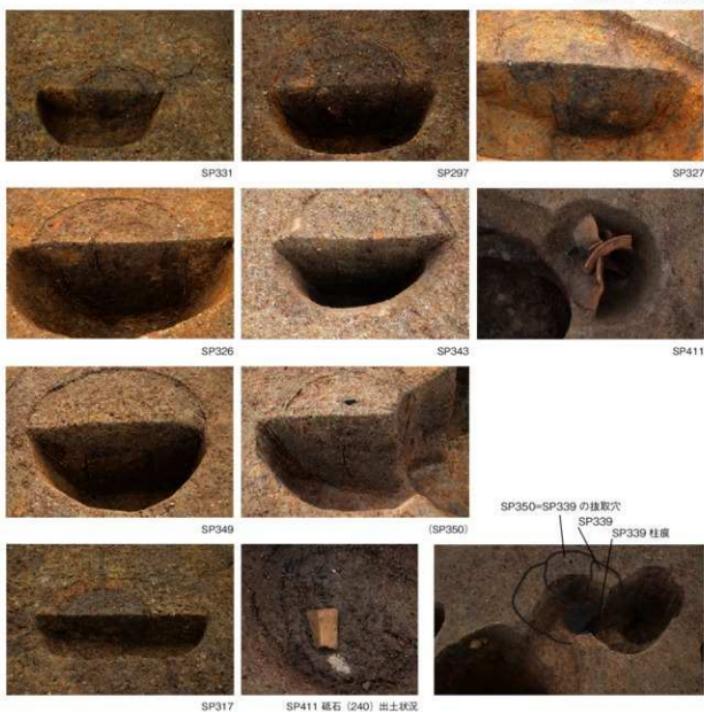
建物 SB105 構成柱穴断面（1）

図版 16 西村遺跡



建物 SB105 構成柱穴断面 (2)

図版 17 西村遺跡



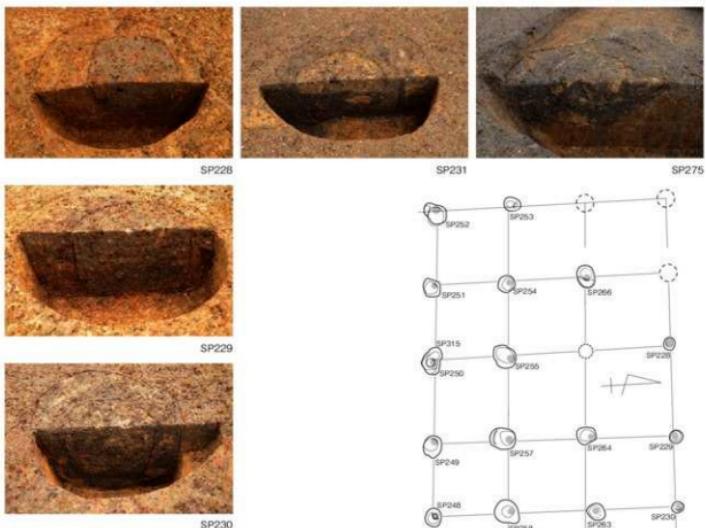
建物 SB107 構成柱穴断面

図版 18 西村遺跡



建物 SB108 構成柱穴断面（1）

図版 19 西村遺跡



建物 SB108 構成柱穴断面 (2)



1 区② SP101 根太木出土状況 (北東より)

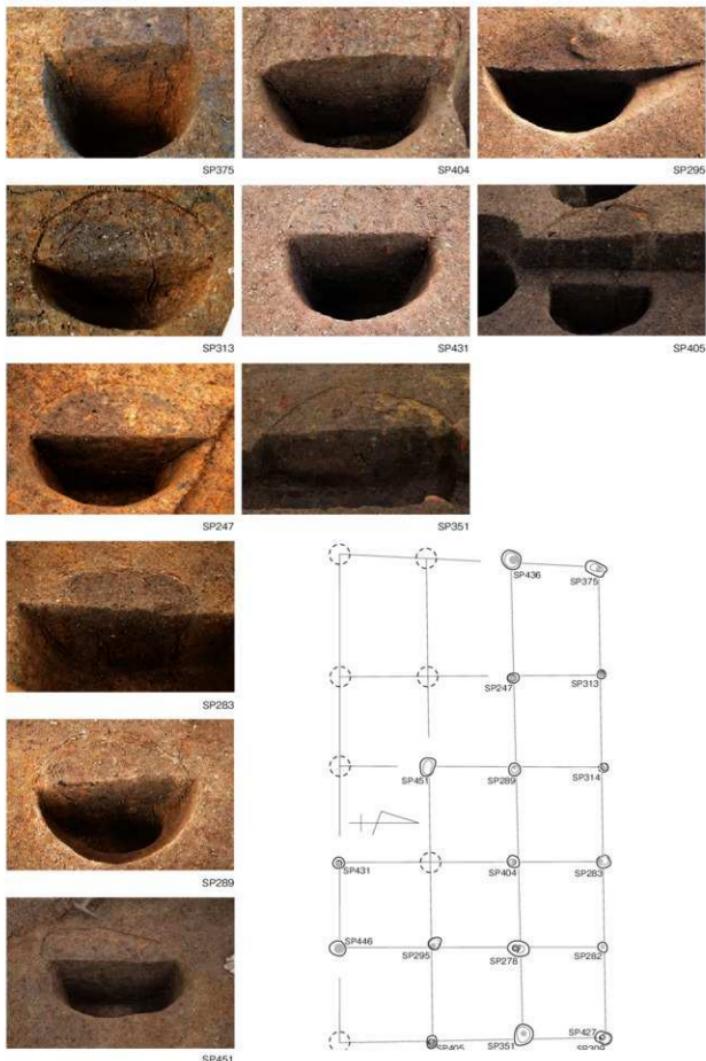


1 区② SP102 磁板群検出状況 (東より)



1 区② SP102 磁板群検出状況 (南より)

図版 20 西村遺跡



建物 SB112 構成柱穴断面 (1)

図版 21 西村遺跡



図版 22 西村遺跡



1区①溝 SD101 陶硯 (353)・杯出土状況 (東より)



1区②溝 SD101 土層 (南より)



2区③溝 SD101 ⑪遺物出土状況 (東より)



2区③溝 SD101 ⑫下層遺物出土状況 (南より)

図版 23 西村遺跡



2区③溝 SD101 ②下層遺物出土状況（北より）



2区③溝 SD101 上層遺物出土状況（南より）

図版 24 西村遺跡



2区③溝 SD101 棚出作業（南より）



1区②溝 SD102a 手前 SP103への落込（東より）



1区②溝 SD102 埋土 SP102への落込（西より）



1区②溝 SD102b ライン断面（東より）



1区②溝 SD102 埋土 SP102への落込（南より）

図版 25 西村遺跡



1区①溝 SD103c ライン断面 (西より)



1区①溝 SD103 托 (386) 出土状況 (西より)



1区②溝 SD107 ①土層 (西より)



1区③溝 SD105 杯 (387・390・395) (南より)



1区③溝 SD107 完掘状況 (北より)

図版 26 西村遺跡



1区②溝 SD108・SP386 (西より)



1区②溝 SD108 (東より)



1区③溝 SD112 完掘全景 (東より)



1区③溝 SD112 西端下層土器出土状況 (北より)



1区③溝 SD112 遺物出土状況 (北より)



2区②中世溝 SD113 全景 (東より)

図版 27 西村遺跡



1区②鋳冶炉 SF102 と金床 SF108 の位置関係（南より）



1区②鋳冶炉 SF102 検出状況（東より）



1区②鋳冶炉 SF102 土層（東より）



1区②鋳冶炉 SF102 炭層 1 上面（東より）



1区②鋳冶炉 SF102 炭層 1 除去後（南より拡大）

図版 28 西村遺跡



1区②鍛冶炉 SF102 淋除去後断面（東より）



1区②鍛冶炉 SF105（南西より）



1区②鍛冶炉 SF105（西より）



1区②鍛冶炉 SF105 检出状況（西より）



1区②鍛冶炉 SF105 断面（南より）



1区②鍛冶炉 SF106 检出状況（東より）



1区②鍛冶炉 SF106 埋土層除去後平面（東より）



1区②鍛冶炉 SF106 检出状況（南より）

図版 29 西村遺跡



図版 30 西村遺跡



1 区②銅溶解炉 SF101・SD102 (南より)



1 区②銅溶解炉 SF101・SD102 間南北土層 (東より)

図版 31 西村遺跡



1区②銅溶解炉 SF101 と溝 SD102 との埋土共有状況 (南より)

図版 32 西村遺跡



1区②銅溶解炉 SF101 炭層上面検出状況(東より)



1区②銅溶解炉 SF101 炉底部断面(北東より)



1区②銅溶解炉 SF101 東半炉床掘り下げ(東より)

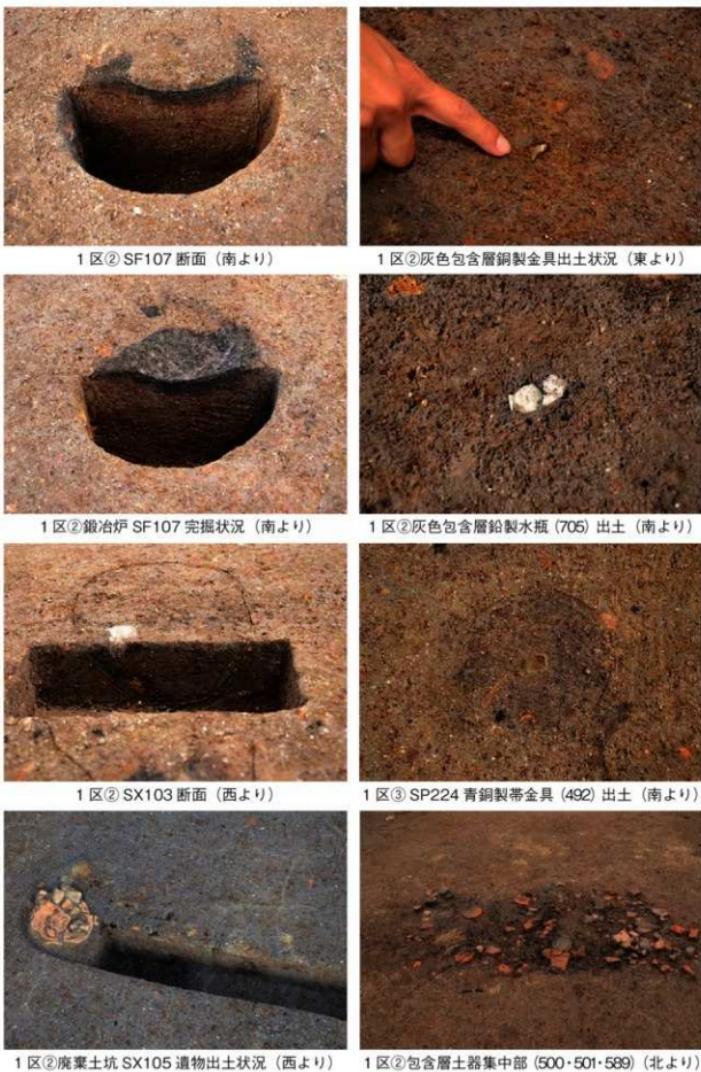


1区②SF101 銅板・銅粒出土状況(東より)



1区②銅溶解炉 SF101・鍛冶炉 SF102 全景(北より)

図版 33 西村遺跡



図版 34 西村遺跡



1区②調査区西壁 SB102 (SP272) ほか断面



1区②調査区南壁断面

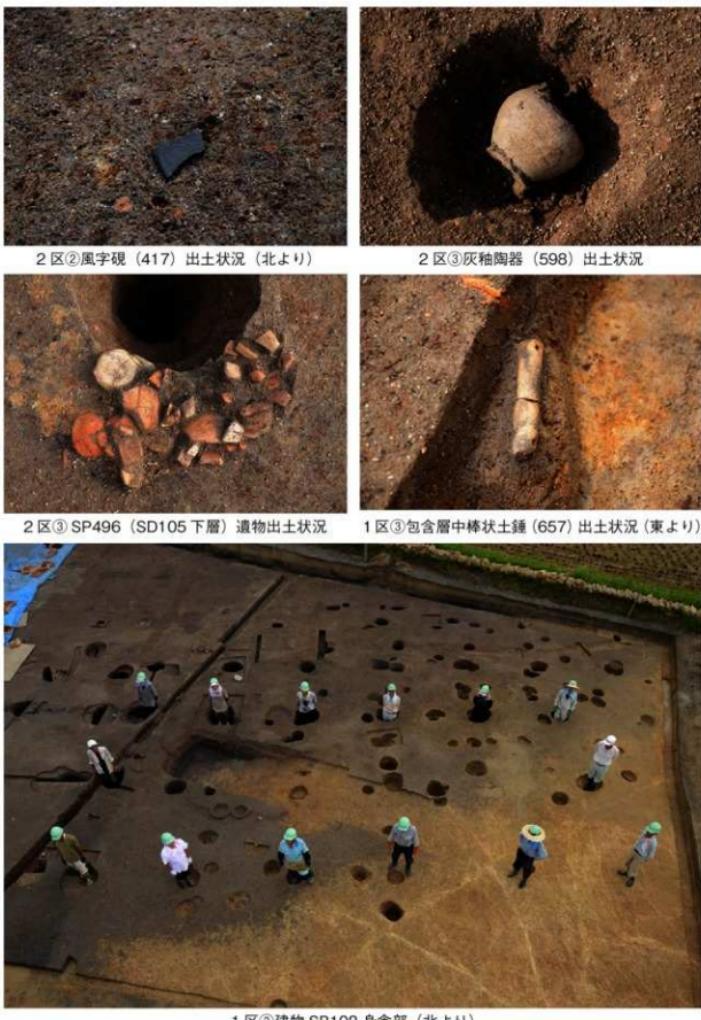


1区③包含層銅板 (707) 出土



1区③調査区南壁土層 (西より)

図版 35 西村遺跡



1 区③建物 SB108 身舎部 (北より)

図版 36 西村遺跡



1区①第2遺構面完掘状況（北より）



1区①SK103検出状況（南より）



1区①SK103断面（南より）



1区①SK105遺物出土状況（南より）



1区①SK105断面（南より）

図版 37 西村遺跡



1区③黒灰色包含層 打製石庖丁（853）出土



3区①土坑 SX106（北より）



1区①北壁下層確認（南より）



2区③SR103土層（南より）

図版 38 西村遺跡



1区③第2遺構面河川 SR103（北西より）



1区③第2遺構面河川 SR103断面（北より拡大）



2区②・③河川 SR104全景（南より）



2区③SH101（手前）・102（奥）完掘状況（南より）

図版 39 西村遺跡



2区③ SH101 棚出状況（南より）



2区③ SH101 完掘状況（南より）



2区③ SH101 主柱穴 SP625 柱材（東より）



2区③ SH101 主柱穴 SP625 柱材（南より）



2区③ SH101 主柱穴 SP626 柱材（東より）



2区③ SH101 主柱穴 SP629 断面（南より）



4区南側トレンチ土層（北より）



4区北側トレンチ土層（南より）

図版 40 西村遺跡



遺物写真 (2区 SB01・3区 SH01・1区 SX03・04・08)

図版 41 西村遺跡



遺物写真（1区 SD07・1区 SX08）

図版 42 西村遺跡



遺物写真（2区 SR01）

図版 43 西村遺跡



遺物写真（2区 SR01）

図版 44 西村遺跡



遺物写真 (2区 SR01・04・3区 SR01・SH101・SD101・107・113・第1面包含層・第2面包含層)

図版 45 西村遺跡



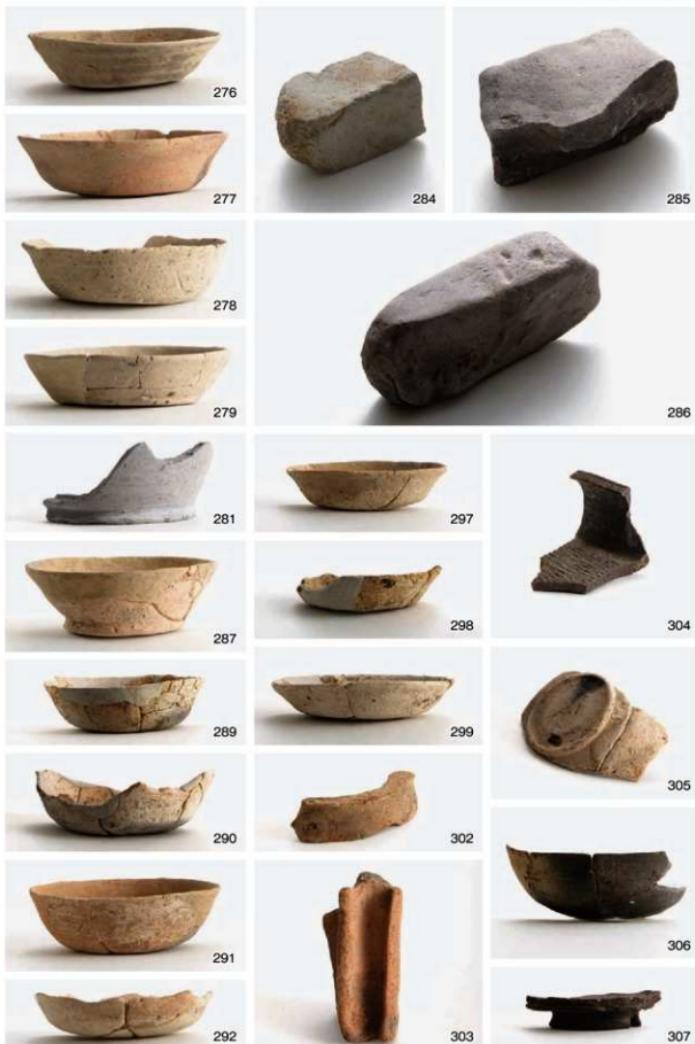
遺物写真 (SB101・102・104・108・SD102・113・119・第1面包含層)

図版 46 西村遺跡



遺物写真 (SB104・105・107・108・109・111・112)

図版 47 西村遺跡



遺物写真 (SD101・SP386)

図版 48 西村遺跡



遺物写真 (SD101)

図版 49 西村遺跡



遺物写真 (SD102・103・105・107)

図版 50 西村遺跡



遺物写真 (SD108・112・119・SP224・302・321・412・496・SF101・SX105

・第1面包含層・第2面包含層)

図版 51 西村遺跡



遺物写真（第1面包含層）

図版 52 西村遺跡



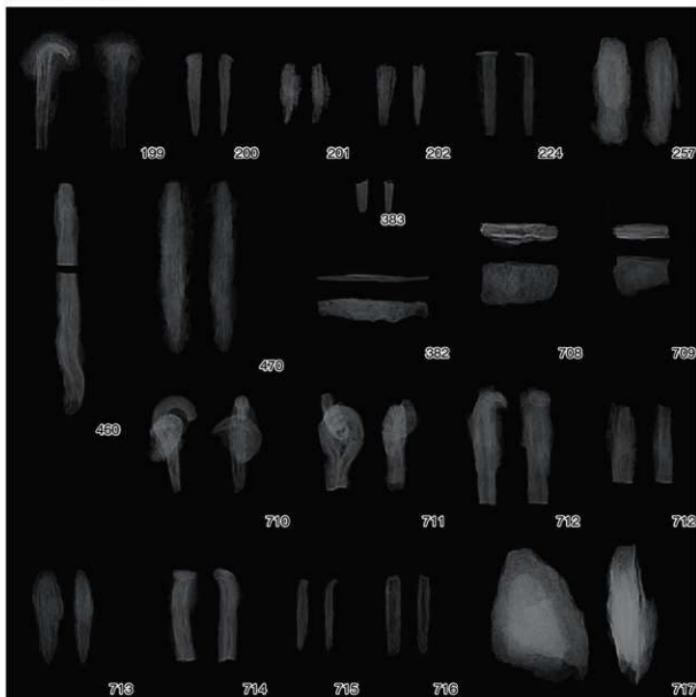
遺物写真（第1面包含層）

図版 53 西村遺跡



遺物写真 (SB105・108・SD101・107・SF102・第1面包含層)

図版 54 西村遺跡



遺物写真（金属器 X 線・SH101・第 1 面包含層）

図版 55 西村遺跡



遺物写真 (SH101・102)

図版 56 西村遺跡



遺物写真 (SR104・SK105・第2面包含層)

図版 57 西村遺跡



遺物写真 (SH101・102・SR104・第2面包含層)

図版 58 西村遺跡



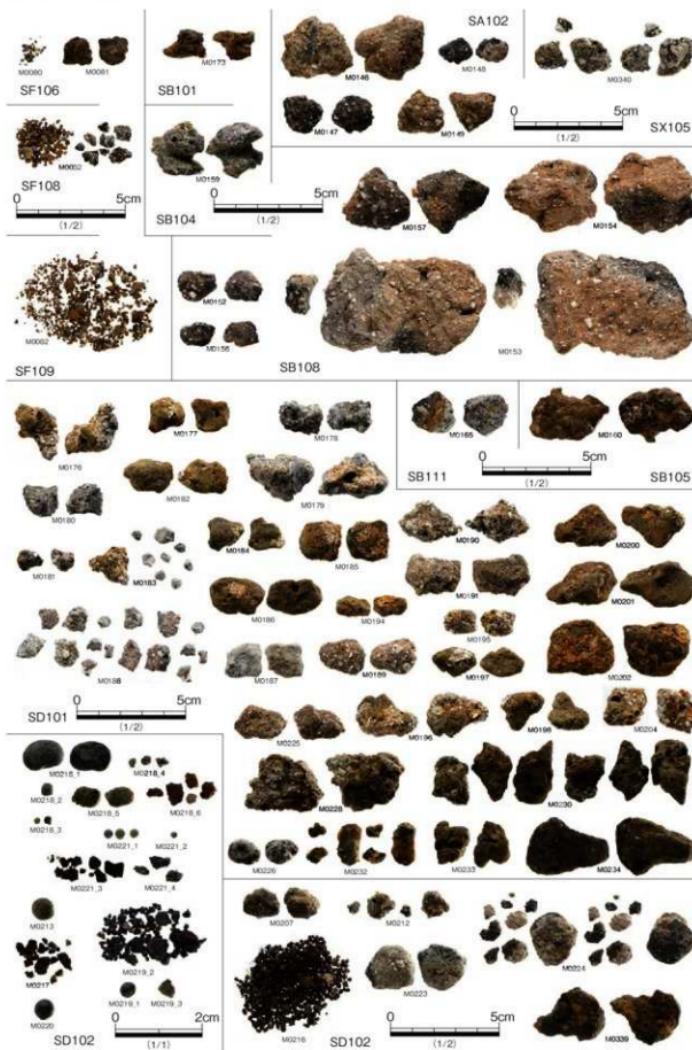
遺物写真（鍛冶鋳造関係 1）

図版 59 西村遺跡



遺物写真（鋳冶鑄造関係 2）

図版 60 西村遺跡



遺物写真（鍛冶鑄造関係 3）

図版 61 西村遺跡



図版 62 西村遺跡



遺物写真（銀冶鋳造関係）

報告書抄録

国道 11 号大内白鳥バイパス改築工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告

第5冊

西村遺跡

2019 年 3 月 18 日

編集 香川県埋蔵文化財センター

〒 762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4

Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249

発行 香川県教育委員会

国土交通省四国地方整備局

印刷 株式会社 成光社